医　学　科

授　業　要　項

（シラバス）

令和６年度

京都府立医科大学
医 学 部 医 学 科

目　　次

※令和６年度　医学科学事予定表 ･････････････････････････････ ３

Ⅰ　はしがき ･･･ ４

Ⅱ　履修要項 ･･･ １４

Ⅲ　コア・カリキュラム対応状況一覧表 ･････････････････････････ １８

Ⅳ　医学基盤教育要項 ･････････････････････････････････････ ２６

　１　医学基盤教育科目の履修（第１学年）･････････････････････ ２８

　２　医学基盤教育授業時間割表（第１学年）･･････････････････ ３８

　３　医学基盤教育科目の履修（第２学年～第５学年）･･････････ ４１

　４　医学基盤教育科目の内容紹介 ･････････････････････････ ４２

Ⅴ　専門教育要項【第１学年後期～第６学年】･･････････････････ １４９

　１　専門科目の履修 ･･････････････････････････････････････ １５０

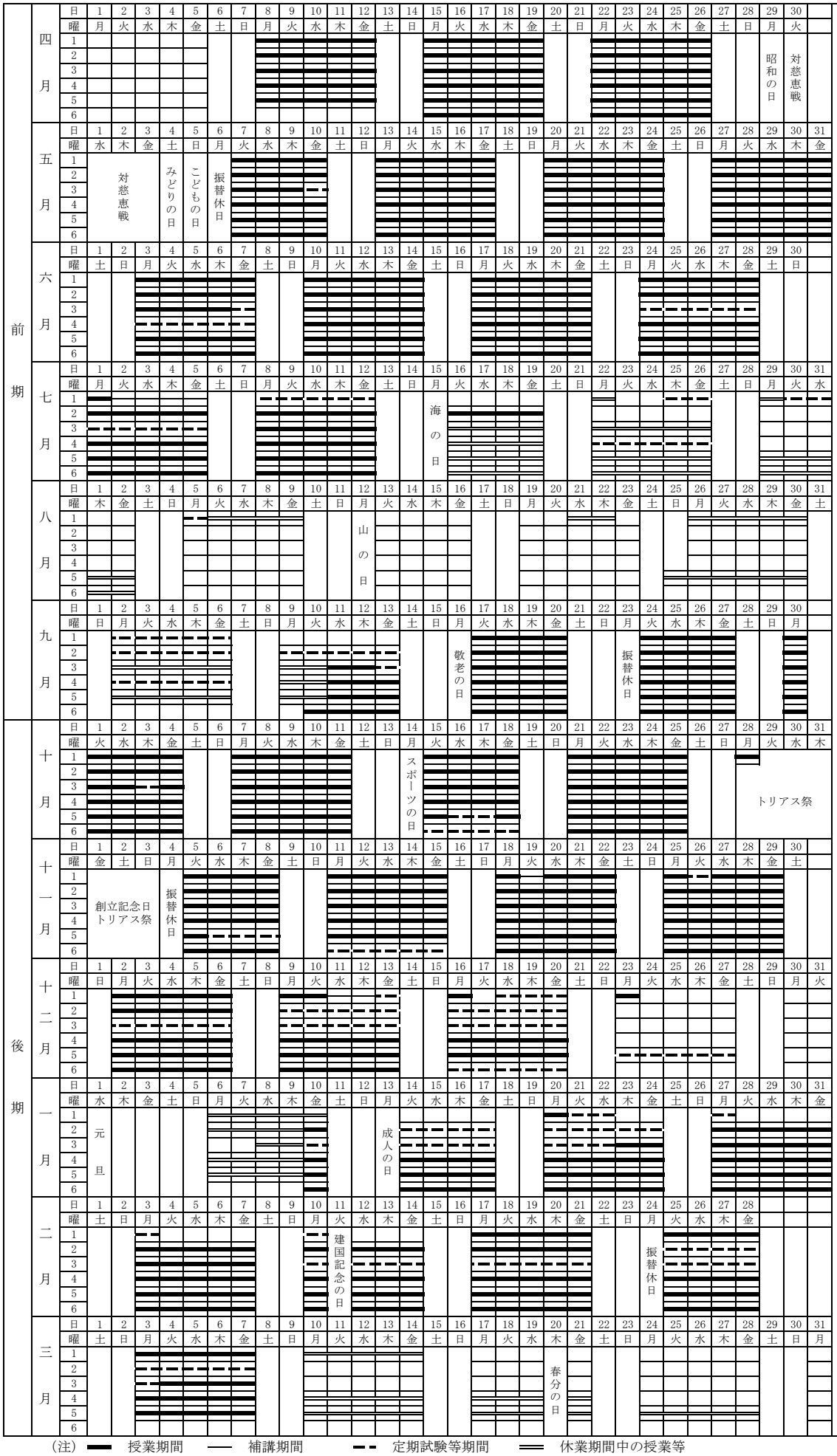
　※令和６年度専門教育授業時間割表（学年別）･･････････････ １５６

　２　専門科目の内容紹介 ･･････････････････････････････････ １６６

＜その他＞

Ⅵ　学術情報の活用講座 ･･････････････････････････････････ ３３８

令 和 6 年 度 医 学 科 学 事 予 定 表



履修ガイダンス/新入生オリエンテーション
4月4日（木）
入学式　4月6日（土）

学生定期健康診断
4月16日(火)・25日(木)・26日(金)

第6学年臨床実習　4月15日（月）～
第5学年臨床実習　4月8日（月）～

春季追悼式（納骨式）
5月18日(土)

第1学年早期体験実習Ⅰ
6月4日(火)～7日(金)

夏季休業
7月15日～9月10日

西日本医科学生総合体育大会
（岡山県）代表主管校：川崎医科大学
8月初旬～8月中旬予定

第5学年地域医療実習
8月26日(月)～30日(金)(予定)

共用試験(ＣＢＴ)
9月2日～6日(予定)第4学年対象

共用試験(ＯＳＣＥ)
10月12日（土）(予定)第4学年対象

秋季追悼式
10月12日（土）(予定)第2学年対象
トリアス祭
10月27日（日）～11月2日（土）
創立記念日
11月1日（金）
Post-CC OSCE
11月17日(日)(予定)第６学年対象
第1学年早期体験実習Ⅱ
11月5日(火)～8日(金)
第4学年臨床実習オリエンテーション等
11月25日(月)～29日(金)（予定）
第4学年臨床実習　12月2日（月）～

冬季休業
12月20日～1月10日

第5学年臨床実習　1月6日（月）～
第1学年・第3学年統合授業
1月7日(火)～10日(金)

医師国家試験
2月上旬頃（予定）
1学年基礎医学講義
2月17日（月）～3月14日（金）
入試
2月25日（火）～2月26日（水）

卒業式
3月1日（土）

春季休業
3月10日～4月7日

（注）▬ 授業期間　── 補講期間　- - 定期試験等期間　═ 休業期間中の授業等

はしがき

本学は1872年の開学以来、12,000人を超える医師・医学研究者を輩出して医学の進歩に貢献するとともに、「世界トップレベルの医学を地域に」の理念のもとに地域保健・医療を支え続けてきた。学則に明示しているように、この理念に基づき、医学および看護学に関する知識および技能を授け、有能な医師、看護師、保健師および助産師となるのに必要な教育を施すことを目的とし、医学及び看護学の深奥を極めることを通じ、学術・文化の進展と人類の福祉とに寄与することを使命としている。2021年に大學昇格100周年を、そして2022年には創立150周年の節目を迎えた。本学の医学教育の方針については2016年度に3つのポリシー（「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、そして「ディプロマ・ポリシー」）としてあらためて纏めたところである。詳細はp10「ディプロマ・ポリシー」を参照して欲しいが、上述の理念と目的・使命を達成するために、本学の教育課程は、学生諸君に「医学知識と問題解決能力」を涵養してもらうことは当然のこととして、「医の心」、「コミュニケーション能力」、「科学的探究心」、「プロフェッショナリズム」、「社会との関係性の深い理解」、「国際的視野」、「生涯にわたって学ぶ姿勢」を修得してもらうことをその目標として策定されている。

本冊子は、本年度の具体的なカリキュラムとして2024年度医学科授業要項（シラバス；syllabus）を上梓し学生諸君に配布するものである。シラバスには科目概要や授業日程だけではなく、諸君が各科目を履修する上で重要となる事項が多く記載されている。また、科目責任者からのメッセージも込められている。かならず履修前に目を通し、より充実した学修への準備として存分に活用していただきたい。

以下に概要と留意点を記す。

Ⅰ　医学教育モデル・コア・カリキュラムと大学独自プログラム

わが国における医学科教育課程は、国の定める医学教育モデル・コア・カリキュラムと大学独自のプログラムを組み合わせて構成することが原則となっている。本学の教育課程は「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠することに加えて、患者さんのお話を拝聴し、病院内の他の職種や専門職の見解を学ぶ1年次の「統合授業」、基礎・社会医学教室に6週間配属されて医学研究に触れる4年次の「研究配属」、京都府北部地域の医療機関に1週間泊り込む5年次の「地域医実習」をはじめとする特長的な授業シリーズがあり、本学の歴史や国際交流の背景についても学ぶ大学独自のプログラム（KPUM学）を盛り込んでいる。こうした教育課程の概要はカリキュラムマップ(p.9)やカリキュラムの詳述を参考にしていただきたい。なお、本学医学科の教育カリキュラムは日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価と、大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価の両審査共に認証を受けており、世界医学教育連盟(World Federation of Medical Education: WFME)の基準に適うものである。

Ⅱ　教養・医学基盤教育と三大学共同化事業

本学では6年間の医学一貫教育の端緒として、1年次には集中的に医学基盤教育(教養）のカリキュラムをおき、高学年においてもそれらの機会を継続的に設けている。

いわゆる教養とは、知的に独立した魅力ある人間になるために身に付けなくてはならない素養のことであり、自分自身の振る舞いを一歩下がって客観視できる能力と余裕のことであると言い換えることも出来よう。深い教養と、多様な価値観に共感できる人間性が医師・医学者には必要である。この意味で、医学科教育において教養教育は人格形成上非常に重要となる。学生諸君は医学科の初年度から継続的に基盤的教養

を身につけ、自分自身の興味や得意科目を伸ばすかたちで磨き続けることが出来る能力を涵養してほしい。一般に小規模な単科大学では教養教育科目の選択が狭くなる傾向があるが、本学では、京都府立大学と京都工芸繊維大学との三大学教養教育共同化の実施によって、各大学それぞれ特長ある教養教育科目の授業を幅広く選択することができる。履修方法を該当頁に詳述しているので、ぜひ受講を勧めたい。また講義や演習を通じて専攻科目や学修目標の異なるさまざまな学生たちと交流することも可能であり、このような仕組みを生かして豊かな人間性を築いてもらいたい。

これらの教養に主眼を置いた科目のほか、特に理系科目や語学科目などの医学基盤教育科目は、高学年における専門教育への「医学準備教育」としての役割をも担う。本学学内の科目では伝統的に医学専門教育を睨んだかたちの授業を展開してきたところであるが、2019 年度からは理科系授業に専門課程教員が参加する形で、基礎医学科目のシームレスな導入（垂直統合授業）を図っている。詳細はシラバスの各科目での説明に譲るが、初年度の科目においても、これらの医学基盤教育を通して、学びの方向性を捉えて医学学修の基盤を構築してほしい。

Ⅲ　基礎医学科目と社会医学科目

1 年次の 2 月からは基礎医学科目の授業が始まり、解剖学・生理学・生化学/ゲノム医科学などの科目でヒトの正常機能を学び、引き続き病理学・薬理学・免疫学・感染病態学などを通じて、ヒトの病気のなりたちや病態の制御についての学修へと進む。このようにして生命機能の分子基盤や疾病の成り立ち、治療の原則など、多くの基礎的・実践的知識を修得することになる。ここでは教養・医学基盤教育からの縦断的プログラムを配置し、基礎医学・社会医学の理解に立脚して臨床医学の学びへと統合的に進めてゆく構成をとっている。医学の基本となる生命科学の進歩は加速しており学ぶべき事項は多いが、単に記憶する知識量を増やすだけではなく、生命の営みや疾病構造の根底にある原理・原則を理解し、そのメカニズムを統合的に把握することに努めてもらいたい。臨床医学の講義の先には、医学・医療と社会との関係性を学ぶ法医学、保健・予防医学の社会医学科目を配置し、これらの授業を通じて法律・司法や行政との関わり、公衆衛生学的アプローチについて学ぶ。昨今の新興感染症のパンデミック時代の到来により、これら社会医学の重要性はますます顕著になっており、基礎医学や臨床医学と密接に関わりそれらの理解に不可欠であることを学ぶ。

Ⅳ　基礎・社会医学教室への研究配属

4 年次の前期には約 6 週間の基礎･社会医学教室への研究配属の期間を設けている。この期間には基礎・社会医学のいずれかの教室に所属して実際の実験手技を修得したり、医学研究の進め方を学んだり、そして教員・研究員の姿に触れる体験を積むことになる。このことを通じて「科学する心（リサーチマインド)」を涵養し、医学が基礎研究によって支えられてきたことを理解してくれるものと期待する。

意欲のある学生は、それぞれの指導教官と相談の上、学会での発表や論文執筆、あるいは国内・海外の研究室派遣などへもチャレンジして欲しい。なお、海外の医学部での実習はウイルス感染状況やワクチン接種履歴などによって状況が大きく左右されるため、希望する者は前年度早いうちに教官に相談することが望ましい。海外大学は学業成績を重んじる傾向が強く、また基礎研究であっても英語力は必要となる。学業に力をそそぐことは全ての学生にとって当然のことではあるが、特に、海外への研究留学を考える学生は 1 年次からこのことを意識して学修に励んで欲しい。

基礎配属での貴重な学びは発表会や報告書によって学生・教員間で共有する。クラスメイトたちがこの期間どのような活動を行ったのか、大きな興味を持って諸君は報告を聞くことになるだろう。そして、不明の点はぜひ積極的な議論を通じて理解を深めて欲しい。

Ⅴ　臨床医学の座学とユニット型授業とCBT/OSCE

3年生から臨床医学の講義が開始される。内科学・外科学に始まり多数の臨床医学科目を履修してゆく。2022年度からは循環器、消化器、神経学と呼吸器の4領域については内科と外科を「水平統合」し、さらに病理学を主とする関連科目の授業を有機的に「垂直統合」した「ユニット型授業」を開始した。学習効果の高いカリキュラムになるものと期待している。なお、臨床科目は全ての科目が必修である。また、患者さんや患者団体の方の話を聞く授業も開講している。貴重なご意見や医学生へのアドバイスを聞く機会であり、学生諸君にはくれぐれも失礼のない学習態度で虚心に傾聴することを期待する。

4年次の前期までに全ての臨床科目講義の履修を完了し、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う全国レベルの統一テストCBT（Computer-Based Testing）と、臨床実技の試験であるOSCE（Objective Structured Clinical Examination）に挑むことになる。これらの試験は2023年度から公的化され、CBTと臨床実習前OSCE（Pre-CC OSCE)の両者に合格すると”Clinical Clerkship Student”の称号が与えられて、臨床実習への参加が許可される。2021年度には医師法が改正され、2023年度からは学生の医行為が法律的に認められて、名実ともに診療参加型臨実習が充実していくこととなる。また、これら共用試験の合格は医師国家試験の受験資格にもなる。Clinical Clerkship Studentには全国共通のClinical Clerkship Student認定証が発行され、附属病院内ではClinical Clerkship Studentを示す青色の名札（ID）をつけることになっている。Clinical Clerkship Studentの称号を取得した学生には、本学学友会からのご厚意で供与いただける大学ロゴが刺繍された白衣が学長から授与される（白衣授与式を12月中旬に予定)。諸君は身の引き締まる思いでこの白衣に袖を通すに違いない。

Ⅵ　診療参加型臨床実習（CCⅠとCCⅡ）

4年次の後半からは臨床実習が始まる。2014年度以降の入学生からは国際認証を受けた72週の診療参加型臨床実習であるクリニカル・クラークシップ（Clinical Clerkship；CC）を履修する。この実習は米国の医師国家試験の受験資格を満たすことが出来るようデザインされている。前半のCCⅠでは主として大学内での実習となり、グループ分けの上36週をかけて各診療科をローテートする。後半のCCⅡでは学外関係病院や海外協定大学などの学外での実習も含まれる。臨床実習プログラムについては「臨床実習実施要領」を別途作成して該当学生に配布する。実習の日程だけではなく、実習を受ける上での心得や学習目的、そして評価基準の提示など、プロフェッショナリズムの涵養と実習の標準化への対応に寄与するものであるので、かならず実習前に熟読しておくこと。特に、学外施設で実習を受ける際には、遅刻や無断欠席を避けることはもとより、それぞれの医療機関でのルールを尊重して遵守することを含め、「学修する態度」にも一層の留意が求められる。

Ⅶ　地域医療実習

5年次の夏季には、本学独自の教育課程である「地域医療実習」を行う。これは京都府北部の中核的医療施設に少人数ずつ振り分けられて一週間をすごし、地域医療に

加え、歯科医師、看護師、薬剤師を初め、地域ボランティア、介護に携わる方々、行政の方々と膝を交えて多職種連携を実地に学ぶことを目的とした実習である。医療過疎の現実や地域医療のあり方について、さらに医療実務における多職種連携のあり方などについて実際に体験し思考を深め、地域医療の現場で活躍する多くのロールモデルに直接触れることを期待したい。

Ⅷ　海外臨床実習派遣

5 年次または 6 年次には、限られた人数ではあるが、海外でのクリニカル・クラークシップのための派遣を行う。古くからの協定校である米国のオクラホマ大学と英国のリーズ大学にくわえ、2018 年度からは英国（スコットランド）のエジンバラ大学、2019 年度にはタイのチュラロンコン大学、さらに 2020 年にはシンガポール国立大学とオランダのマーストリヒト大学と協定を結び、この 6 大学に若干名ずつを派遣している。2025 年度からはさらに 3 大学（ハリム大学、シドニー大学、ロス・アンデス大学）との協定がすすみ、派遣が開始される予定である。これらは各大学で約 4 週間の臨床実習を行うものであるが、正式選択教程としてカリキュラムに組み込まれ、単位認定しているものである。上記Ⅳで記述した基礎配属期間中の研究留学においても、指導者や同僚との科学議論を行なうための英語力が要求されるところであるが、臨床実習派遣の際には修学上必要となるレベルの英語力を、公式の検定を受けたかたちで派遣先大学宛に示すことが要求されている。したがって臨床実習派遣を希望する学生は、学生選考面接試験（施行時期は対象学年全員あて連絡する）の前までの有効期間内に、TOEFL や IELTS を受験し、それぞれの大学から要求されるステージの得点を得ておく。2022 年度から 4 年次に開講された国際医学英語では、医療場面での会話に重点をおいた授業が行われ、これらの機会を積極的に活用して学修してほしい。協定校からは逆に若干名の医学生が臨床実習を目的に来日する。他にもオランダから修士留学生（ダブルディグリープログラム）も留学してきている。医学科学生は 4 週間ほどの滞在の予定であるが、ぜひ、学生諸君はこの機会をとらえて海外留学生の実習の手伝いや生活の支援等を含めて積極的に交流して欲しい。

Ⅸ　CCⅠ終了時（5 年生）の進級試験

5 年生に対してはCCⅠ終了時に総合試験形式の「進級試験」を行なう。10 月中旬に予定されている。この試験に合格することがCCⅡ受講のための必要条件となる。5 年生は実習がはじまって時間の配分が難しいかとは思うが、並行して試験準備も進めて欲しい。

Ⅹ　臨床実習後 OSCE

秋季には臨床実習をすべて修了した 6 年生を対象として臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）が実施される。この実技試験に合格することが卒業要件の一つとなっているので注意してほしい。その内容について夏季休暇前に説明会を行なうので、受験予定者は全員必ず出席のこと。

ⅩⅠ　卒業要件と国家試験

6 年次学生には総合試験形式の「卒業試験」を課す。全ての必要単位を修得し、臨床実習後 OSCE と卒業試験にも合格すれば、卒業の可否が審議される。公式には 11 月末に予定されている協議によって卒業認定確認作業が進められ、最終的には学長による認定によって、卒業資格者が認定される。その最終結果を 6 年次の年末までに本人あて文書で通知する。

医師国家試験は毎年 2 月上旬に行われる。2 日間で 400 題の問にマークシート形式で答えるものとなっている。6 年生諸君はぜひ準備万端で試験に臨んでほしい。

ⅩⅡ　研修病院とマッチング試験

2004 年度から臨床研修が必修化され、2 年間の研修修了の証書なしには臨床業務に就けない仕組みとなった。どの病院で研修を行うかについては、それぞれの病院独自に行われるマッチング試験（多くが筆記試験と面接を課している）の結果と、病院と本人の希望順位にもとづくマッチングで決定される。本学附属病院の臨床研修プログラムは全国的にも人気の高い競争的なプログラムであり、プライマリケアの実力を身につけつつ専門医教育をより早期から始められるように組まれている。本学も含め多くの病院では 6 年次の夏休み期間にマッチング試験が行われることが多く、この時点までにしっかりした学力を持っていなければ自分の希望するプログラムでの研修が適わないことになる。学生諸君には、自分自身が希望する研修プログラムで初期研修を開始できるよう、この時点までに十分に学力を磨いておくことを期待する。

ⅩⅢ　英語について

現代社会での「医学における共通言語」は、英語である。わが国は母国語での医学教材が豊富に準備され、母国語の書物で全ての医学教育範囲をカバーすることができる数少ない国のひとつである。しかしながら、日々新たな医学論文や医療情報は英語で発信され、私たちも自分たちの医学上の発見や医療情報を発信する際には英語で行わなくてはならない。諸君も卒業後には英語での論文執筆や学会発表、あるいは海外の医師との意見交換をする機会が少なからずあろう。加えて、世界屈指の観光都市である京都にはかつてのように一年に 1000 万人以上の海外からの訪問者が訪れる日が戻るであろう。さらに、2020 年から 2022 年にかけてのコロナ禍では、新興感染症がいつどの国で発生するか情報の網を張り巡らせて置かねばならないことを体感した。このような最新情報は海外から英語で即時に受け取らねばならず、学生諸君には母国語と英語との両者で医学を学ぶことができるアドバンテージを積極的に活用して欲しい。特に、医学研究論文を読み取り執筆する能力、研究成果や症例報告を説得力をもってプレゼンテーションする能力、科学的な議論、医療現場における会話を英語で行う力を涵養していただきたい。本学では、英語教育や英語で医学を学ぶ環境を整えている。また、医学専門教育の授業科目で英語での教材を積極的に使用することをおすすめしたい。

ⅩⅣ　教育内容の充実化について

本学では、授業に関する学生向けアンケートを行うとともに、結果を担当教員にフィードバックすることによって、教育内容の充実や教授法の改善を図っている。また、教員は医学教育ファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development, FD）をはじめ様々な機会に教育についての全学的な討議を行っている。

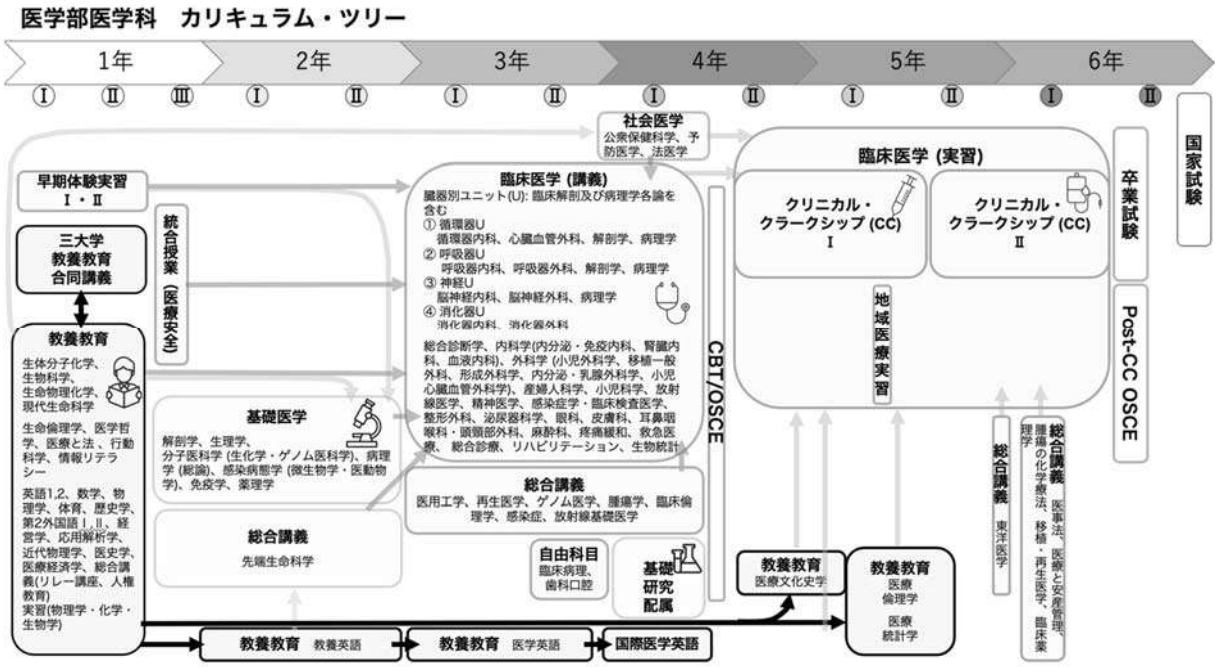
また、JACME（日本医学教育評価機構：Japan Accreditation Council for Medical Education）や大学評価・学位授与機構からの助言を受け、また、上述のように教育センターや教育委員会での議論を経て、2019 年次の入学生から新カリキュラムへ移行することとした。当シラバスでは新カリキュラムと旧カリキュラムの記載が混在しているので、注意深く目を通し、自身の履修する科目についてあらかじめ理解してほしい。新カリキュラムでは、大学設立の精神や、大学を特徴付ける教官らの講義シリーズや、大学の強みに係る点、そして地域性に根ざした本学の特徴的な授業を「KPUM 学」(Kyoto Prefectural

University of Medicine の略）として６年間を通じた新たな統合型授業として位置づけることとした。その他にも新カリキュラムでは学修上の利便性やより充実した医学教育に資するためのブラッシュアップを継続して行なってゆく予定である。

おわりに

本年度の教育カリキュラムの概要を説明した。学生生活についての留意点や災害時の･緊急時の対応等については別途用意した「学生便覧」とあわせて活用して欲しい。「シラバス」と「学生便覧」はホームページから閲覧できる。また、就学上の疑問や相談事があれば、遠慮なく、教育センター、保健管理センター、教育支援課の担当の教員・職員あて問い合わせていただきたい。

本シラバスを有効活用し、有意義で実り多い学生生活となることを期待する。



京都府立医科大学医学部医学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

本学では、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念に則り、有能な医学者・医師となるために必要な医学に関する基本的知識・技能と医の心とを教授し、医学の深奥を究め科学・文化の発展と人類の福祉に寄与する医療人を育成することを教育理念として実践している。

医学科では、当該理念を熟知し、所定の年限に必要な単位を修得した上で、次の学修要件を満たした者に対して学士（医学）の学位を授与する。

1　医学知識と問題対応能力

基本的な医学の知識を習得するとともに、常に問題意識をもって医学を探求する姿勢を有し、症候・疾患・病態を深く理解し幅広く対応できる能力を身につけていること。

2　診療技能と医の心

基本的な臨床技能を習得するとともに、患者の肉体的な痛みや心の状態に配慮しながら、適切な態度で診療できる能力を身につけていること。さらに地域保健・医療の重要性と地域医療におけるチーム医療の実際を理解し、多職種間連携を通して医療人としての高い意識・使命感を持っていること。

3　コミュニケーション能力

患者と医師とがお互いに理解し合い問題を共有しながら解決することを目指し、医療内容を分かりやすく説明するなど、患者とその家族との良好な関係を築くことができるコミュニケーション能力を身につけていること。

4　科学的探究心

医学・医療を科学的にとらえることができ、その問題点を見出し解決するための研究の重要性を十分に理解するとともに、将来的に研究倫理をふまえ世界的視野に立った研究を遂行する素養と高い意欲を有していること。

5　プロフェッショナリズム

生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら、人の命に深く関わり健康を守るという医師・医学者の職責を十分に自覚し、信頼される安全な医療を実践できる高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につけていること。

6　社会における医療の実践

地域社会はもとより、日本の医療のあり方や現状・課題を理解するとともに、これらを

実践するための基礎的素養を身につけていること。

7　国際的視野

国際社会における医療・健康についてその現状や課題を理解し、将来的に世界的な視野で医学・医療を実践できる能力を身につけていること。

8　生涯にわたって学ぶ姿勢

医療の質の向上と医学の進歩のために絶えず省察し、他の医師・医療者・研究者とともに研鑽しながら、生涯にわたって向上を続ける意欲と態度を有していること。

京都府立医科大学医学部医学科カリキュラムポリシー
（教育課程の編成・実施方針）

本学では「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念に則り、有能な医学者・医師となるために必要な医学に関する基本的知識・技能と医の心とを教授し、医学の深奥を究め人類の福祉に寄与する医療人を育成することを教育理念として、これを実現するために次のとおりカリキュラムを策定する。

1　医学知識の教授と問題対応能力の育成

基礎医学では生命現象と人体の構造・機能、疾患の成り立ちや薬物療法の基礎を修得させるために系統講義を行い、さらに自ら学ぶ中で課題を探索し解決する能力を育むために演習や実習を行う。臨床医学では症候・疾患・病態を修得させるために、修得した基礎医学に立脚した系統講義や演習を行い、さらに臨床的課題に適切に対応し根拠に基づいた医療を実践する能力を育成するために、診療参加型臨床実習を行う。

2　診療技能と医の心の育成

患者の肉体的な痛みや心の状態に配慮した対応能力を身につけさせるために、総合診療学などのプライマリケア教育を実施する。

3　コミュニケーション能力の育成

患者とその家族はもとより、チーム医療従事者との良好な信頼関係を築く上で不可欠なコミュニケーション能力を身につけさせるために、医学概論や人権教育などの講義を行い、さらにロールプレイなどによるグループ学習や臨床実習を取り入れる。

4　科学的探究心の育成

医学・医療に問題意識を持って向き合い、その課題を科学的に解決する上で必要な実験的研究や調査研究の重要性を認識させ、高い倫理観をもった研究マインドを涵養するために、基礎・社会医学教室への研究配属等を実施する。

5　プロフェッショナリズムの育成

幅広い教養や豊かな人間性を養うために、人文社会科学や自然科学等を履修させるとともに、学生の多様な学習意欲に応えるべく京都三大学教養教育共同化科目の受講を推進するなど充実した教養教育を実施する。また、自ら課題を探究し解決する能力や、高い倫理観を持ち安全で信頼される医療を実践する能力を育成するために、課題発見型教育や医療倫理教育を充実させるとともに、グループ学習等を用いたアクティブ・ラーニングによる学修を実施する。

6　社会における医療の実践

地域の保健・医療の重要性や日本及び世界の医学・医療の現状や課題を理解させ、チーム医療に貢献できる高い素養を持つ人材を育成するために、社会医学の系統講義を行う。さらに、学習した社会医学の知識を基盤とし、地域保健実習や京都府北部地域での臨床実習を含む重層的な実地教育を通して現代の医療の課題を体験・理解させる。

7　国際的視野の涵養

国際的な視野で医学・医療を実践できる能力を身につけられるよう、低学年から高学年次にわたる継続的な英語教育を実施する。また、国際社会における医学・医療の現状を理解させるために、交換留学等の国際交流を積極的に推進する。

8　生涯にわたって共に学ぶ姿勢の涵養

医師・医学者に必要な知識・技能を生涯にわたって修得し続ける向上心や科学する心・所作を身につけさせるため、医学基盤教育分野と専門医学分野の枠を超えた横断的な総合講義・実習を行うとともに、学年縦断的な講義・実習も実施する。

9　成績評価

各科目において掲げられた到達目標と成績評価基準に従って、公正で透明性の高い成績評価を行うとともに、修学成果を組織的に評価することにより教育の質保証に向けた取り組みを行う。

Ⅱ　履 修 要 項

１　授業の期間

年間の授業は、原則として、下記の期間に行われる。

前期：４月１日～９月３０日　　後期：１０月１日～翌年３月３１日

２　授業時間

授業時間は、次のとおりとする。

１時限　　８時５０分～１０時２０分　　２時限　１０時３０分～１２時

３時限　１２時５０分～１４時２０分　　４時限　１４時３０分～１６時

５時限　１６時１０分～１７時４０分

但し、ユニット講義等については60分授業とし、開始・終了時間が異なる場合がある。（変更の可能性あり）

３　授業の出席・欠席等について

授業に出席することは学生の本分であり、全出席を原則とする。学則第42条に規定されている通り、出席不良者は、注意、指導の後、改善されない場合は、訓告、停学又は退学のいずれかの処分の対象になる可能性がある。

履修規程第8条（343ページ）に定めている「60％以上出席」の趣旨は、例えば傷病によりやむを得ず欠席した場合等を考慮し、定期試験を受けることができる下限を定めているものである。

以下に該当する場合は欠席届の提出をもって出席と認める場合があるので、欠席の事由を客観的に証明し得る書類等を添付して、指定された日までに、教育支援課（１年生は下鴨事務室）に届け出ること。

・学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は、保健管理センター長が学生の出席停止措置が必要と認めた場合
・２親等以内の親族の忌引き
・自然災害や事故により交通機関が運休し、通学が著しく困難であると認められる場合
・居住区に気象警報が発令されるなどし、危険を伴い通学が困難な場合
・学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
・その他授業を欠席することをやむを得ないと学長が認めた場合

４　修業年限

本学に６年以上在学し、所定の単位を修得して卒業の要件を満たした学生には学士（医学）の学位が与えられる。

５　在学期間

在学期間は１０年を超えることはできない。ただし、各学年について、それぞれ３年を超えることができない。

６　選択科目及び自由科目履修の届出

選択科目及び自由科目については、それぞれ履修しようとする授業科目を届け出なければならない。履修届提出後に授業科目の変更又は取り消しをしたい場合には、授業担当者の許可を受けなければならない。

７　定期健康診断の受診及び予防接種

各学年のはじめに行う定期健康診断を受診しなければ、その年の各実習を受けることができない。また、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、風疹、Ｂ型肝炎の各ウイルスに対して抗体陽性、又はワクチン接種を受けていなければ、各実習に参加できない。新型コロナワクチン及びインフルエンザワクチン接種を受けていなければ、臨床実習に参加できない場合もある。

８　試験の種類

試験には、定期試験、追試験及び再試験があり、定期試験を受けられなかった者に行う試験を追試験、定期試験に不合格となった者に行う試験を再試験とし、それぞれ筆答及び口答又はそのいずれかで行う。なお、他に授業科目担当者が中間試験を行うことがある。

また、総合講義等の科目で定期試験を実施しない科目については、授業ごとの小テスト等をもって試験とすることがある。

９　試験成績の評価

試験の成績は優、良、可又は不可をもって表示し、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。

10　成績に対する不服申立てについて

成績評価の客観性、厳格性を確保するため、平成３０年度から成績に対する不服申立て制度を導入した。自身の成績評価（優・良・可・不可）に疑義があるときは、成績に対する確認・開示を請求（原則として成績開示日から７日以内）することができ、その確認結果に不服があるときは不服申立てをすることができる。

11　試験欠席の手続

（１）試験に欠席する学生は、試験欠席願に病気によるときは診断書を、やむを得ないと認められる事故による場合は理由書を添えて学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（２）試験欠席願は、原則として当該授業科目の試験日の前日までに提出するものとし、やむを得ない理由により前日までに提出することができない場合は試験日以後一週間以内に提出しなければならない。

12　試験等での不正行為

（１）試験中に不正行為を行った者に対しては、京都府立医科大学医学部医学科授業科目履修規程第13条の規定により、当該学年におけるすべての試験を無効とし、受験資格を停止するとともに、当該不正行為を行った学年にとどめるものとする。

（２）当該不正行為を行った者は、当該不正行為を行った年度の翌年度、無効とされた試験及び受験資格が停止された試験の定期試験を再び受験しなければならない。

（３）授業中に課される小テストやレポート課題等においても、不正行為を行わないことが当然に求められる。授業中に課される小テストやレポート課題等でも不適切な行為があれば、厳格に対処する。

（４）不正行為の例

ア　定期試験等における不正行為には、以下のようなものがある。

1）カンニング（持ちこみを許可されたもの以外を使用すること、他の受験者の答案等を見ること、他の者から答えを教わることなど）をすること。

2）試験時間中に、答えを教えるなど他の者を利するような行為をすること。

3）受験者以外の者が受験者本人になりすまして試験を受けること。

また、試験場における以下のような行為は、不正行為とみなされることがある。

4）答案用紙を試験場外に持ち出すこと。

5）試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。

6）試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。

7）その他、試験の公平性を損ない、試験の適正な実施を妨げる行為をすること。

8）答案に解答とは無関係な事柄を書くこと。

イ　レポート試験で不正行為とみなされる行為には以下のようなものがある。

1）他人の文章や着想などをあたかも自分のものであるかのように用いた場合、このような行為は剽窃という社会的倫理に違反する行為である。

2) 他人の著作物を引用する際に、引用箇所を明示しない、出典を記載しないなど引用が不適切に行われた場合。1) の剽窃と重なる面もあるが、不適切な引用はそれ自体が著作権法に違反する行為となる。

3) 自分が作成したレポートを、流用されると知りながら他の人に見せ、それが他の人によって流用された場合（レポートを見せた者および流用した者の双方とも不正行為として取り扱われる）。

4) 他人のレポートを代筆すること（代筆を依頼した者および代筆した者の双方とも不正行為として取り扱われる）。

5) 特に指示がないにもかかわらず、共同でレポート作成し、そのレポートが酷似していた場合（学生同士で授業で学んだ内容について意見交換をすることは良いが、担当教員による明確な指示がない場合は各自でレポートの作成を行うこと）。

6) 担当教員の指示に意図的に従わない行為。

7) 課題とは無関係な事柄を書くこと。

8) 過去に提出したレポートを、そのことを明示することなく意図的に他の科目においても提出すること。

13　試験受験上の注意

（１）試験開始後30分を越えて遅刻した場合は、その試験を受験できない。

（２）試験開始後30分を経過しなければ、退出を許可しない。

（３）携帯電話、スマートフォン等の電子機器類を使用した場合、又は身につけていたり、手元にあった場合は不正行為となるので、必ず電源を切り鞄等にしまうこと。

14　交通機関の運行停止又は暴風等に伴う授業の休講について

（１）京都市市営交通（バス、地下鉄）、ＪＲ西日本（京都駅発着の在来線）、阪急電鉄（大阪梅田－京都河原町間）、京阪電鉄（淀屋橋又は中之島－出町柳間）、近鉄（西大寺－京都間）のうち、２以上の交通機関が停止している場合は、

ア　午前７時までに運行を開始したときは、平常どおり授業を行う。

イ　午前７時現在で停止しているときは、午前の授業を休講とする。

ウ　午前10時までに運行を開始したときは、午後の授業を行う。

エ　午前10時を過ぎても停止しているときは、午後の授業も休講とする。

（２）京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令中は、休講とする。

ア　午前７時までに解除されたときは、平常どおり授業を行う。

イ　午前７時現在で発令されているときは、午前の授業を休講とする。

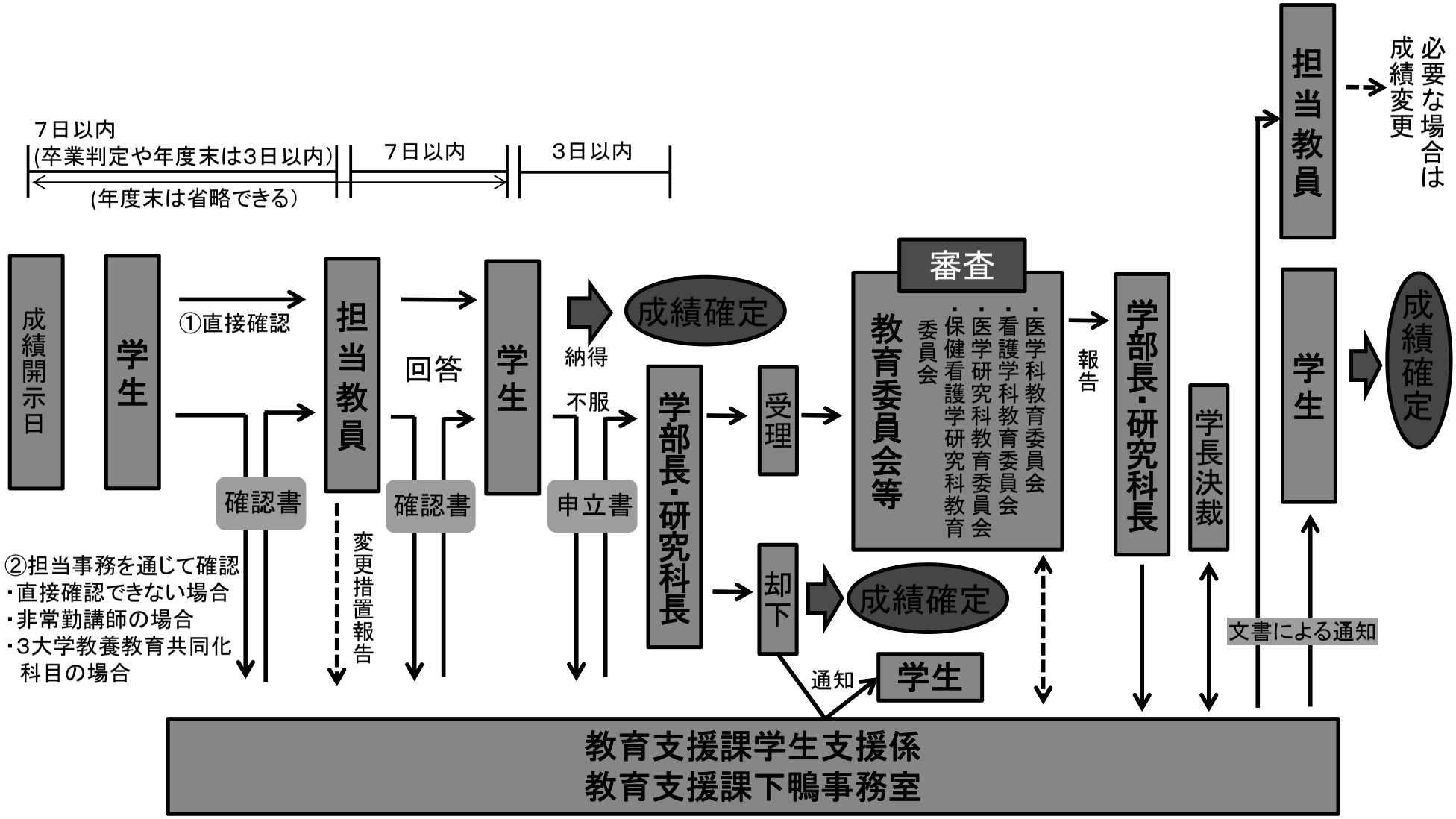
ウ　午前10時までに解除されたときは、午後の授業を行う。

エ　午前10時現在で発令されているときは、午後の授業も休講とする。

（３）授業には、講義、実習及び試験を含むものとする。

※　なお、三大学教養教育共同化に伴う共同化科目については、共同化に伴う申し合わせによるものとする。（36 ページ参照）

成績確認・不服申し立てに係るフロー図



■コア・カリキュラム対応状況一覧表

小分類項目	人社	外語	数学	物理	現生生実	化学	生物	解剖	細生	統生	分生	ゲノム	病(人)	病(細)	病(病)	感染	免疫	薬理	予防	公衆	法医	生統	内免
A-1-1 医の倫理と生命倫理	○							○		○	○	○							○		○		
A-1-2 患者中心の視点	○											○							○	○	○		
A-1-3 医師としての責務と裁量権	○	○										○							○		○		○
A-2-1 課題探求・解決能力			○	○		○		○	○	○	○	○		○				○	○	○			○
A-2-2 学修の在り方	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○				○	○	○			○
A-3-1 全人的実践的能力																			○				○
A-4-1 コミュニケーション	○	○				○		○											○				○
A-4-2 患者と医師の関係	○	○																○	○		○		○
A-5-1 患者中心のチーム医療	○																		○	○			○
A-6-1 安全性の確保	○	○																	○	○	○		
A-6-2 医療上の事故等への対処と予防	○																				○		
A-6-3 医療従事者の健康と安全																				○			
A-7-1 地域医療への貢献																				○			
A-7-2 国際医療への貢献		○																	○				
A-8-1 医学研究への志向の涵養	○					○		○	○	○	○	○							○	○	○		
A-9-1 生涯学習への準備									○	○	○			○					○				
B-1-1 統計の基礎			○	○						○										○		○	
B-1-2 統計手法の適用			○								○											○	
B-1-3 根拠に基づいた医療<EBM>			○								○								○	○		○	○
B-1-4 疫学と予防医学																			○	○		○	
B-1-5 生活習慣とリスク										○									○	○			○
B-1-6 社会・環境と健康										○									○	○			
B-1-7 地域医療・地域保健																			○	○			
B-1-8 保健・医療・福祉・介護の制度	○																		○	○	○	○	
B-1-9 国際保健																			○				
B-2-1 死と法	○													○							○		
B-2-2 診療情報と諸証明書																					○		
B-3-1 倫理規範と実践倫理	○											○						○	○	○	○	○	
B-4-1 医師に求められる社会性	○	○						○											○	○			
C-1-1 生命の最小単位－細胞					○		○	○	○	○	○			○	○								
C-1-1)-(1) 細胞の構造と機能					○		○	○	○	○				○	○								
C-1-1 生命の最小単位－細胞					○		○			○	○	○		○	○								
C-1-1)-(2) ゲノム・染色体・遺伝子					○	○	○	○		○	○	○		○	○								
C-1-2 生物の進化					○					○	○	○											
C-2-1 細胞の構成と機能						○			○	○					○								
C-2-1)-(1) 細胞膜							○	○	○	○	○	○			○								
C-2-1)-(2) 細胞骨格と細胞運動					○		○	○	○	○	○	○			○								
C-2-2 組織・各臓器の構成、機能と位置関係								○	○	○					○								
C-2-2)-(1) 組織・各臓器の構造と機能					○			○	○	○		○		○	○								
C-2-2)-(2) 器官の位置関係					○			○	○	○					○								
C-2-3 個体の調節機能とホメオスタシス					○				○	○	○	○			○								
C-2-3)-(1) 情報伝達の基本					○		○	○	○	○	○	○			○								
C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎					○			○	○	○		○			○								
C-2-3)-(3) 生体防御の機序								○	○			○		○	○				○				
C-2-3)-(4) ホメオスタシス								○	○	○					○				○				
C-2-4 個体の発生					○			○		○		○		○	○								
C-2-5 生体物質の代謝					○	○	○				○	○		○					○				
C-3-1 生体と微生物												○			○	○							
C-3-1)-(1) ウイルスの基本的性状と病原性												○		○	○	○							
C-3-1)-(2) ウイルス感染に対する生体反応・予防												○			○	○							○
C-3-1)-(3) 各種のウイルスの特徴と病原性												○		○	○	○							
C-3-1)-(4) 細菌・真菌														○	○	○							
C-3-1)-(5) 寄生虫															○	○							
C-3-2 免疫と生体防御												○		○	○		○						○
C-3-2)-(1) 免疫系の一般特性								○				○		○	○		○						○
C-3-2)-(2) 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割								○				○		○	○		○						○
C-3-2)-(3) 免疫反応の調節機構								○				○		○	○		○						
C-3-2)-(4) 疾患と免疫												○		○	○		○		○				○
C-3-3 生体と薬物																		○					
C-3-3)-(1) 薬理作用の基本																		○			○		
C-3-3)-(2) 薬物の動態																		○			○		
C-3-3)-(3) 薬物の評価																		○					
C-4-1 遺伝的多様性と疾患			○		○			○			○	○		○	○				○		○		○
C-4-2 細胞傷害・変性と細胞死							○					○		○	○								
C-4-3 代謝障害											○			○	○				○				○
C-4-4 循環障害、臓器不全														○	○						○		
C-4-5 炎症と創傷治癒														○	○						○		
C-4-6 腫瘍					○						○			○	○				○				
C-5-1 人の行動	○							○		○													
C-5-2 行動の成り立ち	○				○		○			○													
C-5-3 動機付け					○					○													
C-5-4 ストレス																			○				
C-5-5 生涯発達																							
C-5-6 個人差																							
C-5-7 対人関係と対人コミュニケーション	○	○																	○				
C-5-8 行動変容における理論と技法	○																		○	○			○
D-1-1 構造と機能								○	○	○	○	○		○	○				○				
D-1-2 診断と検査の基本																							
D-1-3 症候									○														
D-1-4 疾患														○	○								
D-1-4)-(1) 貧血														○	○								
D-1-4)-(2) 出血傾向・紫斑病その他														○	○								○
D-1-4)-(3) 脾臓疾患														○	○								
D-1-4)-(4) 腫瘍性疾患														○	○								
D-2-1 構造と機能								○		○					○								
D-2-1)-(1) 神経系の一般特性								○		○					○								
D-2-1)-(2) 脊髄と脊髄神経								○		○					○								
D-2-1)-(3) 脳幹と脳神経								○		○					○								
D-2-1)-(4) 大脳と高次機能					○			○		○					○								
D-2-1)-(5) 運動系								○		○					○								
D-2-1)-(6) 感覚系								○	○	○													
D-2-1)-(7) 自律機能と本能行動								○		○					○								○
D-2-2 診断と検査の基本										○													
D-2-3 症候																							
D-2-3)-(1) 運動失調障害と不随意運動										○													
D-2-3)-(2) 歩行障害																							
D-2-3)-(3) 言語障害																							
D-2-3)-(4) 頭蓋内圧亢進															○						○		
D-2-4 疾患															○								
D-2-4)-(1) 脳・脊髄血管障害																							
D-2-4)-(2) 認知症と変性疾患										○					○					○			
D-2-4)-(3) 感染性・炎症性・脱髄性疾患															○	○							
D-2-4)-(4) 頭部外傷															○						○		
D-2-4)-(5) 末梢神経疾患															○								
D-2-4)-(6) 筋疾患															○								
D-2-4)-(7) 発作性疾患															○								

担当教室

循内	呼内	消内	血内	神内	消外	移植	乳外	心外	呼外	小外	形成	脳外	整形	リハ	産婦	小児	眼科	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	麻酔	臨検	救急	総診	疼痛	歯科	RS
			○			○								○									○				○		○
			○			○			○			○													○	○	○		○
	○		○			○			○	○		○		○		○			○		○			○	○	○	○		○
	○		○			○			○					○		○						○			○	○	○		○
	○		○			○			○	○		○		○		○			○		○			○	○	○			○
	○		○			○			○	○		○	○	○	○	○					○	○			○	○	○		
			○			○			○	○		○		○		○					○				○	○	○		○
			○			○			○	○		○		○		○					○		○	○	○	○	○		○
			○			○			○	○		○	○	○		○						○	○		○	○	○		
			○			○			○	○				○		○								○	○		○		○
			○						○																○				○
			○						○	○						○								○					
										○															○				
										○						○									○				○
			○						○	○		○				○									○	○			
			○						○	○						○									○				
			○						○	○		○													○	○			○
														○								○				○			
									○					○		○					○	○							
																○													
										○				○		○									○		○		
																○					○			○					○
												○																	
										○		○				○									○	○			
			○																										○
			○											○		○									○	○			○
			○													○													
																○													
																○													
										○																			
										○																			
			○																										
			○																										
										○						○								○					
									○	○						○													
								○	○	○		○																	
										○																			
																○													
						○										○								○					
																○													
						○				○						○								○					
																○													
						○										○								○					
																○													
						○										○								○					
			○													○								○					
			○																										
			○																										
			○							○																			
										○																			
			○							○						○													
																○													
						○		○				○				○							○		○				
				○	○				○						○							○	○					
			○		○				○	○		○				○						○							
																				○								
																				○								
																				○								
																				○								
																				○								
																				○								
																				○								
																				○								
			○													○							○	○					
			○													○								○					
			○			○				○						○							○	○					
			○													○								○					
			○													○								○					
			○			○										○							○	○					
			○							○																			
			○													○													
				○								○																	
				○								○										○							
				○								○	○	○									○						
				○								○																	
				○								○		○															
				○								○		○															
				○								○				○							○						
				○												○													
				○						○		○										○							
				○								○	○	○		○													
				○								○																	
				○								○	○	○		○													
				○								○		○															
				○								○																	
				○								○																	
				○								○		○															
				○																									
				○								○				○													
				○								○																	
				○												○													
				○					○							○													
				○								○				○													

■コア・カリキュラム対応状況一覧表

小分類項目	人社	外語	数学	物理	現生生実	化学	生物	解剖	細生	統生	分生	ゲノム	病(人)	病(細)	病(病)	感染	免疫	薬理	予防	公衆	法医	生統	内免
D-2-4)-(8) 頭痛															○								
D-2-4)-(9) 先天性と周産期脳障害														○	○								
D-2-4)-(10) 腫瘍性疾患								○		○				○	○								
D-3-1 構造と機能																							
D-3-2 診断と検査の基本																							
D-3-3 症候																							
D-3-4 疾患														○	○								
D-3-4)-(1) 湿疹・皮膚炎														○	○								
D-3-4)-(2) 蕁麻疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症														○	○								
D-3-4)-(3) 紫斑・血流障害と血管炎															○								
D-3-4)-(4) 薬疹・薬物障害															○								
D-3-4)-(5) 水疱症と膿疱症														○	○								
D-3-4)-(6) 乾癬と角化症														○	○	○							
D-3-4)-(7) 皮膚感染症														○	○								
D-3-4)-(8) 母斑・腫瘍性疾患・腫瘍															○								
D-3-4)-(9) 付属器疾患								○		○					○								○
D-4-1 構造と機能																							
D-4-2 診断と検査の基本																							○
D-4-3 症候																							
D-4-4 疾患															○								○
D-4-4)-(1) 運動器系の一般的疾患															○								
D-4-4)-(2) 感染性疾患														○	○								
D-4-4)-(3) 腫瘍性疾患								○	○	○				○	○								
D-5-1 構造と機能									○														○
D-5-2 診断と検査の基本									○														○
D-5-3 症候																							
D-5-4 疾患														○	○								
D-5-4)-(1) 心不全														○	○								
D-5-4)-(2) 虚血性心疾患														○	○								
D-5-4)-(3) 不整脈															○								
D-5-4)-(4) 弁膜症														○	○								
D-5-4)-(5) 心筋・心膜疾患														○	○								
D-5-4)-(6) 先天性心疾患								○						○	○								
D-5-4)-(7) 動脈疾患												○		○	○								○
D-5-4)-(8) 静脈・リンパ管疾患														○	○								
D-5-4)-(9) 高血圧症														○	○								○
D-5-4)-(10) 低血圧症															○								
D-5-4)-(11) 腫瘍性疾患														○	○								
D-6-1 構造と機能								○	○					○	○								
D-6-2 診断と検査の基本																							
D-6-3 症候																							
D-6-3)-(1) 喘鳴																							
D-6-3)-(2) その他の症候																							○
D-6-4 疾患																							
D-6-4)-(1) 呼吸不全、低酸素血症と高二酸化炭素血症															○								
D-6-4)-(2) 呼吸器感染症														○	○	○							
D-6-4)-(3) 閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患														○	○								○
D-6-4)-(4) 肺循環障害														○	○								
D-6-4)-(5) 免疫学的機序による肺疾患														○	○								○
D-6-4)-(6) 異常呼吸									○						○								
D-6-4)-(7) 気管支拡張症とその他の肺疾患														○	○								
D-6-4)-(8) 胸膜・縦隔疾患														○	○						○		
D-6-4)-(9) 腫瘍性疾患														○	○								
D-7-1 構造と機能								○	○	○				○	○								
D-7-2 診断と検査の基本														○	○	○							○
D-7-3 症候															○								
D-7-3)-(1) 肝腫大																							
D-7-3)-(2) その他の症候									○		○			○									
D-7-4 疾患														○	○								
D-7-4)-(1) 食道疾患														○	○						○		
D-7-4)-(2) 胃・十二指腸疾患														○	○	○							
D-7-4)-(3) 小腸・大腸疾患														○	○	○							
D-7-4)-(4) 胆道疾患														○	○								
D-7-4)-(5) 肝疾患														○	○	○							
D-7-4)-(6) 膵臓疾患														○	○								
D-7-4)-(7) 腹膜・腹壁・横隔膜疾患														○	○								
D-7-4)-(8) 腫瘍性疾患														○	○								
D-8-1 構造と機能								○	○	○					○								○
D-8-2 診断と検査の基本									○						○								
D-8-3 症候																							
D-8-3)-(1) 電解質異常																							
D-8-3)-(2) アシドーシス・アルカローシス									○														
D-8-3)-(3) その他の症候									○														
D-8-4 疾患														○	○								
D-8-4)-(1) 腎不全														○	○								
D-8-4)-(2) 原発性糸球体疾患														○	○								
D-8-4)-(3) 高血圧及び腎血管障害														○	○								
D-8-4)-(4) 尿細管機能異常															○								
D-8-4)-(5) 尿細管・間質性疾患														○	○								
D-8-4)-(6) 全身性疾患による腎障害														○	○								○
D-8-4)-(7) 先天異常と外傷								○						○	○								
D-8-4)-(8) 尿路疾患														○	○								
D-8-4)-(9) 腫瘍性疾患														○	○								
D-9-1 構造と機能								○				○			○								
D-9-2 診断と検査の基本																							
D-9-2)-(1) 男性生殖器																							
D-9-2)-(2) 女性生殖器																							
D-9-3 症候																							
D-9-3)-(1) 男性生殖器の主要症候																							
D-9-3)-(2) 男性生殖器のその他の症候																							
D-9-3)-(3) 女性生殖器の主要症候																							
D-9-3)-(4) 女性生殖器のその他の症候																							
D-9-4 疾患															○								
D-9-4)-(1) 男性生殖器疾患															○								
D-9-4)-(2) 女性生殖器疾患								○							○								
D-9-4)-(3) 腫瘍性疾患														○	○								
D-10-1 診断と検査の基本								○															
D-10-2 症候																							
D-10-3 正常妊娠・分娩・産褥								○															
D-10-4 疾患														○									
D-10-5 産科手術																					○		
D-11-1 構造と機能								○		○				○	○								
D-11-2 診断と検査の基本														○	○								
D-11-3 症候														○	○								
D-11-4 疾患														○	○								
D-11-4)-(1) 良性乳腺疾患														○	○								

担当教室

循内	呼内	消内	血内	神内	消外	移植	乳外	心外	呼外	小外	形成	脳外	整形	リハ	産婦	小児	眼科	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	麻酔	臨検	救急	総診	疼痛	歯科	RS
				○								○																	
				○						○		○																	
				○								○																	
										○								○											
																○		○											
																○		○											
																○		○											
																○		○											
																○		○											
																		○											
																		○											
																		○											
																		○											
																		○											
			○															○											
																		○											
									○	○		○	○	○		○													
												○	○	○															
												○	○			○													
												○	○																
										○		○	○	○		○													
													○																
										○			○																
○								○		○						○							○	○					
○	○							○		○						○						○		○					
○	○									○		○	○	○		○				○							○		
○																							○						
○								○		○				○									○						
○								○																					
○														○										○					
○								○								○							○						
○								○																					
								○		○						○							○						
○								○								○							○						
○								○																					
○						○						○											○						
○																							○						
	○							○	○	○													○	○					
	○								○	○						○						○	○						
	○								○	○						○													
○	○								○	○						○													
	○									○													○	○					
	○								○	○						○						○		○					
	○								○	○						○						○	○	○					
○	○									○													○						
	○																					○							
	○																												
	○								○	○												○	○						
	○								○	○												○	○						
	○								○	○												○							
		○			○					○																			
		○			○	○				○												○		○					
		○				○				○						○													
		○				○				○						○													
		○				○				○						○											○		
		○				○				○																			
		○								○																			
		○			○					○						○													
		○			○					○						○						○							
		○			○					○						○													
		○				○				○																			
		○								○																			
		○			○	○				○																			
		○			○					○												○							
○						○				○						○			○										
○						○										○			○			○							
○						○				○						○													
○						○				○						○											○		
○						○				○						○							○						
○						○				○						○			○										
○						○				○						○			○				○						
○						○										○			○				○						
○						○										○													
○						○										○													
○																○													
○						○										○			○										
○						○										○													
○										○						○			○										
										○									○										
																			○										
										○					○	○			○			○							
										○									○										
										○					○	○						○							
																			○										
																			○										
										○						○			○										
															○														
										○					○														
																			○										
										○									○										
										○					○							○							
										○					○				○			○							
										○					○														
															○														
															○														
															○														
															○														
							○					○			○							○							
							○															○							
							○															○							
							○																						
							○																						

■コア・カリキュラム対応状況一覧表

小分類項目	人社	外語	数学	物理	現生生実	化学	生物	解剖	細生	統生	分生	ゲノム	病(人)	病(細)	病(病)	感染	免疫	薬理	予防	公衆	法医	生統	内免
D-11-4)-(2) 腫瘍性疾患														○	○								
D-12-1 構造と機能								○		○	○	○		○	○								○
D-12-2 診断と検査の基本										○		○											○
D-12-3 症候																							
D-12-3)-(1) 低身長																							○
D-12-3)-(2) 甲状腺腫														○	○								○
D-12-3)-(3) その他の症候																							○
D-12-4 疾患																							
D-12-4)-(1) 視床下部・下垂体疾患										○				○	○								○
D-12-4)-(2) 甲状腺疾患										○				○	○								○
D-12-4)-(3) 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常														○	○								○
D-12-4)-(4) 副腎皮質・髄質疾患										○				○	○								○
D-12-4)-(5) 糖代謝異常										○				○	○								○
D-12-4)-(6) 脂質代謝異常															○								○
D-12-4)-(7) タンパク質及び核酸代謝異常															○								○
D-12-4)-(8) ビタミン・微量元素の欠乏と過剰											○	○			○								○
D-12-4)-(9) 先天性代謝異常														○	○								○
D-12-4)-(10) 腫瘍性疾患														○	○								○
D-13-1 構造と機能								○		○													
D-13-2 診断と検査の基本																							
D-13-3 症候																							
D-13-3)-(1) 眼・視覚系に関する主要症候																							
D-13-3)-(2) その他の症候																							
D-13-4 疾患																							
D-13-4)-(1) 眼・視覚系の良性疾患																							
D-13-4)-(2) 腫瘍性疾患																							
D-14-1 構造と機能								○		○													
D-14-2 診断と検査の基本																							
D-14-3 症候																							
D-14-3)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系に関する主要症候															○								
D-14-3)-(2) その他の症候																							
D-14-4 疾患															○								
D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系の良性疾患														○	○								
D-14-4)-(2) 腫瘍性疾患														○	○								
D-15-1 診断と検査の基本																							
D-15-2 症候																							
D-15-3 疾患																							
E-1-1 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性	○											○				○			○				
E-2-1 病態														○		○							
E-2-2 診断・検査・治療の基本																○							
E-2-3 症候																○							○
E-2-4 疾患															○	○							
E-2-4)-(1) ウイルス感染症・プリオン病														○	○	○							
E-2-4)-(2) 細菌感染症														○	○	○			○				
E-2-4)-(3) 真菌感染症と寄生虫症														○	○	○							
E-2-4)-(4) 性感染症															○	○							
E-2-4)-(5) 院内感染															○	○							
E-3-1 定義・病態														○	○				○				
E-3-2 診断														○	○								
E-3-3 治療															○				○				
E-3-4 診療の基本的事項																			○				
E-3-5 各論														○	○								
E-4-1 診断と検査の基本															○								○
E-4-2 症候																							○
E-4-3 病態と疾患														○	○								○
E-4-3)-(1) 自己免疫疾患一般															○								○
E-4-3)-(2) 関節リウマチと類縁疾患														○	○								○
E-4-3)-(3) 全身性エリテマトーデス(systemic lupus erythematosus <SLE>)、抗リン脂質抗体症候群														○	○								○
E-4-3)-(4) 全身性強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎、混合性結合織病、Sjögren 症候群														○	○								○
E-4-3)-(5) 全身性血管炎、Behçet 病、Kawasaki 病(急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群)														○	○								○
E-4-3)-(6) アレルギー性疾患														○	○								○
E-4-3)-(7) 原発性免疫不全症														○	○								
E-5-1 診断と検査の基本																					○		
E-5-2 症候									○														○
E-5-3 疾患																					○		
E-5-3)-(2) 環境要因等による疾患										○				○							○		
E-5-3)-(3) 熱傷																					○		
E-6-1 生体と放射線				○		○						○			○								
E-6-2 医療放射線と生体影響												○			○								
E-6-3 放射線リスクコミュニケーション												○											
E-6-4 放射線災害医療												○											
E-7-1 胎児・新生児								○						○	○								
E-7-2 乳幼児														○							○		
E-7-3 小児期全般																			○		○		
E-7-4 思春期																							
E-8-1 老化と高齢者の特徴																				○			
E-9-1 生物的死と社会的死	○																		○		○		
F-1-1 発熱										○													
F-1-2 全身倦怠感																							
F-1-3 食思(欲)不振																							
F-1-4 体重減少・体重増加																							○
F-1-5 ショック														○	○						○		
F-1-6 心停止																							
F-1-7 意識障害・失神																							
F-1-8 けいれん																							
F-1-9 めまい																							
F-1-10 脱水																							
F-1-11 浮腫															○								
F-1-12 発疹																							
F-1-13 咳・痰																							○
F-1-14 血痰・喀血																							
F-1-15 呼吸困難																							
F-1-16 胸痛																							
F-1-17 動悸																							
F-1-18 胸水																							
F-1-19 嚥下困難・障害																							
F-1-20 腹痛																							
F-1-21 悪心・嘔吐																							
F-1-22 吐血・下血																							
F-1-23 便秘・下痢																							
F-1-24 黄疸																							
F-1-25 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤																							
F-1-26 貧血														○									

担当教室

循内	呼内	消内	血内	神内	消外	移植	乳外	心外	呼外	小外	形成	脳外	整形	リハ	産婦	小児	眼科	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	麻酔	臨検	救急	総診	疼痛	歯科	RS
							○															○							
												○			○	○				○									
												○				○													
																○													
																○				○									
															○	○													
												○				○													
																○													
																○			○								○		
																○													
																○													
																○													
										○						○													
										○																			
										○						○				○									
												○																	
												○																	
																	○												
																	○												
																	○												
																				○									
																				○									
																				○									
										○										○									
										○		○		○						○							○		
																				○									
										○		○								○									
																				○		○							
																					○								
																					○								
																					○								
	○					○				○						○							○	○					
						○										○								○					
○	○				○	○				○		○	○			○							○	○			○		
	○									○						○								○					
										○					○	○								○			○		
	○									○					○	○			○					○					
																								○					
															○			○	○					○					
																○								○					
			○		○		○			○		○				○													
			○		○		○			○		○				○						○							
			○		○		○			○		○				○						○							
			○		○					○						○													
	○		○		○		○			○		○	○		○	○		○	○	○		○							
																○													
	○					○				○			○			○							○				○		
																○													
																○													
													○			○													
○																○													
○																○													
																○													
																○													
																○													
										○															○				
	○									○		○	○		○								○		○		○		
										○						○									○				
																									○				
										○	○														○				
										○												○							
										○												○							
										○												○							
																						○							
										○					○	○													
										○						○									○				
										○		○				○					○				○				
										○		○				○													
														○							○						○		
										○		○															○		
			○							○						○									○				
			○													○									○				
			○													○									○				
			○							○						○									○				
										○						○							○		○				
										○															○				
												○													○				
												○				○									○				
												○													○				
○										○															○				
○																○									○		○		
																○		○											
	○															○									○				
	○																												
	○									○						○									○		○		
○																○									○				
○																○									○				
	○									○						○											○		
										○				○						○									
					○					○						○									○				
					○					○						○									○		○		
					○					○						○									○		○		
										○						○									○		○		
			○			○				○						○													
			○			○				○																			
			○													○									○				

■コア・カリキュラム対応状況一覧表

小分類項目	人社	外語	数学	物理	現生生実	化学	生物	解剖	細生	統生	分生	ゲノム	病(人)	病(細)	病(病)	感染	免疫	薬理	予防	公衆	法医	生統	内免
F-1-27 リンパ節腫脹														○									
F-1-28 尿量・排尿の異常																							○
F-1-29 血尿・タンパク尿																							
F-1-30 月経異常																							
F-1-31 不安・抑うつ																							
F-1-32 もの忘れ																							
F-1-33 頭痛																							
F-1-34 運動麻痺・筋力低下																							
F-1-35 腰背部痛																							
F-1-36 関節痛・関節腫脹																							○
F-1-37 外傷・熱傷																							
F-2-1 臨床推論																			○				○
F-2-2 根拠に基づいた医療<EBM>																			○				
F-2-3 臨床検査											○					○					○	○	○
F-2-4 病理診断													○	○							○		
F-2-5 放射線等を用いる診断と治療						○															○		
F-2-6 内視鏡を用いる診断と治療																							
F-2-7 超音波を用いる診断と治療																							
F-2-8 薬物治療の基本原理											○							○	○		○		○
F-2-9 外科的治療と周術期管理																							
F-2-9)-(1) 外科的治療																					○		
F-2-9)-(2) 周術期管理																							
F-2-10 麻酔																							
F-2-11 食事・栄養療法と輸液療法											○								○				○
F-2-12 医療機器と人工臓器																							
F-2-13 輸血と移植																							
F-2-14 リハビリテーション																							
F-2-15 在宅医療と介護																			○				
F-2-16 緩和ケア																			○				
F-3-1 問題志向型システムと臨床診断推論																					○		○
F-3-2 医療面接																			○				○
F-3-3 診療録(カルテ)																							○
F-3-4 臨床判断																							
F-3-5 身体診察																			○				○
F-3-5)-(1) 基本事項																			○				○
F-3-5)-(2) 全身状態とバイタルサイン																							○
F-3-5)-(3) 頭頸部																							
F-3-5)-(4) 胸部																							
F-3-5)-(5) 腹部																							
F-3-5)-(6) 神経																							
F-3-5)-(7) 四肢と脊柱																							○
F-3-5)-(8) 小児の診察																							
F-3-6 基本的臨床手技																							
F-3-6)-(1) 一般手技																							
F-3-6)-(2) 検査手技																							
F-3-6)-(3) 外科手技																							
F-3-6)-(4) 救命処置																							
G-1-1 臨床実習																							
G-2-1 発熱																							○
G-2-2 全身倦怠感																							○
G-2-3 食思(欲)不振																							
G-2-4 体重減少・体重増加																							○
G-2-5 ショック																					○		
G-2-6 心停止																					○		
G-2-7 意識障害・失神																							
G-2-8 けいれん																							
G-2-9 めまい																							
G-2-10 脱水																					○		○
G-2-11 浮腫																							
G-2-12 発疹																							○
G-2-13 咳・痰																							
G-2-14 血痰・喀血																							
G-2-15 呼吸困難																							
G-2-16 胸痛																							
G-2-17 動悸																							○
G-2-18 胸水																							
G-2-19 嚥下困難・障害																							
G-2-20 腹痛																							
G-2-21 悪心・嘔吐																							
G-2-22 吐血・下血																							
G-2-23 便秘・下痢																							
G-2-24 黄疸																							
G-2-25 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤																							
G-2-26 貧血																							
G-2-27 リンパ節腫脹																							○
G-2-28 尿量・排尿の異常																							○
G-2-29 血尿・タンパク尿																							
G-2-30 月経異常																							
G-2-31 不安・抑うつ																							
G-2-32 もの忘れ																							
G-2-33 頭痛																							
G-2-34 運動麻痺・筋力低下																							
G-2-35 腰背部痛																							
G-2-36 関節痛・関節腫脹																							○
G-2-37 外傷・熱傷																					○		
G-3-1 一般手技																					○		○
G-3-2 検査手技									○							○					○		
G-3-3 外科手技																							
G-3-4 救命処置																							
G-4-1 必ず経験すべき診療科																							○
G-4-1)-(1) 内科																							○
G-4-1)-(2) 外科																							
G-4-1)-(3) 小児科																							
G-4-1)-(4) 産婦人科																							
G-4-1)-(5) 精神科																							
G-4-1)-(6) 総合診療科																							
G-4-1)-(7) 救急科																							
G-4-2 上記以外の診療科																					○		○
G-4-3 地域医療実習	○																			○			○
G-4-4 シミュレーション教育																					○		○

担当教室

循内	呼内	消内	血内	神内	消外	移植	乳外	心外	呼外	小外	形成	脳外	整形	リハ	産婦	小児	眼科	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	麻酔	臨検	救急	総診	疼痛	歯科	RS
			○													○									○				
										○						○													
○			○			○				○						○													
															○														
																					○				○		○		
																					○								
												○													○				
												○	○	○		○									○				
			○										○			○									○				
													○			○													
										○	○		○												○				
			○							○		○	○	○		○									○	○	○		
			○							○		○		○												○	○		
○			○		○					○		○		○	○	○							○	○	○	○			
			○							○																			
										○												○							
										○		○			○														
							○			○			○		○	○											○		
	○		○							○		○			○	○			○				○		○	○	○		
					○	○	○			○	○	○	○		○		○		○	○							○		
					○	○	○	○		○	○	○	○		○		○		○	○							○		
					○	○	○	○		○		○							○	○			○						
										○													○				○		
			○							○				○									○				○		
○						○				○													○						
			○			○			○	○						○							○						
													○	○															
										○				○															
			○																		○						○		
			○						○	○		○	○	○		○	○		○		○				○	○			
			○						○	○		○	○	○		○	○		○		○				○	○	○		
			○		○				○	○		○	○	○		○	○				○			○	○	○	○		
			○		○				○			○	○	○		○	○							○	○	○			
			○		○				○				○	○		○	○								○	○	○		
			○		○				○	○			○	○		○	○							○	○	○	○		
○			○		○	○			○	○		○		○		○									○	○	○		
			○									○				○	○			○					○	○			
○	○		○				○		○	○						○									○	○			
			○		○	○				○						○			○						○	○			
			○									○	○	○		○									○		○		
			○									○	○	○		○									○		○		
										○		○				○													
			○		○					○			○											○					
			○		○					○		○												○					
			○							○									○					○	○				
					○	○		○	○	○		○	○						○					○			○		
										○		○													○				
			○		○					○			○			○									○				
			○									○				○			○						○				
			○						○																○		○		
	○		○					○	○	○															○		○		
○		○	○													○									○		○		
																○									○				
								○		○		○													○				
												○													○				
												○													○				
○												○													○				
		○														○									○				
○						○																			○				
																		○											
	○	○														○						○			○				
○	○		○					○																	○				
○	○								○																○				
○		○						○	○																○				
○																									○				
○	○	○				○		○																	○				
	○	○										○		○								○			○				
○		○				○				○									○						○				
○								○				○													○				
										○												○			○				
										○															○				
						○																							
○										○																			
○			○													○									○				
			○				○																						
																			○						○				
○						○										○			○						○				
															○										○				
																					○				○		○		
												○									○				○				
												○													○				
												○		○											○				
		○						○					○	○					○			○			○		○		
													○	○															
									○			○													○				
					○	○			○	○		○	○	○	○	○	○		○			○	○	○	○		○		
			○			○				○					○	○							○	○	○				
					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○								○		
										○													○		○				
	○		○										○													○	○		
	○		○																				○			○	○		
					○	○	○	○	○	○		○											○				○		
										○						○							○						
															○														
																					○						○		
																										○			
																							○		○				
							○				○	○	○	○					○			○	○	○	○				
																										○			
												○	○						○		○	○	○	○					

Ⅳ　医学基盤教育要項

1　医学基盤教育科目の履修（第１学年）　28
2　医学基盤教育 授業時間割表（第１学年）　38
3　医学基盤教育科目の履修（第２学年～第５学年）　41
4　医学基盤教育科目の内容紹介　42
人文科学　生命倫理学　42
医学哲学　44
行動科学基礎　46
認知心理学　（三大学共同化科目）　48
医療人類学　（三大学共同化科目）　50
現代正義論　（三大学共同化科目）　52
行動科学応用　【第４学年】　55
医療倫理学　【第５学年】　57
社会科学　医史学　59
医療経済学　60
経営学　62
医療と法　64
医療と社会　（三大学共同化科目）　66
現代医療の人間観　（三大学共同化科目）　68
自然科学　数学　71
応用解析学　73
情報リテラシー　75
物理学　77
近代物理学　79
物理学実習　81
生体分子化学　83
生命物理化学　85
化学実習　87
生物科学　89
現代生命科学　91
生物学実習　93
医学概論Ⅰ・Ⅱ　（三大学共同化科目）　95
医療統計学　【第５学年】　97
外国語
第１外国語　英語１　100
英語２　103
教養英語　（AdvancedPresentation&AcademicWriting）【第２学年】　107
医学英語　（BasicMedicalEnglish）【第３学年】　111
第２外国語　ドイツ語Ⅰ・Ⅱ　114
フランス語Ⅰ・Ⅱ　118
スペイン語Ⅰ・Ⅱ　122
中国語Ⅰ・Ⅱ　126
朝鮮韓国語Ⅰ・Ⅱ　130
ラテン語　（三大学共同化科目）　134

そ　の　他　体　　育 …… 136
総　合　講　義　（リレー講座、人権教育） …… 139
総　合　講　義　（早期体験実習Ⅰ） …… 143
総　合　講　義　（早期体験実習Ⅱ） …… 145
総　合　講　義　（統合授業） …… 147

1　医学基盤教育科目の履修（第１学年）

1　科目及び履修条件

医学基盤教育の科目及び履修条件は、別表Ｉ「医学基盤教育授業科目一覧表」のとおりである。

同表に掲げる必要最低単位数（３５．４単位）を修得すれば、第２学年へ進級できる。

ただし、最小限の単位修得に甘んじることなく、三大学共同化科目を含めてできるだけ多くの授業科目を履修することが望ましい。

別表Ｉについて、主な注意点を以下に掲げる。

（１）第１学年で受講すべき授業科目を記載している。

（２）必修と記載された科目は、必ず受講し単位を修得すること。

（３）人文科学及び社会科学区分では、必修科目以外の科目で３．９単位以上修得しなければならない。なお、三大学共同化科目の「共同化科目一覧」別表Ⅲ（人間と文化）及び別表Ⅳ（人間と社会）の科目との合算で合計３．９単位以上でもよい。

（４）第２外国語は２．６単位以上修得しなければならない。また、入学当初にドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮韓国語のいずれを受講するかを決めなければならない。ただし、前期と後期で同じ語学のＩとⅡを受講する。

なお、前期で単位を修得できなかった場合は、後期はラテン語（三大学共同化科目）と修得できなかった語学科目のⅡを受講すること。

（５）第１学年修了には、区分別に定める必要単位数合計３３．４単位に加え、別途「共同化科目一覧（別表Ⅲ～Ⅴ）」の科目から２単位以上修得して全体で３５．４単位以上修得しなければならない。

2　定期試験及び追再試験

（１）学生は、当該授業科目の講義時間数の６０％以上出席しなければ試験を受けることができない。なお、欠席は傷病等によりやむを得ず欠席した場合なども含まれるので注意を要する。

実習（演習、体育を含む。以下同じ）については全て出席しなければ試験を受けることや単位を修得することができない。ただし、実習については病気や忌引き等のやむをえない理由があると認められる場合には欠席届をもって出席と認める場合がある。

（２）定期試験は、別表Ⅱに掲げる試験実施日程で行う。追再試験も特別の事情がある場合を除き、別表Ⅱに定める追再試験実施日程で行う。７月に行われる中間試験以外にも、教科によりその他の中間試験は随時行われる。

3　進級の条件

第１学年末までに医学基盤教育科目の必要最低単位数（３５．４単位）を修得できないと第２学年へ進級できない。第１学年にとどまった学生は、全ての科目を再履修しなければならない（単位認定された次の科目を除く）。ただし、人文科学、社会科学及び自然科学の選択必修並びに自由選択科目については、進級条件を満たせば、別の科目へ変更することも可とする。

単位認定された次の科目

・・・物理学実習、化学実習、生物学実習、体育、早期体験実習Ⅰ・Ⅱ及び情報リテラシー

4　三大学教養教育共同化について

平成２６年度より、京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学は、以下のとおり医学基盤教育の一部の科目の共同化を行った。

（１）第１学年の共同化科目の授業は、月曜日午後の３、４、５時限目に行う。授業科目は、「科目一覧（別表Ⅲ～Ⅴ）」に示しており、「時間割表」にしたがって行われる。これらから選んで受講する。

（２）各科目は半期ごと（前期、後期）であり、とくに指示のない限り原則各科目２単位とする。

（３）これらの科目を修得した単位は、原則として卒業及び２学年への進級要件の単位として認められる。

（４）講義は、京都府立大学キャンパス内にある三大学教養教育共同化施設（稲盛記念会館）の共同化講義室で行う。

（５）共同化科目は「履修について」に従うため、授業の開始、終了、振替日、試験日程、休講の取扱基準は、本学独自の講義のそれらとは異なることがあるので注意すること。

別表Ⅰ　　医学基盤教育授業科目一覧表

区分		授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数 週	授業回数 計	単位数	必要単位数 区分別	必要単位数 全体
人文科学		生命倫理学	前期	必修	1	11	1.4	1.4単位	35.4単位以上(注8)
		行動科学基礎	後期	必修	1	10	1.3	1.3単位	
		医学哲学	前期	選択必修☆	1	10	1.3	3.9単位以上(注４) ☆いずれか1.3単位以上	
		認知心理学(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2		
		医療人類学（三大学共同化科目）	前期	選択	1	15	2		
		現代正義論(三大学共同化科目)	後期	選択	1	15	2		
		共同化科目一覧の別表Ⅲ（人間と文化）から選択 ＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞							
社会科学		医史学	前期	選択	1	10	1.3		
		医療経済学	前期	選択	1	10	1.3		
		経営学	前期	選択	1	10	1.3		
		医療と法	前期	選択	1	10	1.3		
		医療と社会(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2		
		現代医療の人間観(三大学共同化科目)	後期	選択必修☆	1	15	2		
		共同化科目一覧の別表Ⅳ(人間と社会)から選択 ＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞							
自然科学		数学	通年	必修	1	17	2.2	14.7単位以上	
		物理学	通年	必修	1	16	2.1		
		生体分子化学	通年	必修	1	17	2.2		
		生物科学	通年	必修	1	17	2.2		
	実習	物理学実習	前期	必修	2	5	1.8(注2)		
	実習	化学実習	前期	必修		5			
	実習	生物学実習	前期	必修		5			
		情報リテラシー	前期	必修	1	4	0.5		
		生命物理化学	前期	必修	1	9	1.2		
		現代生命科学	後期	必修	1	9	1.2		
		応用解析学	後期	選択必修	2	10	1.3	いずれか1.3単位	
		近代物理学	後期		2	10	1.3		
		医学概論Ⅰ(三大学共同化科目)（注6）	後期(３Q)	選択	1	8	1		
		医学概論Ⅱ(三大学共同化科目)（注6）	後期(４Q)	選択	1	8	1		
		共同化科目一覧の別表Ⅴ（人間と自然）から選択 ＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞							
外国語	第1外国語	英語１	通年	必修	1	20	2.6	5.2単位	
	第1外国語	英語２	通年	必修	1	20	2.6		
	第2外国語	ドイツ語Ⅰ	前期	選択必修(注1)	1	10	1.3	2.6単位以上(注5)	
	第2外国語	ドイツ語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	第2外国語	フランス語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	第2外国語	フランス語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	第2外国語	スペイン語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	第2外国語	スペイン語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	第2外国語	中国語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	第2外国語	中国語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	第2外国語	朝鮮韓国語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	第2外国語	朝鮮韓国語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	第2外国語	ラテン語（三大学共同化科目）	後期		1	15	2		
その他		体育	通年	必修	1	20	1.3	1.3単位	
		総合講義（早期体験実習Ⅰ）	通年	必修	1	4	2.7(注3)	2.7単位	
		総合講義（早期体験実習Ⅱ）	通年	必修	1	5			
		総合講義（統合授業）	通年	必修	1	4			
		総合講義（リレー講座）	通年	必修	1	17			
		総合講義（人権教育）	通年	必修	1	3	0.3(注3)	0.3単位	
小　計								33.4単位以上(注7)	

（注1）　Ⅰと Ⅱ は同一言語を履修する。

（注2）　３科目とも単位認定されて１．８単位修得とする。ただし、単位認定は各実習毎に行う。したがって、出席数も各実習毎にカウントする。
再履修は、単位認定されなかった実習科目のみ行う。

（注3）　評価及び単位認定は４科目合計で行う。再履修は実習を除く。人権教育は別途評価及び単位認定するので留意すること。

（注4）　共同化科目一覧の別表Ⅲ（人間と文化）群及び別表Ⅳ（人間と社会）群の科目との合算で合計３．９単位以上でもよい。

（注5）　ラテン語はⅠに相当し、他の言語Ⅰを修得できなかった場合のみ、その言語Ⅰと読み替える。

（注6）　三大学共同化科目のクォータ制科目として、後期３クォーター(3Q)、４クォーター(4Q)に開講する。

（注7、8）　第1学年修了には、区分別に定める必要単位数合計３３．４単位に加え、別途共同化科目を２単位以上修得して全体で３５．４単位以上修得しなければならない。

別表Ⅱ

試験日程（医学科　第１学年）

【前期】

月日	曜日	時限	科　　目
7月8日	月	2	英語２（Ａ組）
7月9日	火	1	医学哲学
		2	数学
		3	生命倫理学
7月10日	水	1	医史学
			医療経済学
		2	ドイツ語Ⅰ
			フランス語Ⅰ
			スペイン語Ⅰ
			中国語Ⅰ
			朝鮮韓国語Ⅰ
7月11日	木	1	生命物理化学
		2	生体分子化学
		3	英語１
		4	体育
7月12日	金	1	医療と法
		2	生物科学
		3	物理学

＜注＞
経営学は本試験・追再試験ともレポート

追・再試験日程【前期】

月日	曜日	時限	科　　目
7月25日	木	1	生命物理化学
7月30日	火	1	医学哲学
7月31日	水	1	医史学
		2	ドイツ語Ⅰ
			フランス語Ⅰ
			スペイン語Ⅰ
			中国語Ⅰ
			朝鮮韓国語Ⅰ

9月6日	金	1	生命倫理学

＜注＞
医療経済学は再試験はレポート（追試験は別途調整）
医療と法は再試験はレポート（追試験は別途調整）

【後期・理系】

月日	曜日	時限	科　　目
11月26日	火	2	数学
		3	現代生命科学
11月27日	水	3	応用解析学
			近代物理学
11月28日	木	2	生体分子化学
12月13日	金	2	生物科学
		3	物理学

【後期・人文社会／外国語】

月日	曜日	時限	科　　目
12月16日	月	2	英語２（Ｂ組）
12月18日	水	2	ドイツ語Ⅱ
			フランス語Ⅱ
			スペイン語Ⅱ
			中国語Ⅱ
			朝鮮韓国語Ⅱ
12月19日	木	3	英語１
		4	体育
12月20日	金	1	行動科学基礎

追・再試験日程【学年末】

月日	曜日	時限	科　　目
1月20日	月	1	生体分子化学
		2	英語２（Ｂ組）
		3	（参考：共同化科目「講義」）
		4	
		5	
1月21日	火	1	英語１
		2	数学
		3	現代生命科学
		4	体育
		5	行動科学基礎
1月22日	水	1	生物科学
		2	ドイツ語Ⅱ
			フランス語Ⅱ
			スペイン語Ⅱ
			中国語Ⅱ
			朝鮮韓国語Ⅱ
		3	応用解析学
			近代物理学
		4	物理学
		5	（予備）

共同化科目一覧（別表Ⅲ～Ⅴ）

別表Ⅲ（人間と文化）

授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
比較宗教学	前期	選択	1	15	2	工・樽田
アジアの歴史と文化	前期		1	15	2	府・諫早
西洋文学論	前期		1	15	2	工・山下大
美と芸術	前期		1	15	2	工・舩木
日本近代精神史	前期		1	15	2	工・松本直
医療人類学	前期		1	15	2	医・野上
認知心理学	前期		1	15	2	医・村上
京都の歴史Ⅰ	前期		1	15	2	府・菱田　ほか
京都の文学Ⅰ	前期		1	15	2	府・渡邉
現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・田村
感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・桑子
哲学	後期		1	15	2	工・笠木
宗教と文化	後期		1	15	2	医・竹貫
日本史	後期		1	15	2	工・浅井
東西文化交流史	後期		1	15	2	工・旗手
ヨーロッパの歴史と文化	後期		1	15	2	府・阿部　ほか
技術の人間学	後期		1	15	2	工・秋富
ラテン語	後期		1	15	2	医・松本加
西洋文化論	後期		1	15	2	工・山下太
日本近現代文学	後期		1	15	2	工・高木
京都の歴史Ⅱ	後期		1	15	2	府・藤本　ほか
京都の文学Ⅱ	後期		1	15	2	府・本井
京の意匠	後期		1	15	2	工・下出　ほか
京都の文化と文化財	後期		1	15	2	機・宗田　ほか
現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	医・瀬戸山　ほか

別表Ⅳ（人間と社会）

授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
社会学Ⅰ	前期	選択	1	15	2	府・田島
国際政治	前期		1	15	2	府・宮脇　ほか
医療と社会	前期		1	15	2	医・笠井
こころの科学	前期		1	15	2	工・西崎　ほか
現代社会とジェンダー	前期		1	15	2	府・阿部　ほか
現代教育論	前期		1	15	2	工・瀬戸
食経営学	前期		1	15	2	府・平本
京の産業技術史	前期		1	15	2	工・畑
現代京都論	前期		1	15	2	府・大島
京都学講座（人間と社会）	前期		1	15	2	機・小沢　ほか
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期		1	15	2	機・児玉
発達心理学	集中・夏		－	15	2	医・上條
世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・榎原
社会学Ⅱ	後期		1	15	2	府・中谷
政治学	後期		1	15	2	工・西村
経済学入門	後期		1	15	2	工・人見
生活と経済	後期		1	15	2	府・小沢
現代社会と心	後期		1	15	2	府・石田正
環境と法	後期		1	15	2	工・吉川
現代医療の人間観	後期		1	15	2	医・杉岡
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・児玉
時事問題で学ぶファシリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・児玉
プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・榎原

別表Ⅴ（人間と自然）

授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
物理学Ⅰ	前期	選択	1	15	2	府・安田
化学概論Ⅰ	前期		1	15	2	工・三木
生物学概論Ⅰ	前期		1	15	2	工・疋田
人と自然と数学αⅠ（１Ｑ）	前期（１Ｑ）		1	8	1	工・峯
人と自然と数学αⅡ（２Ｑ）	前期（２Ｑ）		1	8	1	工・峯
生物学的人間学	前期		1	15	2	医・後藤　ほか
科学史Ⅰ（１Ｑ）	前期（１Ｑ）		1	8	1	工・中条
科学史Ⅱ（２Ｑ）	前期（２Ｑ）		1	8	1	工・中条
環境問題と持続可能な社会	前期		1	15	2	工・山田
食と健康の科学	前期		1	15	2	府・小林　ほか
キャンパスヘルス概論	前期		1	15	2	工・荒井
エネルギー科学	前期		1	15	2	工・林
現代科学と倫理	前期		1	15	2	府・岩崎
光と色彩のサイエンス	前期		1	15	2	機・石田昭
京都の自然	前期		1	15	2	府・平山　ほか
製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期		1	15	2	機・石田昭
レーザーで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期		1	15	2	機・播磨
生命科学講話	集中・夏		－	15	2	府・塚本　ほか
化学概論Ⅱ	後期		1	15	2	工・石川
生物学概論Ⅱ	後期		1	15	2	工・疋田
人と自然と数学β	後期		1	15	2	工・磯崎
医学概論Ⅰ（３Ｑ）	後期（３Ｑ）		1	8	1	医・橋本　ほか
医学概論Ⅱ（４Ｑ）	後期（４Ｑ）		1	8	1	医・橋本　ほか
京都の農林業	後期		1	15	2	府・中村　ほか
京都の防災と府民	後期		1	15	2	機・田淵　ほか
意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・松谷　ほか

（参 考）

（再掲）リベラルアーツ･ゼミナール

授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期	選択	1	15	2	機・児玉
時事問題で学ぶファシリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・児玉
プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・榎原
製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期		1	15	2	機・石田昭
レーザーで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期		1	15	2	機・播磨
現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・田村
感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・桑子
世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・榎原
現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	医・瀬戸山　ほか
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・児玉
意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・松谷　ほか

（再掲）京都学

授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
京都の歴史Ⅰ	前期	選択	1	15	2	府・菱田　ほか
京都の歴史Ⅱ	後期		1	15	2	府・藤本　ほか
京都の文学Ⅰ	前期		1	15	2	府・渡邉
京都の文学Ⅱ	後期		1	15	2	府・本井
京の意匠	後期		1	15	2	工・下出　ほか
京都の文化と文化財	後期		1	15	2	機・宗田　ほか
京の産業技術史	前期		1	15	2	工・畑
現代京都論	前期		1	15	2	府・大島
京都学講座（人間と社会)	前期		1	15	2	機・小沢　ほか
京都の農林業	後期		1	15	2	府・中村　ほか
京都の防災と府民	後期		1	15	2	機・田淵　ほか
京都の自然	前期		1	15	2	府・平山　ほか

担当教員欄は、工：工芸繊維大学、府：府立大学、医：府立医科大学、機：京都三大学教養教育研究・推進機構

共同化科目開講時間割

前　期

曜日・コース ＼ 科目群		人間と文化	人間と社会	人間と自然
月曜	2 10:30～12:00	フランス語圏の文化とジャポニスム(※２回生以上)（工・吉川 順子） 映画で学ぶドイツ語と文化(※３回生以上)(府・(ポルドゥニャク・エドワルド)	マーケティング入門（リベラルアーツ・ゼミナール）(※２回生以上)（機・児玉 英明）	
	3 12:50～14:20	美と芸術（工・舩木 理悠）	社会学Ⅰ（府・田島 知之）	物理学Ⅰ（府・安田 啓介）
		認知心理学（医・村上 嵩至）	現代教育論（工・瀬戸 麗）	化学概論Ⅰ（工・三木 定雄）
		京都の歴史Ⅰ（府・菱田 哲郎ほか）	現代京都論（府・大島 祥子）	科学史Ⅰ(1Q)、Ⅱ(2Q)（工・中条 太聖）
				環境問題と持続可能な社会（工・山田 悦）
				製品の機能から科学を学ぶ（リベラルアーツ・ゼミナール）（機・石田 昭人）
	4 12:50～14:20	日本近代精神史（工・松本 直樹）	医療と社会（医・笠井 敬太）	人と自然と数学αⅠ(1Q)、Ⅱ(2Q)（工・峯 拓矢）
		医療人類学（医・野上 恵美）	京の産業技術史（工・畑 智子）	生物学的人間学（医・後藤 仁志ほか）
		京都の文学Ⅰ（府・渡邉 樹）	京都学講座（人間と社会）（機・小沢 修司ほか）	食と健康の科学（府・小林 ゆき子 ほか）
				キャンパスヘルス概論（工・荒井 宏司）
				光と色彩のサイエンス（機・石田 昭人）
				レーザで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール）（機・播磨 弘）
	5 16:10～17:40	比較宗教学（工・樽田 勇樹）	国際政治(府・宮脇 昇ほか)	生物学概論Ⅰ（工・疋田 努）
		アジアの歴史と文化（府・(諫早 直人）	こころの科学（工・西崎 友規子ほか）	エネルギー科学（工・林 康明）
		西洋文学論（工・山下 大吾）	現代社会とジェンダー（府・阿部 拓児ほか）	現代科学と倫理（府・岩崎 豪人）
			食経営学（府・平本 毅）	京都の自然 （府・平山 貴美子ほか）
			現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツ・ゼミナール）(機・児玉 英明)	

後　期

曜日・コース ＼ 科目群		人間と文化	人間と社会	人間と自然
月曜	2 10:30～12:00	映画で学ぶ英語と文化(※３回生以上)(府・西谷 茉莉子) 資料で親しむ京都学(リベラルアーツ・ゼミナール）(※２回生以上）（機・藤本 仁文ほか）		
	3 12:50～14:20	哲学（工・笠木 丈）	社会学Ⅱ（府・中谷 勇哉）	医学概論Ⅰ（3Q）、Ⅱ（4Q）（医・橋本 直哉ほか）
		東西文化交流史（工・旗手 瞳）	政治学（工・西村 真彦）	意外と知らない植物の世界（リベラルアーツ・ゼミナール）（機・松谷 茂ほか）
		ラテン語（医・松本 加奈子）	時事問題で学ぶファシリテーション（リベラルアーツ・ゼミナール）（機・児玉 英明）	
		日本近現代文学（工・高木 彬）		
		京都の歴史Ⅱ（府・藤本 仁文ほか）		
	4 14:30～16:00	日本史（工・浅井 雅）	現代社会と心（府・石田 正浩）	人と自然と数学β（工・磯崎 泰樹）
		ヨーロッパの歴史と文化（府・阿部 拓児ほか）	環境と法（工・吉川 聡美）	京都の防災と府民（機・田淵 敦士ほか）
		技術の人間学（工・秋富 克哉）	現代医療の人間観(医・杉岡 良彦)	
		京都の文学Ⅱ（府・本井 牧子）	プレゼンテーション力とは（リベラルアーツ・ゼミナール）(機・榎原 美樹)	
		英語で京都（※３回生以上）（府・Paul Carty）		
		現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール）（医・瀬戸山 晃一ほか）		
	5 16:10～17:40	宗教と文化（医・竹貫 友佳子）	経済学入門（工・人見 光太郎）	化学概論Ⅱ（工・石川 洋一）
		西洋文化論（工・山下 太郎）	生活と経済（府・小沢 修司）	生物学概論Ⅱ（工・疋田 努）
		京の意匠（工・下出 茉莉ほか）	社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）(機・児玉 英明)	京都の農林業（府・中村 貴子ほか）
		京都の文化と文化財（機・宗田 好史ほか）		

集 中 開 講

夏　期	現代イスラーム世界の文化と社会（リベラルアーツ・ゼミナール）（機・田村 うらら） （８月８日　２～５コース、９日　１～４コース）	世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナール） （機・榎原 美樹） （８月２８日　２～５コース、２９日　１～４コース）	生命科学講話（府・塚本 康浩ほか） （８月２６日～２８日　各１～５コース）
	感性の実践哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）（機・桑子 敏雄） （８月２１日～２２日　各２～５コース）	発達心理学（医・上條 史絵） （８月２８日～３０日　各１～５コース）	やさしい看護学（※工繊大生・府大生対象）（医・吉岡 さおり ほか） （８月６日～７日　各１～４コース）

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1　単　位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2　セメスター制（※）の授業日（※　前期・後期各 15 回の授業と１回の試験を実施する科目）

①　下表のとおり、原則として月曜日に開講されます。前後期とも最終週が試験日となります。

②　令和６年度は、前期はオンデマンド授業２回、後期はオンデマンド授業３回を含む 15 回、試験は１回です。
なお、オンデマンド授業については各科目担当教員の指示に従って受講してください。

③　2 年次以降は、共同化科目が開講される月曜日に、各大学で共同化科目以外の科目も開講されるため、所属する大学の学部・学科・課程によっては、共同化科目の履修が難しくなる場合もありますので、計画的な履修を行ってください。

④　クォーター制については次頁「9」を参考にしてください。

前期	令和６年 ４月：８日(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ)、１５日、２２日 ５月：13 日、２０日、２７日 ６月：３日、１０日、１７日、２４日 ７月：１日、８日、２２日、２９日 ※4 月８日以外にオンデマンド授業が１回あります。 試験日：８月５日	後期	９月：３０日(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ) １０月：７日、２１日、２８日 １１月：１１日、１８日、２５日 １２月：２日、９日、１６日、２３日 令和７年 １月：６日、２０日 ※９月３０日以外にオンデマンド授業が２回あります。 試験日：１月２７日

3　授業時間

以下の開講時限（コース）により行われます。（各授業科目の開講時限（コース）は、巻末の時間割を参照のこと。）

時限（コース）	1	2	3	4	5
時間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

4　開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の教養教育共同化施設「稲盛記念会館」にて開講されます。
※科目によってはオンライン授業となることがあります。

5　履修の手続き

８～９頁の「令和６年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6　試　験

定期試験は、「試験日」に、以下の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、試験の前に別途お知らせします。

時限（コース）	1	2	3	4	5
時間	9:00～10:20	10:35～11:55	12:50～14:10	14:30～15:50	16:10～17:30

7　休講基準（対面授業時）

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一つに該当する場合は授業を休講とします。

①　京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合

②　京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合

③　ＪＲ西日本（京都駅発着の在来線（※））、阪急電鉄（梅田－河原町間）、京阪電気鉄道（淀屋橋又は中之島－出町柳

間）及び近畿日本鉄道（大和西大寺－京都間）の４交通機関のうち３以上の運行が停止の場合

④　その他京都三大学教養教育研究・推進機構運営委員長が必要と認めた場合

※　京都駅発着の在来線とは、京都線及び神戸線の一部（神戸－京都間）、琵琶湖線（米原－京都間）、湖西線の一部（近江今津－京都間）、嵯峨野線（園部－京都間）並びに奈良線及び関西本線の一部（奈良－京都間）のいずれかをいいます。

警報の解除又は交通機関の運行再開（以下「解除等」という。）に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

①　午前　６時３０分までに解除等となった場合・・・平常どおり授業を実施

②　午前１０時３０分までに解除等となった場合・・・午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

8　三大学の学生が利用出来る施設について

①　「稲盛記念会館」自習室

1階と2階にある自習室を利用出来ます。利用可能時間は、月曜日から金曜日（祝日を除く）の7:30～18:00です。

②　京都府立植物園

無料で入園できます。植物園入り口で学生証を提示してください。

9　クォーター制について　※

三大学共同化科目のうち、下記の科目についてはクォーター制で開講します。

前期		後期	
第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
科学史Ⅰ(1Q)	科学史Ⅱ(2Q)	医学概論Ⅰ(3Q)	医学概論Ⅱ(4Q)
人と自然と数学αⅠ(1Q)	人と自然と数学αⅡ(2Q)		

※府大ではクォーター制の取扱がないため、「Ⅰ又はⅡ」及び「『1Q、2Q、3Q及び4Q』のいずれか」の表記を除いた科目名で履修登録します。

前期	第1クォーター	令和６年 ４月：８日(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ)、１５日、２２日 ５月：１３日、２０日、２７日 試験日：６月３日 ※4 月８日以外にオンデマンド授業が**２回**あります	後期	第3クォーター	９月：３０日(ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ) １０月：７日、２１日、２８日 １１月：１１日、１８日 試験日：１１月２５日 ※９月３日以外にオンデマンド授業が**２回**あります。
	第2クォーター	６月：１０日、１７日、２４日 ７月：１日、８日、２２日、２９日 試験日：８月５日 ※上記の期間内にオンデマンド授業が**１回**あります。		第4クォーター	１２月：２日、９日、１６日、２３日 令和６年 １月：６日、２０日 試験日：１月２７日 ※上記の期間内にオンデマンド授業が**２回**あります。

①　受講登録は、第1・第2クォーターは前学期登録時に、第3・第4クォーターは後学期登録時に行います。

②　クォーター科目の授業日と試験日

○各クォーターには8回の授業と1回の試験があります。8回の授業には1回～3回のオンデマンド授業が含まれます。

○第1クォーターと第3クォーターの初回授業はオンデマンド授業となります。

○試験の代わりにレポート課題などが実施される場合、試験日が授業日となることがあります。その場合はオンデマンド授業が1回減ります。

２　医学基盤教育　授業時間割表（第１学年）

			前期	後期
月	1		生命倫理学（瀬戸山）	応用解析学（長崎、吉井）／ 近代物理学（川野、酒谷）
	2		英語２（Ａ組木塚・Ｂ組ジェンセン）	英語２（Ａ組ジェンセン・Ｂ組木塚）
	3	三大学共同化科目	認知心理学（村上）	ラテン語（松本）／医学概論Ⅰ・Ⅱ（橋本他）
	4		医療と社会（笠井）/医療人類学（野上）	現代医療の人間観（杉岡）／ 現代正義論（瀬戸山、立場）
	5			
火	1		医学哲学（杉岡）	
	2		数学（長崎）	
	3		物理学実習／生物学実習／化学実習	現代生命科学（吉澤、後藤）
	4			
	5			
水	1		医史学（八木）／医療経済学（松田）	
	2		第２外国語Ⅰ	第２外国語Ⅱ
	3		物理学実習／生物学実習／化学実習／ 情報リテラシー(吉井)	応用解析学（長崎、吉井）／ 近代物理学（川野、酒谷）
	4			
	5			
木	1		生命物理化学（武元）	現代生命科学（吉澤、後藤）
	2		生体分子化学（大庭）	
	3		体育（Ａ組・屋）／英語１（Ｂ組・三宅）	
	4		英語１（Ａ組・三宅）／体育（Ｂ組・屋）	
	5			
金	1		医療と法（鵜飼）／経営学（瓜生原）	行動科学基礎（村上）
	2		生物科学（吉澤、後藤）	
	3		物理学（高西）	
	4		総合講義	
	5			

医大(医学科)提供科目を選択の場合

注1）：物理学実習／化学実習／生物学実習／情報リテラシーの日程については別途指示
　　実習は各実習室にて行う。情報リテラシーは広小路キャンパス地階情報科学実習室で、13：20から行う。

注2）：第２外国語
　　ドイツ語Ⅰ・Ⅱ（熊谷）
　　フランス語Ⅰ・Ⅱ（モクタリ）
　　スペイン語Ⅰ・Ⅱ（小川）
　　中国語Ⅰ・Ⅱ（陳）
　　朝鮮韓国語Ⅰ・Ⅱ（由村）

授業時間	
1	8:50 ～10:20
2	10:30 ～12:00
3	12:50 ～14:20
4	14:30 ～16:00
5	16:10 ～17:40

第1学年　前期　授業時間割

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
(4/1～5)																新入生オリエンテーション 履修ガイダンス						Zoom 講習会		(Zoom講習補習) 教科書購入	4/6(土) 入学式
(4/8～12)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	総 講			医史/医経	2外		情報リテラシー (広小路キャンパス)		物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理		総講 歴彩館
(4/15～19)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外		情報リテラシー (広小路キャンパス)		物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理		総講 歴彩館
(4/22～26)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外		情報リテラシー (広小路キャンパス)		物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	健康診断 河原町キャンパス		総講 図書館ホール
(4/29～3)	(昭和の日)					(対慈恵戦)					(対慈恵戦)					(対慈恵戦)					(憲法記念日)				
(5/6～10)	(振替休日)					医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外		情報リテラシー (広小路キャンパス)		物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	総講	
(5/13～17)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外	物/化/生物 実習			物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	学術 講座	
(5/20～24)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外	物/化/生物 実習			物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	総講	
(5/27～31)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外	物/化/生物 実習			物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	総講	
(6/3～7)	生倫	英2	共同化科目 (ｸｵｰﾀｰ科目は試験日)			早期体験実習Ⅰ																			
(6/10～14)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外	物/化/生物 実習			物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	総講	
(6/17～21)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外	物/化/生物 実習			物化	分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	総講	
(6/24～28)	生倫	英2	共同化科目			医哲	数	物/化/生物 実習			医史/医経	2外	物/化/生物 実習				分化	体育/英1			医法／経営	生物	物理	総講	
(7/1～5)	生倫	補講又は 自由学習	共同化科目			補講又は 自由学習					補講又は 自由学習					補講又は 自由学習					補講又は 自由学習				
(7/8～12)	補講又は 自由学習	【試験】 英2(A)	共同化科目			【試験】 医学哲学・数学・生命倫理学					【試験】 医史学・医療経済学・第2外国語					【試験】 生命物理化学・生体分子化学・体育・英語1					【試験】 医療と法・生物科学・物理学				
(7/15～19)	(海の日)																								
(7/22～26)			共同化科目													【追再試験】①					【追再試験】①				
(7/29～8／2)			共同化科目			【追再試験】①					【追再試験】①														
(8/5～9)			共同化科目試験 (ｸｵｰﾀｰを含む。)			(夏季休業)																			
(8/12～16)	(振替休日)					(夏季休業)																			
(8/19～24)						(夏季休業)																			
(8/26～9/1)						(夏季休業)																			
(9/2～6)			(共同化科目再試験) (※レポート試験の場合は、未実施)			【追再試験】②					【追再試験】②					【追再試験】②					【追再試験】②				
(9/9～13)																									
(9/16～20)	(敬老の日)						数					2外					分化	体育/英1			行動	生物	物理	総講	
(9/23～27)	(振替休日)						数					2外	応解／近物			現生	分化	体育/英1			行動	生物	物理	総講 (予備)	

※共同化科目は前期中に別途1回(クオーター科目は、別途2回)オンデマンド授業あり。但し、クオーター科目は試験日に授業を行う場合、オンデマンド授業の回数が1回減る。

第1学年　後期　授業時間割

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
(9/30～10／4)	応解／近物	英2	共同化科目				数	現生				2外	応解／近物			現生	分化	体育/英1			行動	生物	物理	総講	10/6 OSCE補助
(10/7～11)	応解／近物	英2	共同化科目				数	現生				2外	応解／近物			現生	分化	体育/英1			行動	生物	物理	総講	
(10/14～18)	(スポーツの日)						数	現生				2外	応解／近物			現生	分化	体育/英1			行動	生物	物理	総講 学生部長・基盤部長	
(10/21～25)	応解／近物	英2	共同化科目				数	現生				2外	応解／近物			現生	分化	体育/英1			行動	生物		総講 図書館ホール	
(10/28～11／1)	応解／近物	英2	共同化科目			(トリアス祭)					(トリアス祭)					(トリアス祭)					(トリアス祭)				
(11/4～8)	(振替休日)					早期体験実習Ⅱ																			
(11/11～15)	応解／近物	英2	共同化科目				数					2外					分化	体育/英1			行動	生物	物理	総講	
(11/18～22)	補講又は自由学習	英2	共同化科目				補講又は自由学習					2外	補講又は自由学習			補講又は自由学習		体育/英1			行動	補講又は自由学習		eAPRIN 受講講習	
(11/25～11/29)		英2	共同化科目 (クオーター科目は試験)				【試験】数学、現代生命					2外	【試験】応解／近物			【試験】生体分子化学		体育/英1			行動		物理		
(12/2～6)		英2	共同化科目					総合講義 (実習報告会)図書館ホール				2外						体育/英1			行動	補講又は自由学習			
(12/9～13)		英2	共同化科目			補講又は自由学習	英2(B)	補講又は自由学習			補講又は自由学習					補講又は自習学習					補講又は自由学習	【試験】生物科学・物理			
(12/16～20)		英2(A)講義 英2(B)試験	共同化科目								【試験】外国語2							【試験】体育・英語1			【試験】行動				
(12/23～27)	補講又は自由学習		共同化科目			(冬季休業)																			
(12/30～1/3)	(冬季休業)																								
(1/6～10)			共同化科目			統合授業																			
(1/13～17)	(成人の日)																								
(1/20～24)	追再試験		共同化科目			追再試験					追再試験														
(1/27～1/31)			共同化科目試験 (クオーターを含む。)																						
(2/3～7)			(共同化科目再試験)																						
(2/10～14)						(建国記念の日)																			
(2/17～21)		解剖	解剖△				解剖	生理	分医			解剖	解剖△				分医	解剖△			解剖	分医	解剖△		
(2/24～2/28)	(振替休日)					解剖	分医	分医	生理		解剖	解剖	生理	分医		解剖	分医	分医	生理		解剖	分医	解剖△		
(3/2～6)	解剖	分医	解剖△				分医	生理	分医			解剖	解剖△				解剖	解剖△			解剖	生理	解剖△		
(3/9～13)		分医	解剖△			解剖	分医	分医	生理		解剖△		分医	分医			解剖	解剖△				解剖	分医	生理	
(3/16～20)	(春季休業)															(春分の日)					(春季休業)				
(3/23～27)	(春季休業)																								

※共同化科目は後期中に別途2回オンデマンド授業あり。但し、クオーター科目は試験日に授業を行う場合、オンデマンド授業の回数が1回減る。
前期の「物理」は後期の「数学/物理」と回数を合わせるため1回少ない

３　医学基盤教育科目の履修（第２学年～第５学年）

１．授業科目

科目名	学年	授業期間	必修・選択の別	開講時限	授業回数	単位	場　　所
教養英語 ※1	2 年生	通年	必修	金曜日 4・5 限	22	2.5	河原町
医学英語 ※2	3 年生	通年	必修	木曜日 2 限	24	2.5	河原町
行動科学応用	4 年生	4～5 月	必修	木曜 3・4 限	8	1	河原町
医療倫理学	5 年生	10 月	必修	集中講義	12	1.5	下鴨 Ｚｏｏｍ
医療統計学	5 年生	5～11 月	必修	水曜日 3・4(･5) 限	22	2.5	広小路（情報科学実習室）ほか

※1　Advanced Presentation ＆ Academic Writing
※2　Basic Medical English

２．進級
学年末において必要な単位を修得していない学生は、当該学年にとどまる。
（同学年に再登録される。）

３．試験実施時期等

科目名	中間試験	追再試験	定期試験	追再試験	試験の形式
教養英語	－	－	－	－	授業内プレゼンテーション及び小論文作成
医学英語	－	－	－	－	教科書各章終了時の筆記試験（合計 4 回）及び授業内プレゼンテーション
行動科学応用	－	－	6 月 6 日	7 月 25 日	筆記試験
医療倫理学	－	－	11 月 8 日 4 限	12 月 24 日 4 限	筆記試験
医療統計学	－	－	－	－	授業内試験

※時間指定をしていないものは、普段の開講時間に試験を実施

4　医学基盤教育科目の内容紹介

生 命 倫 理 学

教　員　名　　教授　　瀬戸山　晃一

Ⅰ　教育の目的と方針

本科目は、医学教育コアカリキュラム及び本学のディプロマポリシー並びにカリキュラムポリシーにある「プロフェッショナリズム」教育の根幹と基盤になる必修科目であり、具体的な現代医療や医学研究をめぐる**倫理的法的社会的問題**（ELSI）を生命倫理学の基本原則と方法論から考える。そもそも倫理学とは一体どのような学問分野であり、医歯薬学や理工学などの自然科学とどこか異なるのか。そして人文社会科学の中では、どのような位置づけになり、いかなる学術的意義や方法論を有しているのかについて理解する。生命倫理学は、文理融合的で学際的な学問領域であり、知識の獲得に講義の主眼を置くのではなく、有識者間においても意見が対立し唯一の正しい解答のない、現代医療の倫理的諸問題に対して多角的でグローバルな視座から捉え、時間をかけて考え抜く知的枠組みと知的忍耐力を養うことを本講義の目的と方針とする。

なお、授業は講義とグループワークを組み合わせた形式で行う。取り上げる現代医療のテーマに関する様々なドキュメンタリー映像を視聴する。看護学科と合同のグループで意見交換やディスカッションを行う。毎回提出が義務づけられるフィードバック・コメントを活用し双方向的で主体的な学びを促す。

Ⅱ　到達目標

この授業では、将来、医療や医学研究に携わる皆さんが、なぜ今、医療や研究において生命倫理が問われているのか、患者の人権や自律の尊重がなぜ大切であるのかについて真剣に考え理解できる知的基盤づくりを行う。生命倫理の諸問題を取上げ考察することで、異なる価値観を有する他者である患者さんやご家族などの当事者の気持ちを推論できる共感性を養い個人的な価値観を押し付けることなく全人的医療を提供できる柔軟な思考と知的態度を養成することを教育の到達目標とする。

Ⅲ　授業日程

・4／8　授業ガイダンス・生命倫理の四原則と自己決定制約の四原理
・4／15 癌の告知：インフォームド・コンセントとパターナリズム
・4／22 遺伝子診断と遺伝学的情報の開示：知る権利と知らないでいる権利
・5／13 民間の体質遺伝子検査ビジネスと遺伝学的情報のプライバシー
・5／20 雇用や生命保険その他の領域における遺伝子差別
・5／27 着床前診断と胚選別、デザイナーベビー・救世主兄弟
・6／3　出生前診断と選択的堕胎：優生思想、強制的不妊
・6／10 臨床倫理の方法論とアドバンスケアプランニング（ACP)、人工生命維持装置停止・治療中止（消極的安楽死）
・6／17 尊厳死と自殺幇助：尊厳ある死を選ぶ権利（積極的安楽死）
・6／24 臓器移植と臓器売買：医療ツーリズムと闇市場

・7／1　研究不正と研究倫理：隠れたカリキュラムと逸脱の標準化
・7／8　補講

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（50%）

出欠票並びに毎回の課題の授業フィードバック・コメントの提出により出席確認を行う。遅刻時間数の合計が**45分以上**の場合には1回分の欠席としてカウントする。遅刻の合計が**90**分以上の場合には出席回数を2回分がマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。公共交通機関の遅延証明提出等以外で、授業開始時間から**10分以上遅刻**の場合や**終了時刻10分以前の退出**は出席と見なされない。出席回数と毎回のフィードバック・コメントの内容や授業態度を合わせて**合計50%を平常点**とする。なお授業中の私語や内職や居眠りなどは減点の対象とする。

2　筆記試験（50%）

筆記試験は、論述試験で全て参照物不可とし、毎回の授業をしっかり聞いて考えていないと論述が難しい設問とする予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントシートに記入し提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、教員のメールアドレスにアポイントメントの予約のメールを送り調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

必携教科書：霜田求（編）『テキストブック生命倫理』第 2 版（法律文化社 2022 年、¥2,300＋税）その他の参考文献等については講義中に紹介し参考資料は適宜配布する。

Ⅶ　その他

次回の授業内容に該当するテキストの章や配布資料に目を通してくること。フィードバック・コメントシートに毎回授業出席を通し新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問の主なものに答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。

障がいや持病など、健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、必ず連絡を取り相談しておくこと。

医　学　哲　学

教　員　名　　准教授　　杉岡　良彦

Ⅰ　教育の目的と方針

医学部に入学し、これから皆さんは、基礎医学・社会医学・臨床医学の様々な医学分野を学びます。医学は人の生死に関わる魅力的な学問であり、責任と実践を伴います。しかし、様々な医学分野を学習する一方で、そもそも「医学とはどのような学問であるのか」「その他の学問と何が異なるのか」「医学という学問の本質やその全体像がどのようなものであるのか」を体系的に考える学問はこれまでの医学部の中であまり重視されてきませんでした。こうした課題を担うのが医学哲学（philosophy of medicine）です。

医学哲学を学ぶためには、まず医学そのものを理解しておくことが必要ですが、本講義では現代医学の依って立つ基盤を整理しつつ紹介し、その魅力と限界を批判的に考えると同時に、今後の医学はどのようなものであるべきかを考えます。

この講義を通じて、皆さんが医学という学問の本質や全体像を理解し、教養科目と専門科目両者を生涯にわたり学ぶ必要性を理解し、さらに医学を批判的かつ創造的に理解・実践する態度を養うことを目的とします。

なお、授業はテキストやスライドを用いながら講義形式で行います。積極的な質問を歓迎し、グループ・ディスカッションや、毎回記入して提出する受講生のレポートにも応えながら、双方向的な講義により、医学哲学に関する理解を深めていきます。

Ⅱ　到達目標

・医学という学問の「全体像」を理解できる。
・医学における「科学」の重要性とその限界を理解できる。
・医学における「人間観」（特に biopsychosocial-spiritual な観点）を理解できる。
・医学における「医療倫理」や「医療制度」の重要性を理解できる。
・医学という学問を批判的かつ創造的に理解する態度を養うことができる。

Ⅲ　授業日程

・４／09　医学哲学とは：医学における科学と哲学の関係と医学の全体像
・４／16　医学の科学論１：生物医学と分子生物学
・４／23　医学の科学論２：EBM の意義とその限界を考える①
・５／07　医学の科学論３：EBM の意義とその限界を考える②
・５／14　医学の人間観１：生物医学の人間観とエンゲルの生物心理社会モデル
・５／21　医学の人間観２：フランクルの人間観と biopsychosocial-spiritual model
・５／28　医療倫理・医療制度
・６／11　医学における価値の問題１：医学は何をめざしてきたのか
・６／18　医学における価値の問題２：医学は苦悩にどのように向き合うのか
・６／25　疑似科学と代替医療の問題を通じて医学を考える

注）10 回の講義は上記のように予定をしていますが、受講生の理解の深まりに考慮し、若干の変更を行う可能性もあります。

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（30%）

レポートの提出・内容、講義中の質問やディスカッションを考慮し、平常点を評価します。遅刻 10 分以上あるいは早退 10 分以上は特別な理由がない限り欠席とみなします。

2　筆記試験（70%）

筆記試験は、毎回の講義をしっかり理解し、テキストを読みこんでいなければ回答は困難です。また、論理展開の明快さや、内容の独創性を特に評価します。

筆記試験に関する注意点やポイントなどは講義中にも説明します。

Ⅴ　オフィスアワー

メールあるいは講義前後に直接アポイントを取ってください。質問や議論は大歓迎です。日程調整のうえで、個別に対応します。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

【教科書】杉岡良彦『医学とはどのような学問か：医学概論・医学哲学講義』（春秋社 2019 年 2420 円＜税込み＞）

【主な参考文献】澤瀉久敬『医学の哲学』（誠信書房 1981 年）、フランクル『制約されざる人間』（春秋社 2000 年）、フランクル『苦悩する人間』（春秋社 2000 年）。哲学の基本中の基本としては岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書 2003 年）があります。わかりやすい科学哲学入門書としては、村上陽一郎『科学史・科学哲学入門』（講談社学術文庫 2021 年）や野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学術文庫 2015 年）があります。

その他、必要な文献や参考文献は講義中に紹介します。

Ⅶ　その他

医学哲学はこれから学ぶ医学の根底を問う学問です。できるだけ多くの学生が受講することを強く望みます。講義は基本的にテキストに添って行いますが、講義スライドによってテキストをより深くわかりやすく理解できるようにします。また、常に「なぜか」と問いながら、自分自身の疑問を講義中に質問したり、レポートに記載してください。次回講義の中で、そのうちのいくつかの疑問に応えながら、医学の諸問題を共に考えていきます。また、必要な文献や参考資料を紹介し、皆さんの理解がさらに深まり、医学や医学哲学に関する興味が深まるように工夫していきます。講義前後の質問にも時間が許す限り応じます。

常に問題意識をもち、疑問点を明らかにする態度で講義に臨み、不明な点は積極的に質問することを歓迎します。

障碍や健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談してください。

行　動　科　学　基　礎

教　員　名　　助　教　村上　嵩至

Ⅰ　教育の目的と方針

医学教育において，行動科学は極めて重要な位置づけが与えられている。医学教育モデルコアカリキュラムにおいてプロフェッショナリズムは一番初めに規定されている。高度医療専門人である医師の行動規範や意思決定・態度，そして患者の診療におけるインフォームド・コンセントや終末期の意思決定支援の際のコミュニケーションにおいて行動科学を学ぶ必要性が指摘されている。行動科学（behavioral science）は，人文社会科学と自然科学を横断する学際的な学問領域であり、心理学から，社会学，人類学，生理学，精神医学，政治学，経営学，言語学，行動経済学やゲーム理論に至るまで，人間の行動を実証的に研究し，その法則性や傾向を体系的に明らかにして，人間行動の制御や予測に応用したり行動変容を促す経験科学の総称である。

人々の行動や意思決定には，一定の傾向（クセ）があり，認知バイアスその他の様々な影響を受けている。現実の人間は，自らの効用（福利）を減少させるような意思決定や長期的な健康を害する行動をとることも珍しくない。どうすれば癌検診の受診率を上げることができるのか。何故，子宮頸癌のワクチン接種が進まないのか。どうすれば臓器ドナーを増やすことができるのか。また医療の臨床現場では，患者の意思決定支援，アドバンス・ケア・プランニングの重要性が提唱されているが，どうすれば高齢者への適切な意思決定支援が可能となるのか。なにゆえ医療過誤が生じてしまうのか。どうしたら患者さんの生活習慣等の行動をより良い方向に変容させることができるのか。なぜ研究不正は生じてしまうのか。これらの問いに対して行動科学は重要かつ有益な知的洞察を提供している。本科目では将来，医師としてのプロフェッショナリズムにとって大変有益である思われる行動科学の様々な知的洞察の基礎を学ぶことを教育目的とする。

なお，授業は基本は講義形式とするが，場合によってグループワークを組み合わせた形式で行う。ZOOM での開催になった場合には，ブレイクアウト機能を用いてグループで意見交換やディスカッションを行う。毎回提出が義務づけられるフィードバック・コメントを活用して双方向的で主体的な学びを促す。

Ⅱ　到達目標

1．行動形成における学習の基本メカニズムである「条件づけ」について具体的な事例や実験例を通して理解し，人間の日常的な行動形成について説明できる。
2．行動生起に関わる「動機づけ」の理論について具体的な事例や実験例を通して理解し、人間の行動生起過程における動機づけの性質について説明できる。
3．人間の判断や意思決定に錯誤をもたらす「認知バイアス」の危険性や影響について具体的な事例等を通して理解し説明できる。
4．人間の態度や行動に及ぼす社会的影響について具体的な事例や実験例を通して理解し、実生活における態度変化や行動変容について説明できる。
5．人間の行動変容の手段として注目されている「ナッジ」の意義や有効性について具体的な事例等を通して理解し説明できる。

Ⅲ　授業日程

・９／20　行動科学とは
・９／27　レスポンデント条件づけ
・10／４　オペラント条件づけ
・10／11　感情と欲求
・10／18　原因帰属と学習性無力感
・10／25　内発的動機づけと外発的動機づけ
・11／15　期待効用とプロスペクト理論
・11／22　発達と愛着
・11／29　態度変化と認知的不協和
・12／６　同調と権威の効果

Ⅳ　成績評価基準

１．平常点（40%）

毎回提出する授業フィードバック・コメントにより出席確認を行う（ZOOM の場合には授業の初めと最後にチャットで出欠確認を行う)。授業開始時刻から 10 分以上の入室や終了時刻 10 分以前の退出は出席と見なされない。また，遅刻時間の合計が 45 分以上の場合には 1 回分の欠席として，遅刻時間の合計が 90 分以上の場合には 2 回分の欠席として，出席回数からマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は，個別に相談すること。出席回数と毎回のフィードバック・コメントの内容や授業態度を合わせて合計 40%を平常点とする。なお授業中の私語や内職や居眠りや ZOOM 画面オフなどは減点の対象とする。

２．筆記試験（60%）

筆記試験は，論述形式で全て参照物不可とする予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

授業に関する質問などは，毎回の授業で配布するフィードバック・コメントに記入して提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には，教員のメールアドレスにアポイントメントの予約申込のメールを送り，教員と調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は使用しない。配布資料や参考文献等については，講義中に適宜，配布する。

Ⅶ　その他

講義中心ではあるが，具体的事例や研究事例を多く取り入れて教授する。健康上の理由などにより，受講に当たって配慮が必要な場合には，事前に連絡を取り、相談すること。なお，教員の指示がないかぎり，授業中は携帯電話の使用を禁止する。携帯電話はマナーモードに設定し，カバンの中にしまっておくこと。また，授業中の私語や授業と関係のない作業，居眠りは禁止する。特に私語については他の受講生の学修機会を奪うことになるため，厳しく対応する（退室を命じる場合もある）ので注意されたい。

認 知 心 理 学

（三大学共同化科目）

教 員 名　　助 教　　村上　嵩至

Ⅰ　教育の目的と方針

私たちは一般に，目を開けてさえいれば外の世界が見える。その後に目を閉じても，心の中でその光景を思い浮かべることができるし，その光景の中に何があったか等を言葉にして表現することができる。あるいは，日中に見た光景の夜の姿を想像することさえできる。認知心理学は，このような心の働き，すなわち知的機能について研究する学問である。

本講義では，人の知的機能のそれぞれにおいて，どのような情報がどのように扱われているかについて概観し，これらを通して人の認知の仕組みと性質について理解することを目的とする。そのため，外界からの情報の入力（感覚，知覚，注意）といった低次認知処理から，情報の貯蔵（記憶，知識）と情報の活用（問題解決，推論，判断）という高次認知処理まで，幅広い内容を紹介する。また，これにより，人の認知傾向や合理性について考えるための知識習得を目指す。

なお，授業は講義形式とする。

Ⅱ　到達目標

１．人の感覚や知覚の機序について理解し，日常的な心理現象について説明できる。
２．人の記憶や知識の仕組みについて理解し，それらの性質について説明できる。
３．人の高次認知処理について理解し，その特徴や特性について説明できる。
４．認知心理学の研究法について理解し，具体的な実験について内容を説明できる。

Ⅲ　授業日程

・４／８　認知心理学：歴史と隣接領域との関係
・４／15　感覚と知覚（１）：感じること
・４／22　感覚と知覚（２）：捉えること
・５／13　感覚と知覚（３）：知覚の誤り
・５／20　感覚と知覚（４）；注意と選択
・５／27　記憶（１）：覚えること、思い出すこと
・６／３　記憶（２）：思い浮かべること
・６／10　記憶（３）：忘れること
・６／17　概念と知識（１）：何かが分かるということ
・６／24　概念と知識（２）：言語の理解
・７／１　問題解決と推論（１）：考えること
・７／８　問題解決と推論（２）：思考の偏り
・７／22　判断と意思決定（１）：可能性を決めること
・７／29　判断と意思決定（２）：好みを選ぶこと
※ 他に１回オンデマンド授業　感情：ホットな認知

Ⅳ　成績評価基準

１．平常点（40％）

毎回提出する授業フィードバック・コメントあるいは出席課題（当該講義についての確認課題）によって出席確認を行う。その他，小レポートを課す場合もある。授業開始時刻から 10 分以上の入室は出席と認めない。また，途中で退室した場合（退室を命じた場合も含む）も出席と認めない。ただし，病気その他のやむをえない事情で退室する場合には，考慮する場合もあるため，必ず退室前に申し出ること。授業中の私語や内職や居眠りなどは，減点の対象とする。

２．筆記試験（60％）

授業で紹介した概念，用語，理論についての理解を確認するため，論述形式の出題をする予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

授業に関する質問などは，毎回提出するフィードバック・コメントもしくは出席課題に記入して提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には，教員のメールアドレスにアポイントメントの予約申込のメールを送り，教員と調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は使用しない。参考文献等については，講義中に適宜。紹介する。

Ⅶ　その他

講義中心の授業となるが，なるべく多くの研究事例を紹介しながら説明する。事例の紹介においては，可能であれば，デモを用いて紹介する。我々の心的過程は，その多くが直接的に観測できないことが多い。そのため，原因やメカニズムについては，観察された事象から論理的に説明する試みが行われてきた。本講義でも，この点を重視し，受講者の論理的思考を養うことを目指す。健康上の理由などにより，受講に当たって配慮が必要な場合には，事前に連絡を取り。相談すること。なお，教員の指示がないかぎり，授業中は携帯電話の使用を禁止する。携帯電話はマナーモードに設定し，カバンの中にしまっておくこと。また，授業中の私語や，授業と関係のない作業，居眠りは禁止する。特に私語については，他の受講生の学修機会を奪うことになるため，厳しく対応する（退室を命じる場合もある）ので注意されたい。

医 療 人 類 学

（三大学共同化科目）

教　員　名　　非常勤講師　　野上　恵美

Ⅰ　教育の目的と方針

文化人類学の一領域である医療人類学では、異なる文化や社会的背景を有する人びとが病気の原因をどのように考え、病気になった時にどのような治療を受けることが望ましいと考えているのかを明らかにしてきた。本講義では、「異文化理解」の視点に基づき、患者自身による病気への多様な対処法を提示し、病を抱える患者の生き方や生きる意味を理解する。そして、日本だけでなく海外における医療に関わるさまざまな事例をとおして西洋医学に基づく思考を相対化し、多様で柔軟な思考を獲得することを本講義の目的と方針とする。

なお、授業は主として講義形式で行なう。取り扱うテーマに応じてドキュメンタリー映像も視聴したり、グループディスカッションを行なったりする。

Ⅱ　到達目標

1　医療人類学における基本的概念を習得する。

2　授業で学んだ多様性を尊重する思考法によって、現代医療における諸課題について
分析することができる。

3　患者の生き方や生きる意味を想像し、同じ社会の一員として共に在ることを目指そうとする知的態度を養成する。

Ⅲ　授業日程

・４／８　ガイダンス―現代社会において文化人類学を学ぶ意義
・４／15　医療人類学の歴史・基本概念
・４／22　グローバル化する近代医療
・５／13　現代医療と多元的医療論
・５／20　呪術、憑依、シャーマニズム
・５／27　女性の身体とリプロダクション
・６／３　障害をめぐる文化
・６／10　心と社会
・６／17　依存症をめぐる文化
・６／24　美しさをめぐる文化
・７／１　性をめぐる文化
・７／８　エイジング(老い)をめぐる文化
・７／22　認知症の認識をめぐる文化
・７／29　まとめ―社会的営為としての医療
※他に１回オンデマンド授業　死をめぐる文化
（授業内容は状況に応じて変更がありうる。）

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（30%）

毎回行う授業コメントペーパーにより出席確認を行う。遅刻時間数の合計が **60 分以上**の場合には1回分の欠席としてカウントする。遅刻の合計が120分以上の場合には出席回数を2回分がマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。授業開始時間から **30 分以上遅刻**の場合や**終了時刻 20 分以前の退出**は出席と見なされない。出席点と毎回のコメントペーパーの点数を合わせて**合計 30%を平常点**とする。なお授業中の私語や内職などは減点の対象とする。

2　筆記試験（70%）

筆記試験は、毎回の授業をしっかり聞いて考えていないと論述が難しい課題とする予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

授業に関する質問などは、毎回提出するコメントペーパーに書くこと。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、授業後もしくは教員のメールアドレス(初回の授業において通知する)にアポイントメントの予約のメールを送り調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は特に指定しない。参考文献等については講義中に紹介し、参考資料は適宜配布する。

Ⅶ　その他

- コメントペーパーに毎回授業で新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問の主なものに答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。
- 障碍や健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談すること。
- 授業中、携帯は使用禁止。マナーモードにしてカバンの中にしまっておくこと。
- 授業中の私語や内職や居眠りは厳禁とする。

現 代 正 義 論

（三大学共同化科目）

教 員 名　　教　　授　　瀬戸山　晃 一
　　非常勤講師　　立　場　貴 文

Ⅰ　教育の目的と方針

現代社会では、法により一定の自由や権利が保障されているが、現実には様々な**不平等**や**格差**、**差別**や**不正義**がみられる。それらをどの程度どのような法政治制度的な手段や方法で是正し、平等を実現すべきなのか？現実には**自由**を追求すると**格差**が広がっていくことが少なくない。また「**平等**」といってもスタートの平等なのかゴールの平等なのか、あるいは機会の平等や運の平等など、何の平等を追求するべきであるのか？

「**正義(Justice)**」とは、**公正（Fairness）**の意味であり、正義論とは自由と平等・不平等（格差）や差別をめぐる議論と論争のことである。法の象徴とされる**正義の女神**は、目隠しをして剣と天秤を手にしていることが少なくない。そのことが示しているように正義（公正）を実現することは現実には容易ではない。「何が正義か」をめぐっては様々な構想が企てられ、**功利主義、リベラリズム、リバタリアニズム、共同体主義、優先主義、十分主義**など、主義主張の異なる多様な理論アプローチが具体的な問題をめぐって激しい論争を繰り広げてきている。現代社会では多様な価値観を有する人々が共存しており、様々な議論や論争の背後には、多様な当事者（利害関係者・ステークホルダー）の利益相反（りえきそうはん）や価値観の対立がある。正義論では、その法政治的調整と多様な者との共生が求められている。

本ゼミナールの目的は、現代社会の実際の教育格差、医療格差、環境問題などの具体的な問題や事例を題材に、その政策の是非をめぐって対立する意見や議論が、いかなる主義や理論に基づいて主張が展開されているのかを理解するとともに、それらの知的洞察に基づいて、処方箋（制度改革や政策変更）のあり方を主体的に考えることができる知的能力を養成することにある。教育方針としては、受講生のアクティブラーニングを促進し、いろいろな問題考察に役立つ**「生きた教養」リベラルアーツ**の涵養を目指す。

なお、本科目は 3 大学教養教育共同化科目のリベラルアーツゼミナールとして開講される。そのため、看護学科を含む府立医科大学、府立大学及び工芸繊維大学の受講生がともに混ざりグループでのディスカッションを行う参加型の授業形式を採用する。各グループは、ジェンダーや大学・学科を考慮して 5～6 名で構成し、何度かメンバーを組みなおす予定である。

Ⅱ　到達目標

授業では、せめぎあう正義論を展開する対立する各主義や理論アプローチが拠りどころにする**世界観**や**事実認識**、そして**理論前提**および**知的死角（ブラインドスポット）**について理解する。そして、それぞれの立場が、何の平等を重視し、何の不平等（格差）を軽視あるいは無視する傾向にあるのかを理解する。これらの知的営みを通して、受講生が自らの考え（価値観）を相対化するとともに、自省的に見つめなおし、異な

る価値観を有する他者に対する寛容な知的態度の養成、及びそれを日常生活や将来のキャリア実践に活用できる知的シーズの植え付けを行うことを主たる教育目標とする。また特定の道徳を啓蒙し教育するのとは正反対に、現在流布している様々な道徳や主義を批判的に考察する知的視座の涵養を本ゼミナールの到達目標とする。

換言するならば、様々な理論や主義を、いわば手術台に乗せて解剖し、その中身、特に様々な理論間の緊張関係や対立とその論拠を可視化する。そして、それらの考察過程を通して、自由の意義とその限界、道徳（哲学）理論間や自由と平等をめぐる対立構造などの動的な相互関係を捉えることで、多様な価値観を有する他者への寛容な態度や、マイノリティーである**当事者の声**に耳を傾け、気持ちを**推論**する能力を養うことを教育の最終的な到達目標とする。

Ⅲ　授業日程

本ゼミナールでは、講義とグループ・ディスカッションとプレゼンから構成される。テキストや映像を活用し、様々な現実の課題や事例問題を取り上げて、問題を解決・是正する処方箋について現代正義論に登場する多様な主義・理論の知的洞察に基づいて考える。林担当回では、テキストの該当章を読んできていることを前提に授業前半は具体的な問題に関する講義を、授業後半は質疑・討論を行う。瀬戸山担当回では、多様な学部学科の受講生からなるグループによるディスカッションを取り入れた文理融合的な参加型授業を実践する。

・９／30　授業目的とガイダンス（オンデマンド）（瀬戸山・立場）
・10／ 7　能力主義・入試選抜の公平性と現代正義論の様々な主義（瀬戸山）
・10／21　スポーツ競技の公平性とドーピングの是非（エンハンスメント）（瀬戸山）
・10／28　グローバルな貧困への対応（立場）
・11／11　家族による教育の是非（立場）
・11／18　医療資源分配の基準としての QALY の長所と短所（立場）
・11／25　死刑制度の是非（立場）
・12／ 2　「正しい戦争」という考え方（立場）
・12／９　人口抑制の是非（立場）
・12／16　気候変動の問題と世代間正義の考え方（立場）
・12／23　食物の消費によって引き起こされる不正義（立場）
・ 1／ 6　これまでの振り返りとグループプレゼンテーションの説明（瀬戸山）
・ 1／20　グループプレゼンテーションの準備（瀬戸山）
・ 1／27　グループプレゼンテーションと質疑応答とピアレビュー（瀬戸山・立場）
※他に１回オンデマンド授業　Moodle で指示（白熱教室視聴）
※本講義はゼミナールであり、平常点と課題提出とプレゼンによる総合評価を行うことから、試験予定日(1／27)にプレゼンと評価の授業を行う。

Ⅳ　成績評価基準

成績評価はゼミナールのため筆記試験等は行わず、**平常点（授業でのディスカッション）と提出課題とプレゼンテーション**により評価する。立場担当回に関しては、授業後半の質疑・討論セッションでの発言に基づいて平常点評価を行い、質疑・討論における各履修者の発言を、質・量の両面から厳密に評価して記録し、授業参加点を算

出する。出席による加点はないが、欠席・遅刻・早退は減点対象とする。**瀬戸山**担当回に関しては、グループ・ディスカッションへの能動的参加および授業フィードバック・コメントシートの内容とプレゼンに基づいて評価をおこなう。

なお遅刻時間数の合計が **45 分**以上の場合には 1 回分の欠席としてカウントする。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。**授業開始時刻 10 分以上遅刻**の場合や**終了時刻 10 分以前**の退出は出席と見なされない。

Ⅴ　オフィスアワー

授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントに書くこと。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、連絡先アドレス等を授業後もしくは授業の際に周知する。教員のメールアドレスにアポイントの予約メールを送り日時を調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

【必携教科書】宇佐美誠他『正義論：ベーシックからフロンティアまで』(法律文化社 2019 年、3,080 円（税込))。

【参考文献】マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録上・下』(小林正弥・杉田晶子[訳]、早川文庫 2012 年)、マイケル・サンデル『実力も運のうち　能力主義は正義か?』(早川書房 2021 年)、林芳紀・伊吹友秀『マンガで学ぶスポーツ倫理』(化学同人 2021 年)。その他の参考文献等については講義中に紹介する。

Ⅶ　その他

授業後に、フィードバック・コメントに毎回の授業参加を通して新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問に答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。

障がいや持病等により授業において配慮を希望する場合には事前に連絡を取り相談すること。

行　動　科　学　応　用

教　員　名　　助　教　村上　嵩至

Ⅰ　教育の目的と方針

医療は，患者やその家族，チームのスタッフなど，他者との関わりの中で実践される。そうした中で，自身を含む人間の心を理解することは重要であり，医師としての素養を十全に発揮するためにも必須である。行動科学は，観察可能かつ分析可能な「行動」を理解することによって人間理解を目指す学問であり，人間の行動の特性を理解することで，多様な状況への対応力を身に付け，他者との信頼関係の構築，患者に対する意思決定支援や健康行動の促進などを含む適切な医療を提供できることに繋がる。本科目では，行動科学と心理学の基礎知識を踏まえた上で，それらを臨床現場や日常生活にどのように応用していくのかを独自に考えられるように涵養することを教育目的とする。

なお，授業は講義形式だけでなく，ディスカッションを含めたグループワークの形式で行うことも予定している。ZOOM での開催となった場合には，ブレイクアウト機能を用いてグループで意見交換やディスカッションを行う。毎回提出が義務づけられるフィードバック・コメントを活用し双方向的で主体的な学びを促す。

Ⅱ　到達目標

１．行動科学および心理学の基礎知識を修得し，各理論や諸現象について説明できる。
２．人間の行動の特性を理解し，日常における人間の行動を論理的に考察できる。
３．対人場面やコミュニケーションなどの人と人との関わり合いの中で生じる心理的問題について理解できる。
４．人間理解の難しさを把握し，個々人に応じた支援のあり方について理解できる。

Ⅲ　授業日程

・４／11（第１・２講）　行動分析：行動形成とその応用
・４／18（第３・４講）　行動変容：動機づけと感情
・５／16（第５・６講）　集団社会：他者の存在とコミュニケーション
・５／23（第７・８講）　生涯発達：パーソナリティとライフサイクル

Ⅳ　成績評価基準

１．平常点（40％）

毎回提出する授業フィードバック・コメントにより出席確認を行う。授業開始時刻から10分以上の入室や終了時刻10分以前の退出は出席と見なされない。また，遅刻時間の合計が 45 分以上の場合には 1 回分の欠席として，遅刻時間の合計が 90 分以上の場合には2回分の欠席として，出席回数からマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は，個別に相談すること。出席回数と毎回のフィードバック・コメントの内容や

授業態度を合わせて合計 40％を平常点とする。なお授業中の私語や内職や居眠りやZOOM画面オフなどは減点の対象とする。

２．筆記試験（60％）

筆記試験は，論述形式で全て参照物不可とする予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

授業に関する質問などは，毎回の授業で配布するフィードバック・コメントに記入して提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には，教員のメールアドレスにアポイントメントの予約申込のメールを送り，教員と調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は使用しない。配布資料や参考文献等については，講義中に適宜，配布する。

Ⅶ　その他

健康上の理由などにより，受講に当たって配慮が必要な場合には，事前に連絡を取り、相談すること。なお，教員の指示がないかぎり，授業中は携帯電話の使用を禁止する。携帯電話はマナーモードに設定し，カバンの中にしまっておくこと。また，授業中の私語や授業と関係のない作業，居眠りは禁止する。特に私語については他の受講生の学修機会を奪うことになるため，厳しく対応する（退室を命じる場合もある）ので注意されたい。

医 療 倫 理 学

教　員　名　　教授　　瀬戸山　晃一他

Ⅰ　教育の目的と方針

皆さんは将来医師として臨床の現場で様々な倫理的な諸問題に直面することが不可避である。現在の医療現場では、多職種による倫理カンファレンスが急速に普及しつつある。そのような現状を踏まえて**臨床倫理学会**が2012年に設立され、臨床現場の医師や看護師などの医療従事者を中心とした学会員は、設立11年後には10倍以上に急速に増えてきている。「臨床倫理」は、医療実践の本質的な要素であるとの認識が広まりつつある。臨床における医療倫理的諸問題は、医療倫理の諸原則が相互に対立する倫理的ジレンマをはらんでいる場合がほとんどである。そこでは、明確で唯一絶対正しい答えが存在しないことが通例である。目の前にある事例が有する倫理的ジレンマに気づくことからはじまり、それらを多様な視点から同僚医師や看護師その他の医療スタッフと共に向き合い考え、個別事例において患者本人とご家族にとって望ましい意思決定支援の在り方を模索していかなければならない。そのためには、倫理的ジレンマを同定する感受性の感度を高めておくとともに、チームで対話（議論）しながら倫理的価値観の対立する問題に対して考えていく知的忍耐力と実践的コミュニケーション能力が求められる。すなわち、知識の暗記では対応できない倫理的認知能力（感受性）と実践的な対応能力を養っていく必要がある。このような観点から本授業では、倫理的感受性とそれを行動に移し実践できる知的態度を涵養する「生きた教養＝高度教養教育」を目的としている。

また、臨床医においても治験や臨床研究に将来携わることが多くなってきている。研究指針改定と臨床研究法制定の主な要因となった研究不正事案であるディオバン事件の歴史を背負っている本学において、研究不正が生じる原因や構造について理解し、不正を予防するための環境整備や、研究者個々人が有するべきプロフェッショナルな意識と規範遵守の態度の涵養が強く求められている。そのため本授業では、人を対象とした臨床研究における研究倫理の問題にも焦点を当て、研究公正における研究者マインドに必要な「**志向倫理**」的な態度の涵養の重要性について認識を深める方針である。授業では臨床倫理の方法論などの臨床倫理の諸問題に向き合い取り組む上で必要になる知的枠組みについて教授する。また学外の臨床倫理や研究倫理の専門家の先生を招聘し、講義と事例検討のワークを行う予定である。臨床倫理で問題となる具体的な事例について、グループでの他の受講生との意見交換やディスカッションを行うことで、価値観が異なる他者の意見やその根拠に真剣に耳を傾け、自らの見解や考えを反省的に捉え相対化できる柔軟で多角的な思考マインドを養う。グループでの事例検討の発表も予定している。

Ⅱ　到達目標

本授業では、将来、医師として医療に携わり、また医学研究者として臨床研究等に関わる諸君が本音と建前を分けることなく、なぜ今、医療現場や臨床研究において臨床倫理や研究倫理が問われているのか、そして患者さんやご家族、そして臨床研究の被験者の人権保護や自律の尊重ならびに倫理的配慮や意思決定支援がなぜ大切であるのかについて真剣に考え理解できる知的基盤の構築を目指す。これらの教育の狙いを達成するために、本授業では必要な背景的知識の提供や倫理的論点を明確にするための解説を行う。そしてZOOMのブレイクアウト機能を活用し、受講生をグループに分けて具体的な臨床倫理の事例について意見交換や議論をする参加型の授業形態を取入れる。受講生の積極的な授業参加とアクティブ・ラーニングが求められる。グループ・ディスカッション

では、臨床倫理や臨床研究の具体的な諸問題を取上げ、異なる価値観を有する他者である患者本人やご家族、被験者などの当事者の気持ちを推論し共感できる実践能力、個人的な価値観を押し付けることなく全人的医療をチームで提供できる能力の涵養、そして公正な研究に従事できる志向倫理的な態度を養成することを教育目標とする。

Ⅲ　授業日程

・10／18　1講：医療倫理の基本原則と自由制約の四原理（パターナリズム）（**下鴨 1 限**）
　　2講：臨床倫理の方法論：4分割法、ナラティヴ・アプローチ他（**下鴨 2 限**）
　　3講：事例検討：医療情報の開示と予後告知、胃瘻の事例（**下鴨 3 限**）
・10／21　4講：患者の意思決定支援とアドバンスケア・プランニング（ACP）（**zoom1限**）
　　5講：医学研究不正と研究倫理：不正のトライアングル・利益相反（**zoom2限**）
・10／22　6講：グループによる事例と発表（ゲスト教授）（**zoom3限**）
　　7講：プロフェッショナリズムと研究倫理と志向倫理（ゲスト教授）（**zoom4限**）
・10／24　8講：プロフェッショナリズムと臨床倫理（ゲスト教授②）（**zoom1限**）
　　9講：グループによる事例と発表（ゲスト教授②）（**zoom2限**）
　　10講：宗教上の信条による輸血拒否（**zoom5限**）
・10／25　11講：受講生の質問へのフィードバック（**zoom1限**）
　　12講：授業全体の振返りと筆記試験について（**zoom2限**）
・補講　　11/8 1限･2限（**zoom**）

Ⅳ　成績評価基準

成績評価は、平常点と筆記試験等を総合的に判断して行う。

1　**平常点（50%）**：毎回の出欠確認並びに課題である授業フィードバック・コメントの提出をあわせて出席確認とする。遅刻や早退の時間の合計が**45分以上**の場合には1回分の欠席としてカウントする。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。授業開始時刻**10分以上遅刻**の場合や**終了時刻10分以前の退出**は出席と見なされない。

　出席回数や毎回のフィードバック・コメントの内容は評価対象とし、授業中の私語や内職や居眠りや正当な理由なくZOOM画面のオフなどは減点の対象とする。

2　**筆記試験（50%）**：試験は、論述試験で全て参照物不可とし、毎回の授業に積極的に参加していなければ論述が難しい設問とする予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

個別に授業関連の指導を受けたい場合には、授業後もしくは教員メールアドレスにアポイントメントの予約のメールを送り調整の上で個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

【参考文献】箕岡真子『臨床倫理入門～ケースから学ぶ臨床倫理～』（日本臨床倫理会編集、へるす出版 2017 年）、箕岡真子『エンド・オブ・ライフケアの臨床倫理』（日総研出版、2020 年）、宮坂道夫『医療倫理学の方法： 原則・ナラティヴ・手順（3 版）』（医学書院 2016 年）その他の参考文献等は講義中に紹介し、参考資料は適宜配布する。

Ⅶ　その他

障害や持病など、健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談すること。ZOOMで授業参加中は、カメラをオンにして、マイクをミュートに設定し、出欠確認のためチャット機能で授業の初めと終わりに氏名と番号を入力し送信すること。移動中の授業参加は認めない。ネット環境の整備をしておくこと。

医　史　学

教　員　名　　非常勤講師　　八木　聖弥

Ⅰ　教育の目的と方針

日本古代～近代医学の歴史をテーマとする。各時代を特徴づける医学理論だけでなく、制度や思想などについても言及する。人々がどのように疾病と関わってきたかをたどることによって医療の普遍的な理念を学修する。また本学の前身・京都療病院に関する歴史についても理解を深める。

Ⅱ　到達目標

1　医学理論および思想の変遷を理解する。
2　医療の普遍的な理念を歴史から学ぶ。
3　建学の精神を学ぶことによって、医療人としてのアイデンティティを身につける。

Ⅲ　授業日程

・4／10　序　医史概観：医学史総説
・4／17　Ⅰ　古代医学：仏教医学
・4／24　Ⅰ　古代医学：医療制度
・5／8　Ⅱ　中世医学：頓医抄
・5／15　Ⅱ　中世医学：開業医と医術分科
・5／22　Ⅲ　近世医学：李朱医学と古方派
・5／29　Ⅲ　近世医学：蘭学の受容と展開
・6／12　Ⅲ　近世医学：解体新書の成立
・6／19　Ⅳ　近代医学：粟田口解剖所
・6／26　Ⅳ　近代医学：ヨンケルの日本文化論

Ⅳ　成績評価基準

定期試験（90％）および平常点（10％）をもとに評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

講義室で対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書：ヨンケル著『瑞穂草－京都療病院初代外国人医師の日本文化論－』（文理閣、2022 年、本体 3,500 円）

医療経済学

教　員　名　　非常勤講師　　松田　亮三

Ⅰ　教育の目的と方針

現代の医療は、人の健康と命に関する重要な社会活動の領域であり、巨大な経済部門を構成します。そのため、税・社会保険料にもとづく医療機構が重要な役割を担っています。また、人々の健康は社会・経済により大きな影響を受けます。

この科目では、経済学の理論・概念を用いながら、社会・経済との関りで健康と医療を理解し議論する素地を培います。授業中にグループワーク、簡易ディベートなどを適宜行い、積極的な学びを促します。それら活動に向けた準備や復習を、課題とすることがあります。

Ⅱ　到達目標

現代社会における健康と医療に関わる問題について、市場の仕組み、政府の規制など関連する経済学の重要概念と理論を用い説明し、論考できること。

Ⅲ　授業日程

医療機構の仕組み、医療資源配分のあり方、アクセスの確保などについて、経済学的な観点から検討するために重要な概念と理論を説明し、具体的な課題を考えます。

授業の進行状況により、修正を行うことがあります。

4 月 10 日　導入/市場・政府・医療（インセンティブ、トレードオフ、医療機構の類型など）
4 月 17 日　マクロ経済と健康 1（所得、国内総生産、経済循環、プレストン曲線など）
4 月 24 日　マクロ経済と健康 2（所得格差と健康、健康投資論、人口ボーナスなど）
5 月 8 日　医療保険の経済学（リスク回避的、逆選択、リスク選択など）
5 月 15 日　無保険問題と普遍医療機構の設計(普遍医療給付、強制加入、必須医療給付など）
5 月 22 日　普遍医療機構における利用者負担（医療の必要と需要、アクセス衡平など）
5 月 29 日　利用者負担の経済学（各種の負担方式、逆選択、情報の非対称、不十分な保険など）
6 月 12 日 医療供給改革の経済学（医療供給、代理人関係、支払制度、指標を用いた競争など）
6 月 19 日　医薬品の経済評価（経済学からみた効果、QAYL、機会費用、効率など）
6 月 26 日　非市場的選択（臨床研修のマッチング、パレート効率性、耐戦略性など）

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点評価（４０％）

・授業参加、授業中の質疑応答・討論への参加、コメント・シートの作成、授業外課

題の実施などに示される**学習への積極的参加**により評価します。遅刻・早退が生じた場合など、学修が不十分とみなされる場合、評価が下がります（遅刻・早退は、20 分を基準とします）。

２　定期試験　（６０％）

・重要事項の基本的理解を問う短答式の問題と総合的な理解と論考力を問う論述形式の問題とにより評価します。

・定期試験の配点中 50％未満の得点しか得られない場合（100 点満点の試験では、50 点未満の場合）には、平常点評価に関わらず不合格となります。

Ⅴ　オフィスアワー

質問がある方は、まず電子メールで連絡してください。なお、スライド資料等教材はクラウドで配布する予定です。詳細は、授業で説明します。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

１．教科書

授業内容に関わる教材を配布します。**授業前後に読むことが求められます。**

２．参考文献

- アンガス・ディートン 『大脱出　健康、お金、格差の起源』 みすず書房。
- 斉藤誠『教養としてのグローバル経済』有斐閣。
- 石田潤一郎・玉田康成『情報とインセンティブの経済学』有斐閣。
- 河口洋行『医療の経済学』日本評論社。
- 島崎謙治『日本の医療 ： 制度と政策』 ちくま新書。
- 池上直己『医療・介護問題を読み解く』 日経文庫。
- 池上直己編『包括的で持続的な発展のためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ―日本からの教訓』（公財）日本国際交流センター（以下の ULR で全文閲覧可能）。
  https://www.jcie.or.jp/japan/publication/publication-13/
- 『ランセット』日本特集号「国民皆保険達成から 50 年」（公財）日本国際交流センター（Japan: Universal Health Care at 50 Years の日本語版、以下の ULR で全文閲覧可能）
  https://www.jcie.or.jp/japan/publication/publication-18/
- The Commonwealth Fund, International Health Care System Profiles （英国、米国、ドイツなど 18 医療機構についての体系的な概観、以下の ULR で閲覧可能）。
  https://www.commonwealthfund.org/international-health-policy-center/countries

Ⅶ　その他

私語等他の履修者の集中を妨げる行為があった場合、退室を命じることがあります。

経　営　学

教　員　名　　非常勤講師　　瓜生原 葉子

Ⅰ　教育の目的と方針

経営とは組織を運営すること（マネジメント）であり，組織には病院や行政組織も含まれます。また，組織マネジメントとは，「戦略をたてる」「組織をつくる」「人を動かす」という活動をさします。医療とは，病院などの組織において，患者に対して施すことにより，健康の維持・回復という効用を提供し，安心という満足を感じさせるサービス業です。質の高い医療を提供するためには，病院における経営が鍵となります。

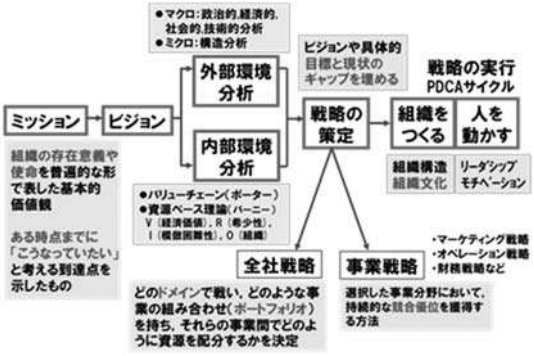
本授業では，理論を体系的に学習するとともに，関心がある病院について分析し，理解を深めます。習得した知識が実社会への応用に役立つようなガイドを心掛けます。

Ⅱ　到達目標

経営組織に関する基礎理論を習得したうえで，実社会への応用が具体的に描けることを目指します。毎回の学びを積み重ね，最終的に，コンサルタントとして選定した医療組織への提言ができることを目指します。

Ⅲ　授業日程

・４／12　オリエンテーション：「経営組織」への招待，組織マネジメントの全容
・４／19　戦略をたてる(1)：外部・内部環境を分析し戦略につなげる
・４／26　戦略をたてる(2)：戦略の本質，競争優位について考える
・５／10　戦略をたてる(3)：価値創造を目指したマーケティング戦略
・５／17　戦略をたてる(4)：ソーシャルマーケティング
・５／24　組織をつくる(1)：機能的な組織構造
・５／31　組織をつくる(2)：組織のライフサイクル
・６／14　組織をつくる(3)：組織文化が果たす役割と形成過程
・６／21　人を動かす：モチベーション、人的資源管理
・６／28　最終 Proposal のピアレビュー



※他の複数名の受講生の冊子体と最終 Proposal を評価し合います。分析や視点の多様性を知る貴重な機会としてください。

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（40%）

・　毎回取り組む worksheet の遂行などに示される学習への積極的参加で評価します。
・　評価を受けるためには授業の出席要件を満たす必要があります。病気その他のやむをえ

ない事情がある場合は個別に相談してください。

- 6月28日のピアレビューは全員で互いのレポートを評価することを通して、新たな学びを得るものです（モチベーション論、人的資源管理論に基づく）。

2　期末レポート（60%）

- 毎回の分析・評価を積み重ね，対象組織に対するproposal(2000字以上）により評価.
- 評価ポイントは，分析の深さ，記述の論理性，提案の視点の新規性などです。

Ⅴ　オフィスアワー

質問がある方は，電子メール（授業中に周知します）で連絡してください。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書

- 上林憲雄・庭本佳子編著『経営組織入門』（文眞堂，2020）ISBN:978-4830950698,価格1,900円
- 瓜生原葉子『行動科学でより良い社会をつくる―ソーシャルマーケティングによる社会課題の解決―』(文眞堂，2021年)，ISBN:978-4830951015,価格3,300円

Ⅶ　その他

①授業概要と教育手法

- 毎回，理論・知見に関する60分の講義に引き続き，30分間，学んだことを応用してグループで分析・討議する時間を設け，worksheetに記入・提出していただきます。それをまとめて一つの冊子体とし，それを最終回にピアレビューをします。
- グループワークでは，5名以下のグループを形成し，分析したい病院を選定してください。毎回のworksheetは前週に配布しますので，予習をして臨んでください。

②学修上の注意事項

- 経営学には決して一つの正解はありません。また，社会では，現実的な課題が，大学で学ぶ専門科目ごとに分かれていることはなく，学んだことを統合・考察する力が不可欠です。統合力をフル活用して，多くの思考パターンを持つことの重要性を理解してください。
- 授業時間中に行うグループ討議に，積極的に参加しましょう。
- 講義の間は，私語等他の受講者の集中を妨げないよう，自分の行動に責任を持ってください。
- 講義中は，携帯の使用を禁止し，マナーモードにしてカバンの中にしまっておくこと。

医療と法

教　員　名　　非常勤講師　　鵜飼　万貴子

Ⅰ　教育の目的と方針

法学は、法律の条文を覚え、それを杓子定規に適用する学問ではありません。法の条文そのものや法的解釈は、社会情勢とともに変化しますが、基礎となる法的な思考方法を身につけると、将来の法的問題にも対応が容易となります。

また法的紛争には、必ず相手が存在します。その相手はどうしてそのような考え方をするのか、法的根拠があるのか等、自己の立場からだけではなく、多角的な視点からの把握が重要です。

上記を踏まえ、まずは、基礎的な法律的知識を伝え、一般的な法の考え方を学んでいただくとともに、医師特有の法的義務、医療制度における法的情報をお伝えします。

基礎的な法学（特に医療関係の法）の情報を伝えた後は、現実の医事紛争を元に、どのように患者の人権を保護していくか、また一言「患者の人権」といっても、何が当該患者にとって最もよい医療なのか、皆さん１人１人が問題を検討し、法的な考え方を元に、実践的に考えられる知識・技能を身につけることを学んで欲しいと考えています。

なお、授業は私から話をする形式が中心ですが、できるだけ講義中又は質問票を用いて皆さんと対話・質疑応答しながら講義を進めたいと思います。

はじめて聞く概念も多いと思われますので、授業の冒頭では、前回の授業で伝えた事項の復習も入れることもあるかと思います。また、授業後のアンケートや課題で皆さんの質問や気になるところ等を教えていただきましたら、次回授業で回答したいと考えています。

Ⅱ　到達目標

・　患者の自己決定権の意義を説明できる。
・　医師の法的義務を列挙し、例示できる。
・　患者のプライバシーに配慮できる。
・　患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。
・　医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。
・　医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。
・　医療過誤に関連した刑事･民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。

Ⅲ　授業日程　＊　授業理解度等により、変更の可能性あり

・4／12　イントロダクション（医療に法が関連する具体的な場面について）

・4／19　医療に法が関係する全体像
・4／26、5／10　医療に刑事事件・行政事件について
・5／17～6／21　医療に民事事件が関係する場合
・上記日程の間に、医療過誤にあわれた被害者家族及び患者側代理人弁護士としてのお話（ゲストスピーカー）
・６／28　最終授業　全体の復習

Ⅳ　成績評価基準

１　平常点*1（約 10%　*2）　　*1 授業中の回答、授業後の課題等含む

最大 20 分までの遅刻は、合理的理由の有る限り許容しますが、それ以降は欠席とみなします。体調不良等のほか、Ｗｅｂ授業となった場合で、回線接続の異常等のため聴講困難であったなど特別の事情がある場合は、授業後にお知らせ下さい。

２　試験等（約 90%　*2）

*2 試験の平均点に鑑み、割合が若干変更される可能性があります。

期末の筆記試験の成績を中心に評価します。

３　合否基準

上記総合で６０％以上を合格とします。

Ⅴ　オフィスアワー

メールをいただければ、授業後以外にも質問・相談を受け付けます。

メールアドレス

m-ukai@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

以下、参考文献として

- 医事法判例百選 第３版（別冊ジュリスト 258）（有斐閣）
- 医療法学入門 第３版 単行本 大磯 義一郎（著）（医学書院）

Ⅶ　その他

体調不良等の場合は教育支援課下鴨事務室に連絡の上、後日欠席届を下鴨事務室に提出するようにしてください。

また、対面授業中は、携帯の使用を禁止し、マナーモードにしてカバンの中にしまっておいてください。授業中の私語や内職や居眠りは禁じます。

医 療 と 社 会

（三大学共同化科目）

教　員　名　　非常勤講師　　笠井　敬太

Ⅰ　教育の目的と方針

この講義では、医療社会学の概念や考え方を学ぶことを通して、医療や医療にまつわる問題を社会学の視点から捉えることを目的とする。前半の講義では、医療社会学の重要な概念を様々な事例とともに紹介する。後半の講義では、前半の講義で身につけた医療社会学の視点から現代社会における医療にまつわる問題を解釈することを目指す。なお、必要に応じて動画視聴を行う。

Ⅱ　到達目標

1. 講義を通して身につけた医療社会学の知識をもとに自ら思考し、社会学の視点から医療にまつわる事柄を捉えることができる。
2. 受講者は、医療社会学の思考法を自らの直面する課題に取り組むことができるようにする。また、今後の社会生活に役立てることができるようにする。

Ⅲ　授業日程

前半（１～７回）では、医療社会学の重要概念について、理論と具体例を交えながら講義を行う。

後半（８～１５回）では、医療にまつわる様々な問題を、その背後にある社会構造を踏まえて考えることを試みる。

・４／８　オリエンテーション
・４／15　意味付けとしての病
・４／22　病人役割・病気行動
・５／13　医療化論
・５／20　医療技術と倫理
・５／27　医師―患者関係
・６／３　患者会と患者運動
・６／10　マイノリティと代表性
・６／17　現代における健康
・６／24　若者のメンタルヘルスと生きづらさ
・７／１　家族の中での病の経験
・７／８　社会における障害
・７／22　死の社会学
・７／29　全体のまとめ

※他に１回オンデマンド授業　感染症と社会

※社会状況の変化、受講生の理解度やレスポンス等によって、授業計画の内容・順序を変更する場合もある。

Ⅳ　成績評価基準

1. 平常点（30%）

毎回、出席表を用いて出席確認を行なう。障碍や健康上の理由など、やむをえない事情がある場合は個別に相談すること。授業開始から 20 分以上の遅刻、終了時刻 20 分以前の退出は出席と見なさない。なお、授業中の私語、居眠り、授業内容に関係のない作業は減点対象である。

2. ミニテスト（20%）

講義内容に基づいた質問をコメントシートにて回答してもらう。詳細については、授業中に指定する。

3. 期末レポート（50%）

テーマについては授業中に指定するが、前もって報道等を通じて様々な医療問題に親しんでおいてほしい。

Ⅴ　オフィスアワー

質問などに対しては、メールで受け付ける（メールアドレスは授業中にこちらから指定する）。

対面でのやりとりによって、授業に関連する内容の指導を希望する場合、授業時間の前後で対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は使用しない。参考文献等については適宜紹介する。

授業全体を通して理解を深めるための参考文献としては、中川輝彦・黒田浩一郎 編著『よくわかる医療社会学 （やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』を推奨する。期末レポート作成にも役立つ内容となっている。

Ⅶ　その他

授業時にレジュメ・参考資料を配布する。レジュメに記載していない事項について講義を行う際は、各々でレジュメへの書き込みや、ノート取りを行ってほしい。

授業終了後にコメントシートを回収する。コメントシートには、授業の感想のほか、こちらが設定したお題について答えてもらう予定である。コメントシートの内容によっては、授業中に匿名で内容を紹介するなど、授業への反映を行う。

また、日常生活においても積極的に医療問題に対してのアンテナを立て、積極的に情報収集を行ってほしい。

期末レポートに向け知見を深めるため、遅刻・欠席はなるべくしないこと。

障碍や健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には相談すること。

現代医療の人間観

（三大学共同化科目）

教　員　名　　准教授　　杉岡　良彦

Ⅰ　教育の目的と方針

医学や医療というと、医師や看護師をはじめとする専門職だけの特別な学問や実践であると考えられる傾向があります。しかし、病院やクリニックを受診したことのない人は日本ではほぼいません。医学や医療は、すべての人に身近な学問であり、本来そうあるべきものです。

この講義では、医学・医療の根底に、それを支える科学論や人間観があることを紹介します。こうした理解は医学生や看護学生だけではなく、広くあらゆる学部の学生にも重要であり、それぞれの立場から批判的に考察すべき問題です。よって、医学科以外の学生が多く受講してくれることを期待しています。本講義では、現代医学を生んだ西洋の哲学的思想背景についても論じながら、医学・医療の前提となる人間観に注目し、分子生物学やEBMという科学的方法との関係を考えます。さらに、精神科医である V.フランクルの人間観を取り上げながら、病に苦しむ患者さんに医学・医療は何ができるのか、できないのかを考えてみたいと思います。また、進化論的観点から人間とは何かを考え、共生や自立の問題なども論じます。特に、脳科学をはじめとする科学的観点に基づいた人間観を批判的に考えます。医学という学問が、単なる科学の応用ではなく、哲学、倫理、社会学など、様々な学問領域に開かれた学問であることを、人間観に注目しながら考えたいと思います。

なお、授業はテキストやスライドを用いながら講義形式で行います。積極的な質問を歓迎し、グループ・ディスカッションや、毎回記入して提出する受講生のレポートにも応えながら、双方向的な講義により、理解を深めていきます。

Ⅱ　到達目標

・医学・医療の基礎には、さまざまな人間観があることを歴史的変遷を踏まえ理解できる。
・S.フロイトの人間理解が医学と社会に与えた影響を理解できる。
・V.フランクルの人間観と態度価値を理解できる。
・尊厳概念や「病むことの無い人格」という概念を理解できる。
・biopsychosocial model と biopsychosocial-spiritual model を理解できる。
・進化論的観点から共生や自立の問題を理解できる。

Ⅲ　授業日程

・９／30　１　なぜ医学・医療の中で人間観を考える必要があるのか（オンデマンド）
・10／７　２　近代科学と医学の発達①
・10／14　３　近代科学と医学の発達②　（オンデマンド予定）
・10／21　４　生物学的人間観と医学
・10／28　５　S.フロイトの人間理解が医学と社会に与えた影響

・11／11　6　エンゲルの biopsychosicial mode
・11／18　7　フランクルの人間観と biopsychosocial-spiritual model①
・11／25　8　フランクルの人間観と biopsychosocial-spiritual model②
・12／２　9　苦悩に向き合う人間：態度価値の問題
・12／９　10　尊厳概念の変遷と人間観①
・12／16　11　尊厳概念の変遷と人間観②
・12／23　12　進化論と人間観①
・１／６　13　進化論と人間観②
・１／13　14　共感と脳科学　（オンデマンド予定）
・１／20　15　現代医療の人間観：自己決定・理性・自立神話

注）15 回の講義は上記のように予定をしているが、受講生の理解の深まりや関心に合わせて、若干の変更を行う可能性もある。オンデマンド予定講義は祝日などに相当するため、数日間閲覧可能である。

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（30％）

毎回行うレポートの提出・内容、講義中の質問やディスカッションを考慮し、平常点を評価します。遅刻 10 分以上あるいは早退 10 分以上は特別な理由がない限り欠席とします。

2　筆記試験（70％）

筆記試験は、テキストを読み、講義内容をしっかり理解していれば、回答できる設問とする予定ですが、論理展開の明快さや、内容の独創性を特に評価します。

筆記試験に関する注意点やポイントなどは講義中にも説明します。

Ⅴ　オフィスアワー

メールあるいは講義前後に直接アポイントを取ってください。質問や議論は大歓迎です。日程調整のうえで、個別に対応します。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

【教科書】杉岡良彦『医学とはどのような学問か：医学概論・医学哲学講義』
（春秋社 2019 年、2420 円【税込み】）

【主な参考文献】杉岡良彦『共苦する人間』（春秋社 2023 年）、フランクル『苦悩する人間』（春秋社2000年）、小松美彦『生権力の歴史』（青土社2012年）、朴光駿ら『共生の哲学』（明石書店 2023 年）、鈴木ら『「利他」の生物学』（中公新書 2023 年）。

その他、必要な文献や参考文献は講義中に紹介します。

Ⅶ　その他

基本的にテキストとスライドによって講義形式で行います。スライドは図解をこころがけ、わかりやすい内容を提供するよう努めます。受講生は積極的に自ら考え、自分自身の疑問を講義中に質問したり、レポートに記載してください。次回講義の中で、

そのうちのいくつかの疑問に応えながら、皆さんの理解をさらに深めるようにします。
また、必要な文献や参考資料を講義中に紹介し、皆さんの理解がさらに深まるように工夫していきます。講義前後の質問にも時間が許す限り応じます。
障碍や健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談してください。常に問題意識をもち、疑問点を明らかにする態度で講義に臨み、不明な点は積極的に質問することを歓迎します。講義中にできる限り質問時間を設けます。

数　　学

教　員　名　　教　　授　　長崎　生光

Ⅰ　教育の目的と方針

数学は自然科学の基礎学問として、現代においても盛んに研究され医学を含めた様々な分野に応用されている。大学の数学では、高校までの数学の知識を基盤としながら、現代数学の基礎理論である微積分学、線形代数学（ベクトルと行列）を体系的に学習する。さらに数学の問題を解くことを通して、医学で必要となる数学の基礎知識や考え方を一つずつ積み上げ、身につけていく。また、自らの頭で数学を考え抜くことで、将来のあらゆる場で必要となる論理的な思考力や数理的な考察力を身につけることも大きな目的の一つである。

講義は原則教科書に沿って進めるが、適宜資料を配布し発展的な講義も行う。また、講義の理解度を確認するための小テストや応用力をためす課題を課す。

Ⅱ　到達目標

1　微積分を理解し，自ら扱えるようになること。

(1) 微分，積分の定義を説明できる。
(2) 微分，積分の計算ができる。
(3) 偏微分，重積分の計算ができる。
(4) 極値問題が解くことができる。
(5) 重積分を用いて立体の体積の計算ができる。

2　線形代数を理解し，自ら扱えるようになること。

(1) 行列の和とスカラー倍，積の計算ができる。
(2) 行列式の計算ができる。
(3) 行列の固有値と固有ベクトルが求められる。
(4) 行列の対角化ができる。

Ⅲ　授業日程

＜前半＞微積分学を講義する。

・４／9　　1　実数の集合と関数
・４／16　2　連続関数と微分可能関数
・４／23　3　高次導関数と平均値の定理
・５／7　　4　不定積分の計算
・５／14　5　定積分の定義と広義積分
・５／21　6　2 変数関数と偏微分
・５／28　7　全微分可能性と合成関数の偏微分
・６／11　8　2 変数関数の極値問題
・６／18　9　重積分の定義と計算
・６／25　10　ヤコビアンと変数変換

＜後半＞線形代数学を講義する。

・９／17　1　ベクトルと行列の演算

・９／24　２　正則行列，ベクトルの１次独立性
・10／1　３　行列式の定義
・10／8　４　行列式の性質
・10／15　５　行列式の展開
・10／22　６　固有値と固有ベクトル
・11／12　７　行列の対角化

Ⅳ　成績評価基準

授業内の小テストや課題の達成度などの平常点(20%)及び中間試験、定期試験の点数(80%)で評価し，総合的に合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・長崎教授	火・木曜日　12:00-12:50 場所 研究室(基礎統計学 1)	nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書：(前半用) 三宅敏恒著『入門微分積分』裳華房（¥1900 + 税）
(後半用) 牛瀧文宏編『初歩からの線形代数』講談社（¥2200 + 税）

Ⅶ　その他

毎回の授業に出席すること。また授業で課された課題等は締め切りまでに必ず提出すること。

応　用　解　析　学

教　員　名	教　　授	長崎　生光
	講　　師	吉井　健悟
	教　　授	田代　啓(ゲノム医科学)

Ⅰ　教育の目的と方針

数学の理論は、医学も含めた様々な科学の分野で応用されている。特に種々の医学的な現象やデータを解析するためには、数理モデルや統計モデルなどを用いた数理的な考察が欠かせない。

本講義では、医学を含む広範な分野で応用されている確率・統計や微分方程式の基礎理論と計算法を習得し、それらがどのように応用されているかを理解する。

授業では、適宜資料を配布する。また、講義の理解度を確認するために、小テストや課題を課す。

Ⅱ　到達目標

1　確率・統計を理解し自ら使えるようになること。

(1) リスク比とオッズ比を計算できる。
(2) 母平均の推定ができる。
(3) 仮説検定の基本概念を理解し説明できる。
(4) 遺伝情報と形質情報の関連を解析する手法を理解し説明できる。

2　級数と微分方程式の性質を理解し，自ら計算できること。

(1) 関数のテイラー展開ができる。
(2) 基本的な1階微分方程式を解くことができる。
(3) 基本的な2階微分方程式を解くことができる。
(4) 基本的な1階連立微分方程式を解くことができる。

Ⅲ　授業日程

1　田代教授・吉井講師担当

教養と基礎医学の垂直統合で、医学で用いる解析方法を学ぶ。ゲノム解析においてコンピュータ上でアルゴリズムを組む場合の考え方、また、疾患遺伝子の「遺伝統計解析」や「ゲノムワイド関連解析」の原理や手法について学ぶ。

・9／25　1　数学・ゲノム医科学垂直統合講義の意義
・9／30　2　記述統計学と推測統計学
・10／7　3　統計的推定
・10／21　4　仮説検定
・10／28　5　遺伝情報と形質情報の関連解析
・11／11　6　大規模データの分析方法とその医療応用

2　長崎教授担当

微積分の知識を活用し、関数のテイラー展開と基本的な常微分方程式の解法について学ぶ。応用として、生物の個体群のダイナミクス等を数学的に解析する。

・10／2　1　関数のテイラー展開とその応用
・10／9　2　1階微分方程式とその応用
・10／16　3　2階線形微分方程式とその応用
・10／23　4　連立1階微分方程式とその応用

Ⅳ　成績評価基準

毎回の授業で課される課題、レポートなどの提出状況や達成度の平常点及び定期試験の点数で評価し、合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

		オフィスアワー	メールアドレス
・長崎教授	火・木曜日	12:00-12:50	nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp
	場所　研究室(基礎統計学1)		
・吉井講師	月・金曜日	12:00-12:50	yoshii-k@koto.kpu-m.ac.jp
	場所　研究室(基礎統計学2)		

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は特に指定しない。適宜資料を配布する。
参考書：三宅敏恒著『入門微分積分』裳華房（¥1900 + 税）
　　藤田宏，齊藤宣一著『はじめての応用解析』岩波書店（¥2800 + 税）

Ⅶ　その他

毎回の授業に出席すること。また授業で課された課題等は締め切りまでに必ず提出すること。

情報リテラシー

教　員　名　　講　　師　　吉井　健悟

Ⅰ　教育の目的と方針

医学の実践の場において情報の活用とその考え方は、インフラ的な基礎の基礎として必須のものとなりつつある。情報リテラシーでは、安全かつ質の高い医学研究・医療に必要な情報・科学技術に関する基本理論を理解し、その知識を自身の学習や医学への活用方法について学ぶ。

授業は、コンピューター実習で行い、統計オープンデータや公的統計データの活用方法及びそれらを用いたデータ分析を行う。同時に、マイクロソフト社の Word(文書作成)、Excel（分析・解析)、Power Point（発表用ツール）の使い方を習熟する。また、ソーシャルメディアの適切な利用や医療に関する情報・科学技術の先端知識に関する内容の説明を加える。実際の課題への操作方法については、適宜プリントや電子ファイルを配布し、プロジェクター等で説明する。

Ⅱ　到達目標

1．インターネットを利用する上でのモラルや危険性について理解する。
2．授業、レポート作成、実験データの分析、発表など、今後の大学生活および将来の仕事に必須となるコンピューター操作ができる。
3．自己学習や共同学習の場に適切な ICT を活用できる。

Ⅲ　授業日程

第１学年前期

月	日	曜日	時限	内　　容	担当者	
					所属	講師名
4	10	水	3	情報･科学技術に向き合うための倫理観とルール、ソーシャルメディアの利用、E-mail の送受信	生命基礎数理学	吉井講師
4	10	水	4	クラウドコンピューティングの活用､情報セキュリティ	〃	〃
4	17	水	3	Word 活用：文書作成、画像の取り扱い、文献リスト、文書整形、編集、数式エディター等	〃	〃
4	17	水	4	人工知能と機械学習の基礎	〃	〃
4	24	水	3	Excel 活用：データ集計、関数の活用、図やグラフの作成等	〃	〃
4	24	水	4	グーグルフォームを用いたデータ集計､公的統計データの活用	〃	〃
5	8	水	3	Power Point 活用：プレゼンテーションによる発表と提示など	〃	〃

5	8	水	4	グループでの討議：AI やウェアラブルデバイスを扱った医療の事例や関連する法律やガイドライン等	〃	〃

Ⅳ　成績評価基準

1　出席

原則として全出席とする。体調不良等の場合は教育支援課下鴨事務室に連絡の上、後日欠席届を下鴨事務室に提出すること。

2　合否基準

宿題やレポート課題の提出状況や達成度(80%)及び授業への参加態度(20%)で評価し，合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・吉井講師	月・金曜日　12:00-12:50 場所　研究室（基礎統計２）	yoshii-k@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は特に指定しない。適宜プリントや電子ファイルを配布する。

Ⅶ　その他

授業で課される課題は締め切りまでに必ず提出すること。
講義中も含めてコンピューター実習室での飲食は禁止

物　理　学

教　員　名　　教　授　　高西　陽一

Ⅰ　教育の目的と方針

物質は原子・分子からできており、それらの振る舞いを表す法則により自然現象を理解できるという考え方は、現代の自然観の基礎・よりどころであり、物事の合理的・理性的な考え方にも影響を与えている。さらに、複雑にみえる現象を簡単なモデルを用いることでその現象の本質を理解するという物理学の重要な方法論は、医学を含む他の多くの分野においても有効である。たとえば、分子生物学の発展により、生命の基礎も原子・分子レベルから理解されるようになってきており、その振る舞いを理解できる物理学は、将来の診断法や治療法の開発でもその役割が増していくと考えられる。ここでは、基盤となる力学、電磁気学に中心に物理学の基礎を修得し、医学、医療などの理解にも必要とされる物理学の知識、考え方を身につける。

講義では、毎回演習問題を解くことなどで、授業の理解を確実なものにして次の内容に講義を進める。

Ⅱ　到達目標

1　力学現象の基本である運動学の基礎を身につけ、ニュートンの運動法則を基本とする医学・医療や我々の身近にある様々な力学現象を理解する。

2　保存力の基本的な性質を理解し、ポテンシャルとの関係、仕事やエネルギーの関係とそれらに関する重要な物理法則を説明する。

3　質点のみならず人体にも関わる剛体の運動、変形を考慮した運動、流体の運動など、さまざまなレベルでのモデル化が有効であることを理解する。

4　マックスウェルの電磁気学の基礎方程式を理解するための必要な基礎数学を修得し、実験的に明らかにされた電磁気学の基本的な法則とマックスウェル方程式とを関係づけて理解するともに、人体の電気的性質を理解する。

5　マックスウェル方程式の解として、光が電磁波であることを理解し、光の性質と医学・医療への応用について理解する。

6　物質中の電場や磁場の振舞いの基本を理解し、核磁気共鳴、音波、X 線などを利用した画像診断が体内の「透視」に有効である理由を理解する。

Ⅲ　授業日程

＜前期＞質点・剛体の運動と力学、流体の物理

・４／12　1　運動の記述
・４／19　2　運動の法則（単振動まで）
・５／10　3　いくつかの運動（単振り子、共振など）と関連医学
・５／17　4　仕事とエネルギー
・５／24　5　モーメントと角運動量、人体との関連性
・５／31　6　角運動、遠心力
・６／14　7　質点と剛体、その運動
・６／21　8　流体と医療現象 1
・６／28　9　流体と医療現象 2

＜後期＞電磁気（マックスウェル方程式）と関連する医学・医療学
・９／20　１　電磁気に必要な用語と人体の電気的性質
・９／27　２　電磁気に必要な数学
・10／ 4　３　マックスウェル方程式１（微分形）
・10／11　４　マックスウェル方程式２（積分形）
・10／18　５　マックスウェル方程式から導く各種電磁気の法則と医学応用１
・11／15　６　マックスウェル方程式から導く各種電磁気の法則と医学応用２
・11／29　７　医学に関わる電磁波、音波

Ⅳ　成績評価基準

定期試験の成績により判定する。なお、毎回の演習結果を加味することもある。

Ⅴ　オフィスアワー

特に定めず、講義の内容に関する質問は随時受け付けるが、かならずメールなどで予約をとること。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

一般的な参考図書：物理学（三訂版）小出昭一郎　裳華房、1997 年
コンパクトにまとめられているが、初めは難しく感じるかもしれない。難しいと感じるならば、力学、電磁気学それぞれを易しく解説した本（図書室の物理棚にある）を参考にするとよい。
特に高校で物理を履修していない場合
大学入試 漆原晃の物理基礎・物理（中経出版）
完全版 大学入試 坂田アキラ物理基礎･物理の解法が面白いほどわかる本(KADOKAWA)
の様な自分にあった、直感的にわかりやすそうな参考書でまずは勉強するのもおすすめかと思う。

Ⅶ　その他

高校での数学的な知識を必要とする。

近代物理学：医療の物理学的基礎

教　員　名　　准　教　授　　川野　輝彦
講師(学内)　　酒谷　雄峰

Ⅰ　教育の目的と方針

20 世紀には、量子力学、相対性理論、統計力学という全く新しい物理学が登場し、近代物理学は革命的な発展を遂げ、現代物理学の礎を築いた。これらの考え方は、時として日常生活での経験からは乖離した自然観を提示しているように思われるかもしれない。しかしながら、日常生活に今や欠かせない電子機器、あるいは、診断・治療で使われる医療機器などの原理は、これらの物理学の成果に基づいているものが少なくない。

医学の世界で現実に扱っている対象は、物理学の第一原理から出発して理解するにはあまりに複雑で難しいものが多い。しかしながら、医療機器の原理の理解や新しい原理に基づく医療機器や医療方法の開発などに、現在の物理学の考え方が寄与することは想像に難くないことから、その考え方の基本を体得することは医学の発展にとって有益であるのは間違いない。

この講義では、近代物理学のうち、特殊相対性理論と量子力学について、その基本的な考え方の理解を通じて、現在の物理学的な観点から見た自然観を体得し、特に放射線を利用した診断・治療や核医学を理解する上で欠かすことのできない、放射線物理や原子核崩壊などの基礎を修得することを目指す。

講義を主とした授業を行うが、講義の時間に例題などを解くことによって授業内容の理解を深めてもらう。

Ⅱ　到達目標

1　特殊相対性理論の基本的な仮定から思考実験を通じてローレンツ変換や質量とエネルギーの等価性を体得すること。
2　原子、分子を理解する基礎である量子力学の考え方を学ぶことによって、ミクロの世界において、粒子性と波動性をもつ電子の運動は波動関数を用いた確率概念を使って表現されることを理解する。

Ⅲ　授業日程

前半　特殊相対性理論の基本（担当：川野准教授）
・９／25　1　医療における近代物理学、思考実験(時間間隔・ローレンツ収縮)
・９／30　2　思考実験(同時性)、ローレンツ変換、速度の合成則
・10／２　3　時空図、光のドップラー効果
・10／７　4　静止エネルギーと慣性質量との関係
・10／９　5　エネルギーと運動量のローレンツ変換、ローレンツ不変性

後半　量子力学の基本（担当：酒谷講師(学内)）
・10／16　6　量子力学の概要、光電効果と光量子仮説
・10／21　7　コンプトン効果、粒子と波動の二重性、ボーアの原子模型

・10／23　8　シュレーディンガー方程式、波動関数と確率解釈
・10／28　9　1次元井戸型ポテンシャルにおける束縛状態のエネルギースペクトル
・11／11　10　放射線の基礎、α崩壊の理論

Ⅳ　成績評価基準

定期試験成績

Ⅴ　オフィスアワー

質問や疑問があれば、「物理学教室」に気軽に立ち寄って下さい。
特に、講義のある日の午後には在室しています。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

参考書：
・相対性理論入門　内山龍雄　岩波新書黄版 63（第Ⅰ章）
・物理学（三訂版）小出昭一郎　裳華房（9 章）

Ⅶ　その他

授業で学習した内容や演習問題をただ暗記するだけではなく、例題に積極的に取り組んで、基本的な考え方を身につけて他の人に説明できるレベルになれることを目標にすること。

物 理 学 実 習

教 員 名	教　　授	高西　陽一
	准 教 授	川野　輝彦
	講師(学内)	酒谷　雄峰
	名 誉 教 授	上原　正三

Ⅰ　教育の目的と方針

自然科学では理論と実験は密接な関係にあり、実際に実験装置を操作して測定することによって自然科学の理解は深まる。物理学実習では、実験を通して物理学の理解に努める。また、結果をレポートにまとめる力を身につけるとともに、測定値を整理する過程において、グラフの作成方法、平均や誤差などの評価の仕方を修得する。

Ⅱ　到達目標

1　さまざまな実験を通して物理学の基本的な考え方を理解する。物理学の講義で扱わない内容も、物理学の基本として重要と考えられるものは実験課題に含まれている。
2　さまざまな測定機器を使用し、正しい測定法を習得する。
3　実験データをグラフに適切に起こせるようになるとともに、データの統計的処理ができるようになる。

Ⅲ　授業日程

・5/ 7　1AB　ガイダンス,測定器具の使い方,測定精度と有効数字
・5/15　2B　B組実習　　・5/21　2A　A組実習
・5/28　3B　B組実習　　・5/29　3A　A組実習
・6/12　4B　B組実習　　・6/18　4A　A組実習
・6/25　5B　B組実習　　・6/26　5A　A組実習

上記のように、A、Bクラス単位で決められた日程で実習を行う。
原則的に2人ずつでグループを作り、到達目標に基づいた実習項目から、
毎回グループごとに割り振られた課題に取り組む。

なお、初回はA、Bクラス合同で実習の全般的な説明と実習で頻繁に使用する測定器具を実際に使用するとともに、測定精度とその有効数字に関する内容を講義形式で行う予定である。

グループの**2人で協力して**、各実習項目に取り組む。各グループの実習課題は毎回変わる。全グループに対して、毎回測定結果やそれに基づく考察、グラフの作図などの確認を行い、それにパスすることで各回の実習時間を終了したものとする。各実習項目のレポートは、基本的にどちらか1人がレポート執筆者（責任者）となり作成して、提出締切日までに提出する。なお、原則的に毎回交代してレポート執筆者（責任者）となる。つまり1人2回はレポート執筆者（責任者）として提出することとなる。

Ⅳ　成績評価基準

毎回の実習の取組み方とレポートを総合して評価する。なお、レポート提出が
提出締切日を過ぎるとレポート点は半分になる。さらに提出締切日を**一週間過ぎた**

場合には、レポートの提出を認めない。

Ⅴ　オフィスアワー

実習に関する質問はメールや Google Classroom でのコメントで受け付ける。また前日までにメールなどで予約確認を取れば研究室にて対面でも受け付ける。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

実習項目毎に実習マニュアルが用意されているので、それを熟読した後、マニュアルに従って実習を進める。

理科年表(丸善出版)が手元にあれば、レポート作成に便利であるが、必須ではない。

Ⅶ　その他（注意事項）

・実習室には、筆記用具と測定値を記録するノート以外は持ち込まないこと。

・実習を行う前に、必ずマニュアルを熟読すること。
（読まないとかえって時間を要するだけでなく、装置を壊したり怪我をします）

・教官によるグラフの作図などの確認チェックは**必ず 2 人同時に受ける**こと。
パスするまで無断で帰宅してはいけない。たとえその回がレポート執筆者（責任者）の担当でなくても無断で帰宅してはいけない。(欠席とみなします)

・上述したように、レポートは、基本的にどちらか 1 人がレポート執筆者（責任者）となり作成するが、**グループの一方が偏ることなく、1 人 2 回はレポート執筆者（責任者）として提出**すること。

・測定値記録用のパソコンやタブレットは持ち込み可とするが、他のものは不可。

・バッグなどの他の荷物はロッカー室へ必ず置いておくこと。**実習室は飲食厳禁**。

・水分補給などは実習室から一旦退出し、ロッカー室など外部で行うこと。

生体分子化学

教　員　名	教　　授	大庭　　誠
	准 教 授	栗原　康通
	講　　師	吉田　達士

Ⅰ　教育の目的と方針

生体が恒常的に営んでいる反応や異物・薬物との接触により引き起こされる反応は、化合物を介して生じる。生体内反応の異常によって引き起こされる多くの疾患の原因も、そのほとんどが化合物間の反応に由来する。このような生体反応の多くにはタンパク質や核酸などの生体分子が関わっており、これらの生体分子の反応調節異常や薬物などの低分子化合物との反応がさまざまな疾患関連現象の原因となっている。本科目では、疾患の現象・原因や薬物作用機構を化合物の構造で理解する基礎となる生体分子化学を講義する。

まず、生体反応に関わる分子を構造のレベルで理解するために必要不可欠となる有機化学の基礎概念を解説する。出来る限り生体内反応に関連する反応を取り上げ、これらの反応機構を化合物の構造をもとに解説する。特に、代謝経路理解に必須となる二つの項目、i)官能基変換の化学、および　ii)炭素－炭素結合形成に関する反応とその機構、に力点を置く。ついで、以上の基礎概念をもとに、生命現象を化合物に基づいて理解するために必要となる生体分子について解説する。ここでは主に、糖質、脂質、タンパク質、核酸を取り上げ、その構造と反応について解説する。最後に、これらの生体分子が関わる生体内反応（代謝反応）のいくつかについて、化合物変換の有機化学を解説する。あわせて、薬物作用機構に関わる化学反応についても簡単に触れる。

生体分子化学は、教養科目としてきわめて重要な位置を占めるとともに、医系基礎医学と密接な関連性を有する基幹的な学問でもある。教養化学から基礎医学（生化学）へのシームレスな受けわたしのため、当科目では基礎医学教員（栗原、吉田）による連携講義も含める。

講義は下記の教科書を用いて行うが、必要な場合には補助プリントを使用する。それぞれの講義内容の理解を深めるため、小テストを適宜講義時間内に行う。講義内容は化学実習の内容とも密接にリンクしているため、実習内容に即した題材も取り上げる。

Ⅱ　到達目標

1　有機化学の基礎概念を理解する

（1）まず有機化学でどのような化合物を取り扱うかについて理解する。ついで、取り扱う化合物に含まれる結合の性質と官能基について理解する。

（2）有機化合物の構造について理解する。それぞれの化合物の構造を決定する因子について理解を深め、構造が反応に及ぼす影響を理解する。

（3）結合と構造に関する理解をもとに、有機化合物に含まれる官能基の性質とその反応を理解する。

2　生体分子の構造とその反応を理解する

（1）まず有機化学の知識をもとに生体成分の構造と反応を理解する。代表的生体分子である、糖質、脂質、タンパク質、核酸、について、それぞれに特徴的な構造と反応を理解する。

（2）生体分子の構造と反応の理解に基づき、生体内化合物変換経路（代謝経路）における化合物変換の化学を理解する。

Ⅲ　授業日程

＜前期＞

・４／11　１　化学結合
・４／18　２　軌道論
・４／25　３　官能基と命名法
・５／９　４　立体構造
・５／16　５　アルカンとアルケン
・５／23　６　芳香族化合物
・５／30　７　有機ハロゲン化合物
・６／13　８　アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン
・６／20　９　カルボン酸とその誘導体
・６／27　10　アルドール反応

＜後期＞

・９／19　１　垂直統合授業：総論
・９／26　２　アミンとその誘導体
・10／３　３　糖質
・10／10　４　脂質
・10／17　５　垂直統合授業：アミノ酸・ペプチド・タンパク質
・10／24　６　核酸
・11／14　７　代謝とエネルギー

Ⅳ　成績評価基準

１　日常点

毎回小テストを行い、小テスト答案には日常点を加点する。

２　試験

前期および後期に試験を記述式筆記試験形式で行う。必要な場合、追再試験を同様の記述式筆記試験形式で行う。

３　総合成績評価

試験の点数に日常点を加算し合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

１　訪問先は医系化学（旧医薬品化学）教室（稲盛記念会館３階）

２　対応時間は、木曜日 12:10～12:50 を基本とする。ただし、在室時で対応可能な場合はいつでも対応するので、遠慮することなく訪ねてきてほしい。

３　研究室を訪問できない場合や特別な相談がある場合は、メールでも対応する。

メールアドレス： moba@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

生命系の基礎有機化学（赤路健一・福田常彦著、化学同人出版）

Ⅶ　その他

出席が６割に満たない者には、中間試験および定期試験（追再試験を含む）を受ける資格を与えない。

生命物理化学

教　員　名　　准　教　授　　武元　宏泰

Ⅰ　教育の目的と方針

凡ゆる生命現象は物理化学的な法則に従う。物理化学が本質となる生命現象も多い。また、物理化学は、生物学や臨床の現場で用いられている試薬、薬剤、機器の原理を理解する上でも重要である。本科目では、医学生が、生物学、医学を物理化学的視点から捉えるために必要な基礎的な概念を身につけることを目的とする。本講義内容の習得により、教養としての物理化学の基礎を習得できるだけでなく、今後学ぶ生物学、医学をより多角的に理解するための礎が築かれる。

Ⅱ　到達目標

本科目は、熱力学・反応速度論・分光学の 3 つの分野からなる。それぞれの到達目標を以下に示す。

1　熱力学

基礎医学を学ぶ上で、最低限必要な基礎知識の習得と物理化学的概念の理解を目指す。具体的には、熱力学第一法則（エネルギー保存の法則）と第二法則（エントロピーの法則）をまず扱い、生命科学の基本的概念の自由エネルギー（ギブスエネルギー）を理解する。さらに、習得した基礎知識・概念を、生体エネルギー論に応用し、生命現象を物理化学的側面から説明出来るようにする。例えば、生命維持に必要な ATP と生命現象の量的関係性や酸化的リン酸化にプロトン勾配などについて、量的に説明出来るようにする。

2　反応速度論

一般の化学反応や酵素反応を速度論的に扱うための基礎的概念を習得する。その上で、医薬品などの薬物が代謝される過程における動的挙動や医薬品としてよく利用されている酵素阻害剤の阻害様式について説明出来るようにする。

3　分光学

生化学研究や医療診断で使われている試薬・機器等には、分光学を応用したものが数多く存在する。そのため、まず、分光学における基本的な現象（発光・吸光・蛍光など）の原理を理解する。さらに、分光学が、生化学研究や医療に応用されている例について学び、それらを分光学的側面から説明出来るようにする。

Ⅲ　授業日程

・４／11　1　熱力学第一法則
・４／18　2　熱力学第二法則①
・４／25　3　熱力学第二法則②、ギブスエネルギー
・５／9　4　電気化学
・５／16　5　生体エネルギー論
・５／23　6　反応速度論
・５／30　7　酵素反応速度論
・６／13　8　酵素阻害剤
・６／20　9　分光法

Ⅳ　成績評価基準

1　定期試験の点数にて成績を判定する。ただし、初回の講義で示す出席基準を満たさない者は定期試験の評価対象者とみなさない。

2　本講義は、已む得ない事情を除き、遅刻・早退・途中退出を認めない。遅刻・早退・途中退出は、欠席と同等に扱う。初回の講義も当然例外ではない。

Ⅴ　オフィスアワー

1　訪問先は医系化学（旧医薬品化学）教室（稲盛記念会館３階）

2　対応時間は、木曜日 12:10～12:50 を基本とする。在室時で対応可能な場合はいつでも対応するので、遠慮することなく訪ねてきてほしい。

3　研究室を訪問できない場合、特別な相談等がある場合は、メールでも対応する。
メールアドレス：htakemo@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・アトキンス 生命科学のための物理化学　第２版　東京化学同人
Peter Atkins　Julio de Paula（著），稲葉 章（翻訳），中川 敦史（翻訳），6,300 円（税抜）

・しっかり学ぶ化学熱力学　裳華房
石原　顕光（著）2,600 円（税抜）

Ⅶ　その他

1　講義は、スライドを基に進める。スライドに沿った資料を配布するため、これをノート代わりに使用して聴講することを勧める。

2　講義内容の理解度を図るため、小テストを講義時間内に適宜実施する。

3　当科目の性格上、予習には取り組みにくい。そのため、自主学習では講義で学んだことの復習に時間をかけてほしい。講義での学習時間９０分に対して、９０分を目安に復習を行うと効果的である。

4　講義では、購入可能な教科書・書籍を教材として使用することはない。ただし、講義内ですべての項目を丁寧に学ぶことはできないので、適宜、参考書を準備し、復習に努めてほしい。

5　当科目は系統的に学ぶことから、１度欠席するとその後の講義内容を理解することが難しくなる。欠席は極力避けること。

化　学　実　習

教　員　名	教　　授	大庭　誠
	准　教　授	武元　宏泰
	講師（学内）	梅野　智大

Ⅰ　教育の目的と方針

本科目では、生命現象・病態の原因・薬物作用機構等を化学構造で理解するための基礎的な有機化学および疾患の診断・病理学的検査で利用されている分析法を理解するための基礎的な分析化学を、実際の生化学反応や有機化合物を利用して実習する。また、実習を通して、物質の形状に応じた測り方や実験ノートの書き方など、自然科学実験を行う上で必須となる操作や基本的な作法を習得する。さらに、データの取得とその考察を繰り返し行うことで、現象・事象に対する観察力や分析力も身につける。

Ⅱ　到達目標

1　有機化学の基礎を理解する。

（1）簡単な代謝経路を実際に追跡することにより、生体における化合物変換の化学を理解する。

（2）分子模型を作ることで有機化合物の構造について理解し、炭素骨格の構造を決定する因子について理解する。

（3）実際の化合物を取り扱うことで有機化合物の性質と官能基の理解を深める。

（4）簡単な有機合成反応を実際に行うことにより、有機化合物に含まれる官能基の性質とその挙動を理解する。

2　分析化学の基礎を理解する。

（1）反応生成物を呈色反応にて分析し、その原理を理解する。

（2）有機化合物をクロマトグラフィー（薄層クロマトグラフィー）にて分析し、その原理を理解する。

（3）上述の分析法に触れ、分析結果に対する考察を実際に行うことで、分析サンプル・分析する現象を洞察する力を習得する。

3　実験操作・手技をはじめ、実験ノートの書き方・実験結果を考察するためのアプローチなど、科学実験一般に必要な事項も習得する。

Ⅲ　授業日程

＜A 組＞

・4／16　　1　ガイダンス・ガラス細工
・5／14　　2　分子模型
・5／22　　3　アゾベンゼン１（分離）
・6／11　　4　アゾベンゼン２（分離、TLC）
・6／19　　5　アセトアニリドの合成

＜B 組＞

・4／23　　1　ガイダンス・ガラス細工
・5／21　　2　分子模型
・5／29　　3　アゾベンゼン１（分離）
・6／18　　4　アゾベンゼン２（分離、TLC）

・6／26　　5　アセトアニリドの合成

上記の予定に従って進行するが、変更することもあるので掲示などに注意すること。

Ⅳ　成績評価基準

1　出席状況・実習態度を点数化し、平常点とする。欠席者や態度が悪い者（他人のノートを写す者・実習の説明を聞いていない者・自ら進んで実習に取り組んでいない者・危険な行為を行う者等）には、平常点を与えない。なお、遅刻・早退・途中退出は、欠席と同等に扱う。

2　最終回に提出する実験ノートの内容を点数化する。

3　総合成績評価については、上述１および２を合わせて 100 点とし、合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

1　訪問先は医系化学（旧医薬品化学）教室（稲盛記念会館 3 階）

2　対応時間は、実習実施日の実習後を基本とする。ただし、教員の在室時で対応可能な場合はいつでも対応するので、遠慮することなく訪ねてきてほしい。

3　研究室を訪問できない場合や特別な相談がある場合は、メールでも対応する。
メールアドレス： moba@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

専用の実習書を使用するため、教科書は使用しない。ただし、実習を行う上で以下の教科書が参考となることがある。

・生命系の基礎有機化学（赤路健一・福田常彦著、化学同人出版）

Ⅶ　その他

1　専用の実習書に従って自主的に取り組む。

2　各回、実習前に実習内容の説明を行うので、遅刻することなく説明を良く聞くこと。なお、説明の理解を深めるために予習は必須である。

3　実習書ならびに各回の説明を基に、二人一組（場合によっては三人一組）で実験を行う。実験操作は各自がそれぞれ行うことを原則とする。

4　各自がそれぞれ実験ノートを作成する。実験ノートは必要事項を記述し、毎回の実験終了時に教員のチェックを受ける。実習後は、調査が必要な課題や演習問題に取り組み、各回の実験ノートを完成させる。なお、最終回に実験ノートを提出する。実験ノートに記述すべき事項の詳細や演習問題については、初回に説明する。

生物科学

教　員　名	教　　授	吉澤　達也（生物学）
	講師（学内）	後藤　仁志（生物学）
	教　　授	八代　健太（生体機能形態科学）

Ⅰ　教育の目的と方針

生物学は、生物の形態・生理・行動・多様性、個体の生活・歴史など広い範囲にわたって生命現象を扱う自然科学の一大分野である。現代の生物学は、これらの様々な生命現象を細胞や分子レベルで統一的に理解することを目指している。生物科学の講義では、この点に重点を置いて、生命の基本単位である細胞の構造と機能に関する基礎的な知識を学ぶ。とりわけ、生体機能の発現にどのような分子や構造が関わるのかについて、基本的な原理を修得することを目的とする。

近年、基礎医学のみならず臨床医学の場においても疾患を分子レベルで理解し対処することが非常に多くなり、生物科学の広範な知識なくしては、進歩し続ける高度な医療に対応できなくなっている。基礎医学を学習する前段階として、生命科学の基本的な理解を身につける必要がある。講義だけでなく書物などから積極的に生命科学に興味を持ち新しい知識を吸収することが望ましい。本講義と基礎医学との連続性は、基礎医学分野と連携した垂直統合講義から理解する。

Ⅱ　到達目標

1　動物細胞にみられる細胞分裂と細胞小器官について説明できる。
2　細胞機能とタンパク質とのかかわりの概略を説明できる。
3　真核細胞の核内でのDNAの存在様式とその意味を説明できる。
4　DNAの複製とDNAからRNAへの転写について説明できる。
5　リボソームでのタンパク質合成について説明できる。
6　細胞膜の構造と細胞膜内外の物質輸送の概略、およびその意義を説明できる。
7　ATP生成の仕組みについてミトコンドリアの構造と関連させて説明できる。
8　リボソームで作られたタンパク質が細胞内でどのように運ばれるか説明できる。
9　細胞外のシグナル分子がどのように細胞の状態を変えるか概略を説明できる。
10　細胞骨格の機能について説明できる。
11　減数分裂のしくみと意義、メンデルの法則について説明できる。
12　細胞周期とその調節機構について説明できる。
13　細胞活動とヒトや動物の行動とを関連付けた思考ができる
14　細胞外マトリクスとその機能について説明できる
15　細胞と組織との関連について説明できる。

Ⅲ　授業日程

＜前期＞

・４／12　　1　細胞：生命の基本単位（吉澤）
・４／19　　2　DNA と染色体（吉澤）
・４／26　　3　DNA の複製と修復（吉澤）
・５／10　　4　DNA からタンパク質へ（吉澤）

・５／17　　5　遺伝子発現の調節（吉澤）
・５／24　　6　膜の構造（吉澤）
・５／31　　7　膜を横切る輸送（吉澤）
・６／14　　8　細胞のシグナル伝達（吉澤）
・６／21　　9　遺伝子の構造と機能の解析（吉澤）
・６／28　　10　有性生殖と遺伝学（後藤）
＜後期＞
・９／20　　11　細胞が食物からエネルギーを得るしくみ（吉澤）
・９／27　　12　ミトコンドリアと葉緑体でのエネルギー生産（吉澤）
・10／4　　13　細胞骨格（吉澤）
・10／11　　14　細胞周期（吉澤）
・10／18　　15　細胞分裂と細胞がたどる運命（吉澤）
・10／25　　16　初期胚と幹細胞（垂直統合；八代健太教授）
・11／15　　17　細胞外マトリックスと細胞の社会（吉澤）

Ⅳ　成績評価基準

講義に基づいた期末試験および出席状況を総合的に勘案して合否を判定する。
出席の要件は、シラバス「II 履修要項　３授業の出席・欠席等について」のとおり。
正当な理由がない遅刻・早退は欠席と同等に扱う。

Ⅴ　オフィスアワー

生物学の教員（下鴨キャンパス、稲森記念会館３階　生物学教室）
対応時間は、火曜日の16時～17時を基本とする。
ただし、可能な限りいつでも対応しますので、メールにて日時を相談して下さい。

垂直統合講義の教員（河原町キャンパス、基礎医学学舎６階）
八代健太（生体機能形態科学）
メール：kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp、電話：075-251-5302
https://www.kpu-m.ac.jp/doc/classes/igaku/seitai/36.html
発生学・幹細胞学に興味のある学生さんの研究室訪問、歓迎いたします。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は指定しない。参考図書は以下のとおり。
Essential 細胞生物学　第５版（南江堂）
細胞の分子生物学　第６版（ニュートンプレス）
垂直統合講義の参考書（2回生講義の参考図書）：
標準組織学　総論　各論　第６版（医学書院）
Ross 組織学　原著第７版（南江堂）
組織細胞生物学　原著第３版（南江堂）

Ⅶ　その他

講義はパワーポイントスライドを用いて行う。講義資料は、プリントで配布もしくは学務システムを通じて配信する。
垂直統合の講義枠を設けて、生物科学と組織学の連続性を紹介する。

現代生命科学

教　員　名　　教　　授　　吉澤　達也（生物学）
講師(学内)　　後藤　仁志（生物学）
教　　授　　八木田　和弘（統合生理学）

Ⅰ　教育の目的と方針

本講義では、生物科学で受講する基礎生物学的知識を礎として、ヒト高次生命現象の基盤となる分子・細胞生物学的機構に関する理論と知識の習得を目標とする。特に、分子遺伝学、幹細胞生物学、発生生物学、神経科学や免疫学の基本的概念、多細胞生物における複雑な情報伝達機構、遺伝子やゲノムの多様性と表現型との関連を学習することで、ヒトの構造と生理機能の背景となる分子基盤とその破綻による疾患の基礎的な理解ができるようになることを目指す。

Ⅱ　到達目標

1. 分子遺伝学の基礎概念や様々なゲノム解析技術を概説できる。
2. 胚発生における遺伝子発現や細胞運命決定機構について説明できる。
3. 幹細胞生物学の基本的概念について説明できる。
4. 受容体による情報伝達の機序、細胞内シグナル伝達の過程を説明できる。
5. 神経系の基本構造と生理学的特性について説明できる。
6. 哺乳類の免疫の仕組みや特性について説明できる。
7. ゲノムの多様性やエピゲノムの機序と疾患との関連について説明できる。

Ⅲ　授業日程

教育目標に沿って設けた以下のテーマで講義を進める。

講義日	講義回	内容	担当者
9／26	1	分子遺伝学概論	後藤講師(学内)（生物学）
10／1	2	性決定と染色体分配のメカニズム	後藤講師(学内)（生物学）
10／3	3	幹細胞生物学概論	吉澤教授　　（生物学）
10／8	4	哺乳類の形態形成	後藤講師(学内)（生物学）
10／10	5	細胞内・細胞間シグナル伝達	後藤講師(学内)（生物学）
10／15	6	脳神経系の発生・発達とその破綻	後藤講師(学内)（生物学）
10／17	7	免疫系による生体防御	後藤講師(学内)（生物学）
10／22	8	恒常性維持機構（垂直統合授業）	八木田教授（統合生理学）
10／24	9	腫瘍の分子生物学	後藤講師(学内)（生物学）

講義では各テーマに沿ったスライドを毎回用意する。また、講義スライドに沿ったプリントを配布して学習理解を高める。

Ⅳ　成績評価基準

講義に基づいた期末試験および出席状況を総合的に勘案して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

月～金　16～17時

e-mail: hgotoh@koto.kpu-m.ac.jp
研究室電話: 075-703-4941

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は指定しない。学習の理解を深めるための参考書・参考図書を以下に記載する。

1. Essential 細胞生物学　第 5 版（Alberts 他著、南江堂、8,000 円）
2. 細胞の分子生物学　第 6 版（Alberts 他著、ニュートンプレス、16,000 円）
3. がん-4000 年の歴史-　上下（シッダールタムカジー、ハヤカワ文庫 NF、各 1,012 円）

この他授業において適時参考書を紹介する。

Ⅶ　その他

生物科学で履修する内容を補完・発展した講義内容となるため、Essential 細胞生物学は適宜参考にすること。「細胞とは」、「タンパク質の構造と機能」、「DNA からタンパク質へ」、「染色体と遺伝子調節」、「細胞の情報伝達」、「細胞骨格」、「細胞分裂」、「細胞周期と細胞死」、「組織の成り立ちとがん」などは予習・復習しておくことが望ましい。

生物学実習

教　員　名	教　　授	吉澤　達也
	講師（学内）	後藤　仁志
	非常勤講師	小野　勝彦

Ⅰ　教育の目的と方針

生物科学や現代生命科学で学習する内容を、実習を通して体験的に学ぶ。あわせて、生物学における基本的な技術として、顕微鏡の使用法、対象の観察とスケッチ、分子生物学的実験の方法とその器具の使い方を学ぶ。また脊椎動物の体の構造や発生について実際の標本や胚を用いて観察し、人体の構造と機能の学習のための基礎知識を得る。

生物学教室で作成した「実習の手引き」を元に観察や実験を行う。観察や実験の成果は、スケッチブックに記載して毎回提出する。

Ⅱ　到達目標

生物科学、生命科学の知識の多くは、生物の観察と様々な実験によって得られたものである。これらを実際に体験することを通して、生物学分野での考え方や実験手技の基本およびその意味を修得する。具体的には、以下の内容をおこなう。

1　顕微鏡を正しく使用することができる。
2　細胞の基本構造、とりわけ核、細胞膜（細胞の境界）を図示してその機能を説明できる。
3　生物をよく観察して、スケッチとして表現できる。
4　脊椎動物の発生過程を理解し、三胚葉・鰓弓とそれらに由来する構造や組織を説明できる。
5　細胞や組織からDNAやタンパク質を単離しそれを扱うことを通して、(1) それぞれの分子機能の概略を理解する、(2) 実験器具を適正に使えるようになる、(3) 実験手順と各手順の意味を説明できるようになる、(4) 危険な試薬を使う際の注意点を理解する。
6　これらの実験や観察を通して探究心を身につけることを目標とする。

Ⅲ　授業日程

初回に配布する「実習の手引き」に入れる実習予定表に従って行う。

	日程	実習内容
1	4/16(火):B組、4/23(火):A組	顕微鏡の使い方と顕微鏡標本の観察
2	5/14(火):B組、5/15(水):A組	脊椎動物の骨格および内部構造の観察
3	5/22(水):B組、5/28(火):A組	脊椎動物の胚発生の観察
4	6/11(火):B組、6/12(水):A組	核酸の電気泳動
5	6/19(水):B組、6/25(火):A組	タンパク質の定量と活性の測定

スケッチやレポートは例外を除いてすべてA4のスケッチブックに記載して、毎回提出する。解剖セットに含まれる4種類のピンセット、大小2種類のハサミは実習に必須の器具である。解剖や様々な試薬を使う実習内容もあるため、白衣も必要である。スケッチブック、解剖セット、白衣は生協で購入して初回の実習から持参する。

生物科学の講義内容と対応している実習内容（４、５回）については、エッセンシャル細胞生物学や講義資料を持参することが望ましい。

Ⅳ　成績評価基準

出席状況・実習態度・提出するレポートに基づいて評価する。出席の要件は、シラバス「II 履修要項　３授業の出席・欠席等について」のとおり。実習は全出席が原則であり、正当な理由がない遅刻・早退は欠席と同等に扱う。

レポートは､実習の手引きに書いてある各実習の評価項目が適切に記載されて理解しているかどうかをもとに評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

吉澤、後藤（下鴨キャンパス、稲森記念会館３階　生物学教室）

対応時間は、火曜日の16時～17時を基本とする。

ただし、可能な限りいつでも対応しますので、メールにて日時を相談して下さい。

電話　075-703-4941

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

生物学教室で作成した「実習の手引き」を初回の実習で配布し、この手引きに従って実習を行う。

Ⅶ　その他

これらの内容の多くは２年次の基礎医学科目の講義や実習に発展するものである。例えば、顕微鏡の使い方は組織学や病理学での標本観察の基礎となる。マウスの体の構造の観察やニワトリの発生の観察は人体の構造や発生の理解につながる。DNAやタンパク質を扱う際に使う器具は、２年次以降の実習で使うものも多い。このように実習においても垂直統合の観点から、実習内容を十分理解し機器の使用方法について熟知しておくことが肝要である。

医学概論Ⅰ，医学概論Ⅱ

（三大学共同化科目）

教　員　名　　教授　橋本　直哉　ほか

Ⅰ　教育の目的と方針

わが国で西洋医学を導入し高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ東京帝国医科大学に加えて、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めた府県立の医学校が誕生して以降のことでした。現在では82校の大学医学部／医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。

本講義は、現代の医学部教育について紹介する目的で、本学の基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。これにより、医学系以外の学生諸君にも医学教育課程への理解を深めていただき、大学間の相互交流に寄与することもその目的としています。

Ⅱ　到達目標

・医学教育を知る。
・医学や医療のあるべき姿について考える。

Ⅲ　授業日程

1　医学概論Ⅰ（３Ｑ）

日　　程	回	演　題　名	担当者(所属・職位・氏名)		
9/30(月)～10/7(月) オンデマンド配信	1	医学概論事始	副学長	教授	橋本直哉
10 月 7 日(月)3 限	2	生理学～生命の法則～	統合生理学	教授	八木田和弘
10/15(火)～10/21(月) オンデマンド配信	3	人体解剖学概論～解剖学の歴史と人体～	生体構造科学	教授	田中雅樹
10 月 21 日(月)3 限	4	病原体と宿主の攻防～「生体防御機構」多彩な免疫システム～～	免疫学	特任准教授	扇谷えり子
10 月 28 日(月)3 限	5	診てもらいたい医師とは～21 世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して～	教育センター	講師	金子美子
11 月 11 日(月)3 限	6	消化器診療概論～臨床家の発想と発見～	消化器内科学	教授	伊藤義人
11/12(火)～11/18(月) オンデマンド配信	7	パンデミック(ウイルス汎流行)はどう収束するのか	感染病態学	教授	中屋隆明
11 月 18 日(月)3 限	8	医学概論総括	副学長	教授	橋本直哉

２　医学概論Ⅱ（４Ｑ）

日　　程	回	演　題　名	担当者(所属・職位・氏名)		
12 月 2 日(月)3 限	1	身近な公衆衛生と疫学	分子標的予防医学	教授	武藤倫弘
12 月 9 日(月)3 限	2	感染症との闘い～これまでとこれから～	感染制御・検査医学	教授	貫井陽子
12 月 16 日(月)3 限	3	日本の医療はこうなっている～放射線科医の視点～	放射線診断治療学	教授	山田　惠
12 月 23 日(月)3 限	4	小児科学～小児の成長、発達から学ぶこと～	小児科学	教授	家原知子
1 月 6 日(月)3 限	5	超高齢社会を支えるリハビリテーション医学	リハビリテーション医学	教授	三上靖夫
1/14(月)～1/20(月) オンデマンド配信	6	循環器内科学総論～人は血管とともに老いるのか？心臓･血管を長持ちさせるにはどうすれば良いのか？～	循環器内科学	教授	的場聖明
1/14(月)～1/20(月) オンデマンド配信	7	医学の枠を超えよ～医工連携が支える呼吸器診療の未来～	呼吸器内科学	教授	髙山浩一
1 月 20 日(月)3 限	8	医学概論総括	副学長	教授	橋本直哉

※　上記の授業日程については、状況により変更する場合があります。

Ⅳ　成績評価基準

各講義後の小テスト結果、最終回講義で課す総合レポートの内容、講義での態度状況を総合的に判断して評価します。

Ⅴ　オフィスアワー

問い合わせ等がある場合は、本学教育支援課下鴨事務室(email:kyjim@koto.kpu-m.ac.jp、tel:075-703-4921)に連絡をお願いします。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・特になし。なお、講義において参考資料を紹介する場合があります。

Ⅶ　その他

各回の講義ごとに定められた資料閲覧の期間及び小テストの提出期限を十分確認するようにしてください。

医療統計学

教　員　名

生命基礎数理学			生物統計学		
教	授	長崎　生光	教	授	手良向　聡
講	師	吉井　健悟	助	教	中田　美津子
			助	教	堀口　剛

ゲノム医科学

教　授　田代　啓

Ⅰ　教育の目的と方針

医療統計学は、統計学的推測等を用いて医学の問題を解決するための応用統計学である。そこには、研究をデザインし、医学データを適切に収集、入力、管理、解析し、得られた結果を解釈すること等が含まれている。

この講義と実習では、３年次の生物統計学で理解した医学研究で広く使用されている各統計手法の基礎的原理の理解を深めつつ、公表された臨床研究の具体的な実例を通して、結果の解釈、研究デザインなどについて学ぶ。また、これらの知識を踏まえて、実際の医学論文で最も広く実用されている医学統計ソフトウエアを使用し、目的に適合する統計解析手法を適切に選択して解析を実行する技術を演習して習得する。

講義、コンピューター実習（医学統計ソフトウエア SPSS；IBM 社）

１　具体的な事例から観察研究・臨床試験について理解する

（１）観察研究・臨床試験論文を正しく読むことの重要性について理解する。

（２）研究目的に合ったデザインの選択について理解する。

（３）観察研究における様々なバイアスとその対処法、臨床試験におけるデザインの重要性およびデザインと統計解析の一貫性について理解する。

２　医学統計ソフトウエアを用いた統計解析手順について理解する

（１）医学統計ソフトウエアの種類や解析手法についての概要を解説する。

（２）データ入力、基本的な図示、記述統計量の処理操作を学ぶ。

（３）データの分布と検定の処理操作を学ぶ。

なお、学生の理解度・進捗状況により、内容を一部変更することもあり得る。

Ⅱ　到達目標

１　医学統計ソフトウエア（SPSS；IBM 社）を適切に利用して、目的に適合する統計解析手法を選択して解析を実行できる。

２　公表された臨床研究の結果を批判的に評価できる能力を養う。

３　臨床研究（観察研究、臨床試験）のデザインと統計解析において考慮すべき点を理解し、説明できる。また、診断法の統計的評価、メタアナリシス・費用効果分析、評価尺度の信頼性・妥当性について概要を説明できる。

Ⅲ　授業日程

第５学年前期および後期

月	日	曜日	時限	内　　容	担当者	
					所属	講師名
5	15	水	3	統計解析ができる医師を育てる意義	ゲノム医科学	田代教授
5	15	水	4	数値と記述統計量の報告	生命基礎数理	吉井講師
5	15	水	5	データの分布と正規性の検証	〃	〃
5	22	水	3	区間推定と要約統計量の報告	〃	〃
5	22	水	4	データの分布と要約統計量の演習・まとめ	生命基礎数理	長崎教授
5	22	水	5	仮説検定（１）仮説検定の手順	生命基礎数理	吉井講師
7	10	水	3	臨床試験デザイン（1）	生物統計学	堀口助教
7	10	水	4	臨床試験デザイン（2）	〃	〃
7	17	水	3	観察研究デザイン	生物統計学	中田助教
7	17	水	4	仮説検定（２）第１種の過誤と第２種の過誤	生命基礎数理	吉井講師
7	24	水	3	仮説検定（３）順位に基づいた検定	〃	〃
7	24	水	4	仮説検定の演習・まとめ	生命基礎数理	長崎教授
7	31	水	3	相関と回帰（１）散布図と相関解析	生命基礎数理	吉井講師
7	31	水	4	相関と回帰（２）回帰分析	〃	〃
10	9	水	3	相関解析と回帰分析の演習・まとめ	生命基礎数理	長崎教授
10	9	水	4	重回帰分析	生命基礎数理	吉井講師
10	23	水	3	ロジスティク回帰分析	〃	〃
10	23	水	4	生存時間解析	〃	〃
11	13	水	3	重回帰分析と生存時間解析の演習・まとめ	生命基礎数理	長崎教授
11	13	水	4	評価尺度の信頼性と妥当性	生物統計学	中田助教
11	20	水	3	メタアナリシス・費用効果分析	〃	〃
11	20	水	4	診断法の統計的評価（講義の確認テスト）	生物統計学	手良向教授

講義と実習は基本的に配付資料に沿って進めるが、適宜、医療統計の入門的講義も行う。また、実習は広小路キャンパス看護学舎地下１階のコンピューター実習室（PC 設置）、講義（7 月 10 日 3・4 時限、7 月 17 日 3 時限、11 月 13 日 4 時限、11 月 20 日 3・4 時限）は北臨床講義室で行う。

Ⅳ　成績評価基準

1　出席

原則として講義と実習は全出席とする。体調不良等の場合は学生課に連絡の上、後日欠席届を教育支援課に提出する。

2　合否基準

授業中に行う試験、レポート、出席状況などの日常点及び実習課題の点数を総合的に判断して合否を判定する。実習（長崎教授・吉井講師）70%、講義（手良向教授・中田助教、堀口助教）30%とする。

Ⅴ　オフィスアワー

		オフィスアワー	メールアドレス
・長崎教授	水・木曜日	12:00-12:50	nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp
・吉井講師	月・金曜日	12:00-12:50	yoshii-k@koto.kpu-m.ac.jp
・手良向教授	月曜日	14:00-17:30	steramu@koto.kpu-m.ac.jp
・中田助教	水曜日	14:00-17:30	mnakata@koto.kpu-m.ac.jp
・堀口助教	月曜日	14:00-17:30	go-h@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書・参考図書、参考文献

適宜プリントを配布する。

論文解釈のピットフォール(第 1 回)6/4/2009－(第 26 回)　5/16/2011 週刊医学界新聞（植田真一郎著　医学書院）

EBM 実践のための統計学 Q&A（マーチン ブランド、篠原出版新社）

Ⅶ　その他

講義中も含めてコンピューター実習室での飲食は禁止

英　語　1

教　員　名　　非常勤講師　　三宅　弘晃

Ⅰ　教育の目的と方針

日進月歩する医学の世界にあって、迅速な学問向上の為には、国際間の情報伝達、研究成果の交換は不可欠と言える。情報革命をもたらしているインターネットは、情報を地球規模でほとんど時差なく送受信できる点で注目を集めているが、それらの情報の多くは、世界の共通語といえる英語で流されている。インターネットに繋がったパソコンは今や主要なメディアに変貌しつつあり、それらメディアを知的に活用する為にも英語力は不可欠であると言える。

英語学習の目標の一つに、英語による言語情報処理能力の向上を挙げるとき、インターネットで入手できる情報に限らず、従来型の印刷媒体として、あるいは音声として供給される情報も、できるだけ直読直解、直聴直解に近い能力を身につけることが求められていると言える。この意味で、大学入学の早い段階で英語力の飛躍的な伸張が期待される。それが、ひいては将来頻繁に遭遇することになる「医学英語」を難無く理解する能力を養成することにつながるであろう。なぜならば、「医学英語」といえども、基本的には「一般英語」の土壌に根ざすものであるからである。

また、言語はそれを形成し使用してきた民族の文化・風土・精神性・価値観などの表象である。英語を通じて多くの世界に触れ、幅広い教養を培うことが、将来人間の生命に直接関わる職業に携わる医師として、実りある「医学英語」の習得につながっていくと信じる。

授業は、以下の３つのセクションからなる。なお、それぞれのセクションの内容や目的とその評価方法については、第一回目の講義において詳細に説明されるので、必ず参加すること。

１　予習

あらかじめ指定された範囲について読み、全体の内容を理解しておく。また、付随するワークなどを行う。（注意：第一回目の内容説把握および第二回目の講義の予習が行えるよう、教科書は第一回目の講義までに必ず準備しておくこと）

２　グループワーク

毎回ランダムに決められたグループ（３～４名程度）で、あらかじめ読んできた教科書の割り当て箇所についてグループディスカッションを行い、予習などで得られた理解を深めあう。授業担当者（三宅）は適宜巡回し、予習やディスカッションで生じた質問や疑問について個別に答える。

３　原書講読・講義

グループワークセクションで浮き彫りにされた理解しづらい箇所を中心に、とくに難しい英語表現や興味深いと思われる言語文化の諸問題に重点を置いて分析し、原書に対する理解をさらに深める。この部分は授業担当者（三宅）によるインタラクティブな性質をもった講義形式で行う。

グループディスカッションは基本３～４名１グループ単位で行い、あらかじめ読んできた箇所について討論を行う。また、リーディングストラテジーについての説明なども適宜行う。

Ⅱ　到達目標

１　英語文献を正確に読みこなす力を養成する

英語原書の講読に要求されるのは、文法知識に基づいた文構造の正確な把握と論理的な思考に裏打ちされた文脈理解である。雰囲気や不確かな推測に頼らず、理論的根拠をもった緻密な分析をしつつ原書を読むことで、英語文献を正確に読みこなす力を身につけることを目標とする。

２　アウトプットにつなげる

英語原書講読によって新たに得た知識は、そのままでは実用性を持たないので、これを自分の中で消化・再構築して、英語あるいは日本語でグループディスカッションをする。これにより、他学生との協働力を伸ばすとともに、受講者の中にある知識を自らの力で再体系化する能力を養成することを目標とする。

Ⅲ　授業日程

＜前期＞

・４／11　Introduction I
・４／18　Chapter 1 Reading 1
・４／25　Chapter 1 Reading 2
・５／９　Writing (1)
・５／16　Chapter 2 Reading 1
・５／23　Chapter 2 Reading 2
・５／30　Writing (2)
・６／13　Chapter 3 Reading 1
・６／20　Chapter 3 Reading 2
・６／27　Writing (3)

＜後期＞

・９／19　Chapter 5 Reading 1
・９／26　Chapter 5 Reading 2
・10／３　Writing (5)
・10／10　Chapter 6 Reading 1
・10／17　Chapter 6 Reading 2
・10／24　Writing (6)
・11／14　Chapter 7 Reading 1
・11／21　Chapter 7 Reading 2
・11／28　Writing (7)
・12／５　Review

Ⅳ　成績評価基準

以下の３点について評価される。評価については、第一回目の講義においてさらに詳細に説明する。また、出席が基準に満たない場合は成績評価の対象外となるので注意すること。

１　提出：ワークの提出（30 点）

オンラインで提出する。

２　参加：授業への積極的参加（10 点）

グループディスカッションへの参加・貢献など、授業に積極的に参加していることを評価する。なお、これは「出席点」とは異なり、単に席についているだけの状態に対して与えられる点数ではないことに十分留意されたい。

３　テスト：定期テスト２回（合計 60 点）

前期（Chapter 4）と後期（Chapter 8）に定期テスト２回。

Ⅴ　オフィスアワー

時間：授業日（木曜日）昼休み　場所：第一回目の授業で指示する

また、オフィスアワーに限らずオンラインで質問を受け付けるので、活用してほしい。

連絡方法については、Google Classroom を通じて行う。方法は第一回目の講義中に指示する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

New Interactions 4 Reading and Writing (Asia edition)（B. Wegmann and M. Knezevic 著、Cambridge University Press、約 5,000 円）

Ⅶ　その他

予習について学び合うことは歓迎するが、解答については必ず各自で作成すること。他人の解答を写すことはカンニングであり、相応のペナルティを与える。教科書はもちろんのこと、辞書を持参すること。また、細かい学修方法については、第一回目の授業で指示する。

英　語　2

教　員　名　　教　　授　木 塚　雅 貴　（前期Ａ組・後期Ｂ組）
　　非常勤講師　James Jensen　（前期Ｂ組・後期Ａ組）

Ⅰ　教育の目的と方針

There are two specific aims of this course, which will generally try to enable you to communicate successfully with other people in English in everyday situations:

1. To accustom you to English spoken at a natural speed, and thus to improve your aural comprehension ability.
   （ナチュラルスピードで話される英語に慣れ、英語の聴く能力を高めること。）
2. To enable you to express your views and thoughts properly in spoken English, and thus to improve your oral ability.
   （自らの見方・考え方を英語で適切に発表することができるように、英語の話す能力を高めること。）

Ⅱ　到達目標

There are three attainment targets in this course:

1. To develop and enhance your listening comprehension ability, more specifically, to enable you to grasp the contents of more complicated and difficult lectures, talks, interviews and dialogues.
   （複雑で高度な内容の講義・インタビュー・対話などを聴いて、その内容を適切に把握できること。）
2. To enable you to properly present your views and thoughts orally to other people in your own words.
   （自らの見方・考え方を、自分の言葉で他人に適切に伝えることができること。）
3. To enable you to interact with others in English, especially by asking and answering questions, commenting, expressing your views and opinions, and having proper discussions.
   （英語で質疑応答を行ったり、自らの考え方や意見を表明したり、適切に議論ができること。）

Ⅲ　授業日程

This is a seminar-style class. Either during the spring term or during the autumn term, using a textbook, you will develop your listening comprehension ability to enable you to grasp accurately the contents of lectures, talks, interviews and dialogues. To measure your understanding of these contents, you will complete True/False questions, multiple-choice questions, fill-in-the-blank exercises and writing exercises using your own words. This class will be taught by Masataka Kizuka.

In addition, either during the spring term or during the autumn term, using a textbook, you will make two slideshow presentations in groups. The topics will be: 1. Introducing Kyoto culture to non-Japanese people. 2. An assigned topic with a medical theme. All groups will show their presentations to the rest of the class and will participate in question-and-answer sessions on the contents of the presentations. This class will be taught by James Jensen.

All the classes will be carried out ONLY in English; therefore, your answers during class should be given in English.

On the first day of the course (April 8th), all of the students will get together in one classroom. On the 11th of November, a special lecture on tropical diseases delivered by a medical doctor from Indonesia will be arranged for both cohorts by getting together in one classroom.

（授業は演習形式で行われ、前期または後期に Listening と Presentation のいずれかを履修する。前者は日本人教員が、後者は英語を第 1 言語とする教員が担当する。Presentation の授業では、1．京文化の外国人への紹介と 2．医学・医療にかかわる事項を題材とするプレゼンターションを行う。）

To improve and enhance your listening comprehension ability, you have to listen to English for at least half an hour to one hour every day.

（英語の聴く能力を養うために、毎日最低 30 分～1 時間程度は英語を聴く機会を設けること。）
You are expected to undertake all class tasks in a professional and respectful manner.
（近い将来専門職である医師になるために相応しい態度で授業に臨むこと。）

The following is the class schedule in detail:

[Class A]

<Spring Term>（前期）

April	8th:	Induction.
	15th:	"1 Learning and intelligence".
	22nd:	"1 Learning and intelligence" & "2 Health and fitness".
May	13th:	"2 Health and fitness".
	20th:	"3 Changing cities".
	27th:	"3 Changing cities" & "4 Issues in agriculture".
June	3rd:	"4 Issues in agriculture" & "5 Global culture".
	10th:	"5 Global culture" & "6 History and heritage".
	17th:	"6 History and heritage".
	24th:	Review listening.
July	8th:	Exam.

<Autumn Term>（後期）

There may be some changes. The details of each lesson are presented in the first lesson in April.

September	30th:	Unit 2 "Introduce Yourself".
October	7th:	Unit 5 "How to Make a Spectacular Dish".
	21st:	Presentation #1.
	28th:	Presentation #1.
November	11th:	A Special Lecture on Tropical Diseases.
	18th:	Unit 7 "In the World Today…".
	25th:	Unit 8 "Cause & Sequence".
December	2nd:	Unit 9 "What Dreams May Come…".
	9th:	Presentation #2.
	16th:	Presentation #2.

[Class B]

<Spring Term>（前期）

There may be some changes. The details of each lesson are presented in the first lesson in April.

April	8th:	Induction.
	15th:	Unit 2 "Introduce Yourself".
	22nd:	Unit 5 "How to Make a Spectacular Dish".
May	13th:	Presentation #1.
	20th:	Presentation #1.
	27th:	Unit 7 "In the World Today…".
June	3rd:	Unit 8 "Cause & Sequence".
	10th:	Unit 9 "What Dreams May Come…".
	17th:	Presentation #2.
	24th:	Presentation #2.

<Autumn Term>（後期）

September	30th:	Induction & Chapter 1 "Laws of the Land".
October	7th:	Chapter 1 "Laws of the Land".
	21st:	Chapter 1 "Laws of the Land".
	28th:	Chapter 3 "The origins of Diversity".
November	11th:	A Special Lecture on Tropical Diseases.
	18th:	Chapter 3 "The origins of Diversity".
	25th:	Chapter 3 "The origins of Diversity".
December	2nd:	Chapter 4 "Diversity in the United States Today".
	9th:	Chapter 4 "Diversity in the United States Today".
	10th:	Chapter 4 "Diversity in the United States Today".

16th: Exam.

Ⅳ 成績評価基準

Student work in this course will be evaluated based on the following criteria:

1. Attendance（出席）

Each student is expected to arrive and be ready to start the class on time. Being late or not being prepared to start the class on time will result in you being marked absent. Be sure to buy your own textbooks and bring them to every class (including the first lesson); otherwise, you will not be permitted to attend class and will be marked absent.
（必ず１回目の授業から教科書を持参すること。）

＜欠席に関する注意事項＞

・以下の２条件を総て満たさない欠席がある場合には、原則的に単位の認定は行わない。

1. やむを得ない事情がある場合を除き、欠席当日の授業開始前までに、下鴨事務室（075-703-4921/4922）に電話で欠席理由を連絡すること。
2. 病気・忌引き・公共交通機関の遅延による合理的な理由がありやむを得ない事情と認められる場合であり、かつその事情を客観的に証明し得る書類（診断書・鉄道機関発行の遅延証明書等）が、欠席した授業の次の授業までに提出されていること。

2. Involvement in class time exercises（授業への参加度）

Each student will be evaluated on his/her performance and participation in weekly learning tasks. This includes the willingness to use English in the classroom and undertaking all class tasks in a professional and respectful manner.
（授業中の活動状況並びに授業中の英語の使用状況と授業内活動への取り組み状況について評価する。）

3. Final Examination （定期試験）

At the time when each term finishes, your score for both the listening comprehension examination (Class A in the spring term) and presentation evaluation (Class B in the spring term) and vice versa in the autumn term MUST average over 60 percent of the total; otherwise, you cannot obtain credit for the course. If either of the scores is less than 60 percent, a final chance for a retake exam will be arranged within two weeks after each exam period. When your score is over 60 percent on the retake exam, credit for the course will be obtained. (Class A students in the spring term will have a chance of the retake exam for the listening comprehension course before the summer holiday period has started in July. Class B students in the autumn term will have a chance of the retake exam for the listening comprehension course during the very end of the exam period in December or during the week just after the exam period has ended in December.)

＊You must use a blue ballpoint pen in writing your answers on the exam sheets.

（前後期で授業内容が Listening と Presentation と異なっていることから、単位認定にはそれぞれの授業の成績が 60 点以上であることが必要である。Listening の授業は、定期試験を実施する。Listening の授業評価が 60 点に満たない場合には、定期試験終了後に再試験とは別に補充試験を実施し、評価が 60 点を超えれば単位認定の対象とする。【A 組については、夏休み期間が開始する前までに補充試験を実施する予定である。】【B 組については、定期試験期間の最終日または定期試験期間の翌週に補充試験を実施する予定である。】なお、試験では「青のボールペンで解答を記入する」こと。）

4. Presentations（プレゼンテーション）

You should make two slideshow presentations and show them to the rest of the class. The presentations should be original and conform to the guidelines of the class.
（スライド・ショーによるプレゼンテーションを 2 回実施する。プレゼンテーションは自ら作成し、授業の決まりに則ったものであること。）

5. Academic Honesty（公正な態度）

All student work should be the student's own original work with appropriate acknowledgment, citation and referencing where necessary. Plagiarism, the use of AI-generated material, or the use of translation software will result in the student receiving a "ZERO (0)" for the assignment and a written warning. Depending on the situation, students

caught cheating will receive a written explanation of the tutor's reasoning and will not receive credit for the course.
（AI や自動翻訳などのソフトを使って作成したプレゼンテーションは、剽窃に該当する。不正が確認された場合には、原則的に単位認定を行わない。）

Ⅴ　オフィスアワー

Masataka Kizuka is available on Mondays between noon and 13.30 in the office on the Shimogamo Campus during the class periods except for the second Monday of each month.

James Jensen can be contacted after the class.

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

[Class A]

Only during the spring term, the following textbook will be used in the class: *Headway Academic Skills Level 3: Listening & Speaking*, Oxford University Press, 2013.

From the autumn term and as a Year 2 student, the following textbook will be used: *Dynamic Presentations*, 金星堂, 2016.

[Class B]

In the spring term and as a Year 2 student, the following textbook will be used: *Dynamic Presentations*, 金星堂, 2016.

Only during the autumn term, the following textbook will be used in the class: *Academic Encounters Listening and Speaking 2* (2nd edition), Cambridge University Press, 2013.

Advanced Presentation & Academic Writing

教　員　名　　教　　授　木　塚　雅　貴（統括担当者）
非常勤講師　Manuela Antoniu
非常勤講師　Philip Gurney
非常勤講師　James Jensen

Ⅰ　教育の目的と方針

As a medical practitioner, you will sometimes be required to write and give presentations in English. In recognition of these needs, this course aims to enable you to:
（将来、医師として英語でプレゼンテーションを行うことから、以下の 2 点ができるようになること。）

1. Create and deliver presentations in English using a four-stage (introduction, body, conclusion, and Q&A) framework.
   （プレゼンテーションの基本的な型に沿って英語でプレゼンテーションを作成し、発表すること。）
2. Construct and analyze academic documents in English.
   （英語で学術的な文書を組み立て、分析的に検討すること。）

Ⅱ　到達目標

Upon completion of the presentation component of this course, you should be able to:
（プレゼンテーションに関しては、以下の 6 点ができるようになること。）

1. Recognize the basic patterns that constitute the framework of an effective presentation.
   （効果的なプレゼンテーションの枠組みに関する基本的な型を理解すること。）
2. Create and deliver individual and team presentations using the basic patterns of an effective presentation.
   （基本的な型に則って、個人またはグループで効果的なプレゼンテーション作成し、実際に発表すること。）
3. Create and use handouts which supplement presentations.
   （プレゼンテーション用の資料を作成すること。）
4. Answer and ask questions concerning a presentation.
   （プレゼンテーションの内容に関する質疑応答を行うこと。）
5. Evaluate the effectiveness of a presentation.
   （効果的なプレゼンテーションであるか否かの評価を行うこと。）
6. Cite sources used in a presentation.
   （プレゼンテーションで使われた出典を明示すること。）

Upon completion of the writing component of this course, you should be able to:
（アカデミック・ライティングに関しては、以下の 6 点ができるようになること。）

1. Understand the correct role of each sentence in a paragraph or essay.
   （一文一文が段落や文章全体において果たしている役割を理解すること。）
2. Understand the purpose of each paragraph in an essay.
   （文章全体の中で各段落が持つ目的を理解すること。）
3. Discuss the sections of an essay using the proper terminology.
   （適切な専門用語を用いて、文章全体を構成する各部分に関わる議論を行うこと。）
4. Create and self-correct drafts as part of the writing process.
   （文章作成過程の一部として、草稿を作成し自らそれを推敲すること。）
5. Construct paragraphs and essays where each sentence has the proper scope and the whole functions as a unit.
   （各文が係る範囲を適切に設定し、文章全体が一つのまとまりを持って機能するように段落と文章全体を組み立てること。）
6. Cite sources used in an essay using the American Medical Association (AMA) referencing conventions.
   （AMA スタイルを基本に、文章中で使われた出典を明示すること。）

Ⅲ　授業日程

This is a seminar-style class, which includes lessons, oral presentations, classwork, and regular homework.

Throughout the course, you will be asked to use the textbooks and handouts to develop your presentation and writing skills.

For the writing component, English grammatical patterns and paragraph writing will be reviewed, and terminology for discussing paragraphs and essays will be taught using the *Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay* textbook. This will include learning the writing process. You will use the writing process to write two 500-word essays. The genre of the first essay will be argumentative and the second will be expository.

For the presentation component, the fundamentals of outlining and presenting will be reviewed using the *Successful Presentations—An Interactive Guide* textbook. In addition, videos of presentations will be shown and discussed. Finally, how to prepare and write handouts will be taught. With this as a foundation, groups of two or three students will make a 20-minute presentation about the medical system of an assigned foreign country. During the autumn term, you will create a 10-minute, individual presentation on the same topic as your first essay.

（授業は演習形式で行われ、講義・口頭発表・授業中の活動・宿題が課される。ライティングの授業では、教科書を用いて最終的に 500 語程度の小論文を 2 本作成する。1 本目は自らの主張を述べる小論文を、2 本目は説明型の小論文を作成する。プレゼンテーションの授業では、1 年生の学習内容を踏まえ、最終的に発表用の資料作成について学ぶ。最初は数名のグループで「諸外国の医療制度」に関する 20 分間のプレゼンテーションを行い、後期は 10 分間の個人によるプレゼンテーションを行う。）

Topics for essays and presentations will include:

（以下の 3 つが、小論文とプレゼンテーションのテーマである。）

1. Modern healthcare systems.
2. Medical conditions.
3. Controversies in healthcare.

Depending on the material being covered, lessons may consist of lectures, group work, exercises, or quizzes. You will be expected to do writing and presentation-creation exercises in and out of the class. You will also be expected to collaborate with your classmates using online software applications and submit final assignments in either paper or digital formats following your tutor's instructions. You should attempt to answer all exercise questions in English. To create the optimum environment for language learning, all communication in the classroom should be preferably conducted in English.

（授業中及び授業外の課題として、文章とプレゼンテーションを作成すること。オン・ライン上のソフトウエアを利用しながら他の学生と協力して活動を行い、担当教員の指示に従って紙ベースまたはオン・ライン上で最終課題を提出すること。基本的に授業は総て英語で行う。）

You are expected to undertake all class tasks in a professional and respectful manner.

（近い将来専門職である医師になるために相応しい態度で授業に臨むこと。）

The following is the framework of the class schedule. **There may be some changes in the following. The details of each lesson and its content are explained by individual tutors in the first lesson in April:**

April	12th:	Induction.
	19th:	Writing: Unit 2 "What is Writing?" & Unit 3 "About the Paragraph".
	26th:	Writing: Unit 8 "Summary Paragraph" & Unit 9 "Analysis Paragraph".
May	10th:	Unit 10 "Cause and Effect Paragraph" & AMA Referencing.
	17th:	Presentation: Unit 8 "Population".
	24th:	Presentation: Unit 9 "Events".
	31st:	Presentation: Unit 10 "Places".
June	14th:	Presentation #1.
	21st:	Presentation #1.
	28th:	Presentation #1.
July	5th:	Presentation #1.
September	27th:	Writing: Unit 11 "Persuasive Paragraph" & Unit 12 "Problem-

		solution Paragraph".
October	4th:	Writing: Unit 13 "About the Essay" & "Changing a Paragraph into an Essay".
	11th:	Writing: Unit 15 "Writing an Essay from the Beginning".
	18th:	Presentation: Unit 11 "Processes".
	25th:	Presentation: Unit 12 "Opinions".
November	8th:	Presentation: "Review 3".
	15th:	Presentation #2.
	22nd:	Presentation #2.
	29th:	Presentation #2.
December	6th:	Presentation #2.
	13th:	Presentation #2.

＊前期と後期で、配当クラスの授業時間帯を入れ替える。（前期４時限目受講生は、後期５時限目受講となる。）

Ⅳ　成績評価基準

Student work in this course will be evaluated based on the following criteria:

1. **Attendance（出席）**

Each student is expected to arrive and be ready to start the class on time. Being late or not being prepared to start the class on time will result in you being marked absent. Be sure to buy your own textbooks and bring them to every class (including the first lesson); otherwise, you will not be permitted to attend class and will be marked absent.

（必ず１回目の授業から教科書を持参すること。）

2. **Involvement in class time exercises（授業への参加度）**

Each student will be evaluated on his/her performance and participation in weekly learning tasks. This includes the willingness to use English in the classroom and undertaking all class tasks in a professional and respectful manner.

（授業中の活動状況並びに授業中の英語の使用状況と授業内活動への取り組み状況について評価する。）

3. **Exercises completed outside of class（授業外の課題）**

Writing and presentation exercises completed outside of class will be assessed.

（授業外の課題として作成する小論文とプレゼンテーション課題の実施状況について評価する。）

4. **Presentations（プレゼンテーション）**

Each student will be required to make two formal presentations to the rest of the class. These presentations will be submitted in paper and digital form.

（各受講生は、授業中に２回プレゼンテーションを行う。）

5. **Writings（文章作成）**

Each student will be required to submit written outlines, drafts, essays and researched essays. The essays should be submitted in either paper or digital formats following your tutor's instructions.

（各受講生は、アウトライン・草稿・小論文・学術的な小論文を提出すること。提出方法は、担当教員の指示に従うこと。）

6. **Academic Honesty（公正な態度）**

All student work should be the student's own original work with appropriate acknowledgment, citation and referencing where necessary. Plagiarism, the use of AI-generated material, or the use of translation software will result in the student receiving a "ZERO (0)" for the assignment and a written warning. Depending on the situation, students caught cheating will receive a written explanation of the tutor's reasoning and will not receive credit for the course.

（AI や自動翻訳などのソフトを使って作成した小論文やプレゼンテーションは、剽窃に該当する。不正が確認された場合には、単位認定を行わない。）

＜欠席に関する注意事項＞

・**以下の２条件を総て満たさない欠席がある場合には、原則的に単位の認定は行わない。**

1. やむを得ない事情がある場合を除き、欠席当日の授業開始前までに、教育支援課（075-251-5225/5228）に電話で欠席理由を連絡すること。
2. 病気・忌引き・公共交通機関の遅延による合理的な理由がありやむを得ない事情と認められる場合であり、かつその事情を客観的に証明し得る書類（診断書・鉄道機関発行の遅延証明書等）が、欠席した授業の次の授業までに提出されていること。

Ⅴ　オフィスアワー

The individual tutor of each cohort group is the initial contact person.
（原則授業の担当教員に相談すること。）

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

- *Successful Presentations—An Interactive Guide*, Cengage Learning, 2013. (Used in English 2 in Year 1.)
- *Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay*, Cengage Learning, 2011.

Basic Medical English

教　員　名	教　　授	木　塚　雅　貴（統括担当者）
	非常勤講師	Manuela Antoniu
	非常勤講師	Alzo David-West
	非常勤講師	Sufian Mohamed Ali Elfandi
	非常勤講師	Rima Ghashut
	非常勤講師	Valentino Gumbilai
	非常勤講師	James Jensen

Ⅰ　教育の目的と方針

As a medical practitioner, you should be able to successfully communicate with patients, their families, and your coworkers. In recognition of this need, this course aims to:
（医師として、患者とその家族やコメディカルと円滑なコミュニケーションを図ることは必須であることから、以下の 3 点ができるようになること。）

1. Improve your aural comprehension ability by acclimatizing you to English spoken at a natural speed, especially in patient-doctor settings.
   （患者と医師の会話を中心として、ナチュラルスピードで話される英語に慣れ、英語を聴く能力を高めること。）
2. Acquaint you with the conventions for successfully interacting with patients and their families.
   （患者とその家族と円滑にやり取りする方法に習熟すること。）
3. Introduce you to basic medical English vocabulary.
   （医学の領域で使われる英語の語彙を身につけること。）

Ⅱ　到達目標

Upon completion of this course, in addition to having increased your general English listening and speaking competency, you should have a greater ability to:
（英語を聴き話すために必要な高度の一般的な能力に加え、以下の 4 つの能力を身につけること。）

1. Ask patients targeted questions.
   （患者に当を得た質問をすること。）
2. Understand patients' spoken concerns.
   （患者が伝えようとしている不安を理解すること。）
3. Interact with patients and their families in a friendly and productive manner.
   （患者やその家族と、優しく建設的な態度でやり取りすること。）
4. Understand and use medical terminology.
   （医学の専門用語を理解し適切に使うこと。）

Ⅲ　授業日程

This is a seminar-style class, including lessons, oral presentations, classwork, and regular homework.

In this course, you will be introduced to proper techniques for facilitating doctor-patient communication by doing four units of the textbook. You will be provided with listening comprehension activities to increase your understanding of the unit and medical terminology in general. You will perform a variety of activities to acquire the skills described in each unit. You will perform role-plays to demonstrate your attainment of the material and to refine your skills.

Depending on the material being covered, lessons may consist of listening comprehension activities, text exercises, role-plays, group work or quizzes. You will be expected to prepare for role-play exercises in and out of the class. You should attempt to answer all exercise questions in English. To create the optimum environment for language learning, all communication in the classroom should be preferably conducted in English. Continuous assessment will be carried out.

<u>On the 14th of November, a special lecture on tropical diseases delivered by a medical doctor</u>

from Indonesia will be arranged for both cohorts by getting together in one classroom.
（授業は演習形式で行われ、講義・口頭発表・授業中の活動・宿題が課される。教科書から 4 つのユニットを採り上げ、医師・患者間のコミュニケーションを円滑に行うために相応しい技能に焦点を当てた授業を行う。授業では、リスニング、医学の専門用語、教科書掲載の様々な活動、ロールプレイを扱う。なお、ロールプレイについては、授業外の課題としても取り組むことになる。基本的に授業は総て英語で行う。）

You are expected to undertake all class tasks in a professional and respectful manner.
（近い将来専門職である医師になるために相応しい態度で授業に臨むこと。）

The following is the framework of the class schedule. **There may be some changes in the following. The details of each lesson and its content are explained by individual tutors in the first lesson in April:**

April	11th:	Induction & Unit 1 “Emergency medicine”.
	18th:	Unit 1 “Emergency medicine”.
	25th:	Unit 1 “Emergency medicine”.
May	9th:	Unit 1 “Emergency medicine”.
	16th:	Unit 1 “Emergency medicine”.
	23rd:	Unit 1 “Emergency medicine”.
	30th:	Unit 1 test & Unit 2 “Accidents”.
June	6th:	Unit 2 “Accidents”.
	13th:	Unit 2 “Accidents”.
	20th:	Unit 2 “Accidents”.
July	11th:	Unit 2 “Accidents”.
	18th:	Unit 2 “Accidents” & Unit 2 test.
September	5th:	Unit 3 “Sports medicine”.
	12th:	Unit 3 “Sports medicine”.
	19th:	Unit 3 “Sports medicine”.
	26th:	Unit 3 “Sports medicine”.
October	10th:	Unit 3 “Sports medicine”.
	17th:	Unit 3 test & Unit 11 “Tropical diseases”.
	24th:	Unit 11 “Tropical diseases”.
November	7th:	Unit 11 “Tropical diseases”.
	14th:	A Special Lecture on “Tropical diseases”.
	21st:	Unit 11 “Tropical diseases”.
January	23rd:	Unit 11 “Tropical diseases”.
February	6th:	Unit 11 “Tropical diseases” & Unit 11 test.

Ⅳ　成績評価基準

Student work in this course will be evaluated based on the following criteria:

1. Attendance（出席）

Each student is expected to arrive and be ready to start the class on time. Being late or not being prepared to start the class on time will result in you being marked absent. Be sure to buy your own textbooks and bring them to every class (including the first lesson); otherwise, you will not be permitted to attend class and will be marked absent.
（必ず 1 回目の授業から教科書を持参すること。）

2. Involvement in class time exercises（授業への参加度）

Each student will be evaluated on his/her performance and participation in weekly learning tasks. This includes the willingness and extensive of use English in the classroom and undertaking all class tasks in a professional and respectful manner.
（授業中の活動状況並びに授業中の英語の使用状況と授業内活動への取り組み状況について評価する。）

3. Exercises completed outside of class（授業外の課題）

Preparation work completed outside of class will be assessed.
（授業外の課題の実施状況について評価する。）

4. Role-plays（ロールプレイ）

Each student will be required to actively participate in role-plays.

（積極的にロールプレイに取り組むことが求められる。）

5. Paper examinations（筆記試験）

At the end of each unit, you will take a written examination that covers all classwork completed during the unit to assess your progress.
（教科の各章終了後に、その章の内容全体に関わる筆記試験を行う。）

6. Academic Honesty（公正な態度）

All student work should be the student's own original work with appropriate acknowledgment, citation and referencing where necessary. Plagiarism, the use of AI-generated material, or the use of translation software will result in the student receiving a "ZERO (0)" for the assignment and a written warning. Depending on the situation, students caught cheating will receive a written explanation of the tutor's reasoning and will not receive credit for the course.
（AI や自動翻訳などのソフトを使って作成したプレゼンテーションは、剽窃に該当する。不正が確認された場合には、単位認定を行わないことがある。）

Ⅴ　オフィスアワー、リソース・パーソン等

The individual tutor of each cohort group is the initial contact person.
（原則授業の担当教員に相談すること。）

Ⅵ　教科書、参考文献等

・*Medicine 2*, Oxford University Press, 2009.
Access to the website for its audio material is:
https://elt.oup.com/student/oefc/audio--downloads/?cc=jp&selLanguage=en&mode=hub

ドイツ語Ⅰ

教　員　名　　非常勤講師　　熊谷　知実

Ⅰ　教育の目的と方針

外国語の医学書のなかで、ドイツ語の書籍が占める割合は減少してきています。しかしいつの日かドイツに留学してドイツの医学や医療制度を学んでみたいと思う学生も少なくないでしょう。この授業は、実際にドイツに行ってドイツ人とコミュニケーションをすることを前提に、正確なドイツ語の発音と実践的なドイツ語会話能力を身につけることを目標としています。とはいってもドイツ語はとても変化の多い言語。単純な会話をするにも、複雑な文法規則の理解は避けて通ることができません。そこでこの授業では、文法の基礎を学びながら日常的な語彙や表現を増やし、ペア練習で実践的な演習に移行していく形式で、「話すためのドイツ語力」を向上させていきます。相手の話す内容を正しく理解し、平易な文章を組み立てながら、できるだけ自然なドイツ語で対応できるようになる。それがこの授業の最終到達目標となります。

語学は反復して声に出すこと、継続学習の習慣をつけることが何よりも重要です。ですから授業時間内にペアで行う会話練習（聴いて話す練習）と、授業後に復習（書く練習）を繰り返すことを前提に授業を組み立てています。また授業の導入として、ドイツ文化の興味深い側面を短く切り取って毎時間紹介します。ドイツの現代事情や歴史文化に対する理解を深めることで、日々のドイツ語学習のモチベーションをあげていきましょう。すなわちこの授業は以下の手順で進められることになります。

1　ドイツ文化に触れる
2　前回の授業内容をおさらいする
3　新しい文法事項を学び、その用法を練習する
4　会話文を考えて、学んだ用法を応用する
5　今回学んだ内容を書いてまとめる

Ⅱ　到達目標

1　発音
　ドイツ語の単語を正しく発音する
2　文法
　（1）動詞の語順を理解し、正しく人称変化させる
　（2）平叙文と疑問文を正しい語順で用いる
　（3）名詞の性を理解し、正しく格変化させる
3　表現・コミュニケーション
　（1）挨拶や自己紹介ができる
　（2）日用品の買物ができる
　（3）物や事象について簡単な感想を相手に伝えることができる

Ⅲ　授業日程

・４／10　授業方針と成績評価、単語の発音
・４／17　発音：日常の挨拶と数字
・４／24　発音：物の価格と形容詞
・５／８　動詞：名前や出身を伝える
・５／15　動詞：好きな事を伝える
・５／22　名詞の性：この本はいくらですか
・５／29　所有冠詞：これは私の財布です
・６／12　名詞の格変化：これを気に入ってます
・６／19　名詞の否定：熱はありません
・６／26　カフェで注文

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点

原則として授業は全出席とします。授業の終了時には、授業内容確認の口頭テストないしまとめ課題を実施します。それらすべてが出席評価点として学期末の成績に加点されます。

2　試験

学期末の定期試験は筆記で行います。

3　総合成績評価

学期末試験の点数（80～90％）と、平常点（10～20％）の合計を総合的に勘案して、合否を判定します。

Ⅴ　オフィスアワー

水曜日の授業終了後に、個人的な質問や相談に応じます。
また授業ではメールアドレスを公開します。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・『クマといっしょにドイツ語―1. 会話 2. 文法 4. 復習ドリル―』
（羽根田知子、熊谷知実、ハイケ・ピナウ著、朝日出版社）
この教科書は「筆記練習帳」にもなっています。
必ず１人１冊購入して、各ページにメモを残しながら学習を進めてください。
・適宜コピー資料を配布します。
・辞書は初回授業で紹介します。

ドイツ語Ⅱ

教　員　名　　非常勤講師　　熊谷　知実

Ⅰ　教育の目的と方針

ドイツ語Ⅰで学習した発音や表現、文法規則を根底に、頭の中にイメージした内容をさらに長い文章で伝えられるレベルを目標とします。聴き取りの上達は発話の上達にもつながりますから、会話文を聴いて書きとる練習も積極的に授業にとりいれていきます。様々なシチュエーションで使える表現を学ぶことで、長い文章で話すために必要な語彙を段階的に増やしていきます。昨今の語学学習においては、言語や表現を単純に暗記するだけでなく、その言語を使用している人々の文化的背景を理解したうえでコミュニケーションをはかること、すなわち異文化コミュニケーション能力の向上が求められています。海外から発信された情報を正しく取捨選択して読み取り、その国の事情を学んでいく必要があるのです。言語を学習しながら文化的背景や社会システムを理解し、そこから専門領域への関心へとつなげていく。それがこの授業の最終到達目標となります。

語学は反復して声に出すこと、継続学習の習慣をつけることが何よりも重要です。ですから授業時間内にペアで行う会話練習（聴いて話す練習）と、授業後に復習（書く練習）を繰り返すことを前提に授業を組み立てています。また授業の導入として、ドイツ文化の興味深い側面を短く切り取って毎時間紹介します。ドイツの現代事情や歴史文化に対する理解を深めることで、日々のドイツ語学習のモチベーションをあげていきましょう。すなわちこの授業は以下の手順で進められることになります。

1　ドイツ文化に触れる
2　前回の授業内容をおさらいする
3　新しい文法事項を学び、その用法を練習する
4　会話文を考えることで、学んだ用法を応用する
5　今回学んだ内容を書いてまとめる

Ⅱ　到達目標

1　聴き取り
　会話を聴き取り、文脈を理解する
2　文法
　（1）前置詞を正しく用いて、居場所や行先を表現する
　（2）命令形や助動詞を正しく用いて、お願いする
　（3）日時や曜日を正しく表現する
3　表現とコミュニケーション
　（1）自分の居場所や行先を告げる
　（2）様々な表現を用いてお願いする
　（3）友人を誘い、待ち合わせの日時を設定する

Ⅲ　授業日程

・９／18　前期のふりかえり（動詞と名詞）、道案内
・９／25　前置詞：どこへいくの
・10／２　前置詞：どこにいるの
・10／９　再帰動詞：座りましょう
・10／16　命令形：水を１杯持ってきてください
・10／23　助動詞：窓を開けてくれますか
・11／13　時刻表現：7 時半はどうでしょう
・11／20　日付表現：12 月 1 日に約束があります
・11／27　待ち合わせ：いつどこで逢おうか
・12／４　メールの書き方

Ⅳ　成績評価基準

１　平常点

原則として授業は全出席とします。授業の終了時には、授業内容確認の口頭テストないしまとめ課題を実施します。それらすべてが出席評価点として学期末の成績に加点されます。

２　試験

学期末の定期試験は筆記で行います。

３　総合成績評価

学期末試験の点数（80～90％）と、平常点（10～20％）の合計を総合的に勘案して、合否を判定します。

Ⅴ　オフィスアワー

水曜日の授業終了後に、個人的な質問や相談に応じます。
また授業ではメールアドレスを公開します。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・『クマといっしょにドイツ語―1. 会話 2. 文法 4. 復習ドリル―』
（羽根田知子、熊谷知実、ハイケ・ピナウ著、朝日出版社）
「ドイツ語Ⅰ」で使用した教科書を引き続き使用します。
・適宜コピー資料を配布します。

フランス語Ⅰ

教　員　名　　非常勤講師　　モクタリ・シルヴァン

Ⅰ　教育の目的と方針

入門レベルで、易しく、簡単なフランス語。特に、「話す」ことを大切にする。前期末には基礎の自己紹介ができ、自分について話せることを目指す。フランス語は国際的な言語であることを意識するため、文化も、フランス語圏を学ぶ。特にフランスでの病院の特徴を理解する。

授業は、

1　授業の始めに、新しい語彙などを学生に紹介し、発音の練習を必ず行う。
2　会話を中心に日常生活の表現を習得する。
3　特に発音の練習を多くし、無理のない範囲で、出来るまで練習をする。
4　主に学生がペアになり、会話の練習を行う。

Ⅱ　到達目標

1　フランス語の基礎（挨拶や発音の特徴）を学ぶ。
2　簡単な会話（連絡先を教えることなど）をする。
3　フランスの基礎文化を理解する。

Ⅲ　授業日程

・４／10　ガイダンス・レッスン１・２　挨拶やアルファベット
・４／17　レッスン３　フランス語とフランス語圏・レッスン４　自己紹介（１）
・４／24　レッスン４　自己紹介（２）
・５／８　レッスン５　個人情報を交換する（１）
・５／15　レッスン５　個人情報を交換する（２）
・５／22　レッスン６　詳しい情報を伝える（１）
・５／29　レッスン６　詳しい情報を伝える（２）
・６／12　レッスン８　自分の家族を紹介する（１）
・６／19　レッスン８　自分の家族を紹介する（２）
・６／26　前期のおさらい

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（宿題、発表、授業への取り組み状況など）50％
2　期末試験の成績 50％

Ⅴ　オフィスアワー

授業後、質問などに応じます。

連絡用メール（pimiku@koto.kpu-m.ac.jp）でも可能です。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　教科書：『INSPIRE-1/LIVRE DE L'ELEVE+AUDIO/VIDEO+PARCOURS DIGITAL』JEAN-THIERRY LE BOUGNEC+MARIE-JOSÉ LOPES、アシェット・ジャポン出版社、ISBN ： 9782015135755、本体　4070 円(内税)。

2　推薦辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、倉方秀憲、春木仁孝、大木充、東郷雄二、旺文社、4200 円。

Ⅶ　その他

予習や復習をして、積極的にクラスでのいろいろなアクティビティに参加するのが望ましいです。

フランス語Ⅱ

教　員　名　　非常勤講師　　モクタリ・シルヴァン

Ⅰ　教育の目的と方針

前期に続き、日常的に役に立つコンテンツを学ぶ。例えば、相手の好みについて尋ねたり、自分の好き・嫌いなことを語り、人を描写して特定する。それから、場所や道について話す・尋ねる。文化はフランスに住む際に必要なことを紹介し、日本との違いを理解する。後期末には、フランス旅行で最低限必要な会話ができるようにする。

授業は、

1　授業の始めに、新しい語彙などを学生に紹介し、発音の練習を必ず行う。
2　会話を中心に日常生活の表現を習得する。
3　特に発音の練習を多くし、無理のない範囲で、出来るまで練習をする。
4　主に学生がペアになり、会話の練習を行う。

Ⅱ　到達目標

1　発音の練習を多くする。
2　物と行動についての好みを、具体的に言う。
3　日常生活でよく使われる単語を身に付ける。
4　「～の方が好き・嫌い」の言い方を習得する。
5　徐々に、日常的なフランス語を話す。

Ⅲ　授業日程

・９／18　前期のおさらい
・９／25　レッスン９　人を描写して特定する（１）
・10／２　レッスン９　人を描写して特定する（２）
・10／９　レッスン１０　自分の・他人の好みについて話す（１）
・10／16　レッスン１０　自分の・他人の好みについて話す（２）
・10／23　レッスン１２　場所について情報を聞く（１）
・11／13　レッスン１２　場所について情報を聞く（２）
・11／20　レッスン１３　道を尋ねる（１）
・11／27　レッスン１３　道を尋ねる（２）
・12／４　後期のおさらい

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点（宿題、発表、授業への取り組み状況など）50％
2　期末試験の成績 50％

Ⅴ　オフィスアワー

授業後、質問などに応じます。
連絡用メール（pimiku@koto.kpu-m.ac.jp）でも可能です。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　教科書：『INSPIRE-1/LIVRE DE L'ELEVE+AUDIO/VIDEO+PARCOURS DIGITAL』JEAN-THIERRY LE BOUGNEC+MARIE-JOSÉ LOPES、アシェット・ジャポン出版社、ISBN ： 9782015135755、本体　4070 円(内税)。

2　推薦辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、倉方秀憲、春木仁孝、大木充、東郷雄二、旺文社、4200 円。

Ⅶ　その他

予習や復習をして、積極的にクラスでのいろいろなアクティビティに参加するのが望ましいです。

スペイン語Ⅰ

教　員　名　　非常勤講師　　小川　雅美

Ⅰ　教育の目的と方針

1　スペイン語は世界で最もよく話されている言語の 1 つであり、日本内外で接する可能性が増している。この科目では、スペイン旅行を主な話題とし、次の 3 つを目的とした教育・学習活動を行う。

・異文化への眼差しを通して広い視野を培う。

・スペイン語を使用する場面で、適切に行為しながら、基本的なコミュニケーション活動ができるようになる。

・信頼できるツールを利用し、新しい言語を自ら学べるためのスキルを培う。

2　授業の方針は次の通り。

・知的関心と積極的・協力的な学習態度を重視する。

・授業は、講義と語学 4 技能の実習（読・聴・書・話）の組み合わせで行う。

・写真と音声からできるだけリアルで具体的な言語表現を導入し、その後汎用性のある文法構造を系統的に教授する。

・各課の最後で旅のやりとりのシミュレーションを行う。

Ⅱ　到達目標

1　スペイン語を他の言語と区別できる。

・ゆっくり話されればそれがスペイン語であると認識できる。

・書かれたスペイン語を、既知の言語と混同せずに発音できる。

2　想定されたスペイン旅行で、旅行客として基本的なやりとりができる。

・挨拶、依頼、お礼、謝り等を簡単な表現で伝えることができる。

・物品、飲食物、施設その他の名称を「名詞句」として構成できる。

・単純な構造のメッセージを、動詞を中心とした「文」として構成できる。

3　教室内でクラスメートや教員と知り合うためのやりとりができる。

・簡単な自己紹介（氏名、出身地、居住地、好きなことなど）ができる。

・互いのプロフィールについて質疑応答ができる。

Ⅲ　授業日程

・4/10　Unidad 1（日本からスペインへ向かうまでのやりとり）

・4/17　Unidad 2（マドリード市内にある標識の文字を発音する）

・4/24　Unidad 3（レストランで飲食物を注文する）

・5/8　Unidad 4（お土産を買う）

・5/15　中間試験と復習

・5/22　Unidad 5（自分や相手の持ち物についてやりとりする）

・5/29　Unidad 6（スペイン観光入門。どこにある？どんな場所？何がある？）

・6/12　Unidad 6（物事や人についての属性と状態についていろいろな文を作る）
・6/19　Unidad 7（マドリードとバルセロナの市内観光。どこで何をする？）
・6/26　Unidad 7（動詞と補足要素でいろいろな文を作る）

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点　20 点

(1)授業活動への積極的な参加。予習の仕方。

(2)小テスト（適宜実施）や練習課題の結果。

(3)正当な理由を示さず 2 回欠席した時点で平常点が 0 点となる。欠席当日授業開始時までに、下鴨事務室に電話連絡すること。

2　中間試験　20 点

それまでに扱った内容が試験範囲となる。

3　期末試験　60 点

「スペイン語Ⅰ」の全体が試験範囲となる。

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、質問や相談に応じる。Gmail（大学のアカウント使用）での質問等も可能。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　教科書　小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社（2500 円＋税）

2　辞書　必携ではないが、購入を推奨する。紙辞書は市販のものであればどれでもよいが、次のものが使いやすい。

鼓直（他）編『プログレッシブ　スペイン語辞典　第 2 版　カレッジエディション』小学館

英西辞典、電子辞書も可能。

3　参考文献（任意）　文法を全体的に学ぶには

小川雅美（著）『スペイン語ワークブック』同学社

Ⅶ　その他

・上記Ⅲの「授業日程」については、実際の授業の進行に合わせて柔軟に調整する。
・授業中：クラスメートと協力しつつ、適度な緊張感とはっきりした声で取り組もう。
・ツールの利用：辞書やオンラインのツール（機械翻訳等）については、適宜指導する。スペイン語学習を目的とし、授業内外でインターネットを利用してもよいが、試験では使用不可。
・予復習：教科書のスペイン語表現の意味調べや小テストのため、毎回必要となる。
・学生への連絡や資料配付等のため、大学のポータルを随時使用する。

スペイン語Ⅱ

教　員　名　　非常勤講師　　小川　雅美

Ⅰ　教育の目的と方針

1　この科目では、スペイン旅行およびスペイン語圏アメリカ地域への旅行を主な話題とし、次の３つを目的とした教育・学習活動を行う。

・異文化への眼差しを通して広い視野を培う。

・スペイン語を使用する場面で、適切に行為しながら、基本的なコミュニケーション活動ができるようになる。

・信頼できるツールを利用し、新しい言語を自ら学べるためのスキルを培う。

2　授業の方針は次の通り。

・知的関心と積極的・協力的な学習態度を重視する。

・授業は、講義と語学４技能の実習（読・聴・書・話）の組み合わせで行う。

・写真と音声からできるだけリアルで具体的な言語表現を導入し、その後汎用性のある文法構造を系統的に教授する。

・各課の最後で旅のやりとりのシミュレーションを行う。

Ⅱ　到達目標

想定されたスペイン語圏への旅行で、旅行客としてスペイン語を使用できる。具体的には次の通り。

・助動詞と動詞の組み合わせで、希望や予定、依頼など実践的なやりとりができる。

・心身の状態についてやりとりし、適切なアドバイスができる。

・1 日の習慣的行為について説明できる。

・表や地図を用いてスペイン語でコミュニケーション活動ができる。

・スペイン語圏の地理や文化についての基礎知識を得る。

Ⅲ　授業日程

・9/18　Unidad　8（スペイン周遊。動詞の活用パターンを学び、高頻度動詞を覚える）

・9/25　Unidad 8（助動詞を用いて実践的な会話の幅を広げる）

・10/2　Unidad 9（イスパノアメリカの地理と気候。地形や気象の表現を覚える）

・10/9　Unidad 9（イスパノアメリカの地理と気候。表を用いて比較する）

・10/16　中間試験と復習

・10/23　Unidad 10（クスコ観光。気持ちや体調についての表現になじむ）

・11/13　Unidad 10（gustar 型動詞を用いた構文を用いてやりとりする）

・11/20　Unidad 11（「聖なる谷」とマチュピチュ観光。物やサービスの授受）

・11/27　Unidad 11（人称代名詞のいろいろな格を用いてやりとりする）

・12/4　Unidad 12（旅の１日。再帰構造を用いて日常生活動作を表現する）

Ⅳ　成績評価基準

1　平常点　20 点

(1)授業活動への積極的な参加。予習の仕方。

(2)小テスト（適宜実施）や練習課題の結果。

(3)正当な理由を示さず 2 回欠席した時点で平常点が 0 点となる。欠席当日授業開始時までに、下鴨事務室に電話連絡すること。

2　中間試験　20 点

それまでに習った内容が試験範囲となる。

3　期末試験　60 点

「スペイン語 II」の全体が試験範囲となる。

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、質問や相談に応じる。Gmail（大学のアカウント使用）での質問等も可能。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　教科書　小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社（2500 円＋税）

2　辞書　「スペイン語 I」と同じ。

3　参考文献（任意）　「スペイン語 I」と同じ。

Ⅶ　その他

・教科書は 16 課構成であり、初級文法をほぼ網羅している。授業では 12 課まで学ぶ予定。

・上記Ⅲの「授業日程」については、実際の授業の進行に合わせて柔軟に調整する。

・授業中：クラスメートと協力しつつ、適度な緊張感とはっきりした声で取り組もう。

・ツールの利用：辞書やオンラインのツール（機械翻訳等）については、適宜指導する。スペイン語学習を目的とし、授業内外でインターネットを利用してもよいが、試験では使用不可。

・予復習：教科書のスペイン語表現の意味調べや小テストのため、毎回必要となる。

・学生への連絡や資料配付等のため、大学のポータルを随時使用する。

中 国 語 Ⅰ

教 員 名　　非常勤講師　　陳　朝朝

Ⅰ　教育の目的と方針

この授業では、中国語の発音や表記、初歩文法など基礎の事項を把握し、中国語の基本的な日常会話表現を身に付けることを目的とする。

授業は、一般講義と演習で行う。

1　導入と口慣らし

(1)テキストのイラスト、単語カードなどを利用して単語の意味を理解させる。

(2)ＣＤ、ＤＶＤなどを繰り返し聞かせ、中国語らしいリズム、イントネーションを身に付けさせる。

2　ロールプレイ

音声ＣＤを利用し、シャドウイング、リプロダクションなどの練習し、会話に慣れさせた後、学生同士のロールプレイへと実践会話。

3　サマライゼーション

各レッスンの会話内容を自分の言葉に置き換え要約する。

4　中国語の歌や映画をすすめる。

Ⅱ　到達目標

1　正確な発音と基礎文法を身につける。

2　各課の本文の内容を覚えて使いこなすこと。

3　中国語で簡単な自己紹介ができる。

4　医療現場で役に立つ表現を身に着ける

Ⅲ　授業日程

・４／10　１　ガイダンス（中国語の仕組み)、授業用語の習得

・４／17　２　あいさつ、ピンインの仕組み

・４／24　３　名前の言い方ピンインの読み方と、４つの声調

・５／８　４　子音、複母音、声調の変化

・５／15　５　ピンインのまとめ復習とテスト。第１課「こんにちは」日常の挨拶表見

・５／22　６　第２課「あなたは中国人ですか」

・５／29　７　第３課「健康保険証を持っていますか」

・６／12　８　第４課「家族にどんな人がいますか」

・６／19　９　まとめ復習

・６／26　10　発表

Ⅳ　成績評価基準

平常点（宿題、発表、授業への取り組み状況など）40％、期末試験の成績 60％より総合的に評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、質問や相談に応じます。(henao8ao@fc.ritsumei.ac.jp)

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書：「医療系学生のための　初級中国語」(前半)

　白帝社　山田眞一　著　￥2,500 円（税別）

参考書：「Why？にこたえるはじめての中国語の文法書」

　同学社　相原茂・石田知子・戸沼市子

Ⅶ　その他

授業前の予習と授業後の復習することが望ましい。

中 国 語 Ⅱ

教 員 名　　非常勤講師　　陳　朝朝

Ⅰ　教育の目的と方針

中国語Ⅱでは、中国語によるコミュニケーション能力を養い、中国語の「４技能」（読む、書く、聞く、話す）をバランスよく向上させ、基本レベルの諸能力の習得を目的とする。また、異文化理解などの指導を通じて、国際社会で活躍できるスキルを身につけた人材を育成する。

授業は、一般講義と演習で行う。

１　導入と口慣らし

(1) テキストのイラスト、単語カードなどを利用して単語の意味を理解させる。

(2)　ＣＤ、ＤＶＤなどを繰り返し聞かせ、中国語らしいリズム、イントネーションを身に付けさせる。

２　役割練習

音声ＣＤを利用し、シャドウイング、リプロダクションなどの練習し、会話に慣れさせた後、学生同士の役割練習へと発展させる。

３　サマライゼーション

各レッスンの会話内容を自分の言葉に置き換え要約する。

４　中国語の歌や映画をすすめる

Ⅱ　到達目標

１　中国語の発音と文を組み立てるための基礎知識を把握する。

２　実践的な中国語のコミュニケーション能力を育成する。

３　各課の本文の内容を覚えて使いこなすこと。

４　医療現場で役に立つ表現を身に着ける

Ⅲ　授業日程

・９／18　１　第５課「あそこで少しお待ちください」
・９／25　２　第６課「少し話せます」
・10／２　３　第７課「検査室に行って検査をしてください」
・10／９　４　第８課「どうしましたか」
・10／16　５　第５～８課の復習と中間テスト
・10／23　６　第９課「口を開けてください」
・11／13　７　第 10 課「この薬を飲んだことがありますか」
・11／20　８　第 11 課「服をあそこに置いてください」
・11／27　９　第 12 課「病状はずっとよくなりました」
・12／４　10　まとめ復習と発表

Ⅳ　成績評価基準

平常点（宿題、発表、授業への取り組み状況など）40％、期末試験の成績 60％より総合的に評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、質問や相談に応じます。(henao8ao@fc.ritsumei.ac.jp)

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書：「医療系学生のための　初級中国語」(前半)

　白帝社　山田眞一　著　￥2,500 円（税別）

参考書：「Why？にこたえるはじめての中国語の文法書」

　同学社　相原茂・石田知子・戸沼市子

Ⅵ　その他

授業前の予習と授業後の復習することが望ましい。

朝鮮韓国語Ⅰ

教　員　名　　非常勤講師　　由村　尚樹

Ⅰ　教育の目的と方針

朝鮮韓国語は、日本語の語順とほぼ同じで、漢字語の音もよく似たものが多く、日本語母語者にとっては他の外国語より学びやすい言語といえます。しかし、ハングル文字はアルファベットや漢字と比べると慣れていないので読みにくいものであります。本講義ではまず文字・発音をたくさん練習し、どのような特徴があるのかを理解しましょう。講義中は韓国の事情や文化についても触れていきます

授業は、指定した教科書を中心に進めますが、理解を深めるために教科書以外の練習問題や印刷物を配布します。

Ⅱ　到達目標

1）ハングル文字の構成を理解できる。
2）よく使う単語が読める、書ける。
3）漢数詞、固有数詞の区別ができる。
4）日本語と助詞の使い方が違う部分を理解する。
5）肯定形、疑問形、否定形などの変化を理解できる。

この講義を通して、隣国の言葉がどのようなものなのかを学習し、日本語と表現方法が同じものと違うものを理解し、学期末にはよく使う基本的な単語やあいさつ、フレーズを言えるよう書けるようにしましょう。

Ⅲ　授業日程

・４／10　1　朝鮮韓国語とは　～わからなくても発音してみよう～
　　안녕하세요. 감사합니다. など
・４／17　2　文字学習①　子音と母音の組み合わせ（平音・激音、パッチムなし）
・４／24　3　文字学習②　子音と母音の組み合わせ（濃音・二重母音、パッチムなし）
・５／8　4　文字学習③　～パッチムとは～　子音と母音の組み合わせ（パッチムあり）
・５／15　5　文字学習④　パッチムがあるものないものを組み合わせ発音しよう
　　1文字２文字３文字
・５／22　6　あいさつ・フレーズ
・５／29　7　ㅂ니다./습니다. 体の動詞学習
・６／12　8　否定文・存在詞学習
・６／19　9　ㅂ니다./습니다. 体の形容詞詞学習
・６／26　10　漢数詞学習、固有数詞学習および曜日学習

※授業内容および進度は状況に応じて変更がありうる。

Ⅳ　成績評価基準

1　出席

体調不良等の場合は下鴨事務室に連絡の上、後日欠席届を下鴨事務室に提出すること。

2　試験

補講日に発音のテスト、試験日に筆記テストを行います。

3　合否基準

出席・小テスト・授業態度 50%、学期末試験 50%

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・由村尚樹講師	水曜日　10:30-12:00	naokitaejon@yahoo.co.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・李志暎『できる韓国語初級Ⅰ　新装版』アスク出版

Ⅶ　その他

講義中の食事は禁止します。

朝鮮韓国語Ⅱ

教　員　名　　非常勤講師　　由村　尚樹

Ⅰ　教育の目的と方針

朝鮮韓国語Ⅰで学習したことを踏まえ、表現練習に入っていきます。表現練習で重要なことは動詞・存在詞・形容詞の肯定形、疑問形、否定形、過去形、過去疑問形、過去否定形などを区別できること、文章と文章を接続する練習を多くすること、そして場面状況に応じて適切な表現ができるかです。講義中は韓国の事情や文化についても触れていきます。

授業は、指定した教科書を中心に進めますが、理解を深めるために教科書以外の練習問題や印刷物を配布します。クラス全体での読み書き聞き取り練習、教室を回りながら個別に読み書きの指導をします。

この授業では、文字学習発音練習記述学習が中心となるため、授業中積極性が求められます。

Ⅱ　到達目標

1）ハングル文字の構成を理解できる。
2）よく使う単語が読める、書ける。
3）漢数詞、固有数詞の区別ができる。
4）日本語と助詞の使い方が違う部分を理解する。
5）肯定形、疑問形、否定形、過去形、敬語形などの変化を理解できる。
6）接続詞、接続形を使い前後の文章をつなげることができる。
7）語幹形、아/어活用形を使い様々な表現をすることができる。

いつどこで誰が何をどうするのかを朝鮮韓国語で表現できるように指導します。日本語と表現方法が同じものと違うものを理解し、自分自身が述べたいことを一つでも多く使えるようにしましょう。

Ⅲ　授業日程

・９／18　1　朝鮮韓国語Ⅰ内容の復習（単語・助詞・数字曜日・語尾）
・９／25　2　ㅂ体の動詞学習
・10／2　3　敬語学習および否定形学習
・10／9　4　過去形学習
・10／16　5　勧誘表現・進行形学習
・10／23　6　あいさつ・フレーズ
・11／13　7　可能・不可能表現学習
・11／20　8　希望・願望表現学習
・11／27　9　許可・禁止表現学習
・12／4　10　義務表現学習

※授業内容および進度は状況に応じて変更がありうる。

Ⅳ　成績評価基準

1　出席

体調不良等の場合は下鴨事務室に連絡の上、後日欠席届を下鴨事務室に提出すること。

2　試験

補講日に発音のテスト、試験日に筆記テストを行います。

3　合否基準

出席・小テスト・授業態度 50%、学期末試験 50%

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・由村尚樹講師	水曜日　10:30-12:00	naokitaejon@yahoo.co.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・李志暎『できる韓国語初級Ⅰ　新装版』アスク出版

Ⅶ　その他

講義中の食事は禁止します。

ラテン語

（三大学共同化科目）

教　員　名　　非常勤講師　　松本　加奈子

Ⅰ　教育の目的と方針

ラテン語の文法項目を一つずつおさえながら、文章を読み解く練習をしていくことで、ラテン語の基礎を修得します。

ラテン語は古代ローマの言語であることから、西洋古典文化に興味のある人以外には役に立たない古語と思われがちですが、近世初期に至るまで長い間、ヨーロッパ共通の学術言語として重宝され続けてきました。その名残は医学、解剖学、薬学、化学から哲学や政治に至るまで文系・理系を問わず様々な分野における多くの用語に見られます。学術論文中の指示語・略語や動植物・細菌などの学名においては、今なお現役で使われ続けており、新しい学名もラテン語で命名されることが決まり（または慣習）となっている分野も多くあります。

ヨーロッパにおいては今でも、自国語のルーツの理解及び外国語習得のための合理的な方法として、西欧の多くの言語に直接的・間接的な影響を及ぼしているラテン語を必修とする国があるように、フランス語、イタリア語、ドイツ語などの諸言語を学ぶ際の助けにもなります。日本の大学生にとっては既習の英語に関しても、単に丸暗記していた文法事項にも本来は意味があったと理解すること、アルファベットの羅列に見えていた単語の語源を知り漢字の部首と同様に意味を連想することで、文法・語彙の理解を深めることが出来るように、関連づけながら学習していく予定です。

Ⅱ　到達目標

1　ラテン語の基礎となる初歩の文法を習得し、辞書や活用表を見ながら簡単なラテン文を読むことが出来るようになる。

2　英語をはじめとする近代ヨーロッパ諸言語へとつながる背景知識を養う。

3　古典の世界に親しむと同時に、身近な語に対する関心や理解を深める。

Ⅲ　授業日程

・９／30　1　文字と発音、規則動詞（現在）、接続詞**（※オンデマンド授業）**
（◆初回から文法項目を学びます。受講する場合は初回から参加すること）

・10／７　2　第１変化名詞、不規則動詞―「少女が詩人にバラを与える」

・10／21　3　第２変化名詞―「子供たちがヤギを連れて行く」

・10／28　4　第１・第２変化形容詞―「ローマは大きくて有名な都市である」

・11／11　5　前置詞、代名詞[1]―「主人は彼の召使と一緒に出かける」

・11／18　6　動詞（未完了過去・未来）―「少女は歌っていた／歌うだろう」

・11／25　7　第３変化名詞―「使者たちが平和の報せをもたらす」

・12／２　8　動詞（完了・過去完了・未来完了）／　ラテン語と英語①（曜日の名称）

・12／９　9　第３変化形容詞 / ラテン語と英語②（月の名称）

・12／16　10　代名詞[2]―「これは気に入り、あれは気に入らない」

・12／23　11　動詞（受動）―「万物は太陽によって照らされる」

・１／６　12　疑問詞―「君たちはそこに<u>何を</u>見ているか」

・１／20　13　関係代名詞―「<u>我々の見たものはすべて</u>我々の気に入った」

※上記の他に２回オンデマンド授業（日程については授業時に指示）
14　学名を読んでみよう　15　第４・第５変化名詞 / 復習

毎回、授業は以下の順番で進みます。
1　前回に学んだ文法項目に関する課題答え合わせ。
2　新たな文法項目を学び、その文法項目を用いたラテン文を読む。

Ⅳ　成績評価基準

評価は、平常点と学年末の筆記試験で判断します。授業や課題に対する取り組みを含む平常点も重視します。
1　毎回の授業で提出する課題などの平常点　4割
2　学年末試験　　6割

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、質問や相談に応じます。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

テキスト：中山恒夫著、『標準ラテン文法』（白水社）

体　　育

教　員　名　　非常勤講師　　屋　京典

Ⅰ　教育の目的と方針

1　各種スポーツを通して、基礎的な運動技能及び健康維持の為の体力を高めること

2　チームでの活動を通して、自己の責任・仲間との協力などの社会的態度を養うこと

3　健康な生活習慣を維持していくための適切な運動習慣を理解し、実践を通して身につけること

4　スポーツ技能向上のための様々な学習・指導方法およびトレーニング方法について学ぶこと

以上 4 点を目的とし、実習・実技を中心としながら、いくつかの課題に取り組む授業を行う。

本授業は、実習・実技（適宜、講義および演習）　を行う

①実習

自ら作成した運動処方プログラムやスポーツの練習プログラムを実践し記録する。上記の内容に関する健康科学実験・運動科学実験に取り組み、その結果をまとめる。

②実技

各種スポーツの練習や試合を通して、基礎的な運動技能や体力を向上させる。

グループ単位での活動においては、チーム力向上のための練習計画を作成し、仲間と協力しながら実践する。

③講義

実習・実技の課題を行う上での基礎となる、運動学習理論、体力トレーニング理論などについて適宜解説する。また、運動による身体機能の変化などについて解説し、運動の必要性について理解を深め、医療現場での運動処方に応用できるようにする。

④演習

運動強度や運動量の推定式などをもとに、自らの運動習慣を強度・時間・頻度などの観点から質的および量的に分析し、今後健康な生活習慣を持続していくための運動処方プログラムを作成する。

Ⅱ　到達目標

本授業を通して、以下に掲げた 5 つの目標を達成できるようにする。

1　定期的な運動によって体力や運動能力を高めることができる

運動を継続し体力を向上させることは、その後の人生を豊かなものにするためにも非常に重要である。しかしスポーツ系のサークルに所属したり、スポーツジムに行ったりしない限り、運動を継続するのはなかなか難しい。そこで本授業では、スポーツやレクリエーションの実習を通して身体を動かすことを継続し、体力や運動能力を高めることを第 1 の目標とする。

2　グループ活動によって社会的態度が形成できる

スポーツを継続することは単に体力を向上させるだけでなく、授業のメンバーと協

力して準備や練習、スポーツ実習をおこなうことで、新しい人間関係（友人関係）をつくり、社会的な態度を養うことが可能となる。さらに、最近のストレス社会においては、スポーツを行うことでストレスを解消する心理的な効果も期待されている。

従って、心理学・生理学・社会学に基づいた人間関係構築及びストレス解消のための方法をスポーツの実技やグループ活動を通して身につけることを第 2 の目標とする。

3　適切な運動習慣を定性的・定量的に理解できる

本授業が終了した後でも、健康な生活習慣を維持していけるように、自己の適切な運動習慣を計画し定期的に実践していけるようになることが理想である。そのために、心拍数、1 回拍出量、心拍出量、カルボーネンの式、基礎代謝量などの概念を理解し、運動強度や身体活動量を自ら計算できるようになることが重要である。

従って、運動強度や身体活動量の計算を通して、実際場面での応用ができるようになることを第 3 の目標とする。

4　スポーツ技能を高めることができる

スポーツを行う上では、運動技能を学習し、修得する一連のプロセスが存在する。運動技能の学習および習得において、プレーヤー（学習者）はどのような手順で練習すればより上達が望めるのか、またコーチ（教示者・示範者）は学習者に対してどのような見地に基づいて運動指導を行えばよいのかについて、講義や実践を通して考えながら、スポーツの技能を高めていくことを第 4 の目標とする。

5　将来を見据えて運動に取り組むことができる

将来、医師となると、様々な疾病に対する運動療法に携わる場面に遭遇することは非常に多くなると思われる。そこで医師として今後様々な患者に対応する立場にある者として、特に生活習慣病の運動療法の方法についての知識を理解し、それを実践できる力をつけることは非常に有用なことであると考える。第 3 の目標にも通じることであるが、それぞれの疾病に対する有効な運動療法についての知識を得ること、実践につなげられる応用力をつけることを第 5 の目標とする。

Ⅲ　授業日程

＜前期＞

・4/11　オリエンテーション
・4/18　サッカー①
・4/25　サッカー②
・5/ 9　アルティメット①
・5/16　アルティメット②
・5/23　アルティメット③
・5/30　講義
・6/13　ポートボール②
・6/20　ポートボール③
・6/27　ポートボール④

＜後期＞

・ 9/19　サッカー①
・ 9/26　サッカー②
・10/ 3　講義
・10/10　アルティメット①
・10/17　アルティメット②
・10/24　アルティメット③
・11/14　講義
・11/21　ポートボール①
・11/28　ポートボール②
・12/ 5　ポートボール③

※天候その他状況により、変更がありうる。

Ⅳ　成績評価基準

成績評価は、年間を前半と後半に分け、それぞれの成績を平均して算出する。具体的には、下記の 1~4 の項目を総合して評価する。

1　出席

体育は実習・実技科目である性質上、出席・参加状況を最重要視する。欠席した場合は診断書を添付した欠席届を提出すること。また遅刻は 30 分までとし、30 分を超えた場合は欠席扱いとする。

2　技術・態度

実習・実技に取り組む態度を評価する。体育の実習・実技に適した服装を必ず用意すること。実習・実技への参加意欲・態度がみられない場合は欠席扱いとする。

3　試験

実習・講義内容の知識に関する筆記試験を各期末に行う予定である。

Ⅴ　オフィスアワー

メールアドレス　kyosuke.oku@gmail.com

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教　科　書：使用しない

参考文献等：東海大学一般体育研究室編『健康・フィットネスと生涯スポーツ』（ 大修館書店、2013 年）

川西正志・野川春夫編著『生涯スポーツ実践論　生涯スポーツを学ぶ人たちに』（ 市村出版、2018 年）

大修館書店編集部『アクティブスポーツ総合版 2019』（ 大修館書店、2019 年）

東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版社、2009 年）

松村道一・小田伸午・石原昭彦編著『脳百話ー動きの仕組みを解き明かす』（市村出版、2003 年）

C .エイブラハム・M .クールズ編、竹中晃ニ・上地広昭監訳『行動変容を促すヘルス・コミュニケーション 根拠に基づく健康情報の伝え方』（ 北大路書房、2018 年）

Ⅶ　その他

受講マナーとして、授業中の飲食および携帯電話の使用は禁止する。ただし、水分補給のための飲料は許可する。

実習・実技の際には、それに適した服装・シューズを用意すること。運動が「できる」という意味ではなく、「体育の授業を受講するにあたって、適したもの」という捉え方をすること。教員が適していないと判断した場合には、出席を認めない場合もある。

総合講義（リレー講座）

教　員　名　　別紙のとおり

Ⅰ　教育の目的と方針

医療及び医学に携わる者は、すべて等しく、自分の携わる医療・医学はいかにあるべきかを、それらの全体との関連において生涯にわたって問うことが課せられている。医学は、自然科学を基礎とし、多くの技術を用いる総合科学であり、また、絶えず先端技術を採り入れる先端科学でもある。

一方で、その先端科学を人類の福祉・保健・医療に適用するためには、深い人間理解に根ざした幅広い人格の形成と教養が生涯要求される。この意味で、医療人・医学者は、科学者としての能力、医療者としての能力、プロフェッショナルとしての能力を生涯涵養してゆくことが必要となる。

そのため、諸君がこれらを理解し自分で考えるための手助けとして、ロールモデルとなる多くの教員が参加するリレー方式の講義を行なう。

Ⅱ　到達目標

1　社会が医療・医学に何を求めているかを理解できる

さまざまなロールモデル（医師、医学者、医療者）による講義を通じて、社会が医師・医学者及び医学生に求める課題を考察する。

2　自分にとっての医療・医学のイメージをつかみ、自己の課題を発見することができる。

3　プロフェッショナルとして必要な態度、勉強法を理解することができる。

プロフェッショナルとしての医療人・医学者にとって、大切な資質、態度とはなにかを考察し、併せて生涯にわたる勉強法、習慣を学ぶ。

Ⅲ　授業日程

次々頁の「総合講義(リレー講座・人権教育)授業日程」参照

Ⅳ　成績評価基準

出席及びレポート

早期体験実習Ⅰ・Ⅱ、統合授業と合わせて評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、教室で質問や相談に応じます。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

適宜、資料を配布

総合講義（人権教育）

教　員　名　　別紙のとおり

Ⅰ　教育の目的と方針

すべての国民は個人として尊重され、生命、自由そして幸福を追求する権利を持つことが憲法において保証されている。

しかしながら、一般社会においては、過去にはハンセン病やエイズ、また最近のCOVID-19 などの感染症に対する誤った認識や理解が差別や偏見につながった事例や、高齢者や障害者、外国人等に対する人権侵害事例も耳にするところである。さらに最近ではインターネットの発達に伴う事例も見受けられるところである。

医療の世界においても、配慮を欠いた医療従事者の言動が患者の不安を増大させることも指摘されており、信頼関係に基づいた患者本位の医療環境を形成するためには、医療従事者の高い人格、豊かな人権意識の養成が望まれている。

この講義では、医師・医療者を目指す学生に対して、誤った認識や理解が差別や偏見につながることを学び、正しい知識に基づく人権意識の涵養を図る。

Ⅱ　到達目標

1　人権問題の理解を深めることができる。

2　差別や偏見の不合理性を理解し、その加害者にならない資質を身に付けることができる。

Ⅲ　授業日程

次頁の「総合講義(リレー講座・人権教育)授業日程」参照

Ⅳ　成績評価基準

出席及びレポート

Ⅴ　オフィスアワー

授業終了後、教室で質問や相談に応じます。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

適宜プリントを配布

Ⅶ　その他

総合講義（リレー講座・人権教育）授業日程

《１学年　前半》

月	日	曜日	時限	内　　容	ＫＰＵＭ学カテゴリー	担　当　者	
						所属・職名	講師名
4	9	火	3	動物実験オリエンテーション	（３）	実験動物センター部門長	大塚　哲
4	12	金	※1	みなさんに期待すること	（２） （４）	学長	夜久　均
4	19	金	※1	附属病院の概要・現状	（４）	附属病院長	佐和貞治
4	26	金	※1	医学科の教育カリキュラム	（３） （４） （６）	教育センター長	天谷文昌
5	10	金	4	医学部生のためのメンタルヘルス		中嶋クリニック院長	中嶋章作
5	17	金	4	(参考)学術情報の活用講座＊			図書館員
5	24	金	4	早期体験実習Ⅰの心構え	（４）	教育センター	担当教員
5	31	金	4	人権教育（１）	（４）	静岡大学教授	山本崇記
6	14	金	4	人権教育（２）	（４）	京都府立大学准教授	村田隆史
6	21	金	4	人権教育（３）	（４）	弁護士	小山優子
6	28	金	4	本学の歴史	（１）	非常勤講師	八木聖弥

※１　１５：３０～１７：００　京都学・歴彩館

＊「(参考)学術情報の活用講座」については、３３８頁を参照のこと。

《１学年　後半》

9	20	金	4	ＯＳＣＥについて	（４）	教育センター	担当教員
9	27	金	4	(参考)予備日			
10	4	金	4	本学の看護教育	（４）	看護学科教授	松岡知子
10	11	金	4	海外での基礎研究留学	（３） （４） （５）	循環器・腎臓内科学　教授	的場聖明ほか
10	18	金	4	早期体験実習Ⅱの心構え	（４）	学生部長ほか	
10	25	金	※2	地域医療実習報告会	（４）		
11	15	金	4	海外での臨床医学留学	（４） （５）	生体機能形態科学　教授	八代健太ほか
11	22	金	4	(参考)eAPRIN 受講講習☆		教育センター	曽和義広
12	3	火	※3	実習報告会①、②、③	（４）	学生部長ほか	

※２　１５：３０～１７：４０　図書館ホール（５学年の「地域医療実習報告会」に「先輩に学ぶ」として参加）

※３　１２：５０～１７：４０　図書館ホール（早期体験実習Ⅱ報告会）

☆「(参考)eAPRIN 受講講習」: eAPRIN は、公正研究推進協会が提供している研究者倫理教育用の e ラーニングプログラムで、本プログラムを受講することで研究倫理の基礎を学修する。

【ＫＰＵＭ学カテゴリー】

ＫＰＵＭ学（３３９頁参照）として取りまとめた本学の特徴ある６つの分野を示している。

(1)大学の設立
(2)京都府における大学の果たす役割
(3)基礎医学研究
(4)医師のプロフェッショナリズム育成
(5)国際交流事業
(6)学際的教育分野等

総合講義（早期体験実習Ⅰ）

教　員　名　　教育センター教員

Ⅰ　教育の目的と方針

本実習では、病院が多職種のスタッフから共同で成り立っていることを知り、見学だけでなく体験を通してチーム医療の真の姿を考える機会を得ることを目標とする。病院での全ての職種について見学・体験することは難しいが、各自が見学・体験する現場で業務内容を患者さんとの関わりの中で理解するように努めること。

具体的には、医師及びその他の医療者の仕事のシャドーイング※を通して、医療者として将来何が求められるのかを知り、多職種によるチーム医療がどのように機能し、医療者として何を工夫・意識しなければならないかを理解する。また、医師側だけではなく、患者さんは病院でどのように過ごし、何を感じているかに触れ、自分なりの理解や考えを深める。そして現場にいる医療者及び患者を尊重し、マナーや倫理面に配慮できるよう強く期待する。

※シャドーイングとは、影のように指導者に寄り添って「見て学ぶ」「そばにいて学ぶ」実習方法。

1　内　容

・病院内各部門及び事務部門の見学

・他の医療者の仕事のシャドーイング

2　実習施設

本学附属病院内各部門、病棟等で行なう。

Ⅱ　到達目標

1　円滑に実習を進めるために必要な倫理的配慮、常識・マナーなどを理解し、実践できる。

2　患者とコミュニケーションを取り、患者の視点からみた医療・病院とは何かを理解できる。

3　医師及びその他の医療者の仕事をシャドーイングし、それぞれにどのような役割を担っているか、やり甲斐や大変さはどのような点に認められるかを理解できる。

4　医療におけるチーム医療の実際、連携のために現場で行われている工夫などを理解し、チーム医療には何が重要かを理解できる。

Ⅲ　授業日程

	実　　習	
	日　　程	場　　所
実　習	６月４日（火）～６日（木）	附属病院内各部門等
まとめ	６月７日（金）	下鴨キャンパス

＊日程や方法、場所については、変更する場合がある。

＊グループ分け、実習部門等の詳細については別途連絡する。

Ⅳ　成績評価基準

実習態度の評価（50 点）、レポート課題（50 点）

リレー講座、統合授業、早期体験実習Ⅱと合わせて評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

下鴨事務室、教育センターにて適宜質問や相談に応じる。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

適宜資料を配布する。

Ⅶ　その他

○　実習上の注意

1　入学手続きで指示のあった抗体検査及び予防接種により、必ず実習までに必要な免疫を獲得しておくこと。必要な免疫が獲得できていない場合は実習は受けられない。

2　感染症拡大警戒時においては、往々にしてオンライン課題・オンライン実習に切り替わる
可能性があるため、各自 Zoom ミーティング、Google の stu メールアカウントでのアクセスができる様に準備しておくこと。

3　実習は単なる視察や「教えてください」という受身ではなく、「自ら学ぶ」という意欲的な心構えで望む。

4　本実習中は、他人に不快感を与えない清潔な身だしなみ、挨拶を励行し、礼儀正しく節度ある態度を特に心がける。身だしなみが不適切なときは実習に参加できない場合がある。

5　実習の性格上プライバシーに立ち入ることもあるので、守秘義務を守り、配慮の行き届いた行動を心がける。アンプロフェッショナルな言動が見られる場合は、実習を中止することもある。

6　各教室・施設では、担当教員の指示に従って実習を受ける。

7　まとめにおいて、実習の内容、感想、意見を発表し、質疑・討論を行なう。

8　実習後、指示された方法によりレポート(日々及び全体)を提出すること。

9　実習不参加者は単位が取得できない。

※　なお、社会情勢により変更もありうる。追加情報を適宜参照すること。

総合講義（早期体験実習Ⅱ）

教　員　名　　教授　武藤倫弘　ほか

Ⅰ　教育の目的と方針

本実習では、みなさんが卒前・卒後に参画するであろう医療・医学の現場（フィールド）を体験し、医療・医学とはなにかを問いただすことによって、将来の自己像、医療・医学における課題をより深く考察することを目的とし、体験実習と実習報告会等を行なう。

配属教室の臨床、研究、教育の現場で活動するさまざまな医師・医学者の仕事を体験する。本実習が、医療や人間の姿を広い視点から捉え、人間の見方の幅を広げる契機となるよう、積極的な姿勢で臨んでほしい。

（１）指　導

実習先教室の指導担当者に直接指導を受ける。

（２）実習先

本学附属病院及び研究室で行なう。

Ⅱ　到達目標

医療・医学の現場での体験を通して、自分にとっての医学・医療のイメージを形成し、将来における自己の課題を発見して考察する。

Ⅲ　授業日程

	日　　程	場　　所
模擬患者(OSCE)	１０月６日(日)	本学附属病院
実　習	１１月５日(火)～１１月８日(金)	各診療科・研究室
報告会	１２月３日(火)	河原町キャンパス

日程や方法については、変更する場合がある。

グループ分け、実習先等の詳細については別途連絡する。

Ⅳ　成績評価基準

担当教員及び教授作成の実習評価票、出席及びレポート

リレー講座、早期体験実習Ⅰ、統合授業と合わせて評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

実習に関する質問等には、担当教員の研究室にアポイントメントの連絡を行い調整の上、個別に対応する。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

適宜プリントを配布

Ⅶ　その他

□実習上の注意

①感染症拡大警戒時等においては、オンライン課題・オンライン実習に切り替わる可能性がある。各自 Zoom ミーティング、Google アカウントでのアクセスができる様に準備をしておくこと。

②単なる視察や「教えてください」という受身ではなく、「自ら学ぶ」という意欲的な心構えで臨む。

③本実習中は、他人に不快感を与えない清潔な身だしなみ、挨拶を励行し、礼儀正しく節度

ある態度を特に心がける。身だしなみが不適切なときは実習に参加できない場合がある。

④実習の性格上、プライバシーに立ち入ることもあるので、守秘義務を守り、配慮の行き届いた行動を心がける。

アンプロフェッショナルな言動が見られる場合は実習を中止することがある。

⑤各診療科・研究室では、担当教員の指示に従って実習を受ける。

⑥実習後、実習票及び報告書を提出し、報告会において実習の内容、感想、意見を発表し、

質疑・討論を行なう。

⑦実習および報告会の不参加者は総合講義の単位を修得することができない。

⑧実習に先立ち、１０／６（日）に実施される上回生のＯＳＣＥ試験に模擬患者として参加すること。

総合講義（統合授業）

教　員　名　　教育センター教員

Ⅰ　教育の目的と方針

「患者さんから学ぶ」、「安全・安心な医療」を目指して、患者さんや患者会からの話を聞き、医療現場での諸課題について取り組む姿勢を育むとともに、「安全・安心な医療」の意味と多職種のチェック機構を知り、プロフェッショナリズムを育成することを目的とする。

Ⅱ　到達目標

1　病気や障害と生きる人たちを理解し、医師及び医学者のあるべき姿を描く。
2　患者さん以外の多職種や専門職の見解を学ぶ。
3　自習とチーム学習を通して、相互評価とプレゼンテーション能力を身につける。
4　縦割り学年とのチーム学習を通してお互いを高め合い幅広い視野を身につける。

Ⅲ　授業日程

1　実 施 日　１月７日(火)～１０日(金)
2　テ ー マ　①　患者さんから学ぶ　　②　安全・安心な医療
3　対象学年　第１・第３学年
4　方　　法　講義、講演、事前学習とグループ討議（ペイシェントジャーニーを用いたTBL)、チーム発表

TBL の視点

・共鳴したこと、気付いたこと
・学生からみた課題と考えられる対応・提言
・医療のあり方、安全、安心な医療とは

＜予定（暫定）＞

１／７（火）	１／８（水）	１／９（木）	１／１０（金）
オリエンテーション 患者さん等の話 グループワーク （グループ学習）	グループワーク （グループ学習）	グループワーク （グループ学習） 発表資料作成 発表 総括ＴＢＬ	レポート作成

＊　社会情勢により変更もありうるため、追加情報を適宜参照すること。

Ⅳ　成績評価基準

○　個人（70 点）

・態度評価（30 点）　出欠状況、班員同士のピア評価を含む

・レポート（40 点）

・アンケート（評価に含まない）

○　班ごと（30 点）

・発表プロダクト（パワーポイントなどを用いて作成のこと）

Ⅴ　オフィスアワー

教育支援課、下鴨事務室、教育センターにて適宜質問や相談に応じる。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教材等は適宜配布する

V　専 門 教 育 要 項

（第１学年後期～第６学年）

基　礎　医　学　・・・１６４
解剖学、生理学、分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学、病理学

社　会　医　学　・・・２０３
保健・予防医学、法医学

臨　床　医　学　・・・２１２
循環器ユニット、呼吸器ユニット、神経ユニット、消化器ユニット、
内科学、外科学（小児外科学、小児心臓血管外科学を含む）、整形外科学、産婦人科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、精神医学、放射線医学、麻酔科学、疼痛・緩和医療学、感染症学・臨床検査医学（人体病理学を含む）、救急医療学、総合診療学・地域医療学（臨床実習前 OSCE 講座を含む）、リハビリテーション医学、生物統計学、医療、研究におけるレギュラトリーサイエンス

臨　床　実　習　・・・３１４

地域医療実習　・・・３１５

総　合　講　義　・・・３１８

研　究　配　属　・・・３２３

選　択　科　目　・・・３３３
歯科口腔科学、臨床病理セミナー

１　専門科目の履修

１　授業科目（別表Ⅰ専門教育授業科目一覧表参照）

（１）必修科目

解剖学、生理学、分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学、病理学、保健・予防医学、法医学、循環器ユニット、呼吸器ユニット、神経ユニット、消化器ユニット、内科学、外科学（小児外科学、小児心臓血管外科学を含む）、整形外科学、産婦人科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、精神医学、放射線医学、麻酔科学、疼痛・緩和医療学、感染症学・臨床検査医学（人体病理学を含む）、救急医療学、総合診療学・地域医療学（臨床実習前 OSCE 講座を含む）、リハビリテーション医学、生物統計学、医療、研究におけるレギュラトリーサイエンス、臨床実習、地域医療実習、臨床演習、総合講義、研究配属

（２）選択科目

歯科口腔科学、臨床病理セミナー

（３）その他

特別講義、関連講義、補講等

２　試　　験

（１）定期試験は原則として授業終了時の学期末又は次の学期末に、追試験及び再試験は、第６学年及び特別の事情がある場合を除き、各学年に１回行う。中間試験は随時行う。（別表Ⅱの専門科目試験実施時期一覧表参照）

（２）学生は、講義（臨床演習を含む。）時間数の６０％以上及び実習（臨床演習を除く演習を含む。）については全て出席しなければ、当該試験を受けることができない。ただし､実習に関しては､病気や忌引き等のやむを得ない理由があると認められる場合には、欠席届を以って出席と認める場合がある。

（３）臨床授業科目の試験は、第一次試験と第二次試験（総合試験）とに分けて行う。第一次試験は原則として、講義終了時又はその学期末若しくは次の学期末に、第二次試験は第６学年の後期にそれぞれ行う。

（４）総合講義修了の認定については、次のとおりとする。

学年毎に単位認定を行う。(学年での単位が取得でなきかった場合は､留年となる。)

各講義の小テストによる合格数が「各項目に６０％以上」を満たすものについて各項目の修了を認定する｡修了した項目数が学年で行われる項目数の３分の２以上である場合に、学年の総合講義の単位認定を行う。

（５）研究配属修了の認定については、オリエンテーション講座の出席、レポートの提出、口頭発表などにより配属教室において判定する。

（６）選択科目についての追再試験は実施しない。

３ 進　　級

各学年の進級要件は、次の要件を全て満たしている者とする。なお、要件を満たさない者は当該学年にとどまり、次年度、原則として全ての科目を再履修する。

（１）第２学年末において、第２学年に行われる基礎医学授業科目（解剖学、生理学及び分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学及び病理学）及び教養英語、総合講義の全ての科目の単位を修得した者

（２）第３学年末において、第３学年に行われる臨床医学科目、生物統計学、総合講義及び医学英語の全ての科目の単位を修得した者

（３）第４学年末において、社会医学、国際医学英語、行動科学応用、臨床演習、総合診療学・地域医療学（臨床実習前 OSCE 講座を含む）、研究配属及び総合講義について、全ての科目の単位を修得し、共用試験（CBT 及び Pre-CC OSCE）に合格した者

（４）第５学年末において、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅠ）、総合講義、地域医療実習、医療倫理学及び医療統計学の全ての科目の単位を修得及び進級試験に合格した者

４ 卒　　業

第６学年の卒業要件は、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅡ）の単位を修得し、共用試験（臨床実習後 OSCE）及び卒業試験に合格するとともに、ディプロマポリシーを満たした者とする。なお、要件を満たさない者は当該学年にとどまり、次年度、原則として全ての科目を再履修する。

別表Ⅰ

専門教育授業科目一覧表（平成30年度以前入学者）

区分	授業科目	必修・選択の別	回数	単位	備考
基礎医学	解剖学◎	必修	136	9	計４６単位（実習を含む）
	生理学◎	必修	88	8	
	分子医科学◎	必修	90	8	
	感染病態学(微生物・医動物学)◎	必修	74	5	
	免疫学◎	必修	42	4	
	薬理学◎	必修	55	4	
	病理学◎	必修	105	8	
社会医学	保健・予防医学◎	必修	70	4.5	計６．５単位（実習を含む）
	法医学◎	必修	20	2	
臨床医学	内科学（神経内科学・老年内科学を含む）◎	必修	65	6.5	計３２単位
	外科学（小児外科学を含む）◎	必修	40	4	
	脳神経外科学◎	必修	10	1	
	整形外科学◎	必修	16	1.5	
	産婦人科学◎	必修	22	2	
	小児科学◎	必修	18	1.5	
	眼科学◎	必修	10	1	
	皮膚科学◎	必修	10	1	
	泌尿器科学◎	必修	10	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学◎	必修	10	1	
	精神医学◎	必修	10	1	
	放射線医学◎	必修	11	1	
	麻酔科学◎	必修	10	1	
	疼痛・緩和医療学◎	必修	3		
	感染症学・臨床検査医学◎	必修	12	1	
	救急医療学◎	必修	12	1	
	総合診療学◎	必修	63	4.5	
	リハビリテーション医学◎	必修	8	1	
	生物統計学◎	必修	8	1	
	医療レギュラトリーサイエンス学	必修	2	0.25	
	臨床実習◎	必修	1440	72	計７３単位
	地域医療実習◎	必修	20	1	
	臨床演習◎	必修	44	4.5	計４．５単位
その他	総合講義Ⅰ◎	必修	50	5	計１６単位
	総合講義Ⅱ◎	必修	16	1.5	
	総合講義Ⅲ◎	必修	37	3.5	
	研究配属◎	必修	120	6	
	歯科口腔科学◎	選択	6	0.5	
	臨床病理セミナー◎	選択	10	1	

（注１）このほか、特別講義及びセミナー等を随時開催することができる。

（注２）**◎印の科目は医師等が自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う実務家教員担当科目である**。

別表Ⅰ

専門教育授業科目一覧表（平成31年度以降入学者）

区分	授　業　科　目	必修・選択の別	回数	単位	備　　考
基礎医学	解剖学◎	必修	136	9	計４６単位（実習を含む）
	生理学◎	必修	88	8	
	分子医科学◎	必修	90	8	
	感染病態学(微生物・医動物学)◎	必修	74	5	
	免疫学◎	必修	42	4	
	薬理学◎	必修	55	4	
	病理学◎	必修	105	8	
社会医学	保健・予防医学◎	必修	70	4.5	計６．５単位（実習を含む）
	法医学◎	必修	20	2	
臨床医学	循環器ユニット◎	必修	29	1.9	計36.75単位
	呼吸器ユニット◎	必修	39	2.6	
	神経ユニット◎	必修	63	4.2	
	消化器ユニット◎	必修	42	2.8	
	内科学（ユニット科目除く）◎	必修	24	2.4	
	外科学（ユニット科目除く）◎	必修	21	2.1	
	整形外科学◎	必修	16	1.5	
	産婦人科学◎	必修	22	2	
	小児科学◎	必修	18	1.5	
	眼科学◎	必修	10	1	
	皮膚科学◎	必修	10	1	
	泌尿器科学◎	必修	10	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学◎	必修	10	1	
	精神医学◎	必修	10	1	
	放射線医学◎	必修	11	1	
	麻酔科学◎	必修	10	1	
	疼痛・緩和医療学◎	必修	3		
	感染症学・臨床検査医学◎	必修	12	1	
	救急医療学◎	必修	12	1	
	総合診療学・地域医療学◎	必修	63	4.5	
	リハビリテーション医学◎	必修	8	1	
	生物統計学◎	必修	8	1	
	医療レギュラトリーサイエンス学	必修	2	0.25	
	臨床実習◎	必修	1440	72	計７３単位
	地域医療実習◎	必修	20	1	
	臨床演習◎	必修	44	4.5	計４．５単位
その他	総合講義Ⅰ◎	必修	32	3.2	計20.5単位
	総合講義Ⅱ◎	必修	54	5.4	
	総合講義Ⅲ◎	必修	16	1.6	
	総合講義Ⅳ◎	必修	5	0.5	
	総合講義Ⅴ◎	必修	28	2.8	
	研究配属◎	必修	120	6	
	国際医学英語(International Medical English) ◎	必修	12	1	
	歯科口腔科学◎	選択	6	0.5	
	臨床病理セミナー◎	選択	10	1	

（注１）このほか、特別講義及びセミナー等を随時開催することができる。

（注２）**◎印の科目は医師等が自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う実務家教員担当科目である。**

令和６年度　実務経験のある教員等による授業科目一覧（臨床医学）

教室名	職名	代表教員	実務経験の内容
内分泌・免疫内科学	教授	福井　道明	医師
循環器・腎臓内科学	教授	的場　聖明	医師
呼吸器内科学	教授	髙山　浩一	医師
消化器内科学	教授	伊藤　義人	医師
血液内科学	教授	黒田　純也	医師
脳神経内科学	准教授	笠井　高士	医師
消化器外科学	准教授	窪田　健	医師
移植・一般外科学	講師	昇　修治	医師
内分泌・乳腺外科学	教授	直居　靖人	医師
心臓血管外科学	准教授	沼田　智	医師
呼吸器外科学	教授	井上　匡美	医師
小児外科学	教授	小野　滋	医師
形成外科学	病院教授	沼尻　敏明	医師
脳神経外科学	教授	橋本　直哉	医師
整形外科学	教授	高橋　謙治	医師
リハビリテーション医学	教授	三上　靖夫	医師
産婦人科学	教授	森　泰輔	医師
小児科学	教授	家原　知子	医師
眼科学	教授	外園　千恵	医師
皮膚科学	准教授	益田　浩司	医師
泌尿器科学	教授	浮村　理	医師
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	教授	平野　滋	医師
精神医学	教授	成本　迅	医師
放射線医学	教授	山田　恵	医師
麻酔科学	准教授	上野　博司	医師
疼痛・緩和医療学	教授	天谷　文昌	医師
感染症学・臨床検査医学	教授	貫井　陽子	医師
救急医療学	教授	太田　凡	医師
人体病理学	病院教授	小西　英一	医師
総合医療・地域医療学	教授	四方　哲	医師

臨床医学講義については、すべて実務経験のある教員（大学附属病院等における勤務経験のある医師等）によって実施されている。

別表Ⅱ

専門科目試験実施時期一覧表

学年		2学年						3学年						4学年						5学年						6学年				
学期		前期	夏休	後期		冬休	春休	前期	夏休	後期		冬休	春休	前期		夏休	後期		冬休	春休	前期	夏休	後期		冬休	春休	前期	夏休	後期	冬休	春休
基礎医学科目	解剖学			●	○																											
	生理学			●	○																											
	分子医科学			●	○																											
	薬理学			●	○																											
	感染病態学(微生物・医動物学)			●	○																											
	免疫学			●	○																											
	病理学			●	○																											
社会医学	保健・予防医学													●	○																	
	法医学													●	○																	
共用試験（CBT・OSCE）																	●	○														
臨床医学科目	内科学							●		○					○																	
	外科学							●		○					○																	
	産婦人科学							●		○					○																	
	小児科学							●		○					○																	
	精神医学							●		○					○																	
	放射線医学							●		○					○																	
	感染症学・臨床検査医学							●		○					○																	
	病理各論							●		○																						
	臓器別ユニット							●		○																						
	整形外科学									●	○																					
	眼科学									●	○																					
	皮膚科学									●	○																					
	泌尿器科学									●	○																					
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学									●	○																					
	麻酔科学(疼痛・緩和医療学を含む)									●	○																					
	救急医療学									●	○																					
	リハビリテーション医学									●	○																					
	生物統計学									●	○																					
	総合診療学																●	○														
	進級試験																						●	○								
	卒業試験																													★	○	
	Post－CC OSCE																													★	○	
進級判定					△								△					△							△					△		

（注）変更される場合があるので、注意すること。

凡例

●	定期試験
○	追再試験
★	卒業試験

（注）1　第２・３・４学年の留年生は不合格となった授業科目を再度履修し、定期試験から受験することができる。

2　その他の試験実施上の注意事項は、別に掲示する。

令和６年度　講義室

第１学年　　第１講義室（基礎医学学舎１階）

※後期（2 月 17 日～）

第２学年　　第２講義室（基礎医学学舎１階）

第３学年　　第１講義室（基礎医学学舎１階）

第４学年　　第１演習室（基礎医学学舎２階）

12 月からは臨床実習である。

第５学年　　北臨床講義室（臨床講義棟２階）

4 月からは臨床実習である。

第６学年　　南臨床講義室（臨床講義棟２階）

4 月からは臨床実習である。

令和６年度　第２学年　前期　授業時間割

◎：講義、実習
△：実習・演習

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
（４／１～５）	（春季休業）																								
１ｗ（４／８～１２）	解剖	解剖	解剖△			生理	生理	分医	分医		解剖	解剖	解剖△			解剖	解剖△				生理	生理	分医	教養英語	
２ｗ（４／１５～１９）	生理	生理	解剖△			分医	分医	健康診断			分医	分医	解剖△			生理	生理	解剖△			分医	分医	生理		
３ｗ（４／２２～２６）	解剖	解剖△				解剖	解剖	解剖△			生理	生理	分医	分医		解剖	解剖	解剖△			生理	生理	分医		
（４／２９～５／３）	（昭和の日）					（対慈恵戦）															（憲法記念の日）				
４ｗ（５／６～１０）	（振替休日）					分医	分医	生理	生理		解剖	解剖	解剖△			分医	分医	解剖△			分医	分医	生理	教養英語	
５ｗ（５／１３～１７）	解剖	解剖	解剖△			生理	生理	分医	分医		生理	生理	解剖△			解剖	解剖	解剖△			生理	生理	分医		
６ｗ（５／２０～２４）	分医	分医	解剖△			解剖	解剖	解剖△			分医	分医	生理	生理		分医	分医	生理	生理		分医	分医	生理		
７ｗ（５／２７～３１）	分医△					分医△					分医△					分医△					分医△		生理		
８ｗ（６／３～７）	生理△					生理△					生理△					生理△					生理△				
９ｗ（６／１０～１４）	解剖	生理	解剖△			生理	生理	分医	分医		生理	生理	解剖△			解剖	解剖	解剖△			生理	生理	分医	教養英語	
１０ｗ（６／１７～２１）	分医	分医	解剖△			分医	分医	生理	生理		解剖	解剖	解剖△			分医	分医	解剖△			分医	分医	生理		
１１ｗ（６／２４～２８）	解剖	解剖	解剖△			生理	生理	解剖△			生理	生理	分医	分医		生理	生理	解剖△			生理	生理	分医		
１２ｗ（７／１～５）	生理	生理	解剖△			分医	分医	生理	生理		生理	生理	解剖△			解剖	解剖	解剖△			分医	分医	生理		
１３ｗ（７／８～１２）	分医	分医	解剖△				解剖	分医	分医			解剖	解剖△			生理	生理					生理	分医		
１４ｗ（７／１５～１９）	（海の日）						生理	解剖△				生理	解剖△				生理	解剖△			分医	分医	生理		
１５ｗ（７／２２～２６）			解剖△									解剖													
１６ｗ（９／２～６）	定期試験（生体構造科学）					予備日					定期試験（細胞生理学）					予備日					定期試験（生体機能形態科学）				
１７ｗ（９／９～１３）	予備日					定期試験（分子生化学）					定期試験（ゲノム医科学）					予備日					定期試験（統合生理学）				
１８ｗ（９／１６～２０）	（敬老の日）					感染◎		病理総論◎				感染◎	免疫	免疫		感染◎		病理総論◎			病理総論◎				
１９ｗ（９／２３～２７）	（振替休日）					病理総論◎		免疫	免疫		感染◎		病理総論◎			薬理	薬理	病理総論◎			病理総論◎			教養英語	

令和６年度　第２学年　後期　授業時間割

◎：講義、実習
△：実習・演習

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
１w（９／３０～１０／４）	免疫	免疫	病理総論◎			病理総論◎		免疫	免疫		感染◎		病理総論◎			免疫	免疫	薬理			病理総論◎			教養英語	
２w（１０／７～１１）	免疫	免疫	病理総論◎			病理総論◎		免疫	免疫		感染◎		病理総論◎			薬理	薬理	病理総論◎			病理総論◎				
３w（１０／１４～１８）	（スポーツの日）					病理総論◎		免疫	免疫		感染◎		病理総論◎			薬理	薬理	病理総論◎			薬理	薬理	薬理		
４w（１０／２１～２５）	免疫	免疫	病理総論◎			感染◎		免疫	免疫		感染◎		免疫	免疫		感染◎		病理総論◎			病理総論◎		薬理		
（１０/２８～１１/１）	（トリアス祭）																								
５w（１１／４～８）	（振替休日）					病理総論◎		薬理	薬理		感染◎		薬理	薬理		感染◎		薬理	薬理		薬理	薬理	病理◎	教養英語	
６w（１１／１１～１５）	病理総論◎		免疫	免疫		薬理	薬理	免疫	免疫		薬理	薬理	免疫	免疫		感染◎		免疫	免疫		薬理	薬理	病理◎		
７w（１１／１８～２２）	薬理	薬理	免疫	免疫		薬理△		感染◎			感染◎		薬理△			免疫	免疫	病理総論◎			薬理△		感染△		
８w（１１／２５～２９）	薬理△		感染△			薬理△		薬理△			感染△		感染△			病理総論◎		感染△			病理総論◎		感染△		
９w（１２／２～６）	薬理△		感染△			感染△		薬理△			感染△		薬理△			薬理△					薬理△				
１０w（１２／９～１３）	追再試験（生体構造科学）					追再試験（ゲノム医科学）					予備日					追再試験（細胞整理学）									
１１w（１２／１６～２０）	追再試験（生体機能形態科学）					予備日					追再試験（統合生理学）					予備日					追再試験（分子生化学）				
（冬季休業）（１２／２３～２７）	（冬季休業）																								
（冬季休業）（１２／３０～１／３）	（冬季休業）																								
１２w（1／6～10）						感染◎		免疫△			病理総論◎		免疫△			病理総論◎		免疫△				感染◎	病理総論◎		
１３w（1／13～17）	（成人の日）																								
１４w（１／２０～２４）	定期試験（感染病態学）					予備日					定期試験（薬理学）					予備日					定期試験（免疫学）				
１５w（１／２７～３１）	定期試験（細胞分子機能病理学）					予備日					予備日					定期試験（分子病態病理学）					先端生命科学	先端生命科学	先端生命科学	先端生命科学	
１６w（２／３～７）			病理各論◎	病理各論◎				病理◎	病理◎				病理◎	病理◎		病理◎	病理◎	病理◎			先端生命科学	先端生命科学	先端生命科学	先端生命科学	
１７w（２／１０～１４）	病理△		病理△			（建国記念の日）					病理△		病理△			病理△		病理△			病理△		病理△		
１８w（２／１７～２１）	病理◎	病理◎	病理◎																						
１９w（２／２４～２８）	（振替休日）					追再試験（分子病態病理学）					予備日					予備日					追再試験（細胞分子機能病理学）				
２０w（３／３～７）	追再試験（感染病態学）					予備日					追再試験（薬理学）					予備日					追再試験（免疫学）				
２１w（３／１０～１４）																					成績（進級）判定（追試験（病理、薬理、免疫、感染））				
（春季休業）（３／１７～２１）	（春季休業）															（春分の日）					（春季休業）				
（春季休業）（３／２４～２８）	（春季休業）																								

1月24日（金）（予定）成績（進級）判定（追再試験（解剖、生理、分医））

令和６年度　第３学年　前期　授業時間割

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
（４／１～５）	（春季休業）																								
１ｗ（４／８～１２）	外	精	循環器U	循環器U		内	放	循環器U	循環器U	循環器U	臨	小	循環器U	循環器U		産	医学英語①	循環器U	循環器U			小	循環器U	循環器U	
２ｗ（４／１５～１９）	内	精	循環器U	循環器U	循環器U	臨	放	健康診断			産	小	循環器U	循環器U		精	医学英語②	循環器U	循環器U	循環器U		小	循環器U	循環器U	
３ｗ（４／２２～２６）	内	精	循環器U	循環器U	循環器U	臨	放	循環器U			産	小	循環器U	循環器U		外	医学英語③	産	産	内	外（小）	小	循環器U	循環器U	
（４／２９～５／３）	（昭和の日）					（対慈恵戦）															（憲法記念の日）				
４ｗ（５／６～１０）	（振替休日）					臨	放	呼吸U	呼吸U	呼吸U	産	小	呼吸U	呼吸U	呼吸U	事前学習	医学英語④	事前学習			循環器試験				
５ｗ（５／１３～１７）	内	精	呼吸U	呼吸U	呼吸U	臨	放	呼吸U	呼吸U		産	小	呼吸U	呼吸U		内	医学英語⑤	呼吸U	呼吸U		外（小）	小	呼吸U	呼吸U	
６ｗ（５／２０～２４）	内	精	呼吸U	呼吸U		臨	放	呼吸U	呼吸U		産	小	呼吸U	呼吸U		内	医学英語⑥	呼吸U	呼吸U		外	小	呼吸U	呼吸U	
７ｗ（５／２７～３１）		精	呼吸U	呼吸U		臨		呼吸U	呼吸U	呼吸U	産	小	呼吸U	呼吸U		放	医学英語⑦	呼吸U	呼吸U	呼吸U	外	小	呼吸U	呼吸U	
８ｗ（６／３～７）	内	精	内	外（小）	内	臨	放	外	外	外（小）	産	小	内	産	内	事前学習	医学英語⑧	事前学習			呼吸器試験				
９ｗ（６／１０～１４）	内	精	内	外	内	臨	放	外	産	小児系	産	小	内	外	産	内	医学英語⑨	内	外	内	外	小	内	外（小）	産
１０ｗ（６／１７～２１）	内	精	小	産	外（小）	臨	放	放	内	産	産	小		外	内	外	医学英語⑩	内	産	産	外	臨	外	産	産
１１ｗ（６／２４～６／２８）	定期試験（内科学）					予備日					定期試験（小児科学）					定期試験（精神医学）					定期試験（産婦人科学）				
１２ｗ（７／１～５）	定期試験（感染制御・検査医学）					定期試験（放射線医学）					定期試験（外科学）					予備日					定期試験（病理各論）				
１３ｗ（７／８～１２）	神経U	神経U	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U			医学英語⑪	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U	
１４ｗ（７／１５～１９）	（海の日）					神経U	神経U	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U			医学英語⑫	神経U	神経U	神経U	研究配属オリエンテーション				
１５ｗ（７／２２～２６）	神経U	神経U	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U	神経U			神経U	神経U	神経U	神経U	神経U	神経U	神経U	
１６ｗ（９／２～６）	神経U	神経U	神経U	神経U		神経U	神経U	神経U	神経U			神経U	神経U	神経U			医学英語①		神経U		神経U	神経U	神経U		
１７ｗ（９／９～１３）	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U		消化器U	消化器U	消化器U			事前学習	医学英語②	事前学習			神経試験				
１８ｗ（９／１６～２０）	（敬老の日）					消化器U	消化器U		消化器U	消化器U	消化器U		消化器U	消化器U			医学英語③	消化器U		Ｂ肝					
１９ｗ（９／２３～２７）	（振替休日）					消化器U	消化器U		消化器U	消化器U			消化器U	消化器U			医学英語④	消化器U	消化器U		消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	

令和６年度　第３学年　後期　授業時間割

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
１w（９／３０～１０／４）	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U	消化器U		消化器U	消化器U	消化器U	事前学習					消化器試験					－	－	－	－	－
２w（１０／７～１１）	皮	麻	整	臨病		皮	整	生統	生統		耳	整	泌	耳			医学英語⑤	眼	麻		歯	耳	泌	歯	
３w（１０／１４～１８）	（スポーツの日）					皮	整	生統	生統		眼	整	泌	眼		整	医学英語⑥	泌	麻		歯	耳	整	泌	
４w（１０/２１～２５）	皮	麻	整	臨病		皮	整	生統	生統		麻	泌		眼	B肝	耳	医学英語⑦	整	眼		歯		臨病	臨病	
（１０／２８～１１／１）	（トリアス祭）																								
５w（１１／４～８）	（振替休日）					耳	皮	生統	生統		眼	整	泌	整			医学英語⑧	整	麻		歯	耳	整	臨病	
６w（１１／１１～１５）	皮	麻	整	臨病				救	救		救	救	泌	泌		耳	医学英語⑨	皮	麻		歯	耳		臨病	
７w（１１／１８～２２）	皮	麻	臨病	臨病			疼	救	救		眼	救		眼			医学英語⑩	整	麻		救	救	眼	臨病	
８w（１１／２５～２９）	皮	疼	リハ	リハ		耳	眼	リハ	リハ		救	泌	リハ	リハ			疼	リハ	リハ						
９w（１２／２～６）	定期試験（麻酔科学、疼痛・緩和医療学）					定期試験（リハビリテーション医学）					予備日					定期試験（眼科学）筆答					定期試験（眼科学）口答				
１０w（１２／９～１３）	予備日					予備日					定期試験（皮膚科学）					定期試験（整形外科学）					予備日				
１１w（１２／１６～２０）	定期試験（泌尿器科学）					予備日					定期試験（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）					定期試験（生物統計学）					定期試験（救急医療学）				
（冬季休業）（１２／２３～２７）	（冬季休業）																								
（冬季休業）（１２／３０～１／３）	（冬季休業）																								
１２w（1／6～10）	（冬季休業）										追再試験（消化器ユニット）午前 追再試験（産婦人科学）午後					追再試験（精神医学）					追再試験（病理各論）				
１３w（1／13～17）	（成人の日）					追再試験（放射線医学）					追再試験（外科学）					追再試験（感染制御・検査医学）					追再試験（循環器ユニット）				
１４w（１／２０～２４）	追再試験（内科学）					追再試験（呼吸器ユニット）					追再試験（小児科学）						医学英語⑪	医用工学	医用工学	再生医学		医用工学	医用工学	医用工学	
１５w（１／２７～３１）				再生医学		統合授業																			
１６w（２／３～７）			腫瘍学	腫瘍学	腫瘍学		腫瘍学	腫瘍学	腫瘍学			ゲノム医学	ゲノム医学	ゲノム医学			医学英語⑫	再生医学	再生医学	再生医学		ゲノム医学	ゲノム医学	ゲノム医学	
１７w（２／１０～１４）	追再試験（皮膚科学）					（建国記念の日）					追再試験（神経ユニット）					予備日					追再試験（救急医療学）				
１８w（２／１７～２１）	追再試験（麻酔科学、疼痛・緩和医療学）					追再試験（リハビリテーション医学）					予備日					追再試験（整形外科学）					追再試験（生物統計学）				
１９w（２／２４～２８）	（振替休日）					追再試験（眼科学）					追再試験（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）					予備日					予備日				
２０w（３／３～７）	追再試験（泌尿器科学）																								
２１w（３／１０～１４）											（進級判定）				B肝										
（春季休業）（３／１７～２１）	（春季休業）															（春分の日）					（春季休業）				
（春季休業）（３／２４～２８）	（春季休業）																								

令和６年度　第４学年　前期　授業時間割

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
（４／１～５）	（春季休業）																								
１ｗ（４／８～１２）		保予	保予	保予			保予	保予△		オ			国際医学英語			法	保予	保予	行動科学	行動科学		保予	保予	法	
２ｗ（４／１５～１９）		保予	保予	保予			保予	保予△								法	保予	保予	行動科学	行動科学	法	保予	法	法	法
３ｗ（４／２２～２６）			保予	保予			保予	保予△									保予	健康診断				保予	保予	法	
（４／２９～５／３）	（昭和の日）					（対慈恵戦）															（憲法記念の日）				
４ｗ（５／６～１０）	（振替休日）					保予△					保予△					保予△					保予△				
５ｗ（５／１３～１７）	保予△					保予△							国際医学英語				保予	保予	行動科学	行動科学		法	保予	法	法
６ｗ（５／２０～２４）		保予	保予	保予			保予	保予	保予	法							保予		行動科学	行動科学		法	法	法	法
７ｗ（５／２７～３１）			法			保予△		保予△									保予	保予	法	法		法	保予	保予	
８ｗ（６／３～７）	定期試験（法医学）					予備日					定期試験（公衆保健科学）					定期試験（行動科学）					定期試験（予防医学）				
９ｗ（６／１０～１４）	研究配属																								
１０ｗ（６／１７～２１）	研究配属																								
１１ｗ（６／２４～２８）	研究配属																								
１２ｗ（７／１～５）	研究配属																								
１３ｗ（７／８～１２）	研究配属																								
１４ｗ（７／１５～１９）	（海の日）					研究配属															研究配属発表会				
１５ｗ（７／２２～２６）	追再試験（法医学）					追再試験（公衆保健科学）					追再試験（予防医学）					追再試験（行動科学）					予備日				
１６ｗ（９／２～６）	ＣＢＴ本試験を実施予定																								
１７ｗ（９／９～１３）		総診	総診	総診	総診		総診	総診	総診	医療RS	総診講	総診講	総診	総診	総診講			総診講	総診講	医療RS	総診講	総診講	総診講		総診講
１８ｗ（９／１６～２０）	（敬老の日）						総診講	総診講	総診講	OSCE説明会	総合診断学実習														
１９ｗ（９／２３～２７）	（振替休日）					総合診断学実習																			

令和６年度　第４学年　後期　授業時間割

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1w（9／30～10／4）						OSCEに向けた自習										１０月６日（日）Pre-CC OSCE予定									
2w（10／7～11）	皮□	耳□	精□			泌□	内□	内□	皮□			放□	産□	外□			小□				内□	小□			
3w（10／14～18）	（スポーツの日）					麻□	外□		整□		麻□	小□	耳□	外□		外□	小□	産□				放□	臨□		
4w（10／21～25）	泌□	内□	外□	精□		眼□	眼□	整□			内□		臨□												
（10／28～11／1）	ＣＢＴ追再試験										OSCE再試験						PPE実習予定（実施日については追って通知								
5w（11／4～8）	（振替休日）						予備	放射線基礎医学	放射線基礎医学	放射線基礎医学			放射線基礎医学	放射線基礎医学	臨床倫理学				感染症	感染症			感染症	感染症	感染症
6w（11／11～15）							臨床倫理学	臨床倫理学	臨床倫理学	予備															
7w（11／18～22）									臨床倫理学																
8w（11／25～29）	臨床実習オリエンテーション白衣授与式等																								
9w（12／2～6）	CCⅠ1																								
10w（12／9～13）	CCⅠ2																								
11w（12／16～20）	CCⅠ3																								
（冬季休業）（12／23～27）	（冬季休業）																								
（冬季休業）（12／30～1／3）	（冬季休業）																								
12w（1／6～10）	CCⅠ4																								
13w（1／13～17）	CCⅠ5	（成人の日）																							
14w（1／20～24）	CCⅠ6																								
15w（1／27～31）	CCⅠ7																								
16w（2／3～7）	CCⅠ8																								
17w（2／10～14）	CCⅠ9					（建国記念の日）																			
18w（2／17～21）	CCⅠ10																								
19w（2／24～28）	CCⅠ11	（振替休日）																							
20w（3／3～7）	CCⅠ12																								
21w（3／10～14）	CCⅠ13																								
（春季休業）（3／17～21）	CCⅠ14															（春分の日）									
（春季休業）（3／24～28）	（春季休業）																								

令和６年度　第５学年　前期　授業時間割

：臨床実習

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
１ｗ（４／８～１２）	CCⅠ15																								
２ｗ（４／１５～１９）	CCⅠ16																								
３ｗ（４／２２～２６）	CCⅠ17																	健康診断							
（４／２９～５／３）	（昭和の日）					（対慈恵戦）															（憲法記念の日）				
４ｗ（５／６～１０）	CCⅠ18	（振替休日）																							
５ｗ（５／１３～１７）	CCⅠ19												医統1	医統2	医統3										
６ｗ（５／２０～２４）	CCⅠ20												医統4	医統5	医統6										
７ｗ（５／２７～３１）	CCⅠ21																								
８ｗ（６／３～７）	CCⅠ22																								
９ｗ（６／１０～１４）	CCⅠ23																								
１０ｗ（６／１７～２１）	CCⅠ24																								
１１ｗ（６／２４～２８）	CCⅠ25																								
１２ｗ（７／１～５）	CCⅠ26												地域医療実習事前説明会												
１３ｗ（７／８～１２）	CCⅠ27												医統7	医統8											
１４ｗ（７／１５～１９）	CCⅠ28	（海の日）											医統9	医統10											
１５ｗ（７／２２～２６）	CCⅠ29												医統11	医統12											
１６ｗ（７／２９～８／２）	CCⅠ30												医統13	医統14											
１７ｗ（８／２６～３０）	※8月25日（日）に関係病院に向けて出発					地域医療実習																			
１８ｗ（９／２～６）	CCⅠ31																								
１９ｗ（９／９～１３）	CCⅠ32																								
２０ｗ（９／１６～２０）	CCⅠ33	（敬老の日）																							
２１ｗ（９／２３～２７）	CCⅠ34	（振替休日）																							

令和６年度　第５学年　後期　授業時間割

▬　：臨床実習

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
１w（９／３０～１０／４）	CCⅠ35																								
２w（１０／７～１１）	CCⅠ36												医統15	医統16											
３w（１０／１４～１８）	（スポーツの日）										進級試験										医倫	医倫	医倫		
４w（１０／２１～２５）	医倫	医倫						医倫	医倫				医統17	医統18	▬	医倫	医倫			医倫	医倫	医倫		地域医療実習報告会	
（１０／２８～１１／１）	（トリアス祭）																								
５w（１１／４～８）	（振替休日）					移植再生医学	移植再生医学	移植再生医学	移植再生医学	移植再生医学	進級試験（追再試験）										医倫補講	医倫補講		医倫試験	
６w（１１／１１～１５）	化学療法	化学療法	化学療法	化学療法	化学療法			化学療法	化学療法	化学療法		化学療法	医統19	医統20	▬		移植再生医学	東洋医学	東洋医学	東洋医学			臨床薬理	臨床薬理	
７w（１１／１８～２２）			医事法	医事法		医事法	医事法	医事法	医事法	医事法	臨床薬理	臨床薬理	医統21	医統22	▬	東洋医学	東洋医学	臨床薬理	臨床薬理	臨床薬理			地域医療学	地域医療学	地域医療学
８w（１１／２５～２９）	CCⅡ1																								
９w（１２／２～６）	CCⅡ2																								
１０w（１２／９～１３）	CCⅡ3																								
１１w（１２／１６～２０）	CCⅡ4																								
１２w（１２／２３～２７）									医倫追再試																
１３w（１２／３０～１／３）	（冬季休業）																								
１４w（１／６～１０）	CCⅡ5																								
１５w（１／１３～１７）	CCⅡ6	（成人の日）																							
１６w（１／２０～２４）	CCⅡ7																								
１７w（１／２７～３１）	CCⅡ8																								
１８w（２／３～７）	CCⅡ9																								
１９w（２／１０～１４）	CCⅡ10					（建国記念の日）																			
２０w（２／１７～２１）	CCⅡ11																								
２１w（２／２４～２８）	CCⅡ12	（振替休日）																							
２２w（３／３～７）	CCⅡ13																								
２３w（３／１０～１４）	CCⅡ14																								
２４w（３／１７～２１）	CCⅡ15															（春分の日）									
２５w（３／２４～２８）	CCⅡ16																								

令和６年度　第６学年　前期　授業時間割

：臨床実習

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
（４／１～５）	（春季休業）																								
（４／８～１２）																									
１ｗ（４／１５～１９）	CCⅡ17																								
２ｗ（４／２２～２６）	CCⅡ18																						健康診断		
（４／２９～５／３）	CCⅡ19	（昭和の日）																			（憲法記念の日）				
４ｗ（５／６～１０）	CCⅡ20	（振替休日）																							
５ｗ（５／１３～１７）	CCⅡ21																								
６ｗ（５／２０～２４）	CCⅡ22																								
７ｗ（５／２７～３１）	CCⅡ23																								
８ｗ（６／３～７）	CCⅡ24																								
９ｗ（６／１０～１４）	CCⅡ25																								
１０ｗ（６／１７～２１）	CCⅡ26																								
１１ｗ（６／２４～２８）	CCⅡ27																								
１２ｗ（７／１～５）	CCⅡ28																								
１３ｗ（７／８～１２）	CCⅡ29																								
１４ｗ（７／１５～１９）	CCⅡ30	（海の日）																							
１５ｗ（７／２２～２６）	CCⅡ31																								
１６ｗ（７／２９～８／２）	CCⅡ32																								
（夏季休業）（８／２６～３０）	（夏季休業）																								
（夏季休業）（９／２～６）																									
１７ｗ（９／９～１３）																									
１８ｗ（９／１６～２０）	（敬老の日）																								
１９ｗ（９／２３～２７）	（振替休日）																								

令和６年度　第６学年　後期　授業時間割

▬▬▬ ：臨床実習

	月					火					水					木					金				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
１w（９／３０～１０／４）																									
２w（１０／７～１１）																									
３w（１０／１４～１８）	（スポーツの日）										卒業試験														
４w（１０／２１～２５）																									
（１０／２８～１１／１）	OSCE前特別講義																								
５w（１１／４～８）	（振替休日）										卒業試験（追再試験）														
６w（１１／１１～１５）																			11月17日（日）Post-CC OSCE（予定）						
７w（１１／１８～２２）																									
８w（１１／２５～２９）	（民間模擬試験・国試対策）																								
９w（１２／２～６）																									
１０w（１２／９～１３）	Post-CC OSCE追再試験																								
１１w（１２／１６～２０）																									
（冬季休業）（１２／２３～２７）	卒業判定					（冬季休業）																			
（冬季休業）（１２／３０～１／３）	（冬季休業）																								
１２w（1／6～10）																									
１３w（1／13～17）	（成人の日）																								
１４w（１／２０～２４）																									
１５w（１／２７～３１）																									
１６w（２／３～７）																									
１７w（２／１０～１４）						（建国記念の日）																			
１８w（２／１７～２１）																									
１９w（２／２４～２８）	（振替休日）																								
２０w（３／３～７）																									

基　礎　医　学

解　　剖　　学

教　員　名

生体構造科学		生体機能形態科学	
教　　授	田中　雅樹	教　　授	八代　健太
准　教　授	松田　賢一	講　　師	小林　大介
講　　師	山田　俊児	講師（学内）	中島　由郎
講　　師	田口　勝敏	助　　教	茂田　昌樹
助　　教	小泉　崇	〃	松尾　和彦
客員教授	小澤　一史		
〃	重吉　康史		

Ⅰ　教育の目的と方針

解剖学の目的は、生物を“解剖する”−分解・分析−する事によってその構造を明らかにし、形態の上から生命の本体を追求する事にある。解剖学もまた自然科学、特に生物学の一分野であり、科学的な立場からの考察が必要な事は言うまでもない。言い換えれば、分解・分析されたものを自らの頭脳で統合し、組み上げてはじめて真の解剖学となり得ると言える。医科大学における解剖学教育は、人体に関する解剖学を中心に講義・実習が行われ、他の分野の基礎医学、さらには社会科学や臨床医学を学ぶ上での基礎的骨格を形成させるとともに、生命現象の尊厳について深く考える事にある。解剖学は医学の中でもとりわけ長い学問の歴史を有しており、現代の解剖学は過去に築き上げられた知識の上に立脚している。また、肉眼解剖学から始まり、臨床解剖学から顕微解剖学の超微細構造へと解剖学が取り扱う対象が拡大し、さらに分子生物学・細胞生物学・幹細胞生物学・再生医療学の分野にまで深く関わってきた解剖学は、日ごとにその内容の量、質、そして重要度が増している。現在の生命科学は、解剖学を通して構造を正しく理解する事によってはじめて生きた知識となる。すなわち、細分化された知識を解剖学という学問体系によって統合し、多様に展開していく事が可能となるのである。将来において医学がどのように変貌を遂げようとも、解剖学の医学に占める役割の重要性に変わりはない。

Ⅱ　到達目標

1　人体の正常構造を肉眼および組織レベルで系統的に機能と関連づけて理解し、その形成過程を含め説明できる。

2　上記の知識をもとに、解剖学的構造の機能的な障害における事象について論理的に考察できる。
3　グループで行う骨学実習、人体解剖学実習、脳実習などを通して、医学・医療を中心とする社会でのチームワーク、協調性を養う。
4　「人命の尊厳と死」と「医の倫理」について多角的に深慮し、プロフェッショナルとしてあり方を自ら考え実践する。

Ⅲ　授業日程

講義（組織学総論、発生学、神経解剖学および内臓学）と実習（組織学、骨学、人体解剖学、脳）を別表の日程で行う。

Ⅳ　成績評価基準

実習に対する遅刻は、篤志によってお体を提供してくださったご遺体に対し大変失礼にあたることから、人体解剖学実習においては基本的に認められない。止むを得ない事情があり遅刻する際には、速やかに教育支援課もしくは担当教室に連絡をすること。無断の遅刻は欠席扱いとする。また、実習は開始から終了まで参画することで出席であり、原則早退は認められない。

止むを得ない事由により実習に遅刻、欠席もしくは早退せざるを得ない場合は、担当教室と相談の上、欠席届を提出すること。

止むを得ない事由の例：事故、災害、公共交通機関の遅延、突発的な疾病、感染症法の対象となる感染症への罹患、3 親等以内の忌引き、その他やむを得ないと担当教室が判断したもの。

生体構造科学

1　実習評価点

人体解剖学実習および脳実習ごとに終了時に口頭試問を行い、その日の重要項目に対する理解到達を確認する。組織学実習におけるスケッチに対し理解度を評価し、全組織学実習総合で 10 点満点の評価を行う。

2　筆記試験

人体解剖学実習の筆記試験を定期試験と別の日程で実施する。また、定期試験において、組織学、人体解剖学、内臓学および神経解剖学の筆記試験を行う。

3　総合成績評価

下記の比率で総合評価点を算出し、実習評価点も加え、最終的な成績評価とする。

定期試験 80 点、人体解剖学実習試験 10 点、組織学実習評価 10 点/ 計 100 点

生体機能形態科学

1　実習評価点

人体解剖学実習ごとに終了時に口頭試問を行い、その日の重要項目に対する理解度を評価する。全解剖実習を通して、評価点は総合で 10 点満点の評価をする。また、組織学実習におけるスケッチに対し理解度を評価し、全組織学実習を通して総合で 10 点満点の評価を行う。

2　筆記試験

骨学、発生学、人体解剖学、そして組織学に対し、各々個別の筆記試験を実施する。骨学は、1 年時の骨学実習の最終日に実施する。発生学及び人体解剖学の試験日は、シラバスの日程表に記

載されているとおりである。組織学の試験は、定期試験の日程で実施する。各試験は 100 点満点で、60 点以下は不合格とし各項目の追試験を一度だけ実施する。組織学の追試験は追試験期間に実施し、骨学・発生学及び人体解剖学の追試験は、当該学生たちと相談の上日程を決定し実施する。

3　総合成績評価

100 点満点で行った各試験の素点を圧縮し、下記の比率で総合評価点を算出し、最終的な成績評価とする。各追試験での合格は、各項目の満点の 6 割の評価点となる。

骨学 10 点、発生学 10 点、組織学 30 点、人体解剖学 30 点。解剖実習評価 10 点、組織学実習評価 10 点 / 計 100 点

総合点で 60 点を超えているが 60 点未満の試験結果がある場合には、単位の認定要件として個別（骨学・組織学・発生学・人体解剖学）に対しレポートなどの提出を課す。

Ⅴ　オフィスアワー

生体構造科学（内線 5301）のオフィスアワーは教室員全員が月曜日と水曜日の 16 時から 17 時まで。

メールアドレス：

田中雅樹 教授	mtanaka@koto.kpu-m.ac.jp
松田賢一 准教授	matsuken@koto.kpu-m.ac.jp
山田俊児 講師	syamada@koto.kpu-m.ac.jp
田口勝敏 講師	ktaguchi@koto.kpu-m.ac.jp
小泉崇 助教	syupic@koto.kpu-m.ac.jp

生体機能形態科学は、オフィスアワーとしての特定の時間を指定しないので、いつでもアクセスして欲しい。ただし、まとまった時間を割いて欲しい場合は、各教員へ個別にアポイントメントを取ること（秘書のオフィスアワーは、月曜日と木曜日の 10 時から 17 時まで；内線 5302）。

メールアドレス：

八代健太 教授	kyashiro@ koto.kpu-m.ac.jp
小林大介 講師	kdaisuke@koto.kpu-m.ac.jp
中島由郎 講師（学内）	ynakaji@koto.kpu-m.ac.jp
茂田昌樹 助教	mshigeta@koto.kpu-m.ac.jp
松尾和彦 助教	matsuo-k@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

人体解剖学：　「解剖実習書」（京都府立医科大学解剖学教室篇）

「臨床のための解剖学　第 2 版」メディカルサイエンスインターナショナル

「ムーア臨床解剖学　第 3 版」メディカルサイエンスインターナショナル

「スネル臨床解剖学　第 3 版」メディカルサイエンスインターナショナル

「グレイ解剖学　原著第 4 版」エルゼビア・ジャパン株式会社

「プロメテウス解剖学コアアトラス　第 4 版」医学書院

「ネッター解剖学アトラス　原書第 7 版」南江堂

「解剖実習の手引き　改訂 11 版」南山堂

「グラント解剖実習　改訂版」西村書店

骨学：　「骨学実習の手びき」南山堂

組織学：　「組織細胞生物学　原書第 5 版」南江堂

「ジュンケイラ組織学　第 5 版（原書 14 版）」丸善出版

「Ross 組織学（原書第 7 版）」南山堂

「標準組織学　総論・各論　第 6 版」医学書院

発生学：　「ラーセン人体発生学　第 4 版」西村書店

「ラングマン人体発生学　第 11 版」メディカルサイエンスインターナショナル

「ムーア人体発生学　原書第 11」医歯薬出版

「ギルバート発生生物学」メディカルサイエンスインターナショナル

神経解剖学：　「臨床神経解剖学　原著第 8 版」エルゼビア・ジャパン株式会社

「脳神経ペディア」羊土社

「ハインズ神経解剖学アトラス第 5 版」メディカルサイエンスインターナショナル

「カンデル神経科学　第 2 版」メディカルサイエンスインターナショナル

生理学も含めた参考書

「人体の正常構造と機能　第 4 版」日本医事新報社

Ⅶ　その他

本学ではご献体いただいた方々に哀悼の意を示すため、春季は大学墓地で納骨式、秋季は西本願寺において追悼式を行っている。追悼式においては多くのご遺族が参加される。学生諸君は故人やご遺族に敬意を持って参加すること。なお、解剖実習中であるか否かを問わず、ご遺体やご遺族の尊厳を損なう行為には厳しく対処する。

Ⅲ　授業日程

解剖学

第１学年後期　（講義）

日程	時限	内　容	担当者	
			所　属	講師名
2月17日(月)	2	序論・解剖学を学ぶに当たって	形態科学	八 代 教 授
2月18日(火)	2	組織学総論1（細胞）	形態科学	八 代 教 授
2月19日(水)	2	組織学総論2（上皮組織1）	形態科学	八 代 教 授
2月21日(金)	1	組織学総論3（上皮組織2）	形態科学	八 代 教 授
2月25日(火)	1	組織学総論4（支持組織1：結合組織・骨・軟骨）	形態科学	八 代 教 授
2月26日(水)	1	組織学総論5（支持組織2：血液）	形態科学	八 代 教 授
2月26日(水)	2	組織学総論6（筋組織）	形態科学	八 代 教 授
2月27日(木)	1	組織学総論7（神経組織）	形態科学	八 代 教 授
2月28日(金)	1	消化器1	生体構造科学	山 田 講 師
3月3日(月)	1	消化器2	生体構造科学	山 田 講 師
3月5日(水)	2	心臓・脈管	形態科学	茂 田 助 教
3月6日(木)	2	消化器3	生体構造科学	山 田 講 師
3月7日(金)	1	消化器4	生体構造科学	山 田 講 師
3月11日(火)	1	呼吸器	形態科学	小 林 講 師
3月13日(木)	2	特別講義	形態科学	未　定
3月14日(金)	2	特別講義	生体構造科学	重吉客員教授

第１学年後期　（実習）

日程	時限	内　容	担当者	
			所　属	講師名
2月17日(月)	3・4	骨1	形態科学	教 室 員
2月19日(水)	3・4	骨2	形態科学	教 室 員
2月20日(木)	3・4	骨3	形態科学	教 室 員
2月21日(金)	3・4	組織1（組織学総論1）（上皮組織1）	形態科学	教 室 員
2月28日(金)	3・4	生体機能形態科学　試験（骨学）	形態科学	教 室 員
3月3日(月)	3・4	組織2（組織学総論2）（上皮組織2，結合組織）	形態科学	教 室 員
3月5日(水)	3・4	組織3（組織学総論3）（軟骨・骨・血液）	形態科学	教 室 員
3月6日(木)	3・4	組織4（組織学総論4）（筋組織，神経組織）	形態科学	教 室 員
3月7日(金)	3・4	組織5（消化器1）	生体構造科学	教 室 員
3月10日(月)	3・4	組織6（消化器2）	生体構造科学	教 室 員
3月12日(水)	1・2	組織7（心臓・脈管）	形態科学	教 室 員
3月13日(木)	3・4	組織8（呼吸器）	形態科学	教 室 員

第２学年前期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月8日(月)	1	消化器5	生体構造科学	山　田　講　師
4月8日(月)	2	生殖器1	生体構造科学	田　口　講　師
4月10日(水)	1	消化器6	生体構造科学	山　田　講　師
4月10日(水)	2	生殖器2	生体構造科学	田　口　講　師
4月11日(木)	1	生殖器3	生体構造科学	田　口　講　師
4月22日(月)	1	内分泌1	生体構造科学	小　泉　助　教
4月23日(火)	1	内分泌2	生体構造科学	小　泉　助　教
4月23日(火)	2	発生生物学1	形態科学	八　代　教　授
4月25日(木)	1	発生生物学2	形態科学	八　代　教　授
4月25日(木)	2	感覚器1	生体構造科学	松　田　准　教　授
5月8日(水)	1	神経1	生体構造科学	田　中　教　授
5月8日(水)	2	感覚器2	生体構造科学	松　田　准　教　授
5月13日(月)	1	発生生物学3	形態科学	八　代　教　授
5月13日(月)	2	感覚器3	生体構造科学	松　田　准　教　授
5月16日(木)	1	神経2	生体構造科学	田　中　教　授
5月16日(木)	2	発生生物学4	形態科学	八　代　教　授
5月21日(火)	1	神経3	生体構造科学	田　中　教　授
5月21日(火)	2	泌尿器	形態科学	中島講師（学内）
6月10日(月)	1	神経4	生体構造科学	田　中　教　授
6月13日(木)	1	発生生物学5	形態科学	八　代　教　授
6月13日(木)	2	神経5	生体構造科学	田　中　教　授
6月19日(水)	1	発生生物学6	形態科学	八　代　教　授
6月19日(水)	2	神経6	生体構造科学	田　中　教　授
6月24日(月)	1	生体機能形態科学　試験（発生生物学）	形態科学	教　室　員
6月24日(月)	2	神経7	生体構造科学	田　中　教　授
7月4日(木)	1	免疫	形態科学	松　尾　助　教
7月4日(木)	2	神経8	生体構造科学	田　中　教　授
7月9日(火)	2	神経9	生体構造科学	田　中　教　授
7月10日(水)	2	生体機能形態科学　試験（人体解剖）	形態科学	教　室　員
7月24日(水)	2	生体構造科学　試験（人体解剖）	生体構造科学	教　室　員

第２学年前期　　（実習）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月8日(月)	3・4	人体1（頸と体幹の浅層1）	形態科学	教　室　員
4月10日(水)	3・4	人体2（頸と体幹の浅層2）	形態科学	教　室　員
4月11日(木)	2～4	人体3（頸と体幹の浅層3，上肢1）	形態科学	教　室　員
4月15日(月)	3・4	組織9（消化器3）	生体構造科学	教　室　員
4月17日(水)	3・4	人体4（上肢2）	形態科学	教　室　員
4月18日(木)	3・4	人体5（上肢3）	形態科学	教　室　員
4月22日(月)	2～4	人体6（上肢4）	形態科学	教　室　員
4月23日(火)	3・4	組織10（生殖器1）	生体構造科学	教　室　員
4月25日(木)	3・4	人体7（胸部1）	形態科学	教　室　員
5月8日(水)	3・4	人体8（胸部2）	形態科学	教　室　員
5月9日(木)	3・4	組織11（生殖器2）	生体構造科学	教　室　員
5月13日(月)	3・4	人体9（下肢1）	生体構造科学	教　室　員
5月15日(水)	3・4	人体10（下肢2）	生体構造科学	教　室　員
5月16日(木)	3・4	組織12（内分泌）	生体構造科学	教　室　員
5月20日(月)	3・4	人体11（下肢3）	生体構造科学	教　室　員
5月21日(火)	3・4	人体12（下肢4）	生体構造科学	教　室　員
6月10日(月)	3・4	組織13（泌尿器）	形態科学	教　室　員
6月12日(水)	3・4	組織14（感覚器1）	生体構造科学	教　室　員
6月13日(木)	3・4	人体13（腹部・骨盤1）	生体構造科学	教　室　員
6月17日(月)	3・4	人体14（腹部・骨盤2）	生体構造科学	教　室　員
6月19日(水)	3・4	組織15（感覚器2）	生体構造科学	教　室　員
6月20日(木)	3・4	人体15（腹部・骨盤3）	生体構造科学	教　室　員
6月24日(月)	3・4	人体16（腹部・骨盤4）	生体構造科学	教　室　員
6月25日(火)	3・4	人体17（腹部・骨盤5）	生体構造科学	教　室　員
6月27日(木)	3・4	人体18（背部1）	形態科学	教　室　員
7月1日(月)	3・4	人体19（頭部1）	形態科学	教　室　員
7月3日(水)	3・4	人体20（頭部2）	形態科学	教　室　員
7月4日(木)	3・4	人体21（頭部3）	形態科学	教　室　員
7月8日(月)	3・4	人体22（感覚器1）	生体構造科学	教　室　員
7月10日(水)	3・4	人体23（感覚器2）	生体構造科学	教　室　員
7月16日(火)	3・4	組織16（免疫）	形態科学	教　室　員
7月17日(水)	3・4	脳1	生体構造科学	教　室　員
7月18日(木)	3・4	脳2	生体構造科学	教　室　員
7月22日(月)	3・4	脳3	生体構造科学	教　室　員

人体解剖学実習項目表

回	部位	実習項目
1	上肢・頚部・胸部	頸と体幹の浅層Ⅰ-① ご遺体出し
		頸と体幹の浅層Ⅰ-② 体表観察と皮切り
		頸と体幹の浅層Ⅰ-③ 広頚筋・乳腺
		頸と体幹の浅層Ⅰ-④ 皮静脈と皮神経
		頸と体幹の浅層Ⅱ-① 大胸筋・外腹斜筋
2		頸と体幹の浅層Ⅱ-② 頸神経叢の枝
		頸と体幹の浅層Ⅱ-③ 胸鎖乳突筋
		頸と体幹の浅層Ⅱ-④ 背中の皮切り・浅層
		頸と体幹の浅層Ⅱ-⑤ 頸のやや深層
3		頸と体幹の浅層Ⅲ-① 胸部の深層
		頸と体幹の浅層Ⅲ-② 鎖骨下動脈とその枝
		上肢Ⅰ-① 腕の皮切り
		上肢Ⅰ-② 腕神経叢・上腕の屈筋と神経
4		上肢Ⅱ-① 肩甲骨の前面の筋
		上肢Ⅱ-② 上腕の伸筋・肩甲骨背面の筋
		上肢Ⅱ-③ 前腕の屈筋・伸筋
5		上肢Ⅲ-① 手掌の皮切り・手掌腱膜
		上肢Ⅲ-② 手のひらの浅い層
		上肢Ⅲ-③ 手の深い層
		上肢Ⅲ-④ 上肢の血管と神経の総括
6		上肢Ⅳ 肩・肘・手指の関節
7		胸部Ⅰ-① 肋間筋・肋骨・胸骨・胸壁内面
		胸部Ⅰ-② 胸膜・心膜・肺・くびの根元の深層
8		胸部Ⅱ-① 心臓・大血管・気管・食道
		胸部Ⅱ-② 縦隔
		胸部Ⅱ-③ 後胸壁
9	下肢	下肢Ⅰ 下肢の体表観察
		下肢Ⅱ 下肢伸側面の表面観察
		下肢Ⅲ 前大腿部の観察
		下肢Ⅳ 前膝部の観察
10		下肢Ⅶ 臀部の観察
		下肢Ⅷ 後大腿部の観察
		下肢Ⅸ 膝窩の観察
11		下肢Ⅹ 後下腿部の観察
		下肢Ⅴ 前下腿部の観察

回	部位	実習項目
12	下肢	下肢Ⅵ 足背の観察
		下肢Ⅺ 足底の観察
		下肢Ⅻ 下肢の関節の観察
13	腹部・骨盤	腹部Ⅰ 腹部の体表観察
		腹部Ⅱ 腹部の表面観察
		腹部Ⅲ 前腹壁中層の観察
		腹部Ⅳ 前腹壁深層の観察
		腹部Ⅴ 腹膜腔の開放
		腹部Ⅵ 腹部内臓の原位置での観察
14		腹部Ⅶ 腹膜と腹膜腔の観察
		腹部Ⅷ 腹部内臓に分布する血管と神経の観察
		腹部Ⅸ 横隔膜
15		腹部Ⅹ 腹膜後隙
		腹部Ⅺ 腹部内臓の観察
16		骨盤Ⅰ 会陰部の観察
		骨盤Ⅱ 腹膜骨盤腔の観察
		骨盤Ⅲ 腹膜下骨盤腔の観察
17		腹部Ⅻ 後腹壁と腸骨窩の観察
		骨盤Ⅳ 骨盤内臓の観察
		骨盤Ⅴ 下肢の関節の観察(股関節)
18	背部・頭部	背部Ⅰ-① 胸腰筋膜・固有背筋
		背部Ⅰ-② 脊柱管・脊髄・脊髄神経節
		背部Ⅰ-③ 頸の靭帯と筋群・頸の深層
		背部Ⅰ-④ 頸の深層の血管
19		頭部Ⅰ-① 頭部の体表観察と皮切り
		頭部Ⅰ-② 顔の浅層・咽頭
		頭部Ⅰ-③ 甲状腺・気管
20		頭部Ⅱ-① 喉頭
		頭部Ⅱ-② 頭蓋の内側・口腔
		頭部Ⅱ-③ 舌骨・下顎骨
21		頭部Ⅲ-① 鼻腔・咽頭鼻部
		頭部Ⅲ-② 咀嚼筋・下顎管
		頭部Ⅲ-③ 顎関節・側頭下窩
		頭部Ⅲ-④ 副鼻腔・翼口蓋神経節
22	感覚器	眼の解剖
23		耳の解剖

生　理　学

（細胞生理学・統合生理学）

教　員　名

細胞生理学		統合生理学	
教　授	樽野　陽幸	教　授	八木田和弘
助　教	野村　憲吾	講　師	小池　宣也
〃	相馬　祥吾	〃	土谷　佳樹
〃	Mark Sherwood	〃	梅村　康浩
〃	末松　尚史	助　教	笹脇　ゆふ
客員教授	佐藤　達雄	客員教授	本間　研一
〃	竹内　春樹	〃	山田　泰広
		〃	田邉　智子
		〃	井之川　仁

Ⅰ　教育の目的と方針

生理学は日常生活でみられる身体のはたらきと、病気になった時の変化について、そのしくみ（生命の理）を解き明かすことによってライフサイエンスの進歩をめざしている。医学においては、この活動を通じ、より健康な体づくり、病気の理解、治療、予防に貢献している。一方、生理学は、解剖学、生化学、分子生物学や薬理学などの科目で扱う分子から、細胞、システムに至るまでの広範囲の生命現象を対象とする。つまり、医学諸分野を理（ことわり）でつなぎ、生命現象の全体像を理解する学問である。

したがって、生理学を学ぶ学生には、個々の事実についての Up-to-Date な知識に加えて、生命現象の全体像を把握する力、物事を論理的に考える力を修得させることが最も重要な目標となる。その出発点として、身体のはたらきや病気になった時の変化について、“なぜだろう”、“どうしてそうなるのだろう”というさまざまな疑問をもつ態度を涵養することに重点を置く。

Ⅱ　到達目標

【細胞生理学】

１）細胞の構成と機能を説明できる。
２）細胞膜を介する物質の能動的・受動的輸送過程とその機序を説明できる。
３）生体のホメオスタシスとその調節機構を説明できる。
４）血液・造血器・リンパ系の構造と機能を説明できる。
５）循環器系の構造と機能を説明できる。
６）呼吸器系の構造と機能を説明できる。
７）腎・尿路系の構造と機能を説明できる。
８）体液（電解質・酸塩基平衡）の調節機構とその破綻による症候を説明できる。
９）各種感覚の受容機序と伝導路を説明できる。

【統合生理学】

１） 生理機能制御による恒常性維持の概念を理解できる。
２） 活動電位の発生機構と伝導を説明できる。
３） シナプス（神経筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性と可塑性）を説明できる。
４） 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。
５） 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。
６） 大脳の構造・機能局在を説明できる。
７） 随意運動の発現機構を概説できる。
８） 小脳の構造と機能を概説できる。
９） 大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。
１０） 消化器系の構造と機能を説明できる。
１１） 骨格筋の興奮収縮連関を説明できる。
１２） 脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。
１３） 脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢）の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布（デルマトーム）を概説できる。
１４） 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
１５） 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。
１６） 視床下部の構造と機能を内分泌及び自律機能と関連付けて概説できる。
１７） 内分泌系の機能について、各ホルモンの生合成や分泌機構及び作用について概説できる。
１８） 視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。
１９） 生体リズムおよび睡眠の制御機構と生理的意義、及び病態との関連について説明できる。
２０） 環境による生体の応答及び適応機構について概説できる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり

Ⅳ　成績評価基準

【細胞生理学】

記述式の定期試験（90%）、講義及び実習への取り組み態度（10%）で合否を判定する。

【統合生理学】

記述式の定期試験（70%）、講義及び実習への取り組み態度（30%）で合否を判定する。

Ⅴ オフィスアワー

［細胞生理学］	オフィスアワー		メールアドレス
・樽野陽幸 教授	火曜日	16:00-19:00	taruno@koto.kpu-m.ac.jp
・野村憲吾 助教	火曜日	16:00-19:00	nomurak@koto.kpu-m.ac.jp
・相馬祥吾 助教	火曜日	16:00-19:00	soma@koto.kpu-m.ac.jp
・Mark Sherwood 助教	火曜日	16:00-19:00	sherwood@koto.kpu-m.ac.jp
・末松尚史 助教	火曜日	16:00-19:00	未定

・その他連絡先　　細胞生理学教室　内線　５３１１

［統合生理学］

・八木田和弘 教授	火曜日	16:00-18:00	kyagita@koto.kpu-m.ac.jp
・小池宣也 講師	水曜日	15:00-18:00	nkoike@koto.kpu-m.ac.jp
・土谷佳樹 講師	水曜日	16:00-18:00	ytsuchiy@koto.kpu-m.ac.jp
・梅村康浩 講師	木曜日	11:30-13:00	yumemura@koto.kpu-m.ac.jp
・笹脇ゆふ 助教	木曜日	11:00-14:00	sasawaki@koto.kpu-m.ac.jp

・その他連絡先　　統合生理学教室　内線 ５３１２

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

【細胞生理学】

1　MEDICAL PHYSIOLOGY：Boron & Boulpaep 監修　（出版社：SAUNDERS）16,434 円

2　The Text of Medical Physiology ： Guyton & Hall 監修　（出版社：SAUNDERS）
　日本語版　ガイトン生理学　（出版社：エルゼビア・ジャパン）16,500 円

3　標準生理学　（医学書院）13,200 円

【統合生理学】

1　標準生理学　（医学書院）13,200 円

2　Principles of Neural Science：Eric R. Kandel 著（出版社:McGraw-Hill Medical）26,400 円

3　Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology（出版社：Elsevier）　16,500 円

Ⅲ　授業日程

生理学（細胞生理学・統合生理学）

第１学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
2月18日(火)	3	統合生理学概論（１）	統合生理学	八木田教授
2月25日(火)	4	一般生理学（１）	細胞生理学	樽野教授
2月26日(水)	3	統合生理学概論（２）	統合生理学	八木田教授
2月27日(木)	4	一般生理学（２）	細胞生理学	樽野教授
3月4日(火)	3	活動電位の伝導	統合生理学	土谷講師
3月7日(金)	2	一般生理学（３）	細胞生理学	樽野教授
3月11日(火)	4	イオンチャネル	統合生理学	土谷講師
3月14日(金)	4	興奮の伝達：電気的シナプスと化学的シナプス	統合生理学	土谷講師

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
4月9日(火)	1	シナプス伝達：神経伝達物質と受容体（１）	統合生理学	土谷講師
4月9日(火)	2	シナプス伝達：神経伝達物質と受容体（２）	統合生理学	土谷講師
4月12日(金)	1	内分泌（１）	統合生理学	八木田教授
4月12日(金)	2	血液（１）	細胞生理学	樽野教授
4月15日(月)	1	血液（２）	細胞生理学	樽野教授
4月15日(月)	2	血液（３）	細胞生理学	樽野教授
4月18日(木)	1	体性感覚・痛覚	細胞生理学	野村助教
4月18日(木)	2	聴覚・前庭覚	細胞生理学	相馬助教
4月19日(金)	3	シナプス伝達：筋終板・量子伝達	統合生理学	土谷講師
4月24日(水)	1	内分泌（２）	統合生理学	八木田教授
4月24日(水)	2	内分泌（３）	統合生理学	八木田教授
4月26日(金)	1	循環（１）	細胞生理学	樽野教授
4月26日(金)	2	内分泌（４）	統合生理学	八木田教授
5月7日(火)	3	循環（２）	細胞生理学	樽野教授
5月7日(火)	4	循環（３）	細胞生理学	樽野教授
5月10日(金)	3	自律神経（１）	統合生理学	八木田教授
5月14日(火)	1	循環（４）	細胞生理学	樽野教授
5月14日(火)	2	循環（５）	細胞生理学	樽野教授
5月15日(水)	1	循環（６）	細胞生理学	樽野教授
5月15日(水)	2	自律神経（２）	統合生理学	八木田教授
5月17日(金)	1	循環（７）	細胞生理学	樽野教授

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
5月17日(金)	2	シナプス伝達：可塑性と発達	統合生理学	土 谷 講 師
5月22日(水)	3	腎（１）	細胞生理学	野 村 助 教
5月22日(水)	4	運動器の生理学Ⅰ（骨・関節の生理）	統合生理学	小 池 講 師
5月23日(木)	3	腎（２）	細胞生理学	野 村 助 教
5月23日(木)	4	腎（３）	細胞生理学	野 村 助 教
5月24日(金)	3	運動器の生理学Ⅱ（骨格筋の生理）	統合生理学	梅 村 講 師
5月31日(金)	3	腎（４）	細胞生理学	野 村 助 教
6月10日(月)	2	運動器の生理学Ⅲ（脊髄・末梢神経の生理）	統合生理学	小 池 講 師
6月11日(火)	1	呼吸（１）	細胞生理学	相 馬 助 教
6月11日(火)	2	呼吸（２）	細胞生理学	相 馬 助 教
6月12日(水)	1	呼吸（３）	細胞生理学	相 馬 助 教
6月12日(水)	2	運動器の生理学Ⅳ（歩行と運動の生理）	統合生理学	小 池 講 師
6月14日(金)	1	呼吸（４）	細胞生理学	相 馬 助 教
6月14日(金)	2	消化吸収（総論・食物の摂取と輸送）	統合生理学	小 池 講 師
6月18日(火)	3	健康医学と予防の生理学	統合生理学	田 邉 客 員 教 授
6月18日(火)	4	大脳皮質運動関連領野	統合生理学	梅 村 講 師
6月21日(金)	3	消化吸収（胃）	統合生理学	小 池 講 師
6月25日(火)	1	大脳皮質前頭前野のはたらき	統合生理学	梅 村 講 師
6月25日(火)	2	消化吸収（肝・胆及び膵外分泌系）	統合生理学	小 池 講 師
6月26日(水)	1	消化吸収（小腸・大腸）	統合生理学	小 池 講 師
6月26日(水)	2	消化吸収（腸内細菌叢）	統合生理学	小 池 講 師
6月27日(木)	1	睡眠　（１）	統合生理学	八 木 田 教 授
6月27日(木)	2	睡眠　（２）	統合生理学	八 木 田 教 授
6月28日(金)	1	小脳：制御と学習	統合生理学	梅 村 講 師
6月28日(金)	2	体温調節	統合生理学	笹 脇 助 教
7月1日(月)	1	呼吸（５）	細胞生理学	相 馬 助 教
7月1日(月)	2	視覚（１）	細胞生理学	末 松 助 教
7月2日(火)	3	視覚（２）	細胞生理学	末 松 助 教
7月2日(火)	4	視覚（３）	細胞生理学	佐 藤 客 員 教 授
7月3日(水)	1	体液（１）	細胞生理学	野 村 助 教
7月3日(水)	2	大脳基底核：制御機能	統合生理学	梅 村 講 師

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
7月5日(金)	3	嗅覚	細胞生理学	竹内客員教授
7月11日(木)	1	体液（２）	細胞生理学	野村助教
7月11日(木)	2	味覚	細胞生理学	樽野教授
7月12日(金)	2	分子細胞生理学	細胞生理学	野村助教
7月16日(火)	2	機能不全の生理学（１）	細胞生理学	樽野教授
7月17日(水)	2	生体リズム（１）	統合生理学	八木田教授
7月18日(木)	2	機能不全の生理学（２）	細胞生理学	樽野教授
7月19日(金)	3	生体リズム（２）	統合生理学	八木田教授

第２学年前期　　（ 実習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
6月3日(月)	1・2	細胞生理学　実習オリエンテーション	細胞生理学	全教室員
6月3日(月)	3・4	統合生理学　実習オリエンテーション	統合生理学	全教室員
6月4日(火)	1・2	細胞生理学実習 ：循環器の水力学モデル ：心電図・血圧 ：尿生成	細胞生理学 統合生理学	全教室員
6月4日(火)	3・4			
6月5日(水)	1・2			
6月5日(水)	3・4			
6月6日(木)	1・2	統合生理学実習 ：血糖値制御機構 ：静止膜電位、シナプス伝達、活動電位 ：随意性筋収縮と誘発筋電図		
6月6日(木)	3・4			
6月7日(金)	1・2			
6月7日(金)	3・4			

分　子　医　科　学

教　員　名

分子生化学		ゲノム医科学	
教　　授		教　　授	田代　　啓
准　教　授	桒原　康通	准　教　授	中野　正和
講　　師	吉田　達士	助　　教	大見　奈津江
講師(学内)	忠垣　憲次郎	助　　教	田中　雅深
〃	山崎　健太	助　　教	徳田　雄市
特任教授	奥田　　司	客員教授	武田　俊一
特任教授	横田　昇平	客員教授	池川　雅哉
		客員教授	八木　知人

Ⅰ　教育の目的と方針

分子医科学は、医学で取り扱うあらゆる生命現象を物理的・化学的観点から解き明かし、生命体の営みの分子基盤を包括的に理解することを目指す学問である。生体の恒常性の破綻がどのようにして疾病の発生を招くのか、分子レベルでの理解を進めるうえでの第一歩になるとともに、学生諸君が今後、基礎・社会・臨床医学の各学問体系を修得してゆく上でかならず身につけておかなくてはならない基幹的自然科学のひとつと位置づけることができる。

分子生化学では、生物の化学組成や構成分子の特性を把握し、物質間相互作用を理解することによって、生命現象を物理化学的観点から理解する。もって学生諸君みずからが疾病の発生機序への深い洞察をもつことができるようになることを目的としている。

ゲノム医科学では、ゲノム科学を基盤として疾病を理解するとともに、治療や予防への応用の可能性についても展望し、新しい発想を想像できる能力の基礎を養成することを目的とする。

以上の目的を達成するために、講義および実習を行う。講義では、分子医科学の分野における必須の知識を総論として修得させるとともに、各論では、最先端のトピックスを紹介し、今後の展望について自身で課題を見つけ探求を通じて深い理解ができるようになることをめざす。また、実習では、研究手法の基礎を習得し、実験を通じて講義で得た知識の理解を一層深めるとともに、生命現象を解析し、疾病の理解へと結びつけ、さらに、徹底的な科学真理の追究に貢献できる能力を育成する。

医学上の最新知識の第一波はほぼ例外なく英語でもたらされ、逆に、本邦で見出された医学知見は英語による発表によって全世界の医学者と共有されなければならない。当講義では、英語副教材を用い、また、英文の教科書・参考書を紹介することによって、学生諸君が生化学、分子生物学、そしてゲノム医学の分野で頻繁に使用される学術用語に慣れ親しむことを期待している。

Ⅱ　到達目標

1　人体構成成分の種類・構成・代謝経路・調節機構の概要についてその分子基盤を理解する。そして、こうした機構が如何に生命維持に関わっているのか、またその破綻が生命体

にどのような影響を及ぼすのか考察することによって、各種疾患の生化学的根拠を理解する。

2　ヒトゲノム情報の構造・構成や複製・発現調節機構の分子メカニズムを理解し、ゲノム情報に変異が生じるメカニズムとその生物影響について把握する。もってゲノム科学・分子遺伝学の観点から各種疾病を理解できるようになる。

3　細胞の生存、分化、増殖、死、そして機能発現を通じて生命体は多様な生命現象を演じ、このとき組織・細胞間や細胞内でさまざまな分子シグナルが錯綜する。このような生体シグナルの分子基盤について学び、生命体の恒常性を維持するしくみとその制御メカニズムについて修得する。またこのような分子機構を解析するための方法論についても理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

分子生化学とゲノム医科学の両部門は、2つの基礎医学科目として、それぞれ当該分野で行った授業内容について別個に試験を行って別個に成績評価を行う。実習や演習におけるレポート提出は定期試験受験資格付与の要件とする。両科目試験ともに合格することをもって進級の要件とする。

両部門ともに第２学年前期の期末試験期間に定期試験を行う。

分子生化学部門では第２学年前期に中間試験も行い、そのウエイトは20％とし、定期期末試験との合計で100％とする。総合成績評価は、試験の点数と授業ごとに行う小テストの点数を総合的に勘案して判定する。

ゲノム医科学では定期期末試験を100点満点で評価する。

それぞれの部門において試験点数を評価し、それぞれの科目の合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

下記メールアドレスに連絡し、アポイントメントを取ってもらえれば、該当科目履修学生による講義内容等の質問を随時受けつける：

分子生化学（カリキュラム主任）：　kuwahara@koto.kpu-m.ac.jp　（桒原）
ゲノム医科学（教授）：　tashiro@koto.kpu-m.ac.jp　（田代）

Ⅵ　教科書、参考書

【分子生化学】

教科書

Lippincott Illustrated Reviews: Biochemistry, 8th ed., Ferrier（著）Wolters Kluwer 2022（International Editionであれば約13,000円）。第８版まで日本語版が出版されている［イラストレーテッド生化学　原書8版、丸善、8,800円］。

Lehninger Principles of Biochemistry, 8th ed., Nelson & Cox（著）Macmillan Higher Education 2021（International Editionであれば約13,000円；第7版まで日本語版が出版されている［レーニンジャーの新生化学(上)(下) 、廣川書店、各巻とも9,680円；8,800円+税］）

参考書

The Biology of Cancer, 2nd ed., Weinberg（著）Garland Science 2014（分子腫瘍学についての参考書。UK versionのペーパーバックであれば16,395円[南江堂洋書部]。南江堂からは訳書も出版されている「ワインバーグ　がんの生物学　原書第2版（2017）,15,400円；14,000円+税」。

その他の参考書・副読本等については、講義時に適宜紹介する。

【ゲノム医科学】

教科書

トムソン&トムソン遺伝医学第２版［原著第8版］Nussbaumら著 福嶋義光監訳、
メディカル・サイエンス・インターナショナル社 税込11000円

新 遺伝医学やさしい系統講義19講 福嶋義光監修、
メディカル・サイエンス・インターナショナル社 税込5060円

診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学（渡邊淳著、羊土社、税込4730円）

上記3冊は全範囲を試験範囲とする
分子生化学指定の以下の教科書全範囲も試験範囲とする
イラストレイテッド生化学[原著第8版]
（Abaliら著、石崎泰樹、丸山敬監訳、丸善出版、税込8800円）

Ⅲ　授業日程

分子医科学

第１学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
2月18日(火)	4	ゲノム医科学総論	ゲノム医科学	田 代 教 授
2月20日(木)	2	分子生化学総論：酵素の構造と機能	分子生化学	桒 原 准 教 授
2月21日(金)	2	糖質・脂質の化学	分子生化学	吉 田 講 師
2月25日(火)	2	ヌクレオチド・アミノ酸・ペプチドの化学	分子生化学	吉 田 講 師
2月25日(火)	3	ＤＮＡの複製	ゲノム医科学	田 代 教 授
2月26日(水)	4	ＤＮＡの修復	ゲノム医科学	田 代 教 授
2月27日(木)	2	転写（１）	ゲノム医科学	田 代 教 授
2月27日(木)	3	タンパク質の構造と機能	分子生化学	吉 田 講 師
2月28日(金)	2	細胞内情報伝達概説	分子生化学	忠垣講師(学内)
3月3日(月)	2	代謝総論：酵素の活性制御	分子生化学	桒 原 准 教 授
3月4日(火)	2	翻訳（１）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
3月4日(火)	4	転写（２）	ゲノム医科学	田 代 教 授
3月10日(月)	2	解糖系：糖のエネルギー変換経路	分子生化学	桒 原 准 教 授
3月11日(火)	2	ＴＣＡ回路とその調節	分子生化学	桒 原 准 教 授
3月11日(火)	3	電子伝達系とＡＴＰ合成	分子生化学	桒 原 准 教 授
3月12日(水)	3	翻訳（２）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
3月12日(水)	4	遺伝情報の発現調節	ゲノム医科学	田 代 教 授
3月14日(金)	3	糖新生経路	分子生化学	桒 原 准 教 授

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月9日(火)	3	糖新生経路	分子生化学	桒 原 准 教 授
4月9日(火)	4	タンパク質局在化機構	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月12日(金)	3	グリコーゲンの合成と分解、そして糖原病	分子生化学	桒 原 准 教 授
4月16日(火)	1	糖質代謝のまとめと水溶性ビタミン	分子生化学	桒 原 准 教 授
4月16日(火)	2	翻訳後修飾とタンパク質分解	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月17日(水)	1	物質輸送の仕組み	分子生化学	吉 田 講 師
4月17日(水)	2	逆転写とレトロウイルス	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月19日(金)	1	ホルモン（１）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
4月19日(金)	2	ホルモン（２）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
4月24日(水)	3	分子病	ゲノム医科学	田 代 教 授

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
4月24日(水)	4	神経の分子生物学	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月26日(金)	3	脂肪酸の合成とβ酸化	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月7日(火)	1	リン脂質とリポ蛋白の代謝	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月7日(火)	2	コレステロールの代謝と脂質の運搬	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月9日(木)	1	細胞周期とプログラム細胞死	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
5月9日(木)	2	エイコサノイドの代謝と脂質メディエーター	分子生化学	吉 田 講 師
5月10日(金)	1	脂溶性ビタミンの生化学	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月10日(金)	2	アミノ酸代謝と尿素回路	分子生化学	吉 田 講 師
5月14日(火)	3	医学・生物学の偉人演習（１）	ゲノム医科学	田 代 教 授
5月14日(火)	4	アミノ酸炭素骨格の代謝	分子生化学	吉 田 講 師
5月17日(金)	3	ポルフィリン代謝 ーヘム合成とビリルビンの処理ー	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月20日(月)	1	幹細胞と新しい生命工学	ゲノム医科学	池 川 客 員 教 授
5月20日(月)	2	ピリミジン代謝	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月22日(水)	1	葉酸代謝とメチオニン回路と1炭素単位の転移反応	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月22日(水)	2	免疫系のゲノム医科学（１）	ゲノム医科学	池 川 客 員 教 授
5月23日(木)	1	プリン代謝	分子生化学	山崎講師(学内)
5月23日(木)	2	免疫系のゲノム医科学（２）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
5月24日(金)	1	栄養代謝生化学のまとめと代謝異常症	分子生化学	桒 原 准 教 授
5月24日(金)	2	分子生化学実習への導入	分子生化学	分子生化学教室員
6月11日(火)	3	集団遺伝学の基礎とハーディーワインベルグの法則	分子生化学	吉 田 講 師
6月11日(火)	4	医学・生物学の偉人演習（２）	ゲノム医科学	田 代 教 授
6月14日(金)	3	医学・生物学の偉人演習（３）	ゲノム医科学	田 代 教 授
6月17日(月)	1	遺伝子治療（１）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
6月17日(月)	2	遺伝子工学（１）	分子生化学	吉 田 講 師
6月18日(火)	1	遺伝子工学（２）	分子生化学	吉 田 講 師
6月18日(火)	2	遺伝子診断	分子生化学	桒 原 准 教 授
6月20日(木)	1	遺伝子治療（２）	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
6月20日(木)	2	血管新生・動脈硬化の分子生物学	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
6月21日(金)	1	分子遺伝と集団進化（１）	ゲノム医科学	八 木 客 員 教 授
6月21日(金)	2	分子遺伝と集団進化（２）	ゲノム医科学	八 木 客 員 教 授
6月26日(水)	3	分子細胞遺伝学：演習（Ⅰ）	分子生化学	分子生化学教室員
6月26日(水)	4	分子細胞遺伝学：演習（Ⅱ）	分子生化学	分子生化学教室員
6月28日(金)	3	癌遺伝子と細胞増殖のシグナル伝達	分子生化学	吉 田 講 師
7月2日(火)	1	ゲノム医科学からみた生殖細胞と胚誘導	ゲノム医科学	池 川 客 員 教 授
7月2日(火)	2	ゲノム医科学からみたプロテオミクス	ゲノム医科学	池 川 客 員 教 授
7月5日(金)	1	分子遺伝と集団進化（３）	ゲノム医科学	八 木 客 員 教 授

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
7月5日(金)	2	ＲＮＡの細胞生物学	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
7月8日(月)	1	癌抑制遺伝子（Ⅰ）　RBと関連分子	分子生化学	桒 原 准 教 授
7月8日(月)	2	癌抑制遺伝子（Ⅱ）p53とDNA損傷への応答	分子生化学	忠垣講師(学内)
7月9日(火)	3	リサーチマインド涵養教育	ゲノム医科学	田 代 教 授
7月9日(火)	4	ゲノミクスのまとめ	ゲノム医科学	田 代 教 授
7月12日(金)	3	分子生化学中間試験	分子生化学	分子生化学教室員
7月19日(金)	1	分子生化学まとめ	分子生化学	桒 原 准 教 授
7月19日(金)	2	ゲノミクスのまとめ	ゲノム医科学	田 代 教 授

第２学年前期　　（ 実習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
5月27日(月)	1・2	分子生化学・ゲノム医科学実験－実習	分子医科学	全 教 室 員
5月27日(月)	3・4			
5月28日(火)	1・2	〃	〃	〃
5月28日(火)	3・4			
5月29日(水)	1・2	〃	〃	〃
5月29日(水)	3・4			
5月30日(木)	1・2	〃	〃	〃
5月30日(木)	3・4			
5月31日(金)	1・2	結果の考察と全体ディスカッション	〃	〃

免　疫　学

教　員　名

教　　授	松田　　修	客員教授	山田　明
准　教　授	岸田　綱郎	〃	喜多　正和
講　　師	新屋　政春	〃	吉川　研一
講師（学内）	山本　健太	〃	市村　　宏
助　　教	渡邉　映理	〃	河本　　宏
		〃	糸井マナミ
特任教授	GiuseppePezzotti	〃	平位　秀世
特任准教授	扇谷えり子	客員講師	藤本　真慈
〃	素輪　善弘	〃	Kenny Kuchta
併任准教授	細川　暢子		
特任講師	島崎　紀子		

Ⅰ　教育の目的と方針

免疫系は、病原微生物や病原生物の感染に対して、生体を防御する高次システムであり、高度に専門化した免疫担当細胞とそれらが発現する分子群からなる緻密で動的なネットワークによって維持され、機能している。免疫系はまた、腫瘍に対する監視と排除にも関与する。免疫系を構成する細胞は詳細にキャラクタライズされており、また免疫応答を担う分子群に関する情報も膨大な量、蓄積している。免疫系の破綻は、日和見感染の発症や感染症の重篤化に繋がる。一方、免疫系の異常はアレルギー性疾患や自己免疫病をもたらす。臓器移植や幹細胞移植においても、免疫系は重要な意義をもつ。他方で、免疫の研究は、その特異さゆえに、医学生物学上のさまざまな技術革新を創出した。

そこで免疫学の教育目標は、免疫の概念と、感染における免疫応答の基礎、とくに獲得免疫応答と自然免疫応答のメカニズムを、細胞レベルおよび分子レベルで理解することにある。また、免疫不全、アレルギー、自己免疫、腫瘍免疫、移植免疫について、免疫学的観点で理解する。さらに、免疫学がもたらしたバイオテクノロジーの基礎を学ぶ。免疫学の魅力のひとつは、現在も刻々と変化し多様化している点にあるので、免疫学の最先端の研究の面白さを知ってもらうことも目標とする。

Ⅱ　到達目標

1）免疫の概念、感染における獲得免疫応答と自然免疫応答の機構を分子レベルから個体レベルまで、包括的に理解する。またアレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫、腫瘍免疫等の基礎を学び、免疫応答の異常とその制御を理解する。さらに、免疫学にもとづくバイオテクノロジーの基礎を学ぶ。

2）学内外の研究者による最先端の免疫学の研究を浴び、最先端研究の面白さを理解する。

3）情報収集と整理、プレゼンテーションと議論の能力を育成する

４）実習では免疫学の基礎的な実験を体得し、また実験の原理を理解する。

５）できるだけ学生が自分自身で考えて、優れた医師、医学者になるにふさわしい応用力と問題解決能力を身につけることを到達目標とする。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

１　日常点

講義と実習では原則として出席をとる。学生によるセミナー発表と討論も評価対象とする。実習では実習態度とともに毎回終了時にレポート提出を行い、日常点として加味する。

２　試験

講義と実習を終了後に定期試験を行う。形式は筆記試験とする。

３　総合成績評価

試験の点数と日常点数の両者を総合的に勘案して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

オフィスアワー			メールアドレス
・松田　修 教授	火曜日	14:00-17:00	mazda@koto.kpu-m.ac.jp
・岸田綱郎 准教授	火曜日	14:00-17:00	tsunao@koto.kpu-m.ac.jp
・新屋政春 講師	火曜日	14:00-17:00	masaharu@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先　免疫学秘書　内線 5329, e-mail：t-yuka@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書

１．Janeway's Immunobiology, 10th ed.,(July, 2022), K. Murphy, C. Weaver & L. J. Berg. W W International Student edition, Norton & Co Inc., ISBN-13: 978-0393884913 ペーパーバック：約 29,000 円. ルーズリーフ：約 13,000 円. 免疫学の重要な項目をほぼ網羅している。２の新版の原著。電子書籍も available である。

２．免疫生物学（原書第 9 版）(March 8, 2019)，Ken Murphy & C.Weaver 笹月 健彦（翻訳), 吉開泰信（翻訳)、南江堂. ISBN-10: 4524251154、ISBN-13: 978-4524251155. 約 9,350 円. １の旧版の日本語訳。

参考書

１．Case Studies in Immunology: A Clinical Companion, 2016/3/8. Raif Geha and Luigi Notarangelo. Routledge; 第 7 版 (2016/2/1). ISBN-13: 978-0815345121 Kindle format 約 ¥5,600. 計 55 件の臨床事例を通じて、免疫学の主要なトピックを学ぶことができる. 日本語訳は出版されていない。

Ⅲ　授業日程

免疫学

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
9月18日(水)	3	免疫学（１）免疫系の基本原理	免疫学	松　田　教　授
9月18日(水)	4	免疫学（２）Ｂ細胞と獲得免疫応答１	〃	〃
9月24日(火)	3	免疫学（３）Ｂ細胞と獲得免疫応答２	〃	〃
9月24日(火)	4	免疫学（４）Ｂ細胞と獲得免疫応答３	〃	〃

第２学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
9月30日(月)	1	免疫学（５）Ｔ細胞と獲得免疫応答１	免疫学	松　田　教　授
9月30日(月)	2	免疫学（６）Ｔ細胞と獲得免疫応答２	〃	〃
10月1日(火)	3	免疫学（７）Ｔ細胞と獲得免疫応答３	〃	〃
10月1日(火)	4	免疫学（８）自然免疫応答１	〃	〃
10月3日(木)	1	免疫学（９）自然免疫応答２	〃	〃
10月3日(木)	2	免疫学（１０）自然免疫応答３	〃	〃
10月7日(月)	1	免疫学特別講義（１）TCRレパトアと免疫１	〃	藤本客員講師
10月7日(月)	2	免疫学特別講義（２）TCRレパトアと免疫２	〃	〃
10月8日(火)	3	免疫学（１１）感染と免疫	〃	松　田　教　授
10月8日(火)	4	免疫学（１２）免疫不全	〃	〃
10月15日(火)	3	免疫学（１３）移植と免疫	〃	岸田准教授
10月15日(火)	4	免疫学（１４）腫瘍と免疫	〃	〃
10月21日(月)	1	免疫学（１５）アレルギー	〃	〃
10月21日(月)	2	免疫学（１６）自己免疫	〃	〃
10月22日(火)	3	免疫学特別講義（３）胸腺と免疫１	〃	糸井客員教授
10月22日(火)	4	免疫学特別講義（４）胸腺と免疫２	〃	〃
10月23日(水)	3	免疫学特別講義（５）免疫と疾患１	〃	松　田　教　授
10月23日(水)	4	免疫学特別講義（６）免疫と疾患２	〃	〃
11月11日(月)	3	免疫学特別講義（７）ワクチンと免疫１	〃	山田客員教授
11月11日(月)	4	免疫学特別講義（８）ワクチンと免疫２	〃	〃
11月12日(火)	3	免疫学特別講義（９）ウイルス感染と免疫１	〃	市村客員教授
11月12日(火)	4	免疫学特別講義（１０）ウイルス感染と免疫２	〃	〃
11月13日(水)	3	免疫学セミナー（１）	〃	山本学内講師

第２学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
11月13日(水)	4	免疫学セミナー（２）	免疫学	山本学内講師
11月14日(木)	3	免疫学セミナー（３）	〃	新屋講師
11月14日(木)	4	免疫学セミナー（４）	〃	〃
11月18日(月)	3	免疫学セミナー（５）	〃	山本学内講師
11月18日(月)	4	免疫学セミナー（６）	〃	〃
11月21日(木)	1	免疫学セミナー（７）	〃	新屋講師
11月21日(木)	2	免疫学セミナー（８）	〃	〃

第２学年後期　　（ 実習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
1月7日(火)	3・4	免疫学実習(１，２)	免疫学	教室員
1月8日(水)	3・4	免疫学実習(３，４)	免疫学	教室員
1月9日(木)	3・4	免疫学実習(５，６)	免疫学	教室員

感染病態学（微生物・医動物）

教員名		教員名	
教授	中屋　隆明	特任教授	齋藤　あつ子
講師	渡邊　洋平	客員教授	山田　稔
講師	廣瀬　亮平	特任准教授	大道寺　智
学内講師	西岡　敬介		

Ⅰ　教育の目的と方針

人類は、他の生物との深いかかわり合いなくしては存在しえない。一方で、長い間ヒトを脅かし続けてきたのが感染症である。ヒトに感染症を起こす病原体には、ウイルス、細菌、寄生虫などが含まれる。感染病態学（微生物学・医動物学）の教育目的は、学生がこれら病原体の生物学を系統的に学んだ上で、主体的な講義・実習参加を通して、各病原体がヒトに感染し、疾患を引き起こす機構および宿主の対抗措置について理解することである。また、本教育を通して、微生物学、医動物学研究および感染症研究の意義と面白さを理解することを期待する。

Ⅱ　到達目標

医学教育モデル・コアカリキュラム（平成28年度改訂版）「C-3-1 生体と微生物」および「E-2 感染症」等に掲げた学修目標に到達する。

特に、以下の項目を重要な到達目標とする。

１）　主要な病原体（ウイルス、細菌、寄生虫等）の構造を図示し、その形態学的特徴を説明できる。

２）　主要な病原体の増殖・複製機構の概要を説明できる。

３）　主要な病原体の感染経路を分類し、感染疫学的意義を説明できる。

４）　主要な病原体を分類し、それが引き起こす疾患の症候、合併症の概要を説明できる。

５）　主要な感染症（病原体）の診断・検査法、治療法、および予防法（ワクチン、消毒法等）の概要を説明できる。

６）　ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。

７）　ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。

８）　細菌を形態と染色性により分類できる。

９）　抗菌薬適正使用および薬剤耐性菌の出現機構について説明できる。

１０）性感染症、院内感染症、人獣共通感染症、新興・再興感染症、節足動物媒介感染症、日和見感染症、国際感染症、輸入感染症、菌交代症、バイオテロを説明できる。

１１）各臓器・器官の主要な感染症を説明できる。

１２）実習を通じて、病原体を安全に扱う感染予防対策を個人およびグループ単位で実践できる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

１　試験

定期試験として筆記試験を行う。

2　総合成績評価

定期試験の点数、解答内容（95%）と実習レポート（5%）により合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・中屋 隆明　教授	メールにて問い合わせること	tnakaya@koto.kpu-m.ac.jp
・渡邊 洋平　講師	メールにて問い合わせること	nabe@koto.kpu-m.ac.jp
・廣瀬 亮平　講師	メールにて問い合わせること	ryo-hiro@koto.kpu-m.ac.jp

・上記以外の教員については中屋教授あるいは教室スタッフ（内線5325）を通して連絡すること。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　標準微生物学（平松啓一編、医学書院、第 14 版、2021、定価 7，700 円）

2　微生物学-基礎から臨床へのアプローチ-（監訳神谷茂、河野茂、メディカルサイエンス・インターナショナル、2012、定価 8，800 円）

3　図説人体寄生虫学（吉田幸雄・有薗直樹共著、南山堂、改訂 10 版、2021、定価 9，900 円）

上記以外については講義初めのオリエンテーション時に紹介する。

Ⅲ　授業日程

感染病態学（微生物・医動物学）

第２学年前期　　（ 講義及び実習 ）

日程	時限	内容	担当者 所属	担当者 講師名
9月17日(火)	1	感染病態学総論（１）：オリエンテーション（コア・カリキュラム関連個所の説明）	感染病態学	中屋教授
9月17日(火)	2	細菌学総論（１）細菌の細菌の構造、宿主と病原体との関連	〃	中屋教授
9月18日(水)	2	細菌学総論（２）抗菌薬、薬剤耐性菌	〃	中屋教授
9月19日(木)	1	ウイルス学総論（１）ウイルスの構造、複製機構・病原性	〃	中屋教授
9月19日(木)	2	ウイルス学総論（２）ウイルス感染症の治療と予防	〃	中屋教授
9月25日(水)	1	細菌学各論（１）結核（抗酸菌）	〃	廣瀬講師
9月25日(水)	2	細菌学各論（２）：消化器細菌感染症（食中毒他）	〃	廣瀬講師

第２学年後期　　（ 講義及び実習 ）

日程	時限	内容	担当者 所属	担当者 講師名
10月2日(水)	1	ウイルス学各論（１）：DNAウイルス①（ヘルペス）・脳炎(非定型髄膜炎)	感染病態学	渡邊講師
10月2日(水)	2	ウイルス学各論（２）：レトロウイルス	〃	渡邊講師
10月9日(水)	1	ウイルス学各論（３）：ウイルス性肝炎	〃	渡邊講師
10月9日(水)	2	ウイルス学各論（４）：DNAウイルス②（パポーバ、パルボ、アデノ他）	〃	渡邊講師
10月16日(水)	1	医動物学各論（１）:寄生虫学総論	〃	齋藤特任教授
10月16日(水)	2	医動物学各論（２）:原虫感染症①	〃	齋藤特任教授
10月22日(火)	1	細菌学各論（３）：呼吸器細菌感染症	〃	西岡学内講師
10月22日(火)	2	細菌学各論（４）：神経細菌感染症（髄膜炎）・プリオン病、ポリオ	〃	西岡学内講師
10月23日(水)	1	ウイルス学各論（５）：呼吸器感染症①（パラミクソ・コロナ他）	〃	渡邊講師
10月23日(水)	2	ウイルス学各論（６）：呼吸器感染症②（インフルエンザ）、人獣共通（新興・再興）感染症	〃	渡邊講師
10月24日(木)	1	ウイルス学各論（７）：消化器ウイルス感染症、虫媒ウイルス感染症	〃	渡邊講師
10月24日(木)	2	ウイルス学各論（８）：感染症の診断・検出法	〃	西岡学内講師
11月6日(水)	1	医動物学各論（３）：原虫感染症②		廣瀬講師
11月6日(水)	2	医動物学各論（４）：線虫感染症		廣瀬講師
11月7日(木)	1	医動物学各論（５）：原虫感染症③、吸虫感染症		廣瀬講師
11月7日(木)	2	医動物学各論（６）：条虫感染症		廣瀬講師
11月14日(木)	1	細菌学各論（５）：尿路・性感染症	感染病態学	西岡学内講師
11月14日(木)	2	細菌学各論（６）：ワクチン	〃	西岡学内講師

第２学年後期　　（ 講義及び実習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
11月19日(火)	3	細菌学各論（７）：真菌感染症、皮膚細菌感染症他	感染病態学	西 岡 学 内 講 師
11月19日(火)	4	細菌学各論（８）：薬剤耐性菌（AMR）、院内感染、菌交代症、菌血症他	〃	廣　瀬　講　師
11月20日(水)	1・2	特別講義（臨床微生物学）		未　　定
1月7日(火)	1・2	特別講義（国際感染症）		未　　定
1月10日(金)	2	感染病態学総論（２）：まとめ	感染病態学	中　屋　教　授

第２学年後期　　（ 実習及び演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
11月22日(金)	3	実習オリエンテーション	感染病態学	教員全員
11月25日(月)	3・4	細菌学実習1日目(第4実習室)	〃	〃
11月27日(水)	1・2	細菌学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
11月27日(水)	3・4	細菌学実習3日目(第4実習室)	〃	〃
11月28日(木)	3・4	細菌学実習4日目(第4実習室)	〃	〃
11月29日(金)	3	ウイルス学実習1日目(第4実習室)	〃	〃
12月2日(月)	3・4	ウイルス学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
12月3日(火)	1・2	ウイルス学実習3日目(第4実習室)	〃	〃
12月4日(水)	1・2	医動物学（寄生虫学）実習（演習）	〃	〃

病　理　学

教員名

細胞分子機能病理学		分子病態病理学		人体病理学	
教　　授		教　　授		病院教授	小西　英一
准教授	原田　義規	准教授	宍戸由紀子	准教授	井村　徹也
講師(学内)	小形　岳寛	講　　師	藤本　崇宏	講　　師	宮川　　文
助　　教	中尾　龍太	助　　教	矢追　　毅	助　　教	森永友紀子
〃	望月健太郎	〃	丹藤　　創	〃	田中　顕之
客員教授	松山　高明			客員講師	大迫　　智
				〃	長峯　理子

Ⅰ　教育の目的と方針

病理学は、疾患によって生じる分子や細胞・組織における一定の構造･機能の異常に基づき､その病因 Etiology と発症機序 Pathogenesis を追求し､疾患体系を確立する学問である。

また病理学は、患者の疾患を直接取り扱う臨床医学の基盤をなすものであり、患者の病態はつねに病理学的視野に立脚して理解されねばならない。これまで病理学は、主として形態学的方法論を適用することによって疾患理解に取り組んできた。しかしながら疾患そのものが形態や機能を超えたものである以上、形態学にとどまることなく、分子の機能や動態を明らかにし得る多様な方法論を駆使し広い生物学的視野のもとで理解されねばならない。そのような取り組みによってはじめて疾患の本質により一層深く迫ることが可能になると考える。病理学の教育はこのような視点を重視して行う。これに加えて病理学の教育は、講義と実習の緊密な協調を特徴とする。講義により得た知識は実習によって確かめられ、知識として定着する。したがって、病理学の教育方法は講義・実習を一つのユニットとした形態をとる。

Ⅱ　到達目標

講義は、教科書(Pathologic Basis of Disease, Robbins and Cotran)、病理学講義スライド及びそれらをまとめたプリント類を用いての全体講義が行われる。実習（肉眼的観察、顕微鏡的観察、バーチャルスライド観察）は、総論、各論共に、講義内容に関連した臓器、組織の形態学的変化を肉眼的、顕微鏡的観察、バーチャルスライドにより習得する。

１　病理学総論（第２学年）

疾患の原因、経過、転帰などを理解するうえで要となる基本的理論を修得する。

（１）細胞傷害

細胞の構造と機能、細胞傷害の原因と機序、それに対する反応、及び形態学的変化を理解する。具体的には、細胞傷害の原因、細胞傷害に対する反応の多様性を挙げ、細胞変性と死、凝固壊死と融解壊死の違い、アポトーシスの意義と機序などが説明できること

を目標とする。

（２）組織修復・再生・治癒

組織傷害後の修復・再生・治癒過程を理解する。正常組織にストレスが加わると、これに適応するため、肥大、過形成、萎縮、化生などがおこる。適応限界を逸脱すると、組織は可逆的・非可逆的障害に陥る。組織傷害後の修復、再生、治癒過程における病理組織学的特徴について学習する。

（３）循環障害

循環障害の成因、病態を理解することを一般目標とする。具体的には、体液の成分や分布のバランスが壊れた病態である浮腫、ショックと血行動態の障害である出血、血栓、塞栓、梗塞の定義とそれぞれの原因と病態を理解することが求められる。

（４）腫瘍

細胞の増殖・分化の機構とそれらの異常を学習し、腫瘍の定義、発生機構を理解することを一般目標とする。具体的には、組織の再生、修復、肥大、増生、化生、異形成、退形成の定義、良性腫瘍と悪性腫瘍ならびに上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違い、腫瘍細胞の異型性と多形性の定義、局所における腫瘍の増殖、局所浸潤と転移の機構、腫瘍発生に関わる遺伝要因と外的因子の関連性、癌遺伝子、癌抑制遺伝子に関して概説できることを目標とする。

（５）代謝障害

代謝障害によりある物質が細胞や組織に蓄積すると、臓器の機能低下や機能不全をもたらすことになる。脂質・糖質代謝障害、無機質・色素代謝障害、アミロイドーシスなどを学び、その病理組織学的特徴についても説明できることを目標とする。

（６）免疫と炎症（基礎）/ 免疫と炎症（疾患）

基礎では、自然免疫および獲得免疫の機序を分子レベルで理解する。また炎症に関わる細胞や生理活性物質などの機能・役割を理解する。病理組織学的に、炎症の経時的変化、急性炎症と慢性炎症の特徴なども説明できることを目標とする。疾患では、免疫・アレルギー疾患の病態発生、主な自己免疫疾患、先天性および後天性免疫不全症などを学ぶ。また、I 型から IV 型アレルギーの発症機序と代表的疾患の病態、移植拒絶と Graft-versus-host disease (GVHD)、自己免疫疾患の発症機序と代表的疾患、さらに先天性及び後天性免疫不全症について説明できることを目標とする。

（７）感染症

疾病の基本病態である感染症の発症機序と組織の反応を理解することを一般目標とする。具体的には、代表的な感染症の病理形態学的特徴を説明できることである。

（８）遺伝子異常と疾患・発生発達異常

遺伝子・染色体異常と発生発達異常や疾患発生との関連を理解することを一般目標とする。具体的には、胚（生殖）細胞と体細胞、それぞれにおける遺伝子異常が引き起こす疾患の相違点、メンデル遺伝の様式と代表的な疾患、多因子遺伝が原因となる疾患、染色体異常による疾患、ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患の特徴を理解し、個体の発達異常における遺伝因子と環境因子の関係を概説できることである。

（９）環境・栄養と疾患

環境、物理的・化学的外因による障害、栄養の過剰・欠乏による疾患発生を理解することを一般目標とする。

（１０）発展①－⑤、総括と発展

病理学的な疾患研究の概要を学び、マルチオミックスと病理学では最先端の研究についても講義する。さらに、病理学総論で学んだ知識を発展させて、各論において個々の臓器での病理所見が理解できるように学習する。

2　病理学各論（第２、３学年）

臓器系統別にそれぞれの正常構造と機能及び主な疾患の病態生理、原因、症候、診断、治療、予後を習得する。それぞれの内容は概ね次のとおりである。なお、心臓・呼吸器・口腔・消化管・肝臓・胆道・膵臓・神経の病理については、それぞれ臓器別ユニットにて講義・実習を行う。

ア　心臓の病理

うっ血性心不全、心室リモデリング及び代表的な心疾患である心奇形、虚血性心疾患、心筋炎、心筋症、弁膜症などについて学ぶ。

イ　血管の病理

血管の正常構造と機能、及び代表的な疾患（粥状動脈硬化症、高血圧、血管炎など）について学ぶ。

ウ　呼吸器の病理

呼吸器の正常構造と機能、代表的な非腫瘍性疾患及び腫瘍性疾患（呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、肺癌など）について学ぶ。

エ　口腔・消化管・肝臓の病理

口腔・消化器・肝臓の正常構造と機能、代表的な非腫瘍性疾患及び腫瘍性疾患（胃炎、胃癌、炎症性腸疾患、大腸癌、肝炎、肝硬変、肝癌など）について学ぶ。

オ　胆道・膵臓の病理

胆・膵の正常構造と機能、代表的な非腫瘍性疾患及び腫瘍性疾患（胆石症、胆嚢癌、膵炎、膵癌など）について学ぶ。

カ　皮膚の病理

皮膚病理学で用いられる基本用語と代表的な非腫瘍性疾患及び腫瘍性疾患について学ぶ。

キ　運動器の病理

代表的な骨軟部腫瘍について学ぶ。

ク　神経の病理

先天性・周産期脳障害、脳・脊髄血管障害、感染性・炎症性・脱髄性疾患、神経変性疾患、脳・脊髄腫瘍、頭部外傷、末梢神経・筋疾患について学ぶ。

ケ　生殖器の病理

男性生殖器疾患として、前立腺（肥大症、腫瘍）、精巣腫瘍、女性生殖器疾患として、先天異常、卵巣（機能障害と不妊、腫瘍）、子宮（腫瘍、内膜症）、外陰、膣、骨盤内感染症などについて学ぶ。

コ　造血器・リンパ系の病理

貧血、白血病と類縁疾患、悪性リンパ腫と骨髄腫、リンパ節の反応性病変、出血傾向・紫斑病、脾臓疾患について学ぶ。

サ　乳腺の病理

良性乳腺疾患、乳癌などについて学ぶ。

シ　内分泌の病理

視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常、副腎皮質・髄質疾患、糖代謝異常、脂質代謝異常、タンパク質及び核酸代謝異常などについて学ぶ。

ス　腎臓・泌尿器の病理

糸球体疾患、間質性腎疾患、腎腫瘍、下部尿路の疾患などについて学ぶ。

セ　特別講義

病理学分野における最新のトピックスに関する招聘講師による講演に出席し、理解を深める。

なお、病理解剖の見学は剖検依頼時に受け付けることとなるが、ご遺体の *in situ* における病変、臓器肉眼的所見に関して解説を受けた後、病変の相互関係、臨床事項との関連を討論する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

全体講義における自主的な学習意欲、授業態度、能動性などを評価する。

定期試験では、病理学の一般目標、到達目標を習得しているか否かを筆記試験、実習試験（顕微鏡的観察）から、総合的に評価される。特別講義に関するレポートでの評価も考慮して合否判定される。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー		メールアドレス
・原田義規准教授	水曜日	14:00-16:00	yoharada@koto.kpu-m.ac.jp
・宍戸由紀子准教授	金曜日	16:00-18:00	shiyuki@koto.kpu-m.ac.jp
・藤本崇宏講師	木曜日	16:00-18:00	tfuji@koto.kpu-m.ac.jp
・小形岳寛学内講師	火曜日	14:00-16:00	ogatat@koto.kpu-m.ac.jp
・小西英一病院教授	月から金曜日	9:00-17:00	内線 5668（病院病理部）

週ごとにスケジュールが異なるため、直接病院病理部・病理診断科（病院 4 階）に来訪するか秘書に電話で問い合わせを。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　教科書

（1）Robbins Basic Pathology 11th ed. (Elsevier)

（2）Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 10th ed. (Elsevier)

2　参考書（アトラス）

（1）組織病理アトラス 第６版，文光堂

（2）Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th ed. (Elsevier)

Ⅲ　授業日程

病理学

第２学年前期　　（ 講義及び実習 ）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
9月17日(火)	3・4	細胞傷害	分子病態病理学	宍戸准教授
9月19日(木)	3・4	免疫と炎症(基礎) Ⅰ	分子病態病理学	藤本講師
9月20日(金)	1～3	腫瘍Ⅰ・光学顕微鏡の基礎と使い方	細胞分子機能病理学	原田准教授/望月助教
9月24日(火)	1・2	組織修復・再生・治癒	分子病態病理学	宍戸准教授
9月25日(水)	3・4	腫瘍Ⅱ	細胞分子機能病理学	原田准教授
9月26日(木)	3・4	免疫と炎症(基礎) Ⅱ	分子病態病理学	藤本講師
9月27日(金)	1～3	腫瘍Ⅲ	細胞分子機能病理学	原田准教授

第２学年後期　　（ 講義及び実習 ）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
9月30日(月)	3・4	循環障害Ⅰ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
10月1日(火)	1・2	代謝障害Ⅰ	分子病態病理学	宍戸准教授
10月2日(水)	3・4	免疫と炎症(基礎) Ⅲ	分子病態病理学	藤本講師
10月4日(金)	1～3	腫瘍Ⅳ	細胞分子機能病理学	原田准教授
10月7日(月)	3・4	代謝障害Ⅱ	分子病態病理学	宍戸准教授
10月8日(火)	1・2	循環障害Ⅱ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
10月9日(水)	3・4	遺伝子異常と疾患・発生発達異常Ⅰ	細胞分子機能病理学	中尾助教
10月10日(木)	3・4	循環障害Ⅲ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
10月11日(金)	1・2	感染症Ⅰ	分子病態病理学	丹藤助教
10月15日(火)	1・2	免疫と炎症(疾患) Ⅰ	分子病態病理学	丹藤助教
10月16日(水)	3・4	遺伝子異常と疾患・発生発達異常Ⅱ	細胞分子機能病理学	中尾助教
10月17日(木)	3・4	感染症 Ⅱ	分子病態病理学	丹藤助教
10月21日(月)	3・4	環境・栄養と疾患Ⅰ	細胞分子機能病理学	中尾助教
10月24日(木)	3・4	免疫と炎症(疾患) Ⅱ	分子病態病理学	丹藤助教
10月25日(金)	1・2	環境・栄養と疾患Ⅱ	細胞分子機能病理学	中尾助教
11月5日(火)	1・2	病理総論：総括と発展Ⅰ	細胞分子機能病理学	教室員
11月8日(金)	3	発展①：疾患研究	分子病態病理学	藤本講師
11月11日(月)	1・2	発展②：マルチオミックスと病理学 Ⅰ	分子病態病理学	矢追助教
11月15日(金)	3	病理総論：総括と発展Ⅱ	細胞分子機能病理学	望月助教
11月21日(木)	3・4	病理総論：総括と発展Ⅲ	細胞分子機能病理学	教室員
11月28日(木)	1・2	発展③：マルチオミックスと病理学 Ⅱ	分子病態病理学	矢追助教

第２学年後期　　（ 講義及び実習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
1月8日(水)	1・2	発展④：マルチオミックスと病理学 Ⅲ	分子病態病理学	矢　追　助　教
1月9日(木)	1・2	発展⑤：病理学総論から各論へ	分子病態病理学	宍 戸 准 教 授
1月30日(木)	1・2	血管の病理　Ⅰ	細胞分子機能病理学	小 形 学 内 講 師
1月30日(木)	3・4	内分泌の病理Ⅰ	細胞分子機能病理学	小 形 学 内 講 師
2月3日(月)	1・2	血管の病理　Ⅱ	細胞分子機能病理学	小 形 学 内 講 師
2月3日(月)	3・4	運動器の病理　Ⅰ	人体病理学	小 西 病 院 教 授
2月4日(火)	1・2	内分泌の病理Ⅱ	細胞分子機能病理学	小 形 学 内 講 師
2月4日(火)	3・4	腎・泌尿器の病理Ⅰ	分子病態病理学	丹　藤　助　教
2月6日(木)	1・2	皮膚の病理Ⅰ	分子病態病理学	宍 戸 准 教 授
2月6日(木)	3	皮膚の病理Ⅱ	分子病態病理学	宍 戸 准 教 授
2月10日(月)	1・2	腎・泌尿器の病理Ⅱ	分子病態病理学	丹　藤　助　教
2月10日(月)	3・4	造血器・リンパ系の病理Ⅰ	分子病態病理学	宍 戸 准 教 授
2月12日(水)	3・4	生殖器の病理Ⅰ	細胞分子機能病理学	原 田 准 教 授
2月13日(木)	1・2	造血器・リンパ系の病理Ⅱ	分子病態病理学	宍 戸 准 教 授
2月13日(木)	3・4	乳腺の病理	人体病理学	大 迫 客 員 講 師
2月14日(金)	1・2	生殖器の病理Ⅱ	細胞分子機能病理学	原 田 准 教 授
2月14日(金)	3・4	特別講義	細胞分子機能病理学	未定
2月17日(月)	1・2	運動器の病理Ⅱ	人体病理学	小 西 病 院 教 授
2月17日(月)	3	生殖器の病理Ⅲ	細胞分子機能病理学	原 田 准 教 授

薬　理　学

教　員　名

教授	楳村　敦詩	研究教授	勝山　真人
研究准教授	岩田　和実	客員講師	小原　幸
助教	岡田　宣宏	客員講師	山﨑　真裕
特任助教	石田　和久	客員講師	衣斐　督和

Ⅰ　教育の目的と方針

薬理学は、薬と生体の相互作用について検討し、その結果起こる現象を解析する学問といえる。生体側の変化を学ぶ薬力学のみならず、作用する薬の変化を捉える薬物動態学を学び、生体と薬剤の相互作用を理解することにより、個々の現象を説明しその結果を予測できるようになる。薬理学の基礎として、生化学、生理学、解剖学、ゲノム医科学など他分野で学んだことを活用し、薬物受容体を基本とする作用機序を分子レベルから認識し、薬物動態の各ステップを評価することが目標である。

また薬理学は臨床医学・医療に直結する学問である。薬を処方・投薬する際には、添付文書やインタビューフォームを活用して適応・副反応を把握し薬剤を選択するのみならず、用法・用量の決定まで要求される。対象となる疾患や病態についての専門知識も必要となるため、感染病態学・病理学・免疫学などの基礎医学や社会医学をはじめ、該当分野の臨床医学についても積極的に学ぶ姿勢を持つことが重要である。

また、種々の臨床試験を経て安全かつ有効に使用できる医薬品の実現をゴールとする開発過程には、レギュラトリーサイエンスの視点が重要であること、多方面の人が関わり、多大な時間、多額の費用を要することを理解する。医薬品を適正使用するには、薬物動態の中心を担う肝臓・腎臓・心臓の機能低下や、BMI など身体的特徴や代謝酵素活性などゲノム多様性をも含めた個体差に加えて、併存疾患や新生児・小児、妊産婦、高齢者など、個々の患者への対応力・応用力が求められる。

医学を含む自然科学は凄まじい速度で進歩しており、薬理学も例外ではない。学内外の専門分野の研究者より、薬に関連する研究の最先端ならびに診療の最前線を見聞きすることで、医学の発展を肌で感じ、将来は自らがその進歩に貢献し次世代に引き継ぐ役割を担ってほしい。

Ⅱ　到達目標

1. 薬の知識を蓄積し、薬理学の基礎から応用まで理解している。
2. 薬物の作用機序、有害作用、体内動態や、他の薬物との相互作用を分子レベルから理解している（用量反応曲線・ADMEなど）。特に薬物の受容体結合・薬理作用の関連性及び作動薬・拮抗薬について説明できる。
3. 薬物の有害作用、薬物間・薬物動態的相互作用について概要を理解している。
4. 主な抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項、がん免疫に関する治療法について理解している。
5. 分子標的薬・バイオ医薬の薬理作用と有害事象の概要を理解している。
6. 抗微生物薬、糖尿病・内分泌作用薬、循環器作用薬、消化器作用薬、中枢神経作用薬、

末梢神経作用薬、麻薬性鎮痛薬・鎮静薬、抗炎症薬、抗アレルギー薬、リウマチ・痛風・喘息治療薬などに関する治療法について概要を理解している。

7. 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、医療現場における薬物をめぐる問題とその対応について学び、事後に役立てるための分析ができる。
8. ブロックバスターと呼ばれる薬剤など画期的な新薬の登場は、医療・科学や時には社会全体に大きな影響を与える。科学的な発見から薬剤の開発過程、世に与えたインパクトまでを共有し、事後に役立てるための分析ができる。

ア　講義

総論では薬理学の概念、薬力学ならびに生体内における薬物の動態、作用点、作用機序、相互作用を理解する。各論では、疾患や病態に応じた薬物の適応と選択法や有害作用について学ぶ。特に専門性の高い分野については、該当する診療科の専門医による講義も含め学習する。一部の講義はグループ学習の成果を発表する形式で行う。その他、病態分子薬理学の時間は最新の研究トピックスを学ぶ場とする。

イ　実習及び演習

実習および演習ではグループに分かれ、全員が何らかの役割を担当し、発表に際しては司会や演者を担当するなどのトレーニングの場とする。循環器に及ぼす薬物の作用、腸管・気管支の平滑筋や心筋に及ぼす薬物の作用、薬の効力検定、薬物血中濃度モニタリングのシミュレーション等を体験しデータの収集とその解釈を行う。その他、最新の薬物や関連するトピックスをテーマとし、学生が主体となりグループ学習ならびに成果発表を行う。また二重盲検法による薬物の評価や臨床試験におけるインフォームドコンセントのロールプレイ、薬害や薬物相互作用に関するミニシンポジウムなどを開催する。学習成果を聴衆の面前でプレゼンテーションし、ディスカッションを行うことにより、これらを主導する能力を養う。いずれの成果も共有するため、正しく質の高いエビデンスに基づいた情報を自ら提示する必要がある。

Ⅲ　授業日程

表のとおり。変更がありうるので、メールなどの連絡に注意すること。

Ⅳ　成績評価基準

1　日常点

メール連絡は重要である。大学からのメールは必ず当日中に確認し、対応を求められた際は早急（遅くとも一両日中）に返信すること。一部の講義では小テストや課題の提出を求めることがある。実習・演習では遅刻早退なく出席し、小テストや課題の提出をもって出席とする。

2　試験

定期試験は筆記試験により行う。講義のみならず、実習・演習の内容も出題の対象になる点に留意する。

3　総合成績評価

日常点（10%）と定期試験の点数（90%）を評価して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・ **教室の連絡先**	**内線 5332**	**yakuri@koto.kpu-m.ac.jp**
・ 楳村教授	メールでアポイントメントを。	aumemura@koto.kpu-m.ac.jp
・ 岩田研究准教授	メールでアポイントメントを。	iwatak@koto.kpu-m.ac.jp
・ 岡田助教	メールでアポイントメントを。	okadan@koto.kpu-m.ac.jp
・ 石田助教	メールでアポイントメントを。	donner@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は特に指定しないが、NEW 薬理学など以下にあげる教科書・参考図書の最新版を用いることが望ましい。

・ NEW 薬理学（田中千賀子・加藤隆一・成宮周編、南江堂、9,680円）
・ Katzung & Trevor's Pharmacology: Examination & Board Review (Lange)
　(Anthony J Trevor, Bertram G Katzung, Marieke Kruidering-Hall;
　McGraw-Hill; 約6,000円)
・カッツング薬理学エッセンシャル（Katzung BG（著）・櫻井 隆（監訳）　丸善出版　約10,000円）
・リッピンコットシリーズ　イラストレイテッド薬理学（Harvey RA（編）・柳澤輝行（監訳）丸善出版 8,580円）
・ラング・デール薬理学（渡邊直樹監訳、丸善出版、9,680円）
・ハーバード大学講義テキスト：臨床薬理学（Golan DE（編集）・渡邉裕司（監訳）丸善出版　約15,000円）
・ローレンス　臨床薬理学（Bennett PN（著）・大橋京一（監訳）　西村書店 6,500円）
・ベッドサイドの薬理学（笹栗俊之・宮田篤郎編、丸善出版、5,280円）
・FLASH 薬理学（丸山敬著、羊土社、3,520円）
・シンプル薬理学　（野村 隆英 ・石川 直久（著）　　南江堂 3,190円）

Ⅲ　授業日程

薬理学

第２学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
9月26日(木)	1	総論１	薬理学	楳 村 教 授
9月26日(木)	2	総論２	薬理学	楳 村 教 授

第２学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月3日(木)	3	総論３	薬理学	楳 村 教 授
10月10日(木)	1	末梢神経作用薬１（アドレナリン作用薬）	薬理学	岩田研究准教授
10月10日(木)	2	末梢神経作用薬２（抗アドレナリン作用薬）	薬理学	岩田研究准教授
10月17日(木)	1	末梢神経作用薬３（コリン作用薬・抗コリン作用薬）	薬理学	岩田研究准教授
10月17日(木)	2	消化器作用薬１（上部消化管）	薬理学	楳 村 教 授
10月18日(金)	1	消化器作用薬２（下部消化管・IBD）	薬理学	楳 村 教 授
10月18日(金)	2	消化器作用薬３（肝胆膵、ウイルス）	薬理学	楳 村 教 授
10月18日(金)	3	抗アレルギー薬	中研RI	勝山研究教授
10月25日(金)	3	**※実習オリエンテーション**	薬理学	薬理学教室員
11月5日(火)	3	抗炎症薬（ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬）	中研RI	勝山研究教授
11月5日(火)	4	リウマチ・痛風・喘息に対する治療薬	中研RI	勝山研究教授
11月6日(水)	3	循環器作用薬１（降圧薬・脂質異常症治療薬）	薬理学	岩田研究准教授
11月6日(水)	4	循環器作用薬２（虚血性心疾患と心不全）	循環器・腎臓内科学	小原客員講師
11月7日(木)	3	循環器作用薬３（不整脈・利尿薬・腎臓）	薬理学	岩田研究准教授
11月7日(木)	4	化学療法薬１（抗腫瘍薬）	薬理学	岡 田 助 教
11月8日(金)	1	糖尿病治療薬	薬理学	山﨑客員講師
11月8日(金)	2	化学療法薬２（抗腫瘍薬）	薬理学	楳 村 教 授
11月12日(火)	1	化学療法薬３（抗感染症薬）	薬理学	岩田研究准教授
11月12日(火)	2	臨床薬理学序論（薬物相互作用・他）	薬理学	岩田研究准教授
11月13日(水)	1	中枢神経作用薬１（抗不安薬・催眠薬）	薬理学	衣斐客員講師
11月13日(水)	2	中枢神経作用薬2（麻薬性鎮痛薬・麻酔薬・認知症薬）	薬理学	衣斐客員講師
11月15日(金)	1	病態分子薬理学１　研究紹介	薬理学	薬理学教室員
11月15日(金)	2	病態分子薬理学２　専門分野	薬理学	外 部 講 師
11月18日(月)	1	中枢神経作用薬３（抗精神病薬）	精神医学	綾 仁 講 師
11月18日(月)	2	中枢神経作用薬４（気分障害治療薬・パーキンソン病）	薬理学	学 生 発 表

第２学年後期　　（ 実習・演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
11月19日(火)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
11月20日(水)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
11月22日(金)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
11月25日(月)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
11月26日(火)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
11月26日(火)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月2日(月)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月3日(火)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月4日(水)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月5日(木)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月5日(木)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月6日(金)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員

社　会　医　学

保健・予防医学

保健・予防医学教室

教　員　名

公衆保健科学部門		予防医学部門	
教　　授	高嶋　直敬	教　　授	武藤　倫弘
講　　師	小山　晃英	准　教　授	宮本　真吾
講師(学内)	松井　大輔	講　　師	渡邉　元樹
〃	尾﨑　悦子	講師(学内)	飯泉　陽介
〃	廣畑　　弘	助　　教	増田　光治
(中丹東保健所長)		特任教授	石川　秀樹
助教(併)	渡邉　　功	(教育センター)	
(南丹保健所)		特任教授	曽和　義広
助教(併)	長光　玲央	客員教授	藤井　　元
(京都府健康福祉部)		客員講師	藤崎　和彦
客員教授	栗山　長門	〃	下内　　昭
		〃	宮上　浩史
		〃	小山　真

Ⅰ　教育の目的と方針

学生諸君が予防医学、公衆衛生学の重要性を自ら体得し、将来医師としていかなる立場におかれても、常に予防医学、公衆衛生学の実践的指導者として活躍し得ることを目的としています。衛生学・公衆衛生学はともに、①疾病を予防すること、②積極的に健康を増進すること、③寿命を延長することを目的とし、以上の目的達成に必要な原理を究め、この原理を実際に適用する方法を考える学問です。公衆衛生学は、人の集団を対象として健康課題の解決を図る実践的な学問であり、疫学は公衆衛生学の基礎となる学問のひとつです。さらに、現在の医療に欠けている「包括的医療」あるいは「全人医療」的見地からも理解を深めることを目的としています。

Ⅱ　到達目標

1　公衆衛生

ア　公衆衛生の概念を理解している。

イ　地域共生社会の概念を理解している。

ウ　予防の段階(一、二、三次予防)とそれらの戦略を理解している。

エ　公衆衛生活動の意義を理解し、求められる役割について述べることができる。

2　社会保険、公的扶助、社会福祉

ア　生存権等の健康に関する基本的人権と社会保障の意義と概要を理解している。

イ　医療保険、介護保険、年金保険を含む社会保険の仕組みと問題点を理解している。

ウ　障害者福祉の概要、法制度を理解している。

3　地域保健

ア　保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所等の役割を理解している。

イ　栄養、身体活動、休養等の健康増進施策の意義と概要、法制度を理解している。

ウ　地域保健に関連する基本的な制度や法律を理解している。

エ　医療法が定める医療施設の種類と機能について概要を理解している。

オ　医療計画について概要を理解している。

カ　地域医療提供体制に関する諸課題の相互関連性の概要を理解している。

キ　医療提供体制と医師の働き方について自身の考えを述べることができる。

ク　地域の実情に応じた医療と医師の偏在の現状の概要を理解している。

ケ　地域の住民や医療を提供する上で必要となる専門職と協働した地域の健康増進活動の意義の概要を理解している。

4　精神保健・母子保健・学校保健

ア　精神保健及び精神障害者福祉の意義及び関連する制度や法律を理解している。

イ　成育基本法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、児童虐待防止法等、母子保健施策の意義と概要を理解している。

ウ　学校保健安全法、学校医の役割、学校感染症等、学校保健の意義と概要を理解している。

5　産業保健・環境保健

ア　産業保健の意義、労働衛生の 3 管理等、産業保健の基本的な考え方を理解している。

イ　産業保健・環境保健に関連する基本的な制度や法律を理解している。

ウ　労働災害及び職業性疾病とのその対策を理解している。

エ　有害物質による産業中毒とその対策を理解している。

6　健康危機管理

ア　健康危機の概念と種類、それらへの対応について理解している。

イ　健康危機管理に関連する基本的な制度や法律を理解している。

ウ　災害拠点病院、種々の活動チーム等、災害保健医療の意義を理解している。

7　疫学・保健統計

ア　主な人口統計、疾病・障害の分類・統計を理解している。

イ　平均寿命、健康寿命について説明できる。

ウ　公衆衛生の視点から見た疫学の役割を理解している。

エ　代表的な疫学指標を理解している。

オ　主なバイアスや交絡を例示できる。

カ　観察研究及び介入研究等の疫学の研究デザインを理解している。

キ　急性感染症に特異的な疫学的アプローチを理解している。

ク　エビデンスの限界を踏まえながら、集団に影響する意思決定を支援できる。

8　情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール

ア　情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を理解している。

イ　医療における情報・科学技術に関連する規制(法律、ガイドライン等)の概要を理解している。

ウ　電子カルテをはじめとする医療情報の管理・保管の原則について理解し、関連する規制を遵守できる。

9　研究倫理

ア　捏造、改ざん、盗用等を含め研究不正の類型を説明することができる。

イ　人を対象とした研究に関するルールの概要を理解している。

ウ　利益相反に関するルールの概要を理解している。

10　臨床倫理

ア　生と死に関わる倫理的問題の概要を理解している。

イ　多様な価値観を理解して、多職種と連携し、自己決定権を含む患者の権利を尊重する。

ウ　診療現場における倫理的問題について、倫理学の考え方に依拠し、分析した上で、自身の考えを述べることができる。

11　医療面接

ア　医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。

イ　病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。

ウ　患者に関わる人達から必要な情報を得ることができる。

12　社会の構造や変化から捉える医療

ア　健康寿命を伸ばすために働きかけを行うことができる。

イ　経済が医療に与える影響について理解している。

ウ　医療資源を公平に分配するとはどういうことか考え、自らの意見を述べることができる。

13　国内外の視点から捉える医療

ア　国内及び国際社会の中で規定される医療の役割と医療体制について概要を理解している。

イ　国際的に取り組む必要のある医療・健康課題について、歴史・社会的背景を踏まえて、概要を理解している。

ウ　ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの意義を理解し、世界各国の医療制度が抱える問題を例示できる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

実習（学内および学外）

（1）予防医学部門の実習内容

生活習慣病などの疾患に対する予防対策の提案を目標とし、情報収集、立案、プレゼンテーション作成などを少人数でのチュートリアル形式による実習にて実施します。また、京都府内の保

健所等へ、指定された日程で実習をします。

（２）公衆保健科学部門の実習内容

京都府内の保健所等へ、指定された日程で実習をします。

Ⅳ　成績評価基準

１　基本的考え方

「公衆保健科学」と「予防医学」に分けて試験を行い、両方に合格した場合に「保健・予防医学」の単位認定がなされます。基本的には、公衆保健科学部門の教員が教授した範囲と対人保健にかかる内容を「公衆保健科学」で、予防医学部門の教員が教授した範囲を「予防医学」において評価します。

２　評価方法

「公衆保健科学」および「予防医学」はいずれも、試験の受験資格は本学の履修規定に従う。なお実習報告会は実習として扱う。評価は講義評価(記述試験及び態度)70%、実習評価(報告内容及び態度)30%で評価するが、いずれかが６割未満の場合は「公衆保健科学」および「予防医学」はいずれも不合格とする。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・高嶋直敬教授	水曜日　14:00-16:00	n-taka@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	保健・予防医学教室　公衆保健科学部門 受付　内線 5789, e-mail: syakaii@koto.kpu-m.ac.jp	
・武藤倫弘教授	水曜日　14:00-16:00	mimutoh@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	保健・予防医学教室　予防医学部門 受付　内線 5338, e-mail: prevpub@koto.kpu-m.ac.jp	

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

シンプル衛生公衆衛生学 2024（小山洋監修、南江堂、2,600 円＋税）

はじめて学ぶ　やさしい疫学　改訂第４版（日本疫学会監修、南江堂、2,000 円＋税）

国民衛生の動向 2023/2024　（厚生労働統計協会、2,695 円）

分子予防環境医学　改訂版（分子予防環境医学研究会編、本の泉社、10,476 円）

予防医学事典（松島綱治、酒井敏行、石川昌、稲寺秀邦編、朝倉書店、15,000 円＋税）

Ⅲ　授業日程

保健・予防医学

第４学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
4月8日(月)	2	分子予防医学総論	予防医学	武 藤 教 授
4月8日(月)	3	社会医学と疫学総論	公衆保健科学	高 嶋 教 授
4月8日(月)	4	医療保険制度	予防医学	宮 本 准 教 授
4月9日(火)	2	世界の結核・日本の結核	予防医学	下内客員講師
4月11日(木)	2	分子環境医学	教育センター	曽和特任教授
4月11日(木)	3	保健統計	公衆保健科学	小 山 講 師
4月12日(金)	2	疫学研究デザインとスクリーニング	公衆保健科学	高 嶋 教 授
4月12日(金)	3	がんの疫学	予防医学	武 藤 教 授
4月15日(月)	2	放射線の長期健康影響に関する疫学研究	保健管理センター	小笹特任教授
4月15日(月)	3	食・腸内環境と健康長寿	生体免疫栄養学	内藤特任教授
4月15日(月)	4	行政医学序説　～公衆衛生医師の職務とキャリア～	京都府保健医療対策監	奥田特任教授
4月16日(火)	2	学校保健と精神保健	公衆保健科学	尾崎学内講師
4月18日(木)	2	地域保健と医療体制	公衆保健科学	長 光 助 教
4月18日(木)	3	母子保健	看護学科	志 澤 教 授
4月19日(金)	2	健康づくりと生活習慣病	公衆保健科学	高 嶋 教 授
4月22日(月)	3	医の倫理　−研究倫理編−	公衆保健科学	松井学内講師
4月22日(月)	4	医の倫理　−臨床倫理編−	予防医学	渡 邉 講 師
4月23日(火)	2	健康の社会的決定要因	教育センター	曽和特任教授
4月25日(木)	2	労働衛生	予防医学	宮上客員講師
4月26日(金)	2	生活習慣病の予防　　基礎から臨床へ	予防医学	増 田 助 教
4月26日(金)	3	介入疫学の実際（大腸がんの予防）	予防医学	石川特任教授
5月16日(木)	2	難病対策、災害時の公衆衛生活動	公衆保健科学	長 光 助 教
5月16日(木)	3	１次、１．５次、２次、３次予防	予防医学	武 藤 教 授
5月17日(金)	3	感染症対策	公衆保健科学	渡 邉 助 教
5月20日(月)	2	老人保健、介護保険と老年疾患の疫学	公衆保健科学	栗山客員教授
5月20日(月)	3	医療面接（1）	予防医学	藤崎客員講師
5月20日(月)	4	医療面接（2）	予防医学	藤崎客員講師
5月21日(火)	2	食生活と健康	公衆保健科学	尾崎学内講師
5月21日(火)	3	ライフコース疫学	公衆保健科学	小 山 講 師
5月21日(火)	4	行動変容と環境整備	予防医学	武 藤 教 授
5月23日(木)	2	環境保健	予防医学	飯泉学内講師
5月30日(木)	2	口腔保健	公衆保健科学	松井学内講師
5月30日(木)	3	健康社会学	公衆保健科学	小 山 講 師
5月31日(金)	3	国際医療比較	予防医学	宮 本 准 教 授
5月31日(金)	4	遺伝性腫瘍の分子遺伝学からがんの本質的理解へ	予防医学	渡 邉 講 師

第４学年前期　　（ 実習及び演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月9日(火)	3・4	実習オリエンテーション	予防医学 公衆保健科学	教 室 員 全 員
4月16日(火)	3	文献検索入門		
4月16日(火)	4	公衆衛生学演習		
4月23日(火)	3・4	公衆衛生学演習		

第４学年前期　　（ 実習及び演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
5月7日(火)	1～4		予防医学 公衆保健科学	教 室 員 全 員
5月8日(水)	1～4			
5月9日(木)	1～4	実　　習		
5月10日(金)	1～4	（レポート提出期限：2024年5月31日）		
5月13日(月)	1～4			
5月14日(火)	1～4			
5月28日(火)	1～4	実習報告会（公衆保健科学、予防医学担当）		

法医学

教員名

教　　授	池谷　博	客員教授	勝又　義直
准教授	新谷　香	〃	石原　憲治
研究准教授	市岡　宏顕	〃	宮坂　祥夫
助　　教	近藤　弘基	〃	岩瀬　博太郎
		〃	櫻田　宏一
		〃	関口　和正
		〃	一杉　正仁
		〃	小島　克己
		客員講師	猪口　剛

Ⅰ　教育の目的と方針

法医学は「社会上の法律的諸問題について医学的検討を行う社会医学の一部門」である。現代社会は、生活様式の変化、高齢化社会、疾病構造の変化、世界規模での人々の往来、新たな感染症の流行など医療衛生環境が常に激変しており、死亡の様態も複雑多様化している。そのため、死因不明の異状死体が連日多発している。法医学はこのような異状死体の中で、犯罪性死体に対しては、司法解剖を通し事件解明に寄与し、治安維持、人権擁護、公共福祉を図り文明社会に貢献している。また、非犯罪性死体であるほぼ全ての不自然死（原因不明の急死、事故死など）については、行政解剖を通し死因の究明を行い、死者を取り巻く法的権力関係の適正化を行っている。これらの法医解剖の結果から法医学的な研究を行い、法医診断学を確立し社会に還元して行くことが、法医学教育の一つの目的である。

法医学は、臨床医学としての側面を持つ。医師法に基づく応召義務や死亡診断書、死体検案書、出生証明書の交付義務など医師として守らなければならない、様々な法律上の義務の教育が求められる。また、医療現場における医療過誤・医療事故に対する、医師による適切な判断と行動のための教育が法医学にも求められている。

我が国は急速な高齢化社会を迎えており、法医学では高齢化社会の中での社会病理現象（孤独死をめぐる臨床的、社会医学的諸問題）に対する教育が求められている。

法医学は、死者のみを対象とするだけでなく、生体をも対象とし、死者と生者によって得られた様々な法医学的・法中毒学的知見を、生者に還元する。このような、生者と死者の両方を対象とすることによって、遺伝子治療、脳死判定、脳死からの臓器移植、安楽死問題、ターミナルケア、自殺などの様々な医療倫理の問題にも必然的に対峙していかなくてはならない。

以上の観点に基づき、多様化する医療環境の中で、臨床の医師はどのように考え、行動すべきか、最新の知見に重点を置き、コアカリキュラムに対応した法医学を講義する。

Ⅱ　到達目標

医師として最低限必要な法律・法医学の知識を身につけることを目的とする。
1 植物状態、脳死、心臓死について説明でき、脳死の診断ができる。
2 異状死とは何か、身体の異常所見の取り方、検案について説明することができる。
3 死亡診断書（死体検案書）を作成できる。
4 個人識別の方法を説明できる。
5 病理解剖と法医解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法による解剖、家族承諾に基づく解剖）について説明することができる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり。

Ⅳ　成績評価基準

期末試験点数による。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	e-mail
教授 池谷 博	午前 9 時より午後 5 時まで	ikegaya@koto.kpu-m.ac.jp
准教授 新谷 香	午前 9 時より午後 5 時まで	kaori@koto.kpu-m.ac.jp
教室代表（内線 5343）		hoi@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　あたらしい検案・解剖マニュアル（池谷　博，櫻田宏一　2018　金芳堂　京都）6,800 円＋税
2　Knight’s Forensic Pathology（P.Saukko, B.Knight 4th.ed.2015　CRC Press）約 30,000 円
3　NEW エッセンシャル法医学（髙取健彦　監修　第 6 版　2019　医歯薬出版　東京）8,800 円＋税
4　現代の法医学（永野耐造，若杉長英　編　第 3 版増補　1998　金原出版　東京）6,800 円＋税
5　はじめての医事法　第 2 版（久々湊晴夫，旗手俊彦　編　2011　成文堂　東京）2,200 円＋税

Ⅲ　授業日程

法医学

第４学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
4月11日(木)	1	法医学総論Ⅰ（死体の取扱い・診断書）	法医学	池 谷 教 授
4月12日(金)	4	法医学総論Ⅱ（生活反応・死因論）	法医学	市岡研究准教授
4月18日(木)	1	法医学総論Ⅲ（死体現象）	法医学	池 谷 教 授
4月19日(金)	1	損傷Ⅰ（鋭器損傷）	法医学	池 谷 教 授
4月19日(金)	3	損傷Ⅱ（鈍器損傷，銃器損傷）	法医学	池 谷 教 授
4月19日(金)	4	特講①　死因究明と画像診断	法医学	岩瀬客員教授
4月19日(金)	5	損傷Ⅲ（臓器損傷）	法医学	市岡研究准教授
4月26日(金)	4	特講②　ＤＮＡ型鑑定	法医学	関口客員教授
5月17日(金)	2	特講③　犯罪と医学研究	法医学	櫻田客員教授
5月17日(金)	4	特講④　骨による個人識別	法医学	宮坂客員教授
5月17日(金)	5	窒息Ⅰ（縊死，絞死）	法医学	近 藤 助 教
5月21日(火)	5	特講⑤　臨床法医学	法医学	猪口客員講師
5月24日(金)	2	窒息Ⅱ（扼死，溺死）	法医学	近 藤 助 教
5月24日(金)	3	中毒学概論	法医学	坂東特任助教
5月24日(金)	4	中毒学各論	法医学	坂東特任助教
5月24日(金)	5	法歯学	法医学	坂東特任助教
5月27日(月)	3	幼児虐待と嬰児殺	法医学	市岡研究准教授
5月30日(木)	4	特講⑥　交通外傷	法医学	一杉客員教授
5月30日(木)	5	異常温度による外因死，その他の外因死	法医学	近 藤 助 教
5月31日(金)	2	特講⑦　死因究明制度	法医学	石原客員教授

臨　床　医　学

内　科　学

教　員　名

内分泌・免疫内科学

教授	福井　道明	病院教授	川人　豊	講師	河野　正孝
講師	濵口　真英	講師（食と健康研究講座）（共同研究講座）	牛込　恵美	助教	妹尾　高宏
助教	中西　尚子	助教	岡田　博史	客員教授	吉田　俊秀
客員教授	稲垣　暢也	客員教授	高野　裕久	客員講師	梶山　静夫
客員講師	浅野　麻衣	客員講師	千丸　貴史	客員講師	永原　秀剛
客員講師	北川　功幸	客員講師	橋本　善隆	客員講師	大坂　貴史
客員講師	三好　友樹	客員講師	畑　真之介		

腎臓内科学

教授	的場　聖明	講師	玉垣　圭一	講師（学内）	草場　哲郎
任期付助教	桐田　雄平	助教（血液浄化部）	小牧　和美	助教（血液浄化部）	三原　悠
客員教授	八田　告				

血液内科

教授	黒田　純也	准教授（輸血・細胞医療部）	志村　勇司	講師（学内）	水谷　信介
講師（学内）	塚本　拓	助教	藤野　貴大		
客員教授	谷脇　雅史	客員教授	稲澤　譲治	客員教授	木村　晋也
客員教授	芦原　英司	客員教授	森下　和広	客員教授	神田　善伸
客員講師	小林　裕	客員講師	堀池　重夫	客員講師	魚嶋　伸彦
客員講師	芹生　卓	客員講師	兼子　裕人	客員講師	内山　人二
客員講師	河田　英里	客員講師	志村　和穂	客員講師	松本　洋典
客員講師	古林　勉				

【内分泌・免疫内科学】

Ⅰ　教育の目的と方針

臨床医学を学習する者にとって、内科学はその全ての基礎となる。したがって、内科学全般を系統的に学習することは、医師となるすべての者にとって必須である。しかし、講義と実習だけで、最新の知識までを含めて、全てを学習することは不可能である。これまで習得した基礎科目の知識を充分活用し、内科学を理解し、正しい知識を限られた時間で身につける。そのためには講義と実習を受けるだけでなく、自ら最新の雑誌、論文を検索し、情報を正しく選択し、習得する。

試験に合格することは、大切なことではあるが、試験に合格するために学習するのではなく、あくまで能動的に学習する態度を身につける。

Ⅱ　到達目標

1　内分泌・糖尿病・代謝内科学

（1）内分泌系の意義、内分泌臓器の構造、ホルモンの分泌生理・作用機序を理解する。

（2）上記をふまえ、各種内分泌疾患、糖尿病の病態生理、臨床症状を理解する。

（3）内分泌疾患の治療、糖尿病の予防・治療について理解する。

（4）臨床における内分泌・代謝疾患の特殊性を理解する。

（5）糖尿病をとおして生活習慣病の概念、取り組みを理解する。

（6）一生を通して糖尿病とつきあっていく患者心理を理解し、指導方法を学ぶ

2　膠原病・リウマチ・アレルギー内科学

（1）免疫・炎症・アレルギー反応を背景とした免疫疾患の基本病態を理解する。

（2）免疫疾患に伴う様々な全身症状の身体所見について、オスキーで習得した診察技術を応用し、習得する。

（3）上記に加え、各種免疫疾患の症候、画像、検査所見を系統的に整理し、診断能力を養う。

（4）ステロイド製剤、免疫抑制剤、消炎鎮痛剤などを用いた疾患の治療について理解する。

（5）慢性疾患に由来する心理状態を理解し、患者との良好なコミュニケーションが得られる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1．評価

定期試験の成績に加え、実習では、学習態度、診察・診断能力、治療計画立案力、患者とのコミュニケーション力を評価して行う。

Ⅴ　オフィスアワー

オフィスアワー

福井道明	教授	水曜日 12:00-13:00
川人　豊	病院教授	火曜日 12:00-13:00

河野正孝　講師　　月曜日 12:00-13:00
濵口真英　講師　　月曜日 12:00-13:00
妹尾高宏　助教　　月曜日 12:00-13:00
中西尚子　助教　　水曜日 12:00-13:00
岡田博史　助教　　水曜日 12:00-13:00
牛込恵美　講師　　金曜日 12:00-13:00
（食と健康研究講座(共同研究講座)）

連絡先：内分泌・免疫内科学　秘書　内線 5505, e-mail：y-nai@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

朝倉内科学
新臨床内科学
糖尿病治療ガイド　　日本糖尿病学会　編
リウマチ病学テキスト　日本リウマチ財団・日本リウマチ学会編

【腎臓内科学】

Ⅰ　教育の目的と方針

腎臓内科は、生命維持に直結する臓器機能を扱う内科専門領域であり、論理的な診断・治療が必要とされる。医師として将来どの分野を専攻する場合でも、腎臓内科の基礎知識は必要となる。系統講義を通じて腎臓内科医の「ものの見方・考え方」を是非、学んでほしい。将来、医療を通じて社会に貢献する医師としての喜びを身につけていく際に、必ず役立つものと確信している。

腎臓病総論では、腎臓病の分類、症候、検査などについて系統的に講義する。また、慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease ; CKD）と急性腎障害（Acute Kidney Injury ; AKI）の概念や、腎不全・腎代替療法（主に透析療法）について理解を深める。原発性糸球体疾患では、臨床診断名と臨床症候分類・組織学的分類との関係を整理し、個々の疾患について解説する。さらに、腎臓病は全身疾患に伴って起こることが多く、それぞれの原因疾患の病態、合併する腎障害の特徴・治療などを解説する。

Ⅱ　到達目標

（１）病歴聴取、身体診察ができる。
（２）患者の持つ問題点を発見、列挙する。
（３）カルテを作成する（アセスメント・プランまで)。
（４）腎疾患の主要な臨床症状の鑑別診断を述べる。
（５）問題の解決手順を考える。
（６）主要な腎疾患の知識を得ると共に主要な腎疾患を診る。
（７）医師、社会人としての適切な態度を身に付ける。
（８）チーム医療を理解し役割を実践する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

系統講義終了後に定期試験を行う。

Ⅴ　オフィスアワー

		オフィスアワー	メールアドレス
玉垣圭一	講師	火曜日 9:00-12:00	tamagaki@koto.kpu-m.ac.jp

連絡先　　循環器・腎臓内科　秘書　内線 5511

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

レジデントのための腎臓病診療マニュアル 第３版（深川雅史、安田隆編集　医学書院）
腎臓病診療に自信がつく本 第２版（小松康宏　カイ書林）
水・電解質と酸塩基平衡―Step by step で考える（黒川清　南江堂）
体液異常と腎臓の病態生理 第３版（黒川清監修　MEDSI）

臨床医のための腎病理読解ロジック（上野智敏　中外医学社）
Dr.ジンゾーの透析療法の初歩（佐藤良和　南山堂）

【血液内科学】

Ⅰ　教育の目的と方針

血液内科学の対象となる疾患は白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など各種の造血器悪性腫瘍、ならびに再生不良性貧血や血小板減少性紫斑病、凝固異常症などの難治非腫瘍性血液疾患であり、これらの病態、診断、治療について系統的に講義する。分子生物学、細胞遺伝学、腫瘍免疫学の進歩に伴い、疾患特異的に効果を発揮しうる分子標的治療薬やモノクローナル抗体治療薬が続々と開発されたほか、造血幹細胞移植療法技術の向上、CAR-T 細胞療法といった革新的な治療開発も含め、造血器腫瘍の治療は継続的に進歩し、治療成績も向上の一途を辿っている。これらの最新の知識・技術を習得することは医療者を志す者において必須である。また、こうした積極的治療法における支持療法や患者さんへの病状・治療の説明の重要性と実際についても触れていく。一方、こうした進歩にも関わらず、いまだに一部の疾患では、その完全制御には到達せず、不幸な転帰をとる場合も少なくない。そのような終末期患者に対する緩和医療や社会的支援の重要性についての理解も不可欠である。血液内科学では、これらの実践に必要となる医学的知識を講義や臨床実習によって的確に提示し、診断と治療に関する基本的手技の理解、最新の知識の習得を目指すとともに、全人的診療への理解を深めることも目標として指導にあたる。

Ⅱ　到達目標

（１） 血液疾患の病態生理、臨床症状を理解する。
（２） 血液疾患診断のために必要な検査法、原理について理解する。
（３） 血液疾患に対する標準的治療および EBM に基づいた個別治療について理解する。
（４） 治療における合併症のマネージメントを学習する。
（５） 分子生物腫瘍学の基本を理解し、臨床における応用につき学習する。
（６） 抗癌剤の種類、適応疾患、効果、有害事象につき学習する。
（７） 造血幹細胞移植や細胞治療の適応、治療法、合併症について理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験
　系統講義終了後に定期試験を行う。
2　合否基準
　原則として試験の成績に基づく。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー		メールアドレス
・黒田教授	月・火・水曜日	16:00-17:00	junkuro@koto.kpu-m.ac.jp
・志村准教授	月・木・金曜日	16:00-17:00	yshimura@koto.kpu-m.ac.jp
・水谷講師（学内）	水・木曜日	16:00-17:00	mizushin@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	内線 5740		

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・　Williams Hematology, 10th Edition (McGraw-Hill Education)
・　造血器腫瘍　診療ガイドライン　2023 年版（日本血液学会編、金原出版）
・　新臨床腫瘍学　改訂第 6 版（日本臨床腫瘍学会公式テキスト、南江堂）
・　造血器腫瘍アトラス　改定第5版（谷脇雅史、横田昇平、黒田純也編著、日本医事新報社）

Ⅲ　授業日程

内　科　学

第３学年前期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月9日(火)	1	リウマチ・膠原病とその類縁疾患（１）	内・免	川人病院教授
4月15日(月)	1	臨床輸血学	血・内	志村准教授
4月22日(月)	1	悪性リンパ腫	血・内	古林客員講師
4月25日(木)	5	多発性骨髄腫	血・内	河田客員講師
5月13日(月)	1	腎臓病総論	腎・内	草場講師(学内)
5月16日(木)	1	貧血総論と鉄代謝異常	血・内	水谷講師(学内)
5月20日(月)	1	糖尿病の病態治療	内・免	稲垣客員教授
5月23日(木)	1	リウマチ・膠原病とその類縁疾患（２）	内・免	妹尾助教
6月3日(月)	1	リウマチ・膠原病とその類縁疾患（３）	内・免	妹尾助教
6月3日(月)	3	リウマチ・膠原病とその類縁疾患（４）	内・免	河野講師
6月3日(月)	5	原発性糸球体疾患	腎・内	桐田助教
6月5日(水)	3	糖尿病の合併症	内・免	福井教授
6月5日(水)	5	造血幹細胞移植とその合併症	血・内	魚嶋客員講師
6月10日(月)	1	慢性白血病と骨髄増殖性腫瘍	血・内	内山客員講師
6月10日(月)	3	副腎・副甲状腺・骨代謝	内・免	濵口講師
6月10日(月)	5	急性白血病の診断と治療	血・内	黒田教授
6月12日(水)	3	肥満症	内・免	吉田客員教授
6月13日(木)	1	骨髄不全症候群	血・内	水谷講師(学内)
6月13日(木)	3	内分泌総論・甲状腺	内・免	中西助教
6月13日(木)	5	リウマチ・膠原病とその類縁疾患（５）	内・免	河野講師
6月14日(金)	3	止血異常の診断と治療	血・内	松本客員講師
6月17日(月)	1	生活習慣病	内・免	岡田助教
6月18日(火)	4	全身疾患と腎障害（１）	腎・内	三原助教
6月19日(水)	5	全身疾患と腎障害（２）	腎・内	小牧助教
6月20日(木)	3	視床下部 ― 下垂体系	内・免	濵口講師

第４学年後期　　（臨床演習）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月8日(火)	2	造血器腫瘍の症例提示	血・内	塚本講師（学内）
10月8日(火)	3	リウマチ性疾患診療の基礎知識（講義形式）	内・免	川人病院教授
10月11日(金)	1	水電解質（講義形式）	腎・内	玉垣講師
10月21日(月)	2	病歴・検査から診断へ（講義形式）	内・免	牛込講師
10月23日(水)	1	臨床実習前の消化器内科診療の確認	消・内	吉田講師

外　　科　　学

教　員　名

小児外科学

教授	小野　滋	講師	文野　誠久	助教	金　聖和
助教	髙山　勝平	助教	井口　雅史	客員講師	青井　重善
客員講師	竹内　雄毅				

移植・一般外科学

講師	昇　修治

内分泌・乳腺外科学

教授	直居　靖人	准教授	阪口　晃一	講師(学内)	森田　翠
助教	加藤　千翔	特任教授	田口　哲也	臨床教授	山口　正秀
臨床教授	松田　高幸	臨床教授	松本　光史	臨床教授	安岡　利恵
臨床講師	石井　亘	客員講師	水田　成彦	客員講師	安岡　利恵

心臓血管外科学

准教授	沼田　智	講師	小田　晋一郎	准教授（兼）	神田　圭一
講師(学内)	川尻　英長	助教	前田　吉宜		
助教	小林　卓馬	助教	藤田　周平	臨床教授	髙橋　章之

形成外科学

病院教授	沼尻　敏明	講師	河原崎彩子	客員講師	奥田　良三

【小児外科】

Ⅰ　教育の目的と方針

小児科に対応して、小児期にみられる外科疾患を対象とするのが小児外科である。「小児は小さな大人ではない」という言葉に示される通り、成人外科とは異なったこまやかな対応が要求される。特に超低出生体重児を含む新生児期，乳幼児期においては、疾患の種類と病態、患児の生理機能が成人外科とは著しく異なり、適切な診断・周術期管理を行うには小児外科学の知識が必要である。このため系統講義では、小児外科学の基礎的知識および代表的な小児外科疾患について学び、病歴・身体所見の取得、検査法から手術に至るまでの実際を解説する。臨床実習では、周産期医療や小児救急の現場で、先天性疾患の治療や救急疾患、重症管理、さらには小児がん診療における小児外科学の実際を経験する。

Ⅱ　到達目標

1　小児外科の代表的疾患の病態と治療計画の特徴を理解する

小児外科にて診療を行う疾患は、胸部・呼吸器疾患、上・下部消化管奇形、良・悪性腫瘍、腹壁異常、小児急性腹症など多岐にわたっており、それぞれの代表的疾患について体重に応じて変わる治療計画の立て方を最新の知見も含め理解を深める。

2　小児外科特有の病態・生理を理解する

小児は成人と異なる循環、呼吸生理を有しており、それらの特徴を十分に理解し、さらに外科栄養学の知識を背景に管理を行わなければならないことを知る。

3　小児外科特有の周術期管理を理解する

小児外科疾患、特に新生児外科疾患の術前評価や集中治療について理解を深める。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義終了時に定期試験を行う。形式はマークシート方式筆記試験にて行う。

追再試験はマークシート方式あるいは記述方式による筆記試験にて行う。

2　合否基準

試験の結果等により、総合的に合否の判定を行う。

Ⅴ　オフィスアワー

連絡先　小児外科医局　内線 5809（担当　文野講師）　日中は随時連絡可である。

代表メールアドレス pedsurg@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　標準小児外科学　第 8 版（上野　滋　他編　医学書院　8,800 円）

2　Pediatric Surgery 7th ed.（AG Coran 他著　Mosby　約 40,000 円）

3　スタンダード小児外科手術（田口　智章　他編　メジカルビュー社　16,200 円）

4　Rickham’s　Neonatal Surgery　1st ed.（PD Losty　他編　Springer 約 19,000 円）

【移植・一般外科】

Ⅰ　教育の目的と方針

一般目標

臓器不全に対する理解を深め、臓器不全の管理を学習する。肝不全、肝癌につき理解し、肝移植全体ついて学習する。さらにⅠ型糖尿病に対する膵移植についても学習する。

臓器移植について脳死下臓器提供につき理解を深め、さらに移植の種類と適応について理解し、移植免疫及び免疫抑制療法について理解する。臓器移植周術期における患者管理の方法や輸液療法等の一般外科全般を理解する。

Ⅱ　到達目標

１　腎移植

（１）腎移植の適応と禁忌疾患を理解する。

（２）腎移植、特に生体腎移植はいかに行われているのかを理解する。

（３）生体腎移植後の術後管理方法及び合併症について理解する。

２　肝移植

（１）肝移植の適応と禁忌疾患を理解する。

（２）肝移植、特に生体肝移植はいかに行われているのかを理解する。

（３）生体肝移植後の術後管理方法及び合併症について理解する。

３　膵・膵島移植

（１）糖尿病の移植治療の適応を理解する。

（２）膵臓移植、膵島移植の相違を理解する。

（３）脳死膵移植後の術後管理方法及び合併症について理解する。

４　一般外科（腹膜透析関連手術等）

（１）外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技を理解する。

（２）外科診療に必要な周術期管理方法を理解する。

Ⅲ　授業概要・教育手法・学修上の注意事項

１　系統講義

臓器移植全般についての要点の理解を深め、各臓器不全の管理及び治療を学習する。移植の種類と適応に対し理解し、ドナーとレシピエントの評価及び移植免疫と免疫抑制剤について理解を深め、免疫抑制状態下の日和見感染症を含む術後感染症とその対策について学習する。一般外科、手術・周術期の患者管理及び創傷治癒機転や創傷管理について学習する。

２　臨床実習（クリニカルクラークシップ方式）

臓器移植全般について実際を学習する。脳死下臓器提供について学習する。

外来では臓器移植後の免疫抑制療法について学ぶ。

３　実習上の注意

（１）単なる視察ではなく、「自ら学ぶ」という意欲的な心構えで望む。

（２）実習中は、他人に不快感を与えない清潔な身だしなみ、挨拶を励行し、礼儀正しく節度あ

る態度を特に心がける。
（3）学習の性格上、プライバシーに立ち入ることもあるので、守秘義務を守り、配慮の行き届いた行動を心がける。
（4）施設では、担当教員の指示に従って実習を受ける。
（5）実習不参加者は当科の単位を修得することができない。

Ⅳ　オフィスアワー、リソース・パーソン等

オフィスアワー　　メールアドレス
・昇　修治　　講師　　月水金曜日　午後　　snobo@koto.kpu-m.ac.jp
その他　移植一般外科　内線 5532, e-mail：　isyoku@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅴ　教科書・参考文献等

1　標準外科学（第 11 版）（北島正樹他編、医学書院）
2　血液透析．臓器移植マニュアル（当科で作成）

Ⅵ　成績評価基準

1　日常点
講義、臨床実習、での出席点、適時実施される小テスト・レポートを日常点として評価する。
2　試験
系統講義終了時に定期試験を行う。形式はマークシート方式による筆記試験とする。卒業試験はマークシート方式による筆記試験を行い、追再試験ではマークシート方式・記述試験または面接方式による口頭試問を行う。
3　総合成績評価
試験の点数と実習評価の合計を総合的に勘案して合否を決定する。

Ⅶ　モデルコアカリキュラムの該当箇所

巻頭の一覧表のとおり

Ⅷ　授業日程

表のとおり（略）

【内分泌・乳腺外科】

Ⅰ　教育の目的と方針

乳腺外科疾患の病態、診断、治療について知識を学ぶだけでなく、実地医療を経験して外科基本手技の習得および、医療スタッフとの関係についても学ぶことが目的である。また、医学を習得・実践する者として患者さんから学ぶという経験をし、その姿勢を身につけてほしい。乳腺外科は乳癌の急増により重要度が増している領域である。乳癌は癌領域としても最も急速な世界的進歩により生み出される基礎と臨床のevidenceにもとづいて、診断法・治療法が激しく変化する時代であり、講義と実習では基礎から先端的内容にまで触れることが可能になっている。また、実習では患者・家族に接し、その話に傾聴、共感するとともに自己決定支援についても学べるようにする。

Ⅱ　到達目標

１）乳腺とホルモンとの関係。
２）機能的疾患、炎症性疾患の病態と治療方針。
３）良性腫瘍、悪性腫瘍の分類・病態・治療方針・予後について理解する。
４）各疾患の理学所見を理解する。
５）マンモグラフィ・超音波検査・CT・MRIなど各種画像診断の特徴を知り、その役割を理解する。
６）各疾患の確定診断にいたる過程を理解する。
７）診断過程と患者の状態に応じた手術、薬物等の治療法の医学的社会的、かつ、患者の自己決定権も踏まえた決定方法について理解する。
８）乳癌の治療成績・予後についても理解する。
９）外科基本手技を習得する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

１　試験

外科学系統講義終了後に、新外科学の一部として定期試験を行う。これまで同様、定期試験・卒業試験・追再試験の試験方式はマークシート方式で行う。

２　合否基準

試験点数を総合的に勘案して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・直居靖人 教授	火曜日 15:00 - 17:00	naoi@koto.kpu-m.ac.jp
・阪口晃一 准教授	月曜日 9:30 - 11:30	ksak@koto.kpu-m.ac.jp
・森田 翠　講師(学内)	水曜日 9:30 - 11:30	midori@koto.kpu-m.ac.jp
・加藤千翔 助教	木曜日 13:00 - 16:00	c-kato@koto.kpu-m.ac.jp

その他の連絡先　内分泌・乳腺外科秘書　　内線 5534

Ⅴ　教科書、参考図書、参考文献

1　教科書
京都府立医科大学 乳腺外科 臨床実習マニュアル改訂版（内分泌・乳腺外科監修）
当面このOriginal Text Bookを実習開始時に無料配布する。
2　参考書
乳癌診療ガイドライン1 治療編 2022年版　（金原出版）
多遺伝子診断法（Amazon kindle）
3　京都府立医科大学附属図書館　情報・文献検索　UpToDate
https://www.uptodate.com/contents/search

【心臓血管外科（小児部門）】

Ⅰ　教育の目的と方針

小児心臓血管外科では先天性心疾患に対する根治手術や数回にわたる姑息術を経て行う段階的修復術などがある。幅広い先天性心疾患に対する手術治療を行うにあたり、病態生理、解剖の習熟を行い、手術の基本原理を理解する事を目的とする。またそれが単に机上の理解のみにとどまらず、将来基礎医学者あるいは臨床実地医になるにあたり有効で実際的な知識として体得できる様にカリキュラムを構成する方針である。

Ⅱ　到達目標

1　治療対象となる疾患の外科的治療を行うために必要な解剖学、発生学、生理学、生化学等を含め、先天性心疾患に対する治療法の選択について認識を高める。

2　心臓血管外科治療では外科医師・小児科医師・麻酔科医師などの多科から構成される医師と看護師・臨床工学技士・理学療法士・放射線技師などのパラメディカル・スタッフによるチーム医療が必須となる。従って治療におけるチーム内でのコミュニケーションについての重要性を理解する。また患者・家族との信頼関係の構築の重要性について理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義終了時に定期試験を行う。形式はマークシート方式による筆記試験とする。卒業試験はマークシート方式による筆記試験を行い、追再試験ではマークシート方式・記述試験または面接方式による口頭試問を行う。

2　合否基準

試験の点数を総合的に勘案して合否を決定する。

Ⅴ　オフィスアワー

オフィスアワー　　月～金曜日　9:00-17:00

メールアドレス

・沼田准教授　　snumat@koto.kpu-m.ac.jp
・小田講師　　soda@koto.kpu-m.ac.jp
・神田　准教授（兼）　　kei@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先　　心臓血管外科秘書　内線 5752, e-mail：cvts@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　心臓血管外科手術書（小柳仁他著　先端医療技術研究所）

2　心臓血管外科手術のための解剖学　（小柳仁、黒沢博身編　MEDICAL VIEW 社）

３　心臓・弁膜症の外科（新井達太編　医学書院）

４　先天性心疾患手術書（安井久喬編　MEDICAL VIEW 社）

【形成外科】

Ⅰ　教育の目的と方針

従来の外科学では肉体的苦痛からの解放を使命とし、治癒率の向上と延命に懸命な努力が払われてきた。しかし、“見かけの異常”による精神的苦痛からの解放に対しては十分とは言えなかった。この観点から患者のＱＯＬを重視した形成外科が誕生した。そこに流れるのは“より人間らしく”“より自然に”といった考えであることを学生諸君に理解してもらうことを目的としている。

Ⅱ　到達目標

1　病歴から的確に情報収集ができる。
2　一般的な身体診察を理解し実施できる。
3　手術に際して必要な解剖学知識を術前に提示できる。
4　周術期に必要なバイタルサインを理解し、術後管理に重要な事項を提示できる。
5　実習で学んだ内容を相互プレゼンテーションすることができる。

Ⅲ 授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

第 3 学年の講義の終了後に、外科学の一領域として試験を行って評価する。
形成外科基本手技が理解できているか。再建方法について理解しているか。

Ⅴ　オフィスアワー

事務連絡先　　形成外科医局秘書　内線 5730（月水金のみ）
専攻科目内容については、沼尻敏明 病院教授まで連絡ください（秘書にアポイントを取ってください）。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

標準形成外科学　第7版（平林慎一監修、医学書院　2019年発行、6380円）
古い版では記載のない項目もありましたので、最新の第7版をおすすめします。

Ⅲ　授業日程

外科学

第３学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
4月8日(月)	1	外傷（顔面・四肢・熱傷）	形成外科	奥田客員講師
4月25日(木)	1	乳腺疾患の診断と治療①	内分泌・乳腺	直居教授
4月26日(金)	1	上部消化管奇形	小児外科	金助教
5月17日(金)	1	小児悪性固形腫瘍	小児外科	文野講師
5月24日(金)	1	乳腺疾患の診断と治療②	内分泌・乳腺	阪口准教授
5月31日(金)	1	外科感染症と炎症	移植・一般	昇講師
6月3日(月)	4	小児外科学総論および小児肺・胸部疾患	小児外科	小野教授
6月4日(火)	3	移植外科①	移植・一般	昇講師
6月4日(火)	4	基本的外科手術手技	内分泌・乳腺	森田講師（学内）
6月4日(火)	5	下部消化管奇形	小児外科	青井客員講師
6月10日(月)	4	先天性心疾患①	心臓血管	小田講師
6月11日(火)	3	移植外科②	移植・一般	昇講師
6月12日(水)	4	先天性心疾患②	心臓血管	小田講師
6月13日(木)	4	形成外科総論及び頭頸部再建外科①	形成外科	沼尻病院教授
6月14日(金)	1	移植外科③	移植・一般	昇講師
6月14日(金)	4	日常疾患・脈管奇形	小児外科	井口助教
6月17日(月)	5	小児肝・胆疾患	小児外科	髙山助教
6月19日(水)	4	顔面外科及び頭頸部再建外科②	形成外科	沼尻病院教授
6月20日(木)	1	再建（四肢・乳房・体幹・難治性潰瘍）	形成外科	河原崎講師
6月21日(金)	1	先天性心疾患③	心臓血管	小田講師
6月21日(金)	3	ヘルニア、肛門疾患	移植・一般	昇講師

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
10月9日(水)	4	小児外科診療の実際（講義形式）	小児外科	竹内客員講師
10月9日(水)	5	臨床実習　前準備（討議形式）	形成外科	沼尻病院教授
10月15日(火)	2	移植外科臨床実習を始めるにあたって（講義形式）	移植・一般	昇講師
10月16日(水)	4	心臓血管外科臨床実習を始めるにあたって（講義形式）	心臓血管	沼田准教授
10月17日(木)	1	呼吸器外科臨床実習を始めるにあたって(講義形式)	呼吸器外科	下村准教授
10月21日(月)	3	移植外科臨床診察の基本手技、知識（講義形式）	移植・一般	昇講師

臓器別ユニット（循環器）

教　員　名

循環器内科		心臓血管外科		病理学	
教　　授	的場　聖明	准　教　授	沼田　　智	准　教　授	原田　義規
教授（病院）	中村　　猛	准　教　授	神田　圭一	講師（学内）	小形　岳寛
准　教　授	全　　完 妹尾恵太郎	講師（学内）	川尻　英長	助教	中尾　龍太
講　　師	白石　裕一 山野　哲弘 星野　　温	助　　教	小林　卓馬		
講師（学内）	中西　直彦 山野　倫代				
助　　教	矢西　賢次 木谷　友哉 津端　英雄				
客員教授	浅沼　博司			客員教授	松山　高明 （昭和大学）
客員教授	川崎　達也				

Ⅰ　教育の目的と方針

循環器疾患に罹患する患者数は人口の高齢化に伴い年々増加している。厚生労働省が発表した令和元年人口動態統計による死因順位別 死亡数の統計（厚生労働省ホームページより）によれば、死亡総数に占める割合は悪性新生物 27.3%、心疾患 15.0%、老衰 8.8%、脳血管疾患 7.7%と報告されているように、心疾患、脳血管疾患など心血管疾患が大きな割合を占める。米国の高名な内科医である William Osler 博士が A man is as old as his arteries.（ヒトは血管とともに老いる）と述べているように心血管疾患について理解することは医師として必須の学習項目である。

動脈硬化の進展や弁の変性など病理学的な異常を背景に発症してくる疾患もある一方で、不整脈や心不全などのように機能的な異常というべき病態もある。また、検査においても心電図、心音、心エコー図などのように機能の評価をするのもこの疾患群の特徴である。

医師として将来どの分野を専攻する場合でも、循環器の診断治療に関する基礎知識は必要であり、循環器ユニットにおいては病理、内科、外科の専門から講義を行い、循環器疾患についての知識を身につけていただきたいと考える。

Ⅱ　到達目標

1　病理学

既習の病理学総論を基盤として心臓疾患の病因、発生機序、形態変化、病態を理解・習得する。学習すべき項目は以下の通りである。心不全、先天性心疾患、虚血性心疾患、不整脈、高血圧性心疾患、弁膜性心疾患、心筋症、心筋炎、心膜疾患、心臓腫瘍、心臓移植。

2　循環器内科

1）代表的な循環器疾患について病態、診断、治療について理解する。

2）身体診察（胸部聴診等）を理解できる。

3）代表的な症候（胸痛、動悸、息切れ、浮腫、失神など）について理解し、鑑別疾患を挙げられる。

4）X線、心電図、心エコー図、カテーテル検査など代表的な検査について理解できる。

5）代表的な疾患について薬物治療、非薬物治療の内容を理解する。

以上の項目を体系的に学習し、循環器疾患における実際の診療の流れを習得する。

3　心臓血管外科

1）治療対象となる疾患の外科的治療を行うために必要な解剖学、発生学、生理学、生化学等を含め、近年増加する動脈硬化など時代的病態変化や、それに対する外科治療法の変遷（低侵襲手術・血管内治療・再生医療を含む）とこれらの治療法に対する選択についても認識を高める。

2）心臓血管外科治療では外科医師・内科医師・麻酔科医師などの多科から構成される医師と看護師・臨床工学技士・理学療法士・放射線技師などのパラメディカル・スタッフによるチーム医療が必須となる。従って治療におけるチーム内でのコミュニケーションについての重要性を理解する。また近年、心臓血管外科領域では、様々な手術方法・低侵襲治療があり、治療の選択も多肢にわたる。この様な背景下での患者・家族との信頼関係の構築の重要性について理解する。

Ⅲ 授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

定期試験を行う。

2　合否基準

総括テスト６０％

Ⅴ　オフィスアワー

		オフィスアワー	メールアドレス
・的場聖明	教授	火曜日　13:30-16:30	matoba@koto.kpu-m.ac.jp
・白石裕一	講師	月曜日(隔週)9:00-10:30	siraisih@koto.kpu-m.ac.jp
・小形岳寛	学内講師	火曜日　14:00-16:00	ogatat@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

① Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Douglas P. Zipes, Peter Libby ら著。Elsevier

② ベイツ診察法 第２版　福井次矢，井部俊子他

③ Bedside Cardiology―診断のエキスパートを目指して（日本語）Jules Constant （著），井上 博（翻訳）総合医学社

④ The Echo Manual（英語）the fourth edition
Jae K. Oh MD（著），Garvan C. Kane MD PhD（著）Wolters Kluwer

⑤ グロスマン・ベイム心臓カテーテル検査・造影・治療法(原書第８版)（日本語）
Mauro Moscucci（編集），絹川 弘一郎（翻訳） 南江堂

⑥ 心臓血管外科手術書（小柳仁他著　先端医療技術研究所）

⑦ 心臓血管外科手術のための解剖学　小柳仁、柳沢博身編　MEDICAL VIEW 社）

⑧ 心臓・弁膜症の外科（新井達太編　医学書院）

⑨ Robbins Basic Pathology, 11th edition Elsevier

Ⅲ　授業日程 1限　8:50-9:50,　2限　10:00-11:00,　3限　12:50-13:50,　4限　14:00-15:00,　5限　15:10-16:10

循環器ユニット

第３学年前期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
4月8日(月)	3	心臓の病理Ⅰ	病理学	松山客員教授
4月8日(月)	4	心臓の病理Ⅰ　実習	病理学	松山客員教授
4月9日(火)	3	心臓の病理Ⅱ	病理学	小形講師(学内)
4月9日(火)	4	心臓の病理Ⅱ　実習	病理学	小形講師(学内)
4月9日(火)	5	循環器内科学総論	循環器内科	的場教授
4月10日(水)	3	心機能と心エコー（1）心エコーの基本	循環器内科	山野講師
4月10日(水)	4	心機能と心エコー（2）心不全の評価	循環器内科	山野講師
4月11日(木)	3	循環器診察、心臓聴診法	循環器内科	白石講師
4月11日(木)	4	心電図の基礎（12誘導心電図編）	循環器内科	白石講師
4月12日(金)	3	下肢動脈疾患	循環器内科	矢西助教
4月12日(金)	4	狭心症・心筋梗塞	循環器内科	中村教授(病院)
4月15日(月)	3	心臓弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患１）	循環器内科	白石講師
4月15日(月)	4	心臓弁膜症（僧帽弁疾患２、その他）	循環器内科	白石講師
4月15日(月)	5	不整脈疾患の治療（薬物、非薬物療法）	循環器内科	妹尾准教授
4月17日(水)	3	動脈硬化と血管疾患	循環器内科	星野講師
4月17日(水)	4	循環器科領域の経皮的Intervention治療	循環器内科	全　准教授
4月18日(木)	3	心電図の基礎（不整脈編）	循環器内科	白石講師
4月18日(木)	4	心不全と心臓リハビリテーション	循環器内科	白石講師
4月18日(木)	5	不整脈疾患の治療（薬物、非薬物療法）	循環器内科	妹尾准教授
4月19日(金)	3	生活習慣病と循環器疾患1（高血圧）	循環器内科	的場教授
4月19日(金)	4	生活習慣病と循環器疾患２（脂質異常、糖尿病他）	循環器内科	的場教授
4月22日(月)	3	成人先天性心疾患	循環器内科	中西講師(学内)
4月22日(月)	4	心筋疾患・心膜疾患・感染性心内膜炎	循環器内科	川崎客員教授
4月22日(月)	5	循環器画像診断法（CT・MRI・RI）	循環器内科	浅沼客員教授
4月23日(火)	3	心臓血管外科学総論	心臓血管外科	沼田准教授
4月24日(水)	3	心臓手術（冠動脈疾患）	心臓血管外科	沼田准教授
4月24日(水)	4	心臓手術（弁膜症その他）	心臓血管外科	沼田准教授
4月26日(金)	3	大動脈血管疾患	心臓血管外科	神田准教授
4月26日(金)	4	末梢血管疾患	心臓血管外科	神田准教授
5月10日(金)		循環器ユニット試験		

臓器別ユニット（呼吸器）

教員名

呼吸器内科学		呼吸器外科学		分子病態病理学	
教授	髙山　浩一	教授	井上　匡美	特任教授	伊東　恭子
准教授	山田　忠明	准教授	下村　雅律	助教	丹藤　創
講師	金子　美子	学内講師	岡田　悟		
助教	徳田　深作				
助教	岩破　將博	感染制御・検査医学			
助教	森本　健司	教授	貫井　陽子	リハビリテーション医学	
助教	西岡　直哉	助教	山本　千恵	教授	三上　靖夫
助教	片山　勇輝	助教	濱島　良介	講師	河﨑　敬
循環器内科学		放射線診断治療学		生体機能形態科学	
教授	的場　聖明	教授	山田　惠	教授	八代　健太
講師(学内)	中西　直彦	客員講師	前原　陽介		
救急医療学		外部講師			
教授	太田　凡		細木　誠之		

Ⅰ　教育の目的と方針

肺は気道系と血管系が出会う極めて複雑な構造をもつ臓器である．そのため、腫瘍性疾患をはじめ、種々の肺炎・結核を含む抗酸菌症・真菌症などの感染性疾患，気管支喘息を含むアレルギー性疾患，慢性閉塞性肺疾患，間質性肺疾患，肺循環障害，職業的疾患，睡眠時無呼吸症候群を含む呼吸調節障害，日常診療でしばしば遭遇する気胸・膿胸・胸膜炎などの胸膜疾患，胸部外傷など極めて多岐にわたる疾患が存在する．近年，社会の高齢化に伴い呼吸器疾患患者は増加の一途をたどっているが，その中でも肺癌患者は急増している．急速に発展を遂げている肺癌に対する薬物療法や低侵襲外科治療，放射線治療，これらを組み合わせた進行肺癌に対する集学的治療とその診断に必要な病理と画像診断について理解しておく必要があり，また肺癌以外にも転移性肺腫瘍や縦隔腫瘍等の腫瘍性疾患について学ぶ機会を提供する．さらに，肺は生命維持に重要な役割を果たしている Vital Organ のひとつであり、救急医療においても欠かせない領域である．この呼吸器ユニットでは解剖学・生理学・病理学といった基礎医学を基盤とし，内科・外科を中心に多数の診療科が垣根を越えて講義を行うことでよりいっそう「呼吸器」について深く学ぶことができる大変良い機会である．

一連の講義を通じて呼吸器学の奥深さと面白さを感じて頂きたい．

Ⅱ　到達目標

呼吸器の解剖，生理学を基礎知識として学んだ後に，腫瘍性疾患と非腫瘍性呼吸器疾患の病因や病態を把握するために理学所見，生理機能検査，画像診断の意義および個々の疾患に対する内科治療、外科

治療を理解する．腫瘍性疾患では肺癌の診断と集学的治療（薬物治療，外科的治療，放射線治療）の実際，病理学的診断について理解する．内科治療においては抗菌剤、抗がん薬剤など種々の薬物治療や呼吸療法について理解する。外科系の講義では自然気胸，胸膜炎，外傷に対する外科手術の適応や肺移植の適応疾患について理解する．また,呼吸リハビリを中心とする理学療法や救急医療を含めて幅広く呼吸器診療の実際について学ぶことを目標とする．

Ⅲ　授業日程

別表の通り（略）

呼吸器内科学 20 回，呼吸器外科学 9 回，病理学各論 2 回，感染制御学 2 回，放射線学 1 回，解剖学 1 回，呼吸生理学 1 回，肺循環学 1 回，救急医学 1 回，呼吸リハビリテーション学 1 回の講義を担当し，腫瘍性疾患・非腫瘍性疾患・外傷を含めた呼吸器疾患の診断と治療，病理，解剖，生理学，救急対応，理学療法について講義する．授業資料は基本的にプレゼンテーションに用いるスライドのプリントアウトを配布する．また電子媒体として授業・実習の事前あるいは事後に配布するので必要に応じて印刷すること．

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

臓器別ユニットの講義が終了した時点で定期試験を行う．

合否基準　総括テスト 60 %

Ⅴ　オフィスアワー　原則として、メールにてアポイントメントを取ること

呼吸器内科学教室：秘書 respir@koto.kpu-m.ac.jp

髙山　浩一 教授　　片山　勇輝 助教

呼吸器外科学教室：秘書 thoracic@koto.kpu-m.ac.jp

井上　匡美 教授　　下村　雅律 准教授

分子病態病理学教室：丹藤　創 助教 tando@koto.kpu-m.ac.jp

生体機能形態科学部門・解剖学：八代健太 教授 kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp 内線　5302

その他連絡先：呼吸器内科学教室秘書 respir@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・呼吸器疾患最新の治療 2023 - 2024.（門田淳一/門田淳一/弦間昭彦編集　南江堂）
・Fishman's Pulmonary Diseases and Disorders, 5th Edition (McGraw-Hill Professional)
・新 呼吸器専門医テキスト 改訂第 2 版（日本呼吸器学会編集　南江堂）
・呼吸器外科手術書（畠中陸郎，金芳堂出版）
・肺癌診療ガイドライン（日本肺癌学会編集，金原出版）
・General Thoracic Surgery 8th edition（Thomas W Shields, Lippincott）
・肺切除術（荒井他嘉司，塩沢正俊，朝倉書店）
・呼吸器外科テキスト改訂第 2 版（日本呼吸器外科学会，南江堂）
・Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 10th ed. (Elsevier)
・Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th ed. (Elsevier)
・組織病理アトラス 第 6 版，文光堂

Ⅲ　授業日程 1限　8:50-9:50,　2限　10:00-11:00,　3限　12:50-13:50,　4限　14:00-15:00,　5限　15:10-16:10

呼吸器ユニット

第３学年前期　（講義）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
5月7日(火)	3	呼吸器解剖学各論	形態科学	八代教授
5月7日(火)	4	呼吸器疾患の診断	呼内	髙山教授
5月7日(火)	5	呼吸生理学	京都薬大	細木准教授
5月8日(水)	3	肺癌の診断と治療	呼内	西岡助教
5月8日(水)	4	呼吸器疾患の画像診断	放射線科	前原客員講師
5月8日(水)	5	免疫・アレルギー疾患①	呼内	金子講師
5月13日(月)	3	肺外科②：進行肺癌と集学的治療・拡大手術	呼外	井上教授
5月13日(月)	4	肺外科①：早期肺癌と低侵襲手術	呼外	岡田助教
5月13日(月)	5	呼吸調整障害	呼内	片山助教
5月14日(火)	3	肺癌の薬物療法①	呼内	山田准教授
5月14日(火)	4	肺外科③：転移性肺腫瘍	呼外	岡田助教
5月15日(水)	3	呼吸器感染症①	感染制御・検査	山本助教
5月15日(水)	4	COPDの診断と治療	呼内	森本助教
5月16日(木)	3	呼吸器内科演習　Ｘ線読影	呼内	髙山教授
5月16日(木)	4	間質性肺炎	呼内	徳田助教
5月17日(金)	3	呼吸器疾患の救急	救急医療	太田教授
5月17日(金)	4	肺循環	循内	中西講師(学内)
5月20日(月)	3	気管支鏡検査の実際	呼内	岩破助教
5月20日(月)	4	免疫・アレルギー疾患②	呼内	金子講師
5月21日(火)	3	気胸・嚢胞性肺疾患	呼外	岡田助教
5月21日(火)	4	呼吸器感染症②	感染制御・検査	濱島助教
5月22日(水)	3	呼吸器のリハビリテーション医学・医療	ﾘﾊﾋﾞﾘ医学	河﨑講師
5月22日(水)	4	縦隔外科と重症筋無力症	呼外	井上教授
5月23日(木)	3	炎症性肺疾患・胸膜の外科	呼外	下村准教授
5月23日(木)	4	胸部外傷・胸壁・横隔膜の外科	呼外	下村准教授
5月24日(金)	3	気管･気管支の外科	呼外	下村准教授
5月24日(金)	4	気管支喘息	呼内	徳田助教
5月27日(月)	3	下気道疾患・嚢胞性肺疾患	呼内	森本助教
5月27日(月)	4	呼吸器内科TBL①　咳の鑑別	呼内	金子講師
5月28日(火)	3	胸膜疾患	呼内	西岡助教
5月28日(火)	4	病理学呼吸器各論	分子病態病理学	丹藤助教
5月28日(火)	5	病理学呼吸器各論	分子病態病理学	丹藤助教
5月29日(水)	3	呼吸器内科TBL②　息切れの鑑別	呼内	金子講師
5月29日(水)	4	肺移植と心肺移植	呼外	井上教授
5月30日(木)	3	呼吸器内科TBL③　がん告知は是か非か	呼内	髙山教授
5月30日(木)	4	人工呼吸管理・NPPV	呼内	岩破助教
5月30日(木)	5	肺がんの薬物療法②	呼内	山田准教授
5月31日(金)	3	職業性肺疾患	呼内	片山助教
5月31日(金)	4	呼吸器感染症③	感染制御・検査	山本助教
6月7日(金)		呼吸器ユニット試験		

臓器別ユニット（神経）

教　員　名

脳神経内科		脳神経外科		分子病態病理学	
特任教授	水野　敏樹	教授	橋本　直哉	特任教授	伊東　恭子
特任教授	吉田　誠克	准教授	立澤　和典	准教授	宍戸　由紀子
臨床教授	滋賀　健介	講師	髙橋　義信	助教	丹藤　創
准教授	笠井　高士	特任講師	南都　昌孝	生体構造科学	
併任講師	近藤　正樹	講師	山中　巧	教授	田中　雅樹
講師	尾原　知行	助教	丸山　大輔	放射線診断治療学	
講師	能登　祐一	助教	梅林　大督	講師	赤澤　健太郎
講師（学内）	田中　章浩	助教	谷山　市太	小児科学	
助教	小泉　英貴	客員教授	塩見　直人	講師（学内）	戸澤　雄紀
病院助教	小島　雄太				

Ⅰ　教育の目的と方針

臓器別ユニット（神経）では，脳神経系に発生する疾患群について，その病理・診断・治療学的知見を統合的に習得することを目的に，神経病理学に基づいて神経学（脳神経内科学）・脳神経外科学の系統的な講義を行う。モデルコアカリキュラムを基盤に，まず神経解剖学の知識を復習し、その後神経学に関わる諸分野を含めて疾患群単位で講義を行い，TBL を交えながら総合的な理解と臨床への応用を目指す。

Neurology（神経学・脳神経内科学）は 19 世紀半ばにフランスのシャルコーらにより近代神経学が確立され，一方の対をなす Neurosurgery（脳神経外科学）は神経学を基盤に 20 世紀初頭に北米で勃興し，これらは診断機器の開発，神経科学及び分子生物学の進歩と相まって世界的に大きく発展してきた。神経学の基本は，注意深い観察と所見の適切な記載である。「何故？」という素朴な疑問が学問の出発点であるが，神経内科学・脳神経外科学ではそのことをもっとも端的に具現化する。症状を注意深く観察し問題点を整理し，必要な検査方法を選択し，診断・治療へと方針を決めていく思考過程の深さを学んでほしい。神経の病理では，先天性脳形成異常，脳・脊髄循環障害，感染性・炎症性・脱髄性疾患，神経変性疾患，脳・脊髄腫瘍などについて形態学的，分子生物学的特徴を概説し，神経学・脳神経外科学の理解を深める一助とする。

脳梗塞に対する血管再開通治療によって劇的な症状の改善がみられるように，いずれの分野においても多くの神経疾患の治療が可能になった。脳神経内科分野では認知症，パーキンソン病，脊髄小脳変性症など未だ治療が困難な疾患が残されているが，それらに対しても根本治療薬，疾患修飾薬の開発が進められ，リハビリテーションも大きな治療効果を有する。脳神経外科分野では，脳深部や頭蓋底および脊髄領域の難治性疾患に対しても低侵襲で確実な外科治療が可能になり，良好な機能予後が得られるようになった。救急医療の一端を担うため，病巣の周囲で非可逆的な神経損傷が生じる前に速やかに正確な診断を下し，迅速に治療を遂行することも重要である。患者は新生児から高齢者まで全年齢層にわたり，病態により一時的に意識・人格障害や様々な神経脱落症状を伴い，脳死患者を診察する場合も稀ではない。医師としてこれらの患者や家族へ応対するために，正確な医学的知識の習得のみならず，患者をその生活様式や精神状態も含めて人間として全体的に理解する力を身につけてもらいたい。

Ⅱ　到達目標

1　神経疾患の診断学を理解し実践できるようになる。

(1) 神経疾患の理解に必要な知識を整理し，病歴聴取と神経診察の手技を理解し実践できる。

(2) 診察所見に基づいて鑑別疾患をあげ，診断のために必要な検査を理解し列記できる。

(3) 診察所見，鑑別診断，必要な検査についてインフォームドコンセントができる。

2　神経変性疾患の診断と治療が出来るようになるために，各疾患を理解する。

(1) 中枢神経，末梢神経，筋の大まかな構造と機能を理解し説明できる。

(2) 各疾患の大まかな分類，病理学的所見，特徴，鑑別点を理解し説明できる。

(3) 各疾患の治療法を理解し説明できる。

3　脳卒中（脳血管障害）の診断と治療が出来るようになるために，各疾患を理解する。

(1) 脳と脳血管の大まかな構造と機能を理解し説明できる。

(2) 脳卒中の大まかな分類，病理学的所見，特徴，鑑別点を理解し説明できる。

(3) 脳卒中の各疾患の内科的・外科的治療法を理解し説明できる。

4　脳腫瘍の診断と治療が出来るようになるために，各疾患を理解する。

(1) 脳腫瘍の大まかな分類を理解し説明できる。

(2) 脳腫瘍の特徴，組織学的・分子生物学的所見，鑑別点を理解し説明できる。

(3) 脳腫瘍各型の内科的・外科的治療法を理解し説明できる。

5　末梢神経・神経免疫関連疾患の診断と治療が出来るようになるため，各疾患を理解する。

(1) 臨床に必要な神経生理学を理解し説明できる。

(2) 末梢神経・神経免疫関連疾患の分類，特徴，鑑別点を理解し説明できる。

(3) 末梢神経・神経免疫関連疾患の内科的・外科的治療法を理解し説明できる。

6　神経感染症の診断と治療が出来るようになるために，各疾患を理解する。

(1)神経感染症の大まかな分類を理解し説明できる。

(2)神経感染症の特徴，病理学的所見，鑑別点を理解し説明できる。

(3)神経感染症の各疾患について内科的・外科的治療法を理解し説明できる。

7　脊髄脊椎疾患の診断と治療が出来るようになるために，各疾患を理解する。

(1)脊髄脊椎疾患の大まかな分類を理解し説明できる。

(2)脊髄脊椎疾患の特徴，鑑別点を理解し説明できる。

(3)脊髄脊椎疾患の各疾患について内科的・外科的治療法を理解し説明できる。

8　てんかんなどの機能的疾患の診断と治療が出来るようになるために，各疾患を理解する。

(1)脳波などの電気生理検査を理解し、解釈できる。

(2)てんかん，不随意運動，機能的疾患の大まかな分類，特徴，鑑別点を理解し説明できる。

(3)機能的疾患について内科的・外科的治療法を理解し説明できる。

9　一般神経診療，神経救急，神経倫理について理解し説明できる。

(1)頭痛の大まかな分類を理解し，診断と治療を説明できる。

(2)神経外傷，神経救急，集中治療について理解し，診断と治療を説明できる。

(3)脳死を含む神経倫理学を理解し説明できる。

10. 先天性脳形成異常の病態生理、診断と治療について理解し、説明できる。

(1) 先天性脳形成異常の大まかな分類を理解し説明できる。

(2) 先天性脳形成異常の特徴，病理学的所見，病態生理を理解し説明できる。

(3) 先天性脳形成異常の各疾患について診断法、治療法を理解し説明できる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

到達目標に記載の疾患グループごとに，脳神経内科学・脳神経外科学・病理学の教員が講義を行う。病理学については講義に続いて実習を行う。病理学実習は神経ユニット講義の一環として行うが通常系統講義の一コマ 60 分を延長して 90 分を割いて行うので注意すること。講義においては学生の理解度を確認しながら進め，可能な範囲で双方向的な評価を行う。各項目に TBL の時間を設け，主体的に学ぶ姿勢を涵養する。

Ⅳ　成績評価基準

神経ユニット講義終了後に行う脳神経内科、脳神経外科、分子病態病理学の講義内容から出題される筆記試験により行う。全体の 60%以上を正解した者を合格とする。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
分子病態病理学		
・宍戸由紀子准教授	金曜日　16:00-18:00	shiyuki@koto.kpu-m.ac.jp
・丹藤創助教	水曜日　16:00-18:00	tando@koto.kpu-m.ac.jp
脳神経内科学		
・笠井高士准教授	水曜日　10:00-16:00	kasaita@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	脳神経内科学秘書　内線 5794, e-mail：neuro@koto.kpu-m.ac.jp	
脳神経外科学		
・橋本直哉教授	金曜日　13:00-15:00	nhashimo@koto.kpu-m.ac.jp
・立澤和典准教授	月曜日　14:00-16:00	tatsu@koto.kpu-m.ac.jp
・髙橋義信講師	金曜日　14:00-16:00	t-ysnb@koto.kpu-m.ac.jp
・南都昌孝学内講師	木曜日　14:00-16:00	nanto@koto.kpu-m.ac.jp
・丸山大輔助教	水曜日　13:00-15:00	dmaruyam@koto.kpu-m.ac.jp
・梅林大督助教	火曜日　13:00-15:00	umebayad@koto.kpu0m.ac.jp
・その他連絡先	脳神経外科学秘書　内線 5541, e-mail：nouge@koto.kpu-m.ac.jp	

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

分子病態病理学

1. Robbins Basic Pathology 10th Edition (by Kumar, Abbas, Aster)(Elsevier)
2. Robins and Cotran Pathologic Basis of of Disease Professional Edition, 9e (Robbins Pathology) (by Kumar, Abbas, Aster) (Elsevier)
3. 組織病理アトラス，第６版（森谷卓也ほか）（文光堂）
4. Robins and Cotran Atlas of Pathology 3rd Edition (Elsevier)
5. 標準病理学，第６版（北川昌伸・仁木利郎 編集）（医学書院）
6. 解明病理学，第４版（青笹克之 総編集）（医歯薬出版）

脳神経内科学

1. カラーイラストで学ぶ神経症候学（平山恵造編）（南江堂）
2. ベッドサイドの神経の診かた 改訂 17 版（田崎義昭，斉藤佳雄編）（南江堂）
3. 神経内科ケーススタディ- 病変部位決定の仕方（黒田康夫）（新興医学出版）
4. 神経内科ハンドブック第４版（水野美邦）（医学書院）
5. 臨床のための神経機能解剖学（後藤文男）（中外医学社）

6. Merrit's Textbook of Neurology (12th ed.)

脳神経外科学

1. ニュースタンダード 脳神経外科学　第 4 版（生塩之敬, 種子田護, 山田和雄編）（三輪書店）
2. 標準脳神経外科学　第 15 版（新井一監修. 冨永悌二, 斎藤延人, 三國信啓編）（医学書院）
3. 脳神経外科学Ⅰ・Ⅱ　第 13 版（太田富夫原著. 松谷雅生, 野崎和彦編）（金芳堂）

Ⅲ　授業日程　1限　8:50-9:50,　2限　10:00-11:00,　3限　12:50-13:50,　4限　14:00-15:00,　5限　15:10-16:10

神経ユニット

第３学年前期　（講義）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
7月8日(月)	1	神経解剖学	生体構造科学	田中教授
7月8日(月)	2	神経疾患の放射線診断	放射線科	赤澤講師
7月8日(月)	3	(神内)神経内科診断学①	脳神経内科	笠井准教授
7月8日(月)	4	神経変性疾患総論	脳神経内科	笠井准教授
7月9日(火)	1	神経外科学総論	脳神経外科	橋本教授
7月9日(火)	2	(神内)神経内科診断学②意識障害・運動・感覚障害	脳神経内科	近藤講師
7月9日(火)	3	認知症　正常圧水頭症	脳神経内科	近藤講師
7月9日(火)	4	失語症、高次脳機能障害	脳神経内科	近藤講師
7月10日(水)	1	パーキンソン病と多系統萎縮症　αsynycleinopathy	脳神経内科	笠井准教授
7月10日(水)	2	パーキンソン症候群　PSP CBS tauopathy	脳神経内科	笠井准教授
7月10日(水)	3	神経病理１(神経変性疾患)	分子病態病理	丹藤助教
7月10日(水)	4	神経病理１(神経変性疾患) 実習	分子病態病理	丹藤助教
7月11日(木)	3	筋萎縮性側索硬化症　TDP43 proteinopathy	脳神経内科	笠井准教授
7月11日(木)	4	脊髄小脳変性症とポリグルタミン病・治療可能な遺伝性神経変性疾患	脳神経内科	笠井准教授
7月12日(金)	1	TBL 神経変性疾患	脳神経内科	笠井准教授
7月12日(金)	2	脳卒中総論　(予防、診断、治療)	脳神経内科	尾原講師
7月12日(金)	3	虚血性脳血管障害各論①	脳神経内科	尾原講師
7月12日(金)	4	虚血性脳血管障害各論②　内科的治療　最近の臨床試験	脳神経内科	尾原講師
7月16日(火)	1	神経病理Ⅱ (循環障害)	分子病態病理	宍戸准教授
7月16日(火)	2	神経病理Ⅱ (循環障害) CPC形式	分子病態病理	宍戸准教授
7月16日(火)	3	虚血性脳血管障害各論③　外科的治療　血管内治療	脳神経外科	南都特任講師
7月16日(火)	4	出血性脳血管障害各論①　診断　内科的治療	脳神経外科	南都特任講師
7月17日(水)	1	出血性脳血管障害各論②　外科的治療　血管内治療	脳神経外科	丸山助教
7月17日(水)	2	特殊な脳卒中　もやもや病、脳動静脈奇形ほか	脳神経外科	丸山助教
7月17日(水)	3	TBL　脳卒中	脳神経外科/脳神経内科	尾原講師/丸山助教
7月17日(水)	4	脳腫瘍総論	脳神経外科	橋本教授
7月18日(木)	3	脳腫瘍各論①　良性腫瘍	脳神経外科	立澤准教授
7月18日(木)	4	脳腫瘍各論②　悪性腫瘍1	脳神経外科	髙橋講師
7月18日(木)	5	脳腫瘍各論③　悪性腫瘍2	脳神経外科	髙橋講師
7月22日(月)	1	脳腫瘍各論④　転移性脳腫瘍　小児脳腫瘍	脳神経外科	谷山助教
7月22日(月)	2	神経病理Ⅲ (脳腫瘍) 成人	分子病態病理	宍戸准教授
7月22日(月)	3	神経病理Ⅲ (脳腫瘍) 小児、その他	分子病態病理	宍戸准教授
7月22日(月)	4	TBL　脳腫瘍	脳神経外科	髙橋講師/谷山助教
7月23日(火)	1	脊椎変性疾患 脊椎脊髄外傷	脳神経外科	梅林助教
7月23日(火)	2	脊椎脊髄腫瘍	脳神経外科	梅林助教

神経ユニット

第３学年前期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
7月23日(火)	3	脊椎脊髄(末梢神経)の外科治療	脳神経外科	梅 林 助 教
7月23日(火)	4	TBL　脊椎脊髄疾患	脳神経外科	梅 林 助 教
7月24日(水)	1	てんかん総論	脳神経内科	田 中 学 内 講 師
7月24日(水)	2	不随意運動	脳神経内科	小 泉 助 教
7月24日(水)	3	絞扼性神経障害	脳神経内科	能 登 講 師
7月24日(水)	4	神経生理学（神経伝達速度、筋電図、誘発電位）	脳神経内科	能 登 講 師
7月24日(水)	5	ニューロパチー・ミオパチー	脳神経内科	能 登 講 師
7月25日(木)	3	重症筋無力症・イートンランバートン症候群・多発筋炎・皮膚筋炎	脳神経内科	小 島 病 院 助 教
7月25日(木)	4	多発性硬化症、視神経脊髄炎、NMDA脳炎	脳神経内科	小 島 病 院 助 教
7月25日(木)	5	神経筋疾患の病理	脳神経内科	滋 賀 臨 床 教 授
7月26日(金)	1	脳波(電気生理検査）/MEG	脳神経内科	田 中 学 内 講 師
7月26日(金)	2	てんかんの薬物治療	脳神経内科	田 中 学 内 講 師
7月26日(金)	3	小児のてんかん	小児科	戸 澤 学 内 講 師
7月26日(金)	4	機能的脳神経外科　てんかんの外科治療	脳神経外科	梅 林 助 教
9月2日(月)	1	小児神経外科	脳神経外科	山 中 講 師
9月2日(月)	2	神経病理IV（小児科領域）	分子病態病理	伊 東 特 任 教 授
9月2日(月)	3	神経病理IV（小児科領域）	分子病態病理	伊 東 特 任 教 授
9月2日(月)	4	神経病理IV（小児科領域）実習	分子病態病理	伊 東 特 任 教 授
9月3日(火)	1	神経感染症1　（髄膜炎/脳膿瘍の診断と治療）	脳神経内科	吉 田 特 任 教 授
9月3日(火)	2	神経感染症2　（ウィルス性髄膜脳炎・免疫抑制下における中枢神経感染・プリオン病）	脳神経内科	吉 田 特 任 教 授
9月3日(火)	3	TBL 末梢神経・筋・神経免疫疾患	脳神経内科	能 登 講 師
9月3日(火)	4	神経病理V（神経感染症・脱髄）	分子病態病理	宍 戸 准 教 授
9月4日(水)	2	頭痛	脳神経内科	石 井 助 教
9月4日(水)	3	神経病理Ⅲ（脳腫瘍）実習	分子病態病理	宍 戸 准 教 授
9月4日(水)	4	神経病理V（神経感染症・脱髄）実習	分子病態病理	宍 戸 准 教 授
9月5日(木)	4	神経倫理・脳死	脳神経内科	水 野 特 任 教 授
9月6日(金)	1	神経倫理・脳死	脳神経外科	橋 本 教 授
9月6日(金)	2	神経外傷	脳神経外科	塩 見 客 員 教 授
9月6日(金)	3	神経救急　集中治療	脳神経外科	塩 見 客 員 教 授
9月13日(金)		神経ユニット試験		

臓器別ユニット（消化器）

消化器内科

教授	伊藤　義人	准教授（内視鏡・超音波診療部）	小西　英幸	准教授	山口　寛二
准教授（併任、医療フロンティア展開学）	髙木　智久	講師（化学療法部）	石川　　剛	講師	十亀　義生
講師	森口　理久	講師（内視鏡・超音波診療部）	吉田　直久	講師	土肥　統
講師（併任）	内山　和彦	講師（学内）	井上　健	講師（学内）	土井　俊文
講師（学内）	瀬古　裕也	助教	三宅　隼人	助教	片岡　星太
助教	岩井　直人	助教	小林　玲央	助教（併任）	廣瀬　亮平
客員教授	古倉　　聡	客員教授	八木　信明	客員教授	安居幸一郎
客員教授	村上　善基	客員講師	吉田　憲正	客員講師	光藤　章二
客員講師	南　　祐仁	客員講師	若林　直樹	客員講師	阪上　順一
客員講師	保田　宏明	客員講師	半田　　修	客員講師	鎌田　和浩

消化器外科学

准教授(兼)	落合　登志哉	准教授(兼)	藤原　　斉	准教授	窪田　　健
講師	内藤　慶	講師	塩﨑　　敦	講師	森村　　玲
講師(学内)	出口　勝也	講師(学内)	小西　博貴	講師(学内)	山本　有祐
講師(学内)	有田　智洋	講師(学内)	清水　浩紀	助教	濵田　隼一
助教	名西　健二	助教	今村　泰輔	助教	木内　　純
助教	足立　雄城	客員教授	阪倉　長平	客員教授	市川　大輔
特任准教授	小松　周平				

病理学

病院教授	小西　英一	准教授	原田　義規	講師(学内)	小形　岳寛
助教	森永友紀子	助教	中尾　龍太		

Ⅰ　教育の目的と方針

病理学

病理学は、疾患によって生じる分子や細胞・組織における一定の構造･機能の異常に基づき、その病因 Etiology と発症機序 Pathogenesis を追求し、疾患体系を確立する学問である。また、病理学は、患者の疾患を直接取り扱う臨床医学の基盤をなすものであり、患者の病態はつねに病理学的視野に立脚して理解されねばならず、病理学の教育はこのような視点を重視して行う。これに加えて病理学の教育は、講義と実習の緊密な協調を特徴とする。講義により得た知識は実習によって確かめられ、知識

として定着する。したがって、病理学の教育方法は講義・実習を一つのユニットとした形態をとる。

消化器内科

内科学は極めて幅広く、かつ奥深い臨床分野であり、系統的に物事を考え理解する必要がある。消化器病学を学ぶには消化管、肝・胆･膵の生理、生化、形態学的基本知識を持ちながら、各臓器の疾患を理解する必要がある。一方消化器の各臓器はそれぞれと、また他臓器と密接に関連する場合が多く、消化器疾患の基本的知識のみならず、全身の中の消化器疾患として理解する必要がある。そこで我々は系統講義、臨床演習・実習を通じて口腔、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝・胆・膵、腹膜における疾患の病態、診断、治療について把握できるよう、消化器病のエッセンスを伝えたい。
近年臨床医学の進歩は目覚ましく、重要な点が教科書に記載されていない事も多い。昨今肝臓病学は分子生物学や、遺伝子工学的知識を必要としており、新たな視点を含めた各種検査法、画像診断、治療とその技法、臨床的意義について詳述する。また、消化管や胆・膵の分野では内視鏡やその他の画像検査を用いた診断・治療の進歩が著しく、それらを詳述し、将来の展望について教授したい。主要な疾患や示唆に富む症例については、患者資料を供覧し、CPC 形式を取り入れた講義を行い、実際の臨床に役立つよう解説したい。

消化器外科

消化器外科学の教育にあたっては、個々の断片的知識をマニュアル的に暗記するような知識偏重の従来の教育を改め、自分で考えて正しい理解に到達することにより病態や現象の本質の理解に導く「問題解決型」の教育スタイルとする。実際の学生指導にあたっては、系統講義により基本知識を習得した上で、学生が自主的に学力を養い問題を解決する能力を習得することを目標とする。

Ⅱ　到達目標

１）　病理学

既習の病理学総論を基盤として消化器疾患の病因、発生機序、形態変化、病態を理解・習得する。学習すべき項目は以下の通りである。口腔・消化管・肝臓の正常構造と機能、代表的な非腫瘍性疾患及び腫瘍性疾患（胃炎、胃癌、炎症性腸疾患、大腸癌、肝炎、肝硬変、肝癌など)。胆・膵の正常構造と機能、代表的な非腫瘍性疾患及び腫瘍性疾患（胆石症、胆嚢癌、膵炎、膵癌など)。

2)　消化器内科

1. 患者さんの視点に立って、病歴、身体所見が取れ、腹部所見を見過ごすこと無く診ることが出来ること。症状として腹痛、腹部膨満感、悪心・嘔吐、下痢・便秘、吐・下血、背部痛、不明熱等を訴える消化器疾患を把握する。
2. 消化器疾患の診断に必要な尿・便･血液検査、腹部単純Ｘ線、腹部超音波検査、腹部 CT・MRI、腹部血管造影検査、PET、上部下部消化管内視鏡、消化管造影検査、ERCP、EUS、小腸内視鏡、カプセル内視鏡の読み方、意義を理解すること。なお手技についても慣れるよう見学、介助する。
3. 各種消化器疾患の基礎知識のみならず、治療の適応、意義について把握すること。消化管出血に対する内視鏡的止血術、食道静脈瘤に対する EVL、硬化療法、消化管腫瘍に対する EMR、 ESD、閉塞性黄疸に対する EST、ENBD、ERBD、PTCD 法、肝炎治療の DAA、核酸誘導体の使い方、肝癌治療の TACE、PEIT、RFA、薬物治療、肝切除の適応とその技術や肝移植について、炎症性腸疾患に対する免疫抑制剤や分子標的治療薬の使い方について、また消化器癌に対する全身化学療法、免疫チェックポイント薬による治療、分子標的治療などの適応と実際を理解する。

3) 消化器外科

１．消化器疾患の外科治療を理解する
消化器癌を中心とした消化器疾患の治療は、外科治療とともに内視鏡や薬剤を用いた内科治療や放射線治療などにより成り立っている。これらを組み合わせた集学的治療における外科治療の意義を理解する。その上で、外科治療の適応やタイミング、定型的な外科手術手技の基本の理解を図る。
２．外科治療に必要な検査所見を理解する
疾患の診断と外科治療方針の決定に必須の各種検査所見について理解する。すなわち病歴や身体所見の取り方から、内視鏡、CT、MRI、超音波検査などの術前画像検査の必要な読影法にわたるまで理解し、その診断結果から治療方針をたて手術術式が決定するという診断から治療への一連の流れを理解し説明できるようになる。手術を安全に行なうために必要な耐術機能評価法についても理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

１．試　験
系統講義終了後に消化器ユニット（消化器内科学、消化器外科学、病理学）として定期試験を行う。形式は原則としてマークシート方式による筆記試験で行う。卒業試験も同様に行う。
２．総合成績評価
試験の点数と日常点数の合計を総合的に判断し、卒業の合否を決定する。

Ⅴ　オフィスアワー

病理学

	オフィスアワー	メールアドレス
原田義規准教授	水曜日　14:00-16:00	yoharada@koto.kpu-m.ac.jp
その他連絡先	細胞分子機能病理学医局	内線 5322

消化器内科

	オフィスアワー	メールアドレス
吉田直久講師	月曜日　9:00-12:00	naohisa@koto.kpu-m.ac.jp
その他連絡先	消化器内科学医局	内線 5519

消化器外科

	オフィスアワー	メールアドレス
塩﨑敦講師	木曜日15:00-17:00	shiozaki@koto.kpu-m.ac.jp
その他連絡先	消化器外科学秘書	内線 5527

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

病理学
１．教科書
・Robbins Basic Pathology 11th ed. (Elsevier)
・Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 11th ed. (Elsevier)
２．参考書（アトラス）

・組織病理アトラス 第６版, 文光堂

・Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th edition (Elsevier)

消化器内科

１．Harrison’s Principles of Internal Medicine (Fauci, et.al., MaGraw-Hill)

２．Textbook of Gastroenterology.(Yamada et al., Lippincott Williams & Wilkins)

３．Schiff’s Diseases of the Liver(Schiff, Lippincott)

４．The Exocrine Pancreas. Biology, Pathobiology, and Diseases (Vay Liang W.Go, et. al, Rauen Press)

消化器外科

１．標準外科（医学書院）

２．新臨床外科学

３．NEW 外科学

４．Textbook of surgery (Saunders)

５．Surgery-Scientific principle and practice (Lippincott-Raven)

６．ワシントンマニュアル

Ⅲ　授業日程 1限　8:50-9:50,　2限　10:00-11:00,　3限　12:50-13:50,　4限　14:00-15:00,　5限　15:10-16:10

消化器ユニット

第３学年前期　（講義）

日程	時限	内容	担当者	
			所属	講師名
9月9日(月)	1	消化器疾患　総論	消・内	伊藤教授
9月9日(月)	2	消化管腫瘍学　内科的診断・治療	消・内	井上講師（学内
9月9日(月)	3	肝硬変　診断・内科的治療	消・内	山口准教授
9月9日(月)	4	肝腫瘍　診断・内科的治療	消・内	森口講師
9月9日(月)	5	食道・胃の外科①	消・外	窪田准教授
9月10日(火)	1	下部消化管の病理（講義）	病理	中尾助教
9月10日(火)	2	下部消化管の病理（実習）	病理	病理学教室員
9月10日(火)	3	胃炎　内視鏡診断・治療	消・内	内山講師（併任）
9月10日(火)	4	食道・胃の外科②	消・外	藤原准教授
9月11日(水)	1	肝臓・胆道の病理Ⅰ（講義）	病理	原田准教授
9月11日(水)	2	肝臓・胆道の病理Ⅰ（実習）	病理	病理学教室員
9月11日(水)	3	食道疾患　診断・内科的治療	消・内	石川講師
9月17日(火)	1	口腔・上部消化管の病理（講義）	病理	森永助教・小西病院教授
9月17日(火)	2	口腔・上部消化管の病理（実習）	病理	病理学教室員
9月17日(火)	4	腸の外科①	消・外	有田講師（学内）
9月17日(火)	5	膵炎　診断・内科的治療	消・内	十亀講師
9月18日(水)	1	大腸腫瘍　内視鏡診断・治療	消・内	吉田講師
9月18日(水)	3	肝臓・胆道の病理Ⅱ（講義）	病理	原田准教授
9月18日(水)	4	肝臓・胆道の病理Ⅱ（実習）	病理	病理学教室員
9月19日(木)	3	肝炎　診断・内科的治療	消・内	伊藤教授
9月24日(火)	1	膵臓の病理（講義）	病理	中尾助教
9月24日(火)	2	膵臓の病理（実習）	病理	病理学教室員
9月24日(火)	4	内視鏡外科	消・外	清水講師（学内）
9月24日(火)	5	肝臓の外科	消・外	落合准教授
9月25日(水)	3	膵腫瘍　診断・内科的治療	消・内	保田客員講師
9月25日(水)	4	胆道の外科	消・外	山本講師（学内）
9月26日(木)	3	胆道疾患　診断・内科的治療	消・内	小西准教授
9月26日(木)	4	外科腫瘍学（Surgical Oncology）	消・外	窪田准教授
9月27日(金)	1	実際の症例を用いた消化器外科疾患の復習（講義形式）	消・外	塩﨑講師
9月27日(金)	2	実際の症例を用いた消化器外科疾患の復習（講義形式）	消・外	小西講師（学内）
9月27日(金)	3	日常臨床で遭遇する消化器疾患 胆膵疾患・肝疾患（講義形式）	消・内	土井講師(学内)/森口講師
9月27日(金)	4	胃腫瘍　内視鏡診断・治療	消・内	土肥講師

第３学年後期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
9月30日(月)	1	食道・胃の外科③	消・外	市川客員教授
9月30日(月)	2	日常臨床で遭遇する消化器疾患　大腸・肝疾患（講義形式）	消・内	山口准教授/吉田講師
9月30日(月)	3	膵臓の外科①	消・外	森　村　講　師
9月30日(月)	4	実際の症例を用いた消化器外科疾患の復習（講義形式）	消・外	木　内　助　教
9月30日(月)	5	日常臨床で遭遇する消化器疾患　悪性腫瘍（講義形式）	消・内	小西准教授/石川講師
10月1日(火)	1	炎症性腸疾患　内視鏡診断・治療	消・内	髙木准教授(併任)
10月1日(火)	3	膵臓の外科②	消・外	森　村　講　師
10月1日(火)	4	日常臨床で遭遇する消化器疾患　上部消化管・肝疾患（講義形式）	消・内	土肥講師/瀬古講師(学内　　)
10月1日(火)	5	腸の外科②	消・外	有田講師(学内)
10月3日(木)		消化器ユニット試験		

産婦人科学

教員名

教　　授	森　　泰輔	助　　教	沖村　浩之	客員講師	岩佐　弘一
准教授	黒星　晴夫	〃	志村　光揮	〃	大久保智治
〃	藁谷深洋子	〃	垂水　洋輔	〃	北宅弘太郎
講　　師	寄木　香織	〃	山下　　優	〃	辰巳　　弘
〃	伊藤　文武	〃	渡邊　亜矢	〃	楳村　史織
講師（学内）	田中佑輝子	〃	沼田　朋子	〃	小芝　明美
〃	古株　哲也	〃	西村　真衣	〃	松島　　洋
〃	片岡　　恒	教授（看護学科）	楠木　　泉		
〃（遺伝診療部）	前田　英子				

Ⅰ　教育の目的と方針

産科学と婦人科学は、基礎医学の解剖、生理、病理などや、生化学、内分泌学などの基盤の上に立っており、また臨床医学の内科学、外科学、特に小児科とも大きな関連を持っている。生殖器・生殖機能を中心として女性の一生涯にわたる身体変化（出生、成熟、妊娠・出産・産褥、老化）の生理と病理に、内科的・外科的アプローチを含めあらゆる角度から解釈を加えた学問で、出産、避妊、不妊の問題や、高齢化社会到来による閉経期以降の医療は特に一般医師としての常識ともなり、大きく社会医学とつながり、近年は女性医学とも呼ばれている。

産婦人科学は、産科・周産期医学、腫瘍学、生殖医学、内分泌学、感染症学などの分野に分かれるが、それぞれは密接に関連している。臨床の現場での異常分娩に象徴されるように、一瞬にして児のみならず、母体が生命の危険に陥るような状況はまさに救急医療そのものである。婦人科腫瘍においては、広汎子宮全摘術のような難易度の高い手術や、化学療法、放射線療法など非常に幅広い要素を含んでいる。生殖医学では、体外受精・胚移植や顕微授精などは基礎医学と直結して生殖補助医療として発展している。このように産婦人科学は診断から治療に至るまでの広範囲の領域をカバーする。

一般的な産科学、婦人科学の知識と考え方の習得に重点をおき、患者に接したときの診断および治療の進め方、一般医として一応の処理ができるように指導する。また、将来に世界にはばたける科学者としての芽付けも行いたい。

Ⅱ　到達目標

1. **女性生殖器系の構造と機能やその一生における変化を理解する。**

成長・加齢に伴い、幼少期、思春期、性成熟期、更年期および老年期の各時期にわたり変化する女性生殖器系の解剖と生理学を理解する。

2. **産婦人科における検査法を理解する。**

産婦人科診察について理解し、疾患を診断するための検査（病理検査、内分泌検査、画像検査）の意義、実施法、結果の解釈について理解を深める。

3. **生殖に関係する各臓器の良性および悪性疾患の診断・治療に関する知識を習得する。**

婦人科疾患には腫瘍性疾患、内分泌疾患、性器の位置異常、性分化異常、性感染症など多岐におよぶ疾患がある。これらの疾患の概要を理解し、診断と治療のプロセスを提示できるようになることを目標とする。

4. ヒトの生殖メカニズム、妊娠の生理と異常、管理法を理解する。

受精、着床から始まり分娩で終了する妊娠の生理について理解する。そのすべての過程において生じるさまざまな異常の病態、診断、管理、治療について理解を深める。

5. 分娩の生理と異常、管理法を理解する。

正常分娩の経過について理解する。また、分娩の３要素について理解し、異常分娩の原因、診断、管理について理解する。また、異常分娩への介入として必要となる産科処置について理解する。産褥の生理と産褥期に起こる異常およびその管理法について理解を深める。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1.　試験

系統講義終了時に定期試験を行う。試験の形式はマークシート方式による筆記試験とする。追再試験の形式も同様に行う。

2.　総合成績評価

試験の点数と日常点数の合計を総合的に評価し、合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・ 森　泰輔　教授	月　15:00-17:00	moriman@koto.kpu-m.ac.jp
・ 藁谷深洋子　准教授	月　15:00-17:00	mwara@koto.kpu-m.ac.jp
・ その他の連絡先：	産婦人科学教室（内線 5560）	aoi@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書は成書であれば特に指定しないが、下記のものを中心に講義をすすめる。新しい検査や治療法については、教科書が十分ついていけていないのが実情で、あくまでも講義内容を中心に、病態生理に十分言及したもの、定期的に改訂されているもの、世界的に定評のあるものを参考書として学ぶことをすすめる。記述の一言一句を記憶する必要はないが、その理論を大きく捉えることが必要である。

- ウィリアムズ産科学　Williams Obstetrics　26th Edition　（McGraw-Hill 社　26,692 円）
- 標準産科婦人科学 第5版（岡井 崇、綾部琢哉 編　医学書院、8,500円）

Ⅲ　授業日程

産婦人科学

第３学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
4月11日(木)	1	総論Ⅰ（産婦人科学とは）	産婦人科	森　教　授
4月17日(水)	1	生殖内分泌Ⅰ（性分化と月経のしくみ）	〃	伊　藤　講　師
4月24日(水)	1	周産期Ⅰ（正常妊娠）	〃	田中学内講師
4月25日(木)	3	周産期Ⅱ（正常分娩）	〃	藁谷准教授
4月25日(木)	4	総論Ⅱ（検査・治療法）	〃	松島客員講師
5月8日(水)	1	生殖内分泌Ⅱ（不妊症、不育症、がん生殖）	〃	沖村助教
5月15日(水)	1	婦人科腫瘍Ⅰ（子宮良性疾患）	〃	小芝客員講師
5月22日(水)	1	婦人科腫瘍Ⅱ（卵巣腫瘍・鏡視下手術）	〃	伊　藤　講　師
5月29日(水)	1	婦人科腫瘍Ⅲ（子宮頸がん）	〃	寄　木　講　師
6月5日(水)	1	婦人科腫瘍Ⅳ（子宮体がん、絨毛性疾患）	〃	片岡学内講師
6月5日(水)	4	周産期Ⅲ（異常妊娠 1）	〃	大久保客員講師
6月11日(火)	4	婦人科腫瘍Ⅴ（卵巣がん）	〃	黒星准教授
6月12日(水)	1	女性ヘルスケアⅠ（思春期学）	〃	楳村客員講師
6月12日(水)	5	女性ヘルスケアⅡ（遺伝、出生前診断）	〃	前田学内講師
6月14日(金)	5	周産期Ⅳ（異常妊娠 2）	〃	藁谷准教授
6月17日(月)	4	婦人科腫瘍Ⅵ（がん薬物療法・悪性腫瘍手術）	〃	古株学内講師
6月18日(火)	5	周産期Ⅴ（合併症妊娠）	〃	藁谷准教授
6月19日(水)	1	周産期Ⅵ（異常分娩）	〃	藁谷准教授
6月20日(木)	4	女性ヘルスケアⅢ（更年期）	〃	岩佐客員講師
6月20日(木)	5	女性ヘルスケアⅣ（性感染症ほか）	〃	辰巳客員講師
6月21日(金)	4	生殖内分泌Ⅲ（生殖補助医療）	〃	北宅客員講師
6月21日(金)	5	総論Ⅲ（産婦人科学の未来）	〃	森　教　授

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
10月9日(水)	3	プラカン形式Ⅰ（子宮良性疾患）	産婦人科	楠木教授（看護学科）
10月17日(木)	3	プラカン形式Ⅱ（異常妊娠）	〃	田中学内講師

整形外科学

教　員　名

教　　授	高橋　謙治	客員講師	村田　博昭
准　教　授	生駒　和也	〃	湯澤　洋平
〃	白井　寿治	〃	南　銀次郎
講　　師	小田　　良	〃	上島圭一郎
〃	長江　将輝	〃	笹谷　勝巳
〃	寺内　　竜	〃	森原　　徹
〃	岡　　佳伸	〃	山本　健志
〃	外村　　仁	〃	八田陽一郎
〃	吉田　隆司	〃	原田　智久
講　　師（兼）	井上　敦夫	〃	小橋　裕明
〃	石田　雅史	〃	小見山洋人
講　　師（学内）	土田　真嗣	〃	藤田　伸弥
〃	堀江　直行	〃	劉　　和輝
〃	木田　圭重	〃	仲川　春彦
助　　教	祐成　　毅	〃	梶川　佳照
〃	林　　成樹	〃	徳川　誠治
〃	石橋　秀信	〃	戸谷　祐樹
〃	大久保直輝	〃	井上　裕章
〃	松浦　宏貴	〃	平岡　延之
准教授（併）	徳永　大作	〃	菅　　寛之
客員講師	宇田　憲司	〃	佐々木健太朗
〃	糸井　　恵	〃	遠山　将吾
〃	堀井　基行	〃	渥美　　覚
〃	大塚　悟朗	〃	生田　　太
〃	清水　長司	〃	野々村　卓
〃	藤岡　幹浩	〃	渡部　　寛
〃	北条　達也	〃	神谷阿久里
〃	橋本三四郎	〃	下村　征史
〃	藤原　靖大		
〃	河野　　茂		
〃	杉田　　誠		
〃	松尾　健志		
〃	大澤　　透		
〃	竹下　博志		
〃	藤原　浩芳		
〃	牧之段　淳		

Ⅰ　教育の目的と方針

整形外科学（大学院大学名：運動器機能再生外科学）とは、運動器にかかわる疾患を取り扱う医学の一分野であり、「四肢関節、脊椎・脊髄、筋、骨格系の疾患を取り扱う臨床医学」といえる。すなわち、日常の活動に関与する運動器の機能にかかわる骨、関節、筋、腱、靭帯、およびこれらを支配する脊髄、末梢神経を一連の運動器という概念で捉え、その解剖、生理、病態、病理、生体力学とともに内科的・外科的治療学を研究する学問である。

年齢層は乳幼児から成人、高齢者までの全年齢層が対象となる。運動器疾患は四肢、脊柱の各種疾患と外傷が主なものであるが、筋、腱、靭帯、神経系などの種々の疾患や障害が含まれ、日常的なものから、ごくまれで特殊な疾患まで多岐にわたる。整形外科の発展に伴い各分野に専門化が進み、当教室では特殊クリニックとして、股関節外科、膝関節外科、足の外科、肩関節外科、手の外科、末梢神経外科、脊椎脊髄外科、骨折、骨軟部腫瘍、関節リウマチ、小児整形外科、骨粗鬆症、スポーツ整形外科を設けている。整形外科治療の特徴は、各種の保存療法と手術療法を幅広く駆使できることがあげられる。すなわち、運動器の疾患に対して、その病態に応じて内科的あるいは外科的にアプローチして治療にあたっている。

また、整形外科学は失われた運動機能や支持機能の再建を目的としていることから、リハビリテーションの思想をいち早く実践してきた分野であり、治療におけるその重要性は大きい。リハビリテーション医学教室と連携し、整形外科学の講義にも組み入れている。

限られた時間内で広い範囲を講義するため、末尾に掲げた推薦教科書を是非とも参照していただきたい。

Ⅱ　教育目標

1　運動器疾患を理解する

運動器とは骨，関節，筋肉，神経などからなる身体を構成する重要な器官である。運動器疾患は上・下肢関節疾患、脊椎脊髄疾患、末梢神経疾患、小児整形疾患、骨・軟部腫瘍、関節リウマチなど多岐にわたり，外傷など急性期から慢性期まで広い範囲を扱う。疾患ごとの病因，病態を説明できるように理解する。

2　理学所見，神経学的所見の取り方および画像所見を理解する

運動器疾患における理学所見及び神経学的所見の取り方と所見の意味を理解する。また、単純Ｘ線、関節造影、超音波画像、CT、MRIや筋電図のとり方を理解し、所見を説明することができるようになる。

3　診断，治療，リハビリテーションまで一連の流れを理解する

身体所見および画像所見から鑑別診断をあげて運動器疾患を診断し、疾患に対する保存療法から手術療法をあげ、その適応や問題点を説明することができる。また、運動器疾患に対するリハビテーションを説明することができる。一連の治療の流れから、メディカルスタッフ（看護師、理学・作業療法士、薬剤師、栄養士など）とのチーム医療の重要性とチーム医療の中心となる医師の役割を説明することができる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験　：系統講義終了時の定期試験および卒業試験の形式はマークシート方式による筆記試験を行います。追再試験もマークシート方式とします。

2　総合成績評価：試験の点数と日常点数の合計を総合的に勘案して合否を判定します。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・石田講師	水曜日　16:00-17:00	msisd@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患　（成美堂出版、2,500円）

2　患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキ 整形外科　（メディカ出版、3,800円）

3　標準整形外科　（医学書院、9,400円）

4　図解整形外科　（金芳堂、5,200円）

5　図解整形外科問題集（金芳堂、価格3,600円）

Ⅲ　授業日程

整形外科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
10月7日(月)	3	＜整形外科総論I＞運動器疾患とは 運動器疾患の治療法概論(保存療法と手術療法)	整形外科	高 橋 教 授
10月8日(火)	2	＜整形外科総論II＞ 運動器疾患の病態・診断法	〃	白 井 准 教 授
10月9日(水)	2	＜運動器の疾患：総論Ｉ＞ 骨と軟骨のバイオロジー/変形性関節症	〃	林　助　教
10月15日(火)	2	＜運動器の疾患：総論II＞ 運動器の構造とバイオメカニクス	〃	生 駒 准 教 授
10月16日(水)	2	＜運動器の疾患：関節１＞股関節疾患	〃	石 田 講 師
10月17日(木)	1	＜運動器の疾患：腫瘍＞骨腫瘍・軟部腫瘍	〃	寺 内 講 師
10月18日(金)	3	＜運動器の疾患：関節２＞膝関節疾患	〃	井 上 講 師
10月21日(月)	3	＜運動器の疾患：関節３＞足関節疾患	〃	生 駒 准 教 授
10月22日(火)	2	＜運動器の疾患：関節４＞肩関節，肘関節関節疾患	〃	木 田 助 教
10月24日(木)	3	＜運動器の疾患：関節５＞ 手関節，手，末梢神経の疾患	〃	土 田 講 師
11月6日(水)	2	＜運動器の疾患：外傷１＞ 骨・関節の外傷の種類，病態，治療	〃	堀 江 講 師
11月6日(水)	4	＜運動器の疾患：外傷２＞ スポーツによる運動器の外傷と障害	〃	石 田 講 師
11月7日(木)	3	＜運動器の疾患：脊椎１＞頚椎，腰椎疾患	〃	長 江 講 師
11月8日(金)	3	＜運動器の疾患：脊椎２＞側弯症，脊椎脊髄損傷	〃	外 村 講 師
11月11日(月)	3	＜運動器の疾患：関節リウマチ,骨粗鬆症＞ 関節リウマチ，骨粗鬆症	〃	徳永准教授（併） 小 田 講 師 大 久 保 助 教
11月21日(木)	3	＜運動器の疾患：小児整形＞先天性疾患，脚延長術	〃	岡　講　師

整形外科学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
10月15日(火)	4	運動器のリハビリテーションの実際（プラカン形式）	整形外科	大 久 保 助 教
10月22日(火)	3	運動器疾患の診断・治療（プラカン形式）	〃	祐 成 助 教

小　児　科　学

教　員　名

教　　授	家原　知子	助　　教	梶山　　葉
准　教　授	秋岡　親司	〃	河井　容子
講　　師	土屋　邦彦	〃	橋口加名栄
〃	大曽根眞也	〃	大内　一孝
〃（遺伝子診療部）	千代延友裕	〃	吉田　秀樹
講　　師	池田　和幸	〃	杉本　　哲
〃	柳生　茂希	〃	瑞木　　匡
講師（学内）	宮地　　充	〃	森元　英周
〃	長谷川龍志	〃	河辺　泰宏
〃	戸澤　雄紀	〃	富田　晃正
		〃	大矢　暁
		客員教授	西田眞佐志

Ⅰ　教育の目的と方針

「小児は小さなおとなではない」という言葉は、小児科学の持つ、様々な命題をもっとも端的に表現した名言である。子どもは、「からだ」の構造や機能においても、免疫機能や代謝の面でも、「こころ」の発達や機能においても、大人とは異なる存在であり、日々、成長し、発達しているという特徴をもつ。

小児科学は、子どもの体や心のしくみと異常を、子どもを取り巻く環境も含めて全人的に研究する学問であり、専門分野を追求するために必然的に細分化された現代医学においても、小児の各専門領域を深く研究するのみならず、環境的・社会的要因を含めた視点で小児を全般的に把握し、研究する学問である。

小児医療は、小児科学の応用により行われる全人的医療であり、子どものみならず、人の一生を見つめ、人と社会に働きかけていく包括的医療である。その意味で、小児医療は、医療の本来の姿を最も追及している医療と言える。

小児科医は、誕生から成人するまで、家庭や社会の中で、日々成長と発達を続けるすべての子どもの変化や多様な健康の問題を熟知し、解決する知識と技能をもち、子どもの状態を年（月）齢と照らし合わせて正確に評価する能力が必要とされる。また、小児科医は、小児の特定分野の専門家であると同時に、多診療科による集学的医療や多職種により行われるチーム医療のコーディネーターとしての資質が要求される。

小児科学には今や、内科学の各専門科に匹敵するほどのサブスペシャリティーが存在するが、我々は先ず、健康な子どもの保育と保健に必要な基礎知識を習得し、一般的疾患を診ることができる小児科医としての基盤を学び、その上にさらなる追求を行う専門性についても知る。すなわち、小児の持つ、成人とは異なった生理、病理、心理上の特徴を、理論的に学ぶとともに、それを基盤とした臨床上の問題点を、小児の専門分野ごとにも、できる限り実際に即した形で学んでいく。

基礎的、教科書的な事項については、「学生自ら学ぶ」という前提に立って講義を行うので、学生諸君の自主的な学習を期待する。臨床演習では実際の症例を提示して診療の実際を学ぶ。実践に即した視覚教材を用い、小児医療の現状などのトピックも学ぶ。臨床演習は準備期間を考慮して、担当教員と事前に連絡をとること。演習内容の発表はグループ全員で行う。

Ⅱ　到達目標

1　小児の成長・発達、各種疾患について理解し、正しく評価を行うことができる。

（1）小児の成長・発達、栄養、生理など総論的な事項についての理解、評価ができる。

（2）新生児疾患、代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、感染症、血液・腫瘍性疾患、神経・運動器疾患、消化器疾患など各論的な事項について理解し、評価ができる。

2　医療面接の進め方、小児の診察所見のとり方、臨床検査値の診かた、画像所見の診かたなどについて理解することができる。

3　患者の診察、状態の評価、検査、治療の計画などについて、理解することができる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

試験によって評価する。一次試験は記述式、二次試験はマークシート形式で実施する。それぞれの追再試験も本試験と同様の形式で行う。

Ⅴ　オフィスアワー

小児科学教室　臨床医学学舎6階　月―金曜日　9:00-17:00 内線5571

教育部門担当　大曽根眞也　講師　（メールアドレス shinn-o@koto.kpu-m.ac.jp）

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　ネルソン小児科学　第19版（衛藤義勝　監修、エルゼビアジャパン　39,600円）

2　ネルソン小児科学　第21版日本語版（電子書籍、五十嵐隆　監訳、エルゼビアジャパン　19,800円（48カ月間利用可能））

3　Nelson Textbook of Pediatrics 21st edition（Kliegman RM 他著　Elsevier　約30,000円）（2024年春に22nd editionが発売予定）

4　標準小児科学　第9版（原　寿郎　監修、高橋孝雄／細井　創／齋藤昭彦　編集　医学書院　9,680円）

Ⅲ　授業日程

小児科学

第３学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月10日(水)	2	総論	小児科	家 原 教 授
4月12日(金)	2	消化器疾患	〃	柳 生 講 師
4月17日(水)	2	免疫疾患	〃	秋 岡 准 教 授
4月19日(金)	2	神経疾患	〃	戸澤講師（学内）
4月24日(水)	2	新生児	〃	長谷川講師（学内）
4月26日(金)	2	先天代謝異常	〃	森 元 助 教
5月8日(水)	2	腎・泌尿器疾患	〃	西 田 客 員 教 授
5月15日(水)	2	アレルギー	〃	土 屋 講 師
5月17日(金)	2	運動器疾患	〃	千 代 延 講 師
5月22日(水)	2	先天性心疾患（非チアノーゼ性心疾患）・川崎病	〃	池 田 講 師
5月24日(金)	2	血液・造血器疾患（１）	〃	吉 田 助 教
5月29日(水)	2	血液・造血器疾患（２）	〃	大 曽 根 講 師
5月31日(金)	2	感染症	〃	家 原 教 授
6月5日(水)	2	先天性心疾患（チアノーゼ性心疾患）	〃	池 田 講 師
6月12日(水)	2	内分泌疾患	〃	杉 本 助 教
6月14日(金)	2	腫瘍性疾患（１）	〃	家 原 教 授
6月17日(月)	3	腫瘍性疾患（２）	〃	宮地講師(学内)
6月19日(水)	2	総括	〃	秋 岡 准 教 授

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月10日(木)	2	免疫疾患	小児科	秋 岡 准 教 授
10月11日(金)	2	血液・造血器疾患	〃	大 曽 根 講 師
10月16日(水)	2	新生児	〃	橋 口 助 教
10月17日(木)	2	神経・運動器疾患	〃	戸澤講師（学内）

眼　科　学

教　員　名

教　　授	外園　千恵	客員教授	奥　　英弘
准教授	上野　盛夫	〃	横井　則彦
講　　師	稗田　　牧	客員講師	伴　由利子
〃	渡辺　彰英	〃	山崎　俊秀
〃	小嶋　健太郎	〃	山田　　潤
助　　教	福岡　秀記	〃	安原　　徹
〃	北澤　耕司	〃	小室　　青
〃	鎌田　さや花	〃	池田　陽子
〃	田中　寛	〃	鈴木　　智
〃	三重野　洋喜	〃	中村　　葉
特任准教授	上田　真由美	〃	小森　秀樹
		〃	中村　隆宏
		〃	丸山　和一
名誉教授	木下　　茂	〃	東原　尚代
客員教授	Andrew J Quantock	〃	永田　真帆
〃	Yann Barrandon	〃	中司　美奈
〃	小泉　範子	〃	佐藤　貴彦
〃	田畑　泰彦	〃	谷岡　秀敏
〃	Friedrich Kruse	〃	平本　菜央
〃	羽室　淳爾	〃	永田　健児
〃	森　　和彦	〃	寺尾　信宏
〃	稲富　　勉		
〃	古泉　英貴		
〃	奥村　直毅		

Ⅰ　教育の目的と方針

専門課程眼科学教育の基本方針は、眼科学的診療の考え方の基本を学修し、理解することである。将来の専門によらず必要となる眼科学知識を習得し、頻度の高い眼疾患や重要な眼疾患について理解する。眼科診療における検査、診察、治療は特殊性が高く、手術は主にマイクロサージェリーである。臨床実習では実際の眼科学的検査方法や所見の読み方、診察方法、手術を含む治療方法について学ぶ。眼科では乳幼児期から高齢者まで全ての年齢が対象であるが、超高齢化社会になり眼疾患を有する方は増々増加している。実習等を通じて、視覚障害を有する方への配慮やケアについても医師として必須の知識として習得することを期待する。

Ⅱ　到達目標

1　**眼の構造と視覚について理解する**

眼は小さな臓器であるが、ヒトは必要な情報の80％を視覚から得ている。繊細かつ高度に分化した眼球の構造と視覚のしくみを理解する。

2　**眼科検査法を理解し、修得する**

基本的な眼科検査法を習得せずには、眼疾患を正しく診断できない。各種眼科検査を体験し、さまざまな眼疾患の病態を自分で考えることができるようにする。

3　**眼疾患の診断と治療について理解する**

眼所見と検査結果を総合的に把握し、論理的思考に基づいて眼疾患を診断することを学ぶ。内科的および外科的な治療法について理解する。眼は炎症や血管の状態を直接に観察できる臓器である。さまざまな全身疾患と眼疾患の関わりについての理解を深める。

4　**基礎および臨床研究と眼科学の関係を理解する**

視覚の科学は、現在最も研究が行われ大きく発展している分野のひとつである。基礎医学、臨床研究が眼科学の発展にどのように関わっているかを学ぶ。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　日常点

講義では授業態度、授業に対する意欲を評価する。授業の理解度をチェックするため、適宜、講義時間内に小テストを実施する。

2　試験

系統講義終了後の定期試験において、筆記試験（マークシート方式、記述式）及び口頭試問（グループ面接方式）を実施する。試験範囲は系統講義の内容および眼科全般とする。卒業試験の試験範囲は眼科全般とする。追再試験は記述式の筆記試験（場合によりマークシート方式）とする。

3　総合成績評価

試験の点数と日常点を合計し、総合的に評価して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

各教員へのコンタクトはまず医局秘書に連絡してください。

教育部門担当者

稗田牧（講師）：ohieda@koto.kpu-m.ac.jp

鎌田さや花（助教）：snakamur@koto.kpu-m.ac.jp

連絡先　眼科医局　075-251-5578　内線5578

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　眼科学　第3版（大鹿　哲郎ほか　編集、文光堂、77,000円）
2　標準眼科学（木下　茂 監修中澤　満、村上　晶　編集、医学書院、7,560円）
3　講義録眼・視覚学（山本　修一、大鹿哲郎編集、メジカルビュー社、7,344円）
4　今日の眼疾患治療指針　第３版（大路　正人、後藤　浩、山田　昌和、野田　徹　編集、　医学書院、24,000円）

その他、学生用推薦図書として、図書館の蔵書に以下の図書を置いていますので、ぜひ活用してください。

●現代の眼科学 改訂第13版（所敬、吉田晃敏　編集、金原出版）
●眼科診察クローズアップ（山田昌和　編集、メジカルビュー社）
●眼科診療の基本　細隙灯顕微鏡スキルアップ（外園千恵、辻川明孝　編集、メジカルビュー社）
●カラーアトラス眼底図譜　第7版（湯澤美都子、川村昭之、森隆三郎　編集、日本医事新報社）
●眼科救急治療　まったなし！急がば学べ（新篇眼科プラクティス5）（恩田秀寿、大鹿哲郎　編集、文光堂）
●眼科薬物療法リファレンス（新篇眼科プラクティス4）（大鹿哲郎、園田康平、近藤峰生、稲谷大　編集、文光堂）
●網膜診療クローズアップ改訂第2版（柳　靖雄　編集、メジカルビュー社）
●蛍光眼底造影ケーススタディ　エキスパートはFA・IA・OCTAをこう読み解く（飯田知弘　編集、医学書院）

●眼科外来処置・小手術クローズアップ（江口秀一郎　編集、メジカルビュー社）
●角膜疾患 外来でこう診てこう治せ　改訂第2版（木下茂　編集、メジカルビュー社）
●眼瞼・結膜腫瘍アトラス（後藤浩　編集、医学書院）
●眼科レジデントのためのベーシック手術（谷戸正樹　編集、日本医事新報社）

Ⅲ　授業日程

眼科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月10日(木)	3	臓器移植、角膜移植とアイバンク	〃	外　園　教　授
10月16日(水)	1	小児眼科、眼位・眼球運動と両眼視、色覚異常	〃	鎌　田　助　教
10月16日(水)	4	黄斑疾患、網膜変性疾患	〃	田　中　助　教
10月23日(水)	4	眼科救急疾患および全身疾患と眼	〃	福　澤　先　生 田　中　助　教
10月24日(木)	4	網膜・ぶどう膜疾患	〃	沼　病　院　助　教 田　中　助　教
11月6日(水)	1	眼付属器・眼窩の疾患	〃	渡　辺　講　師
11月20日(水)	1	白内障、屈折異常・屈折矯正手術	〃	稗　田　講　師
11月20日(水)	4	基本的眼科検査	〃	三　重　野　助　教
11月22日(金)	3	緑内障、視神経疾患	〃	上　野　准　教　授
11月26日(火)	2	眼感染症	〃	福　岡　助　教

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月22日(火)	1	眼瞼悪性腫瘍の疫学と遺伝子異常(プラカン形式)	眼科	渡　辺　講　師
10月22日(火)	2	症状から見た眼科疾患	〃	稗　田　講　師

皮　膚　科　学

教　員　名			
教　　授(併任、医療フロンティア展開学)	加藤　則人	助　　教	在田　貴裕
准　教　授	益田　浩司		中江　　真
講　　師	浅井　　純		井岡奈津江
〃	峠岡　理沙	客員講師	永田　　誠
講師(学内・併任)	荒川　幸保		
助　　教	丸山　彩乃		

Ⅰ　教育の目的と方針

皮膚科学では解剖学･生理学・病理学・分子医科学など、基礎医学で修得した知識を皮膚の場に導入し、皮膚の病変の臨床像と病態を把握させる。さらに全身との関係を皮膚表現像(Dermadrome)として理解し、また、これらに対する治療の大綱について理論と実際を会得させる。

皮膚科学は形態学的観察を基として出発した臨床医学であるが、医学の進歩に伴って、免疫学・分子生物学などの新しい研究方法の導入により、皮膚の細胞レベル・分子レベルにおける形態と機能の有機的な統合が結晶しつつある。かつ､皮膚はひとつの重要な器官として、他科領域に対する関連においても興味ある位置を占め、さらに皮膚病変とその経過は直接肉眼で観察でき、また、試験切除による皮膚病理組織学が確立されている。したがって、皮膚科学は医学的思考と臨床像把握の手段として適切な学問である。

また、皮膚疾患においては細菌・真菌・ウイルス感染、アレルギー・免疫、腫瘍などの特殊な分野がある。さらに、皮膚科領域における形成外科的な考え方、またそれによる治療も導入されている。臨床医としての修練のためにも皮膚科学の理解と研鑽が望まれる。

1　皮膚科学総論

皮膚科学の理解に必要な、皮膚の形態と機能、発疹学、病理学、治療学について、歴史的背景をふまえつつ、最新の情報を概説する。

2　皮膚科学各論

（1）炎症性皮膚疾患

日常の診療で遭遇する頻度が高い、湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、紅斑症、薬剤アレルギー、水疱症、炎症性角化症、血管炎、膠原病などの炎症性皮膚疾患の病態と治療法について、臨床医として必要となる知識の習得を目標として、概説する。

（2）皮膚感染症

細菌、真菌、ウイルスなどによる皮膚感染症、性感染症について、豊富な臨床経験を有する学内外の教員による講義を行う。

（3）母斑性・腫瘍性皮膚疾患

皮膚の母斑・母斑症について、頻度の高いものを中心に概説する。また、患者数の増加がみられる腫瘍性皮膚疾患の診断と治療について、概説する。

（4）物理的障害による皮膚疾患

熱傷、褥瘡等の皮膚障害について、実際の臨床をふまえて、必要な知識の習得を目標として講義を行う。

3　総合講義

すべての臨床医に必要な皮膚科学の知識の習得を目標として、これまでの系統講義での知

識を有機的に統合した臨床演習を行う。

Ⅱ　到達目標

1　皮膚の構造と機能を理解する

皮膚には、表皮、真皮、脂肪組織のほか、毛包、脂腺、汗腺などの付属器があり、それぞれの器官には、特有の機能を有するいくつもの細胞が存在している。また、体表を覆う皮膚には、バリア機能、感覚器としての機能、体温調節機能など、多くの機能がある。

皮膚の構造と機能を理解することは、皮膚科学の理解のために最も重要であるため、総論及び各論において、繰り返し習得することを目標とする。

2　皮膚疾患の検査法と治療法を理解する

皮膚疾患の診断のための検査法、皮膚を介した反応を観察する全身性疾患の検査法の意義、実施法、結果の解釈等を理解する。皮膚疾患の治療のための外用療法のほか、理学療法の理論と実際について理解する。また、皮膚外科の理論と実際について理解する。

3　皮膚疾患を理解する

皮膚疾患には、炎症性疾患、代謝性疾患、遺伝性疾患、腫瘍性疾患、付属器疾患など非常に多岐におよぶ疾患がある。これらの疾患の概要を理解でき、皮疹を主とする症状と検査所見から、診断と治療のプロセスを提示できるようになることを目標とする。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

系統講義終了時に行う定期試験を評価対象とする。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・益田浩司准教授	水曜日　14:30-16:30	massan@koto.kpu-m.ac.jp

・その他連絡先　　皮膚科学秘書　内線 5586, e-mail：hisho@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　あたらしい皮膚科学（第 3 版）（清水宏著　中山書店、7,800 円）

2　標準皮膚科学（第 11 版）（岩月啓氏監修、医学書院、8,800 円）

Ⅲ　授業日程

皮膚科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月7日（月）	1	皮膚の形態と機能	皮　膚	加藤教授（併任）
10月8日（火）	1	皮膚科診断学・皮膚病理学	〃	益 田 准 教 授
10月15日（火）	1	皮膚疾患の外用療法、湿疹・皮膚炎	〃	峠 岡 講 師
10月21日（月）	1	皮膚細菌・真菌感染症	〃	峠 岡 講 師
10月22日（火）	1	水疱症、炎症性角化症、皮膚付属器疾患	〃	益 田 准 教 授
11月5日（火）	2	蕁麻疹、紅斑症、薬剤アレルギー	〃	荒川講師（学内・併任）
11月11日（月）	1	皮膚の血流障害、膠原病	〃	浅 井 講 師
11月14日（木）	3	熱傷・褥瘡・創傷治癒	〃	永 田 客 員 講 師
11月18日（月）	1	ウイルス性皮膚疾患、性感染症	〃	荒川講師（学内・併任）
11月25日（月）	1	母斑、母斑症、皮膚腫瘍	〃	浅 井 講 師

皮膚科学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月7日（月）	1	皮膚疾患の治療（１）（プラカン形式）	皮　膚	中 江 助 教
10月8日（火）	4	皮膚疾患の治療（２）（プラカン形式）	〃	丸 山 助 教

泌尿器科学

教　員　名

教　　授	浮村　　理	客員教授	小島　宗門
准　教　授	本郷　文弥		今田　直樹
	奥見　雅由	〃	沖原　宏治
		〃	三神　一哉
		〃	邵　　仁哲
講　　師	内藤　泰行	〃	納谷　佳男
〃	岩田（藤原）敦子	〃	中村　晃和
講師(学内)	白石　　匠	客員講師	岩田　　健
〃	上田　　崇	〃	牛嶋　　壮
〃	宮下　雅亜	〃	金沢　元洪
助　　教	井上　裕太	〃	兼光　紀幸
〃	安食　淳	〃	小山　正樹
〃	齋藤友充子	〃	佐藤　　暢
		〃	鈴木　　啓
		〃	松原　弘樹
		〃	山田　恭弘
		〃	田原　秀一
		〃	山田　剛司
		〃	清水　輝記
		〃	大石　正勝
		〃	粥川　成優
		〃	金子　正大

Ⅰ　教育の目的と方針

泌尿器科学とは尿路（腎、腎盂、尿管、膀胱、尿道）、男性生殖器（精巣、精巣上体、精管、前立腺、精嚢、陰茎）、副腎および副甲状腺などの内分泌疾患、後腹膜疾患などを対象として、内科的かつ外科的に診断および治療を行う臨床医学である。対象は性別に関係なく新生児より高齢者までの全年齢層であり、特に高齢化により対象患者の数が急激に増加している。

泌尿器科領域においても各分野の専門化が進み、泌尿器科腫瘍学、小児泌尿器科学、女性泌尿器科学、老人泌尿器科学、排尿障害、尿路結石症、エンドウロロジー（泌尿器内視鏡治療学）、尿路感染症、男性不妊、性機能障害、腎不全、腎移植など、非常に広い範囲の分野を各分野のスペシャリストが最新の情報を含めて講義により解説するとともに、その実際を実習によって体得し、泌尿器科学全体を習得することを目標とする。

Ⅱ　到達目標

1　泌尿器科疾患を理解する

対象臓器の疾患に対する疫学、病態生理、診断法、適切な治療の選択等を理解する。

2　泌尿器科外科的治療を理解する

対象臓器の疾患に対する外科的治療の適応や術式、術前・術後管理などを理解する。

3　泌尿器科内科的治療を理解する

対象臓器の疾患の内科的治療の適応や治療法などを理解する。

Ⅲ 授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

定期試験、卒業試験、追再試験は原則として筆記形式で行う。

2　総合成績評価

試験の点数と日常点数の合計を総合的に評価し、合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
浮村　理　教授	火曜日 13:00-14:00	ukimura@koto.kpu-m.ac.jp
本郷　文弥　准教授	火曜日 13:00-16:00	fhongo@koto.kpu-m.ac.jp
奥見　雅由　准教授	火曜日 13:00-16:00	okumi@koto.kpu-m.ac.jp
内藤　秦行　講師	火曜日 13:00-16:00	naitoh@koto.kpu-m.ac.jp
藤原（岩田）敦子　講師	火曜日 13:00-16:00	fujihara@koto.kpu-m.ac.jp
白石　匠　学内講師	火曜日 13:00-16:00	takumi14@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先　　泌尿器科学教室　内線 5595、 e-mail：uro@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　TEXT 泌尿器科学（南山堂、7,140 円）

2　ベッドサイド泌尿器科学（南江堂、47,250 円）

Ⅲ　授業日程

泌尿器科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月9日(水)	3	泌尿器科化学療法	泌尿器科	上田講師(学内)
10月11日(金)	3	精巣腫瘍（精巣腫瘍患者会の方との対話機会含む）	〃	中村客員教授
10月16日(水)	3	泌尿器科概論	〃	浮村　教授
10月17日(木)	3	腎移植・腎不全	〃	奥見准教授
10月18日(金)	4	小児泌尿器科	〃	内藤講師
10月23日(水)	2	腎癌	〃	本郷准教授
11月6日(水)	3	尿路上皮癌	〃	井上助教
11月13日(水)	3	尿路結石	〃	安食助教
11月13日(水)	4	排尿障害	〃	藤原講師
11月27日(水)	2	前立腺癌	〃	白石講師(学内)

泌尿器科学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月8日(火)	1	アンドロロジー	泌尿器科	邵　客員教授
10月21日(月)	1	尿路感染症・性感染症・救急疾患	〃	小島客員教授

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

教員名		教員名	
教授	平野　滋	助教	岡本　翔太
講師	瀧　正勝	客員教授	栢野　香里
講師（学内）	永尾　光	客員講師	内田　真哉
講師（学内）	辻川　敬裕	客員講師	濱　雄光
講師（学内）	中村　高志	客員講師	森　大地
講師（学内）	椋代　茂之		
助教	布施　慎也		
助教	佐分利　純代		

Ⅰ　教育の目的と方針

頭頸部は骨、筋、神経系や脈管系の解剖が複雑で、感覚器、消化器、呼吸器、外分泌および内分泌器官が隣接して存在する、極めて重要な領域である。脳神経と密接に関連し、聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚といった感覚機能や、構音・発声・咀嚼・嚥下・顔面運動などの運動機能において重要な機能を担っている。

実際の耳鼻咽喉科臨床で遭遇する病態は、これらの機能障害のみならず、感染症やアレルギー、腫瘍、外傷、先天異常など非常に多彩である。また対象疾患が男性、女性とも全年齢層に及び、外科的治療・内科的治療の両方を習熟する必要があり、広い知識と経験に基づいた専門性を要求される分野である。さらに生命維持に必要な呼吸・摂食機能、生活する上で必要な聴覚および音声言語機能というコミュニケーションに関する機能、出血・外傷・異物・めまい・神経麻痺といった救急医学やプライマリケアの内容、多くの境界領域と関連する重要な内容を含んでいる。

実際の教育については、限られた時間を有効に利用し、臨床解剖と生理機能、病態と治療を学び取ることができるように、系統講義、臨床講義、臨床実習を有機的に組み合わせている。疾患や症状を中心にテーマを決めた講義とし、その中で随時、解剖学や生理学、病理学の復習を平行して行い理解を深めることができるよう計画している。学習効果を高めるためには、予習復習や質疑など学生の積極的な参加が望まれる。

Ⅱ　到達目標

1　耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患を理解する

耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患は大別して耳疾患、鼻副鼻腔疾患、口腔咽頭疾患、喉頭疾患、頭頸部疾患に分類することができる。

（1）それぞれの領域における代表的な疾患について実習中に経験し、理解を深める。

（2）耳鼻咽喉科救急疾患に関する理解を深める。

（3）頭頸部局所解剖の知識を深める。

2　理学所見、検査法、検査結果を理解する

（1）耳鏡による鼓膜所見と、内視鏡による鼻腔、咽頭腔、喉頭所見の理解を深める。

（2）各種聴覚検査に関し知識を深める。

（3）各種平衡機能検査に関し知識を深める。

（4）音声・嚥下機能検査に関し知識を深める。

（5）頸部超音波検査の理解を深める。

3　治療法を理解する

（1）各種検査結果に基づいた治療計画の立案に関し理解を深める。

（2）手術治療に関する理解を深める。

Ⅲ　授業日程

表のとおり

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義終了時に定期試験を行う。試験の形式はマークシート方式による筆記試験とする。追再試験の形式は基本的に同様である。

2　総合成績評価

試験の点数と日常点数の合計を総合的に勘案し，合否の判定を行う。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・平野　滋　　教授	金曜日　14：00～17：00	hirano@koto.kpu-m.ac.jp
・岡本　翔太　助教	水曜日　14：00～17：00	okmt721@koto.kpu-m.ac.jp

・その他連絡先　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学秘書(内線 5603) e-mail: jibisec@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

コア・ローテイション　耳鼻咽喉科・頭頸部外科（竹中　洋、高橋　姿、久　育男編　金芳堂　￥3,200）

NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（喜多村　健、森山　寛編　南江堂 ￥6,300）

新耳鼻咽喉科学（切替一郎原著、野村恭也編　南山堂　￥16,000）

Ⅲ　授業日程

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月9日(水)	1	発声の仕組みとその障害（喉頭の解剖と機能、音声障害の診断、喉頭の炎症、声帯ポリープ）	耳鼻咽喉科	平　野　教　授
10月9日(水)	4	慢性副鼻腔炎（慢性副鼻腔炎の病態、保存・手術的治療、アスピリン喘息）	〃	岡　本　助　教
10月11日(金)	2	外耳・中耳疾患の診断と治療	〃	内田客員講師
10月18日(金)	2	聴覚基礎と聴覚検査（聴覚器の解剖と機能，聴覚検査）	〃	中村講師(学内)
10月24日(木)	1	鼻アレルギー（鼻アレルギーの疫学・発生機序・診断と治療）	〃	濱客員講師
11月5日(火)	1	口腔・咽頭・頸部疾患（解剖と生理、炎症性疾患・腫瘍の診断と治療）	〃	辻川講師(学内)
11月8日(金)	2	耳下腺・甲状腺腫瘍の診断と治療	〃	森客員講師
11月14日(木)	1	口腔咽頭悪性腫瘍の診断と治療	〃	栢野客員講師
11月15日(金)	2	声帯麻痺(反回神経の走行、声帯麻痺の病態・原因、診断法、外科的治療)、嚥下障害の診断と治療	〃	椋代講師(学内)
11月26日(火)	1	内耳疾患（感音難聴・めまい）の診断と治療	〃	瀧　講　師

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月7日(月)	2	頭頸部腫瘍の診断と治療（プラカン形式）	耳鼻咽喉科	永尾講師（学内）
10月16日(水)	3	喉頭疾患の診断と治療（プラカン形式）	〃	布　施　助　教

精 神 医 学

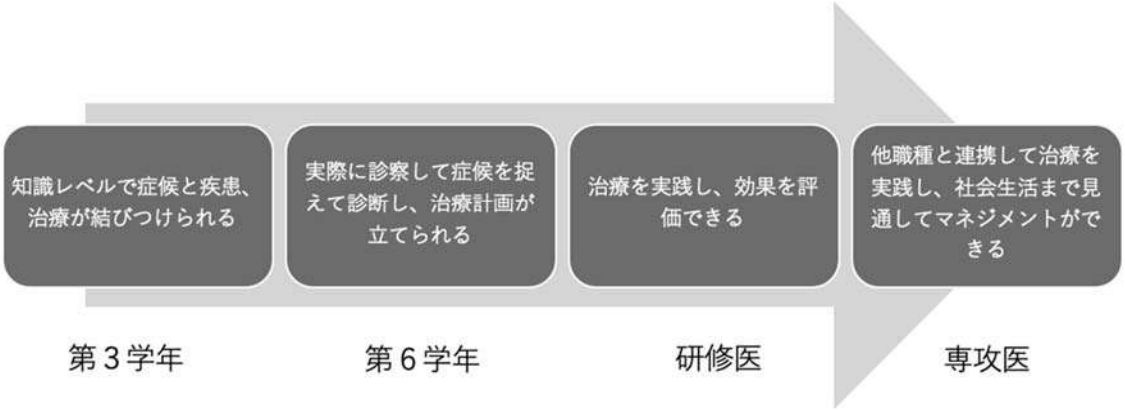
教 員 名			
教　　授	成本　　迅	客員教授	保坂　　隆
准 教 授	富永　敏行	〃	三村　　將
講　　師	中前　　貴	客員講師	西村伊三男
〃	綾仁　信貴	〃	崔　　炯仁
講師（併任）	吉井　崇喜	〃	北林百合之介
〃	柴田　敬祐	〃	正木　大貴
講師（学内）	飯田　直子	〃	松岡　照之
講師（学内併任）	中村佳永子		
助　　教	中嶋　義幸		
〃	渡辺　杏里		
〃	桑原　明子		
〃	大矢　　希		
〃	加藤　佑佳		
助教（併任）	小野　淳子		
〃	松本　佳大		

Ⅰ　教育の目的と方針

厚生労働省が実施した2008年の患者調査によると、本邦における精神疾患の患者数は約323万人であり、4大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）で最も患者数が多い糖尿病（約237万人）を大きく上回り、がん（約152万人）の2倍以上になる。また、年間3万人に上る自殺者（1998～2011年）の多くが何らかの精神疾患に罹患していた可能性が推定されており、2013年の医療計画では、従来の4疾病に精神疾患を加えた「5疾病」として位置づけられた。こうした精神科医療の重要性を鑑み、2020年度からの臨床研修では精神科の研修が必修化され、精神疾患について症状の評価や的確な診断、治療が行える能力を身に付けることが求められている。

本学のディプロマポリシー（学位授与方針）においても、患者の心の状態に配慮しながら適切な態度で診療できる能力の獲得がひとつの要件として掲げられており、次頁のロードマップに示したように、第3学年では、系統講義（10回）を通じて、知識レベルで精神症状と疾患、治療を結び付けられるようになることを目的とする。また、第4学年では、各分野におけるトップランナーである客員教授の臨床演習（2回）を通じて、精神医学を探求する意義、喜びを学び、リサーチマインドを身につけることを目的とする。

ロードマップ：各段階で習得すべき内容



Ⅱ　到達目標

1. 精神医学の重要性について、具体的に３つ以上説明することができる。
2. 精神症状を医学用語を用いて説明することができる。
3. 代表的な精神疾患の病因、症状、検査、診断、治療を説明することができる。
4. 代表的な精神症状から、鑑別すべき疾患を列挙し、鑑別する方法を説明できる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

１　出席・レポート

講義と臨床演習では出席の確認を行う。

下記のリンクまたは右の QR コードから Google Form にアクセスし、レポートを提出すること。

提出期限 2024 年 6 月 30 日

https://forms.gle/jctqcHMkbzdUxV6YA

２　試験

定期試験は筆記形式で行う。

３　合否基準

定期試験とレポートで評価し合否を判定する。

配分は定期試験９割、レポート１割とする。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー		メールアドレス
成本　迅　教授	水曜日	14:00～15:00	jnaru@koto.kpu-m.ac.jp
富永敏行　准教授	木曜日	15:00～17:00	totomi@koto.kpu-m.ac.jp
中前　貴　講師	金曜日	15:00～16:30	nakamae@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

教科書	カリキュラム主任からのコメント
標準精神医学 第9版 尾崎紀夫（編集） 医学書院（6,800円＋税）	1986年初版の精神医学の代表的な教科書。2024年1月に第9版が出版され、最新の診断基準（DSM-5）にも対応している。全604ページとかなりの分量があるが、これ一冊で初期臨床研修にも対応できる内容となっている。
精神科（Simple Step SERIES） 高橋茂樹（著） 海馬書房（4,500円＋税）	STEP 精神科が2018年8月に改訂されたもの。一人の医師が一冊を通して執筆しており、文体が優しく読みやすいのが利点だが、標準精神医学に比べると内容は簡素。
精神神経疾患ビジュアルブック 落合慈之（監修） 学研（3,600円＋税）	2015年9月初版。タイトルの通り全ページカラーでイラストがふんだんに使われており、文章だけではイメージしにくい精神症状を理解しやすい。国家試験に必ず出てくる精神保健福祉法については記載がないので、別に勉強する必要がある。
行動分析学入門 – ヒトの行動の思いがけない理由 杉山尚子 集英社新書（780円＋税）	行動分析学についての一般向けの書籍。精神医学の教科書ではカバーしていない、行動随伴性や強化などについてわかりやすく解説されている。
心理学・入門 心理学はこんなに面白い サトウタツヤ・渡邊芳之（著） 有斐閣アルマ（1,900円＋税）	臨床心理学、性格と個人差の心理学、社会的行動の心理学、発達心理学、心理学的アセスメントなどについてわかりやすい文体で説明してあり、興味も持ちやすい内容となっている。医療心理学の講義に合わせて読んでもらいたい。

Ⅲ　授業日程

精神医学

第３学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月8日(月)	2	精神医学総論	精神	成 本 教 授
4月15日(月)	2	精神医学各論1：コンサルテーション・リエゾン精神医学	〃	綾 仁 講 師
4月18日(木)	1	精神医学各論2：気分障害	〃	西 村 客 員 講 師
4月22日(月)	2	精神医学各論3：統合失調症	〃	北 林 客 員 講 師
5月13日(月)	2	行動分析学総論 精神医学各論4：強迫症	〃	中 前 講 師
5月20日(月)	2	精神医学総論（ストレス） 精神医学各論5：神経症性障害	〃	富 永 准 教 授
5月27日(月)	2	精神医学各論6：器質性精神障害・認知症	〃	松 岡 客 員 講 師
6月3日(月)	2	精神医学各論7：物質関連障害 精神医学各論8：摂食障害・心身症	〃	崔 客 員 講 師
6月10日(月)	2	医療心理学総論	〃	正 木 客 員 講 師
6月17日(月)	2	精神医学各論9：児童思春期精神医学 精神医学各論10：パーソナリティ障害	〃	飯 田 学 内 講 師

精神医学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月7日(月)	3	Meet the expert 1: サイコオンコロジー	精神	保 坂 客 員 教 授
10月21日(月)	4	Meet the expert 2: 見えないものを見る	〃	三 村 客 員 教 授

放射線医学

教員名

教授	山田　　惠	助教	長澤　慎介	客員講師	坂崎　富夫
教授（特任）	山崎　秀哉	〃	河上　享平	〃	藤田　正人
〃	早川　克己	〃	西本　雅和	〃	大野　浩司
准教授	鈴木　　弦	〃	吉野　祐樹	〃	高橋　健
准教授(特任)	酒井　晃二	〃	梶川　智博	〃	石原　　潔
〃	後藤　眞理子	助教(任期付)	会田　和泰	〃	勝盛　哲也
講師	佐藤　修	〃	秋山　新平	〃	山川　稔隆
〃	赤澤　健太郎	〃	岡本　敏幸	〃	中村　聡明
〃	渡邉　啓太	〃	正井　範尚	〃	田中　　治
講師(学内)	廣田　達哉	助教(特任)	佐波　理恵	〃	清水　大介
助教	武中　　正	客員教授	Denis Le Bihan	〃	山田　香織
〃	高畑　暁子	〃	Meike W Vernooij	〃	三浦　寛司
〃	尾方　俊至	〃	紀ノ定保臣	〃	田添　　潤
〃	喜馬　真希	〃	森　　進	〃	西村　元喜
〃	小谷　知也	〃	大西　　洋	〃	浅井　俊輔
〃	相部　則博	〃	成瀬　昭二	〃	林　奈津子
〃	増井　浩二	〃	Ali Guermazi	〃	山田　幸美
〃	安池　政志	〃	山上　卓士	〃	水田　正芳
〃	吉川　達也	〃	小泉　雅彦	〃	西村　　岳
〃	木元　拓也	〃	Pek Lan Khong	〃	山端　康之
〃	金山　大成	〃	Noriko Salamon	〃	辻　　悠佑
〃	川畑　加奈子	〃	Seung-Koo Lee	〃	前原　陽介
〃	中井　義知	〃	玉木　長良	〃	太田　義明
〃	小原　雄	〃	結縁　幸子	〃	中村　泰典

Ⅰ　教育の目的と方針

放射線医学は画像診断学と放射線腫瘍学から成り立っている。臨床医学における放射線医学の役割を明らかにし、放射線医学の基本と実際を教育する。進歩の著しい画像診断においては、正確な読影力を身につけるのみでなく、各種医用画像情報を総合的に解釈できる能力を養うことを目標とする。また、患者と接する姿勢および患者のQOLを考慮した治療の在り方（低侵襲的治療・疾痛緩和）を教育する。

Ⅱ　到達目標

1　全般

（1）放射線物理学、生物学の基礎知識を習得する。

（２）放射線被曝防護に関する基本的知識を理解する。

２　画像診断

（１）単純Ｘ線、CT、MRI、核医学（PET/SPECT）の基本原理を理解する。

（２）画像診断における正常解剖、アーチファクト、造影剤の禁忌などを理解する。

（３）頻度の多い疾病の画像所見について、各種画像診断の適応を理解し、検査目的を個々の症例について明確に説明できる。

３　IVR（Interventional Radiology）

（１）IVRの基本原理を理解する。

（２）IVRの適応と限界を理解する。

（３）IVRの一連の手技を理解する。

４　放射線治療

（１）放射線治療の基本原理を理解する。

（２）放射線治療の適応と限界（有害事象）を理解する。

（３）放射線治療に必要な基礎知識（腫瘍の臨床病期他）と治療の手技を理解する。

５　核医学

（１）核医学検査および核医学治療（内用療法）の基本原理を理解する。

（２）核医学検査およびPET検査の特徴、その適用と限界を理解する。

（３）核医学治療（内用療法）の特徴、その適用と限界を理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

１　日常点

講義と臨床実習における小テスト、レポートを日常点とする。

２　試験

講義後の定期試験（記述方式）を行なう。卒業試験はマークシート方式。追再試は記述方式ないし口頭試問。

３　総合成績評価

日常点と試験の点数を総合的に勘案して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

山崎　教授(特任) メールアドレス:yamahi@koto.kpu-m.ac.jp

【その他連絡先】放射線医学教室秘書（平日 9 時～17 時）

内線：5620／メールアドレス：radhisyo@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

ホームページに順次参考資料を掲載致します。

https://radiol.kpu-m.jp/training_guide/education/index.html

Ⅲ　授業日程

放射線医学

第３学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
4月9日(火)	2	放射線診断学総論	放射線	山　田　教　授
4月16日(火)	2	臨床AIの現在	〃	酒井准教授(特任)
4月23日(火)	2	胸部放射線医学(腫瘍・乳腺)	〃	後藤准教授(特任)
5月7日(火)	2	ＩＶＲ総論	〃	吉　川　助　教
5月14日(火)	2	脳神経放射線医学	〃	山　田　教　授
5月21日(火)	2	腹部放射線医学	〃	高　畑　助　教
5月30日(木)	1	ＩＶＲ各論	〃	廣田講師（学内）
6月4日(火)	2	放射線腫瘍学総論・放射線生物学	〃	山崎教授(特任)
6月11日(火)	2	放射線腫瘍学（各論1）	〃	鈴 木 准 教 授
6月18日(火)	2	放射線腫瘍学（各論2）	〃	長　澤　助　教
6月18日(火)	3	核医学	〃	玉 木 客 員 教 授

放射線医学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担当者	
			所　属	講師名
10月9日(水)	2	画像診断の読影の仕方（講義形式）	放射線	山　田　教　授
10月18日(金)	2	放射線治療・核医学の実際（講義形式）	〃	山 崎 教 授 (特 任) 玉 木 客 員 教 授

麻　酔　科　学

教　員　名

兼任教授	天谷　文昌	准教授（北部医療）	村上　剛
准教授	小尾口邦彦	講師（北部医療）	吉岡　真実
	上野　博司		
講　師	石井　祥代		
〃	内藤　慶史		
講師（学内）	飯田　淳	客員講師	中川　博美
助　教	井上　美帆	〃	平田　学
〃	木下　真央	〃	阪口　雅洋
〃	山北　俊介	〃	細川　康二
〃	山田　知見	〃	秋山　浩一
〃	堀井　靖彦	〃	加藤　秀哉
〃	Pipat	〃	法里　慧
	Saeyup	〃	河合　直史
〃	井上　敬太		
〃	恒石　鉄兵		
〃	須藤　和樹		
〃	吉井　龍吾		
〃	矢持　祥子		
〃	北口　菖子		

I　教育の目的と方針

麻酔科学は、生理学および生化学、薬理学をその基礎に置いた臨床生理学および臨床薬理学が結合した応用医学であるとともに、高度の技術を必要とする臨床医学でもある。麻酔科医の現代医療の中における役割と歴史を知り、次いで麻酔薬、麻酔・術前の管理、麻酔に関係の深い呼吸・循環生理、痛みのメカニズム等について学習し、それぞれの患者の病態生理をよく理解した上で最適な麻酔や管理・治療ができるようになることを目的とする。

講義においてはその基礎理論と、麻酔薬・麻酔法等に関する各論を学習する。また臨床面では外科系を始めとして内科、小児科など医学のあらゆる分野において必須となるショックの病態生理とその治療法から、酸素療法、人工呼吸療法、輸血と輸液、疼痛治療に至るまでその理論、実技について学習する。さらに臨床に即した各種麻酔法や集中治療室（ＩＣＵ）での重症患者の集中治療管理のシステムとその実際について、また周術期の疼痛管理など疼痛治療の基本と神経ブロックを始めとした各手技について理解を深める。

Ⅱ　到達目標

1　麻酔科学の基礎をなす生理学、薬理学、解剖学を理解する

麻酔科学を理解するには、まず基礎医学である生理学、生化学、薬理学、解剖学を理解する必要がある。特に麻酔科学と関連の深い領域として呼吸生理、循環生理、痛みの基礎医学を説明できるように理解する。さらに麻酔の作用機序に関して理論的背景を学習する。

2　麻酔科学各論

各麻酔法、特殊麻酔（産科麻酔、小児麻酔、心臓麻酔、緊急手術の麻酔等）、輸液と輸血の概論、人工呼吸管理、バイタルサインの意義を理解する。

さらに麻酔科領域で使用する特殊薬物として鎮静薬、麻薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬などの作用機序や特徴を理解する。末梢静脈路確保、胃管挿入などの手技を実施できるようになるため、解剖やその手技について理解する。集中治療医学に関しても診断、治療の詳細を学び理解する。

3　関連領域における話題

脳蘇生、経食道心エコーを駆使した心臓麻酔法、新しい麻酔薬などの関連領域に関しても学習し、常に新しい知識を吸収すべく学習する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義終了後に定期試験を行う。定期試験に関しては合計50点とし、下記にある各系統講義後に行う小テストと合わせて100点とする。

卒業試験、追再試験は100点とする。

なお、定期試験、卒業試験、追再試験ともに筆記試験とする。

2　日常点

各系統講義後に小テストを行う（各テスト5点、合計50点）。

3　総合評価

上記の試験・日常点の合計で評価を行う。

Ⅴ　オフィスアワー

月曜日　天谷兼任教授、内藤講師

木曜日　上野准教授、石井講師

連絡先　麻酔科学教室（内線5633）

石井講師（sachi94@koto.kpu-m.ac.jp）

Ⅵ　教科書、参考書

特になし

Ⅲ　授業日程

麻酔科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月7日(月)	2	麻酔科学とは	麻酔科学	天谷兼任教授
10月10日(木)	4	集中治療医学総論	〃	小尾口准教授
10月17日(木)	4	集中治療医学各論	〃	細川客員講師
10月21日(月)	2	術前評価と麻酔法の選択	〃	石　井　講　師
10月23日(水)	1	臨床麻酔とモニタリング	〃	阪口客員講師
11月7日(木)	4	循環管理（心臓血管手術の麻酔を含む）	〃	秋山客員講師
11月11日(月)	2	呼吸管理（胸部外科手術の麻酔を含む）	〃	法里客員講師
11月14日(木)	4	緊急手術の麻酔	〃	平田客員講師
11月18日(月)	2	特殊領域の麻酔（小児の麻酔、帝王切開術の麻酔、脳神経外科手術の麻酔）	〃	飯田学内講師
11月21日(木)	4	局所麻酔薬と神経ブロック（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、末梢神経ブロック）	〃	上野准教授

麻酔科学

第４学年後期　　（臨床演習）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月15日(火)	1	麻酔の実践（講義形式）	麻酔科学	内　藤　講　師
10月16日(水)	1	集中治療の実践（講義形式）	〃	加藤客員講師

疼痛・緩和医療学

教　員　名

教　　授	天谷　文昌
講　　師	小川　覚
助　　教	早瀬　一馬

Ⅰ　教育の目的と方針

疼痛・緩和医療学とは、疼痛をはじめとした苦痛の除去を目的として行う医療である。ターミナルケアに加え、アドバンスド・ケア・プランニングや支持療法など、がんと診断された時から行う早期緩和ケアを診療の柱としている。疼痛治療学ではがん性疼痛や非がん性慢性疼痛を対象に、薬物療法をはじめとした多面的なアプローチで治療を行い、患者の生活の質改善を目指している。当教室では、すべての医師が身につけておくべき、緩和医療の基本的な考え方と疼痛を主体とした苦痛の病態学および具体的な治療法を講義する。

Ⅱ　到達目標

1　がん診療におけるターミナルケアと早期緩和医療の重要性について理解する。
　わが国におけるターミナルケアの実態、早期緩和医療がもたらす医学的効果について理解する。がん治療にともなう身体的苦痛に対する支持療法の重要性について理解する。

2　疼痛の診断と病理学的背景について理解する
　慢性痛と急性痛について理解する。痛みの種類、程度、原因などを理解し、評価法を学ぶ。

3　疼痛とその他の身体的苦痛に対する治療を理解する
　オピオイドをはじめとする鎮痛薬や神経ブロック、放射線治療、理学療法などによる疼痛管理を中心に、呼吸困難、嘔気など多様な症状への対応について理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義終了時に「麻酔科学」と併せて定期試験を行う。講義の際に行う小テストなど日常点を加味し、成績を評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

・教員に連絡をとる場合、メールまたは電話（下記連絡先）にて要件を伝え、アポイントを取ること。

連絡先：天谷教授　ama@koto.kpu-m.ac.jp
　　小川講師　s-ogawa@koto.kpu-m.ac.jp
　　疼痛・緩和医療学教室秘書　内線 5177

Ⅵ　教科書、参考書、参考文献

1. 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン」金原出版株式会社　2,600円

2. 「WHOガイドライン　成人・青年における薬物療法・放射線治療によるがん疼痛マネジメント」金原出版株式会社　2,640円
3. 「疼痛医学」　医学書院　6,600円
4. 「ペインクリニック診断・治療ガイド」　日本医事新報社　8,000円
5. トワイクロス先生の緩和ケア　医学書院　3,740円
6. 慢性痛のサイエンス　医学書院　3,740円

Ⅲ　授業日程

疼痛・緩和医療学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
11月19日(火)	2	緩和医療概論	疼痛・緩和医療学	天　谷　教　授
11月25日(月)	2	痛みの概論	〃	小　川　講　師
11月28日(木)	2	がん性疼痛、非がん性慢性疼痛の治療	麻酔科学	上 野 准 教 授

感染症学・臨床検査医学

教　員　名

感染制御・検査医学教室

教　　授	貫井　陽子
病院教授	稲葉　　亨
講　　師	山野　哲弘
講師(併任)	重見　博子
助　　教	古川恵太郎
助　　教	山本　千恵
助　　教	濱島　良介
特任教授	藤田　直久
客員講師	原田　壮平
〃	吉田　誠克
〃	小森　敏明
〃	中村　竜也

Ⅰ　教育の目的と方針

現在流行中の新型コロナウイルス感染症をはじめとして新興・再興感染症に対する関心が現在高まっている。また将来的にどの診療科を選択するとしても感染症の患者さんを診察する機会は多く、その理論・実践を学生時代に身に着けておくことは極めて重要である。「感染症学」では感染症診療・感染制御の系統的な考え方を学び、のちの臨床実習に役立てることを目的とする。

また、現代医学において患者の診断は問診や聴打診等の従来の診断技術に加えて多数の臨床検査の結果を総合的に判断して行われる。さらに患者の経過観察、治療効果の判定や予後の決定も、臨床検査によって得られた情報が基礎となる。臨床検査は多くの分野に分かれており、さらにそのそれぞれが極めて多岐にわたっている。その上、検査の方法論に至っては今日まさに日進月歩の状態といわねばならない。しかしながら医療の効率性、経済性が叫ばれる現状にあっては、最も効果的な検査の選択と解釈が常に意識されねばならない。このような背景に鑑みて「臨床検査医学」では診断と治療に必要欠くべからざる検査はどのように行うのか、その進め方の方針と方法論、またその検査によって得られた多くの生体情報をどのように判断するかという点について学習する。

Ⅱ　到達目標

1. 感染症患者の診断的アプローチを理解する
   発熱や感染症患者さんについて必要な問診、診察、検査項目についての考え方を理解する。
2. 病院内における感染制御の理論と実践を理解する
   医療者自身が感染しないこと、患者さんに感染を媒介しないことの重要性を理解する。

3. 臨床検査の目的・適応を理解する。

医師として医療の最前線に立つ時、「必要な検査を実施し、無駄な検査を避ける」ことは極めて重要である。その為には、今日の医療現場で実施されている様々な臨床検査の目的・適応を正しく理解することが必要である。

4. 基本的な臨床検査の測定原理・測定過程を理解する。

高度細分化した現代の医療現場においては、医師自身が直接臨床検査を実施することは稀であり、検体採取から結果報告までの過程がblack box化しているのが現状である。しかし、検査結果を正しく解釈する為にも、基本的な検査項目に関しては測定原理や測定過程を理解する必要がある。

5. 臨床検査の結果を正しく解釈する。

臨床検査を有用なツールとして診療に生かす為には、得られた検査結果が当該患者の病態を正しく反映しているかどうか常に検討しなければならない。この為には、個々の検査項目における検査特性（感度、特異度等）や検査過誤について理解する必要がある。

６．臨床検査の結果をもとに患者の病態を把握する。

臨床演習では、Reversed CPCを通じて異常値の組み合わせから障害臓器の推測、さらには身体全体の障害を把握出来る。

Ⅲ 授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

試験

系統講義の試験は記述形式の筆記試験を各領域から1-2題出題する。

一方、卒業試験はマークシート方式の筆記試験を実施する。

合否基準

定期試験(100点満点)は60点以上を合格とする。臨床演習はレポート提出で合格とする。

Ⅴ　オフィスアワー

各教員へのコンタクトは以下の教室代表メールに連絡のこと。

教室代表メールアドレス：rinken@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先　感染制御・検査医学　病院教授　稲葉　　亨

講　　師　山野　哲弘

Ⅵ　教科書、参考書等、参考文献

以下の書籍を代表的な参考書として提示する。

1　臨床検査法提要（金井泉原著、金原出版、14,000 円）

2　最新臨床検査のＡＢＣ　（日本医師会編、医学書院、5,775円）

3　基準値と異常値の間－その判定と対策－（河合忠編、中外医学社、13,650円）

4　レジデントのための感染症マニュアル第4版（青木眞著、医学書院、13,200円）

5　考える臨床検査―スクリーニング検査で異常値をみたら？（松尾収二編、文光堂、本体

5,000円）

6　図解心電図テキスト 原著第６版（Dale Dubin著、村川 裕二訳、文光堂、4,950円）

Ⅲ　授業日程

感染症学・臨床検査医学

第３学年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
4月10日(水)	1	病理診断学総論１	人体病理	小 西 病 院 教 授
4月16日(火)	1	病理診断学総論２（細胞診）	〃	長 峯 客 員 講 師
4月23日(火)	1	臨床検査総論	感染・検査	稲 葉 病 院 教 授
5月7日(火)	1	生理機能検査１（循環器）	〃	山　野　講　師
5月14日(火)	1	血液検査１（末梢血・骨髄）	〃	稲 葉 病 院 教 授
5月21日(火)	1	血液検査２（凝固・線溶）	〃	〃
5月28日(火)	1	生化学検査	〃	〃
6月4日(火)	1	感染症の考え方１	〃	貫　井　教　授
6月11日(火)	1	感染症の考え方２	〃	山　本　助　教
6月18日(火)	1	感染症の考え方２	〃	古　川　助　教
6月21日(金)	2	生理機能検査２（呼吸器）	〃	濱　島　助　教

感染症学・臨床検査医学

第４学年後期　　（ 臨床演習 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月18日(金)	3	Reversed CPC	感染・検査	稲 葉 病 院 教 授
10月23日(水)	3	病理組織診断と検体を用いた検査	人体病理	宮　川　講　師

人体病理学

（「感染症学・臨床検査医学」に含まれる）

教員名

病理学教室人体病理学部門

病院教授	小西　英一
准教授（兼）	井村　徹也
講師	宮川　　文
助教	森永友紀子
助教	田中　顕之
客員講師	大迫　智
客員講師	長峯　理子

Ⅰ　教育の目的と方針

今日の病理診断学は、診療科の一つ（病理診断科）として臨床医学の一端を担い、放射線診断学と並び称される中央診断部門となっている。病理診断は、特に悪性腫瘍の医療においては、治療のよりどころとなる最終診断となることが多く、今日の癌診療には欠くことが出来ない。

また、行われた医療の再評価、検証機会としての病理解剖は、今日でも医療のquality controlとして重要な意味を持つ。

系統講義では、一般の診療活動の中で病理診断が果たしている役割を学び、細胞診および組織診の特性や診断法について理解することを目標とする。

Ⅱ　到達目標

1　病理診断の目的・手法を理解する。

適切な標本採取法・診断法の選択で、患者に不必要な精神的・肉体的負担を与えず、正しい最終診断に行き着くよう理解を深める。

2　病理診断の過程を理解する。

検体の扱い方によって、得られる情報量が大きく異なることを理解し、適切に扱うことで、より良い診断に、より速く到達できることを理解する。また、病理診断の過程で用いられる様々な遺伝子検索を含む特殊染色の特性を理解し、必要時間や解釈等を学ぶ。

3　病理診断の意義。

病理診断を臨床医として受け取った場合の留意点やその意義について理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験（臨床検査医学と合同で行う）

系統講義終了後の定期試験は記述あるいは選択形式の筆記試験を実施する。卒業試験では、マークシート方式の筆記試験を実施する。

２　総合成績評価（臨床検査医学と合同で行う）
筆記試験の点数を総合的に勘案して合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

		オフィスアワー	内線
・教員	月曜から金曜日	9:00-17:00	5668（病院病理部）

各教員は毎週異なるスケジュールで活動している。
詳細は直接病院病理部・病理診断科に来訪するか秘書に電話で問い合わせを。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

「病理診断学」としての特定の教科書は指定しないが、代表的な参考書として以下を推薦する。
外科病理学（森永正二郎、深山正久編、文光堂、42,000 円+税）

個々の症例の情報文献検索は下記へ
・京都府立医科大学附属図書館　情報・文献検索　UpToDate
https://www.uptodate.com/contents/search
・京都府立医科大学附属図書館　情報・文献検索　DynaMed Plus
http://www.ebsco.co.jp/medical/dynamed/
・京都府立医科大学附属図書館　情報・文献検索　PubMed
https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed?otool=ijpkpumlib

救 急 医 療 学

教　員　名

教　　授	太田　　凡	
講　　師	山畑　佳篤	
学内講師	松山　匡	
助　　教	武部　弘太郎	
助　　教	渡邉　慎	（救急医療部）
助　　教	牧野　陽介	（救急医療部）
助　　教	中島　聡志	（救急医療部）
助　　教	大江　熙	（北部医療センター）

Ⅰ　教育の目的と方針

疾病や創傷は時間・場所を問わず発生する。人々が健康面で安心して生活を送るためには、場所、時間を問わず医療へのアクセスが等しく保証されていることが重要である。また救急診療においては、疾患ベースでのアプローチよりも病態の把握と症候からのアプローチが、より重要である。救急医療学では、重症度、対象年齢、病態を問わずに対応する救急診療について、その意義と基本的知識、求められる態度を学習する。

Ⅱ　到達目標

(1) 救急医療の特性と求められる対応を説明できる。
(2) 救急診療における緊急度について説明できる。
(3) 病院前救護体制について説明できる。
(4) 救急場面ごとのトリアージの概念を説明できる。
(5) 一次救命処置を実施できる。
(6) 二次救命処置を説明できる。
(7) ショックの定義と分類、代表的な疾患の診断と応急処置を説明できる。
(8) 救急病態に関する個別症候、特徴的な病態の基本的知識を説明できる。
(9) 災害医療の特性と求められる対応を説明できる。
(10) 集中治療の特性と求められる対応を説明できる。
(11) 呼吸心拍監視モニターの装着、意識レベルの評価、バイタルサインの測定が実施できる。
(12) 医療面接と身体診察を実施して医療情報を収集し、病態を評価し診療計画を立案することができる。
(13) 救急診療現場での患者・家族とのコミュニケーションの重要性を理解する。

Ⅲ　授業日程

・表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義では総括テストを行う。

2　合否基準

系統講義では総括テスト60%以上。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
・太田凡　教授	金曜日　15:00-17:00	b-ohta@koto.kpu-m.ac.jp
・山畑佳篤　講師	月曜日　15:00-17:00	yamahata@mud.biglobe.ne.jp

・その他連絡先　救急医療学教室秘書　内線 5393, e-mail：emerge@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　Emergency Medicine. A Comprehensive Study Guide.　第9版

Tintinalli JE et al. ed.　McGraw-Hill Professional. 2019年

最も標準的な救急医学のテキスト。合理的、客観的な新鮮な内容と、簡潔明瞭な記載が特徴。

2　救急診療指針 改訂第5版　日本救急医学会　監修　へるす出版 2018年

救急診療に最低限必要な診療上の知識、技術について、具体的かつ明快に解説。日本救急医学会救急科専門医試験のための公式参考書

3　研修医当直御法度　第6版　寺沢秀一ら　三輪書店 2016年

マニュアル的な構成だが、救急診療テキストとして必須の内容がおさめられており、陥りやすいピットフォールも明示されている。

4　JRC蘇生ガイドライン2020　日本蘇生協議会　編　医学書院　2021年

国際的な科学的コンセンサスに基づいた、我が国の心血管救急に関するガイドライン。背景になる科学的根拠が記載されている。具体的な行動マニュアルとしては、救急蘇生法の指針・医療従事者用2015（へるす出版　2016年）も同様に役に立つ。

Ⅲ　授業日程

救急医療学

第3学年後期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
11月12日(火)	3	救急医療学総論	救急医療学	太　田　教　授
11月12日(火)	4	小児救急	〃	安 客 員 講 師
11月13日(水)	1	ショックの病態：評価とマネージメント	〃	渡　邉　助　教
11月13日(水)	2	プレホスピタルケア／院内急変対応／心肺蘇生	〃	山　畑　講　師
11月19日(火)	3	熱傷・環境救急	〃	松　山　助　教
11月19日(火)	4	外傷／創処置	〃	牧　野　助　教
11月20日(水)	2	中毒診療	〃	武　部　助　教
11月22日(金)	1	救急集中治療の基本	広島大学	志　馬　教　授
11月22日(金)	2	災害医療　緊急被ばく医療	京都大学	大　鶴　教　授
11月27日(水)	1	救急医療学練習問題解説	救急医療学	中　島　助　教

総合診療学・地域医療学

教員名	
教授	四方　哲
講師	丹羽　文俊
助教	松原　慎
病院教授	石野　秀岳
客員講師	堀田　亘馬
客員講師	稲葉　哲士

臨床実習前 OSCE 講座（医学教育センター）

呼吸器内科学：		内分泌内科学：	
講師	金子　美子	講師	間嶋　紗織
整形外科学：		脳神経内科学：	
准教授	生駒　和也	講師	能登　祐一
耳鼻咽喉科学：		一般・移植外学：	
准教授	安田　誠	講師	昇　修治
小児科学：		消化器外科学：	
准教授	秋岡　親司	講師	塩崎　敦
皮膚科学：		消化器内科学：	
准教授	益田　浩司	講師	十亀　義生
救急医療学：		産婦人科学：	
講師	山畑　佳篤	講師	伊藤　文武
免疫内科学：		循環器内科学：	
講師	河野　正孝	助教	矢西　賢次

Ⅰ　教育の目的と方針

総合診療の能力は医師として根源的な能力である。そして地域医療とは、総合診療の能力を活かしながら地域の保健・医療・福祉の連携の中で医療を展開することである。卒後新研修医制度の研修到達目標指針でも、基本的かつ総合的な診断、治療能力の向上が掲げられ、広義または狭義の意味でのプライマリ・ケアの重要性が求められている。我々は総合的視野に立ち、地域・診療所・病院を代表し、各スペシャリストを含めた医療人をたばねる次世代のリーダーとなるジェネラリスト、地域診療医の育成を目指す。この臨床講義では、総合診療、総合内科、家庭医療、地域医療の概念を理解し、将来実践しうる能力を養うことを主たる目的としている。また併せて臨床実習前に、臨床現場に出るための心得、コミュニケーション法、インフォームドコンセント、コメディカルとの協調と対話、医療面接と臨床推論、学術的考察法、カルテ記載、文献データベースを駆使できるようなデジタルリテラシー、身体診察法、救急蘇生、内科・外科的処置、

小児科及び産婦人科的診察法、クリニカルクラークシップなどについて学び、講義・実習を通じ、臨床実習前に必須の知識・技能を身につけることも目的とする。

Ⅱ　到達目標

- ✓ 地域医療とは何かを理解でき、説明できる。
- ✓ 総合診療、総合内科、家庭医療、ホスピタリストとは何かを理解でき説明できる。
- ✓ 臨床の現場に立つための心得を知り、臨床実習に臨む準備ができる。
- ✓ 病歴から的確に情報収集ができる。
- ✓ バイタルサインを理解し、重症患者の判別ができる。
- ✓ 一般的な身体診察を理解し実施できる。
- ✓ 代表的な症候について臨床推論を通じて鑑別疾患を挙げることができる。
- ✓ 臨床での疑問を定式化し、患者ケアに役立つ evidence-based medicine (EBM) を実践できる。
- ✓ 心理社会的側面も含めたプロブレムリストを作成できる。
- ✓ 臨床経過や所見から診断にせまる臨床推論を展開することができる。
- ✓ 最も疑う疾患、鑑別疾患の事前確立を変化させるさらなる問診、さらなる身体診察、検査計画を立案できる。
- ✓ 患者に必要な検査を挙げ、その結果を解釈できる。
- ✓ チーム学習では臨床診断を含めチームで議論し、情報共有や症例プレゼンテーションを通じて、プライマリケア実践に一歩近づくことができる。
- ✓ 診療に役立つ文献データベースを駆使できるようデジタルリテラシーを身につける。

Ⅲ　授業日程

表の通り。

1. 講義

内容と担当教官は別紙の通りである。

総合診療、総合内科、家庭医療、地域医療とは何かについて講義する。

併せて臨床実習前 OSCE について概説し、実際の臨床実習に入る前に身につけるべき基礎的技術・知識とは何か、クリニカルクラークシップとは何か、臨床的推論法、症候学、カルテの書き方等について講義する。

また各診療科からは、電子カルテの使い方を含む外来･入院での診療方法について、患者とのコミュニケーションのあり方と医療面接の基本的技術、インフォームドコンセントとは何か、またどうあるべきか等を解説し、バイタルサインのとり方、身体診察法（頭頚部、胸部、腹部、神経）の実際、外科診察と小手術、手洗い法、救急蘇生の実際、運動器、皮膚の診かた、産婦人科、小児科の診察法等を教授する。

2. 実習

第 4 学年 2 学期の 2024 年 9 月下旬に行う予定である。

医療面接のロールプレイ、カルテの書き方、各診療（頭頚部、胸部、腹部、神経）の実際、眼底所見の取り方、心肺蘇生の実際、女性と小児における診察法を学ぶ。手術室での清潔操作、手洗い法、点滴、注射などの基本的臨床技能を実習する。

Ⅳ　成績評価基準

1.　試験

　共用試験 CBT 及び OSCE をもって評価とする。臨床実習前の基礎知識は CBT の点数で、基礎技術は臨床実習前 OSCE の点数で合否判定を行い、両試験を合わせ臨床実習前 OSCE 学の合否を決める。

2.　合否基準

　CBT は大学で定めた合格基準 IRT 値以上をもって合格とする。第 4 学年臨床実習前 OSCE は各ステーションの合格を以て OSCE 全体の合格とする。

Ⅴ　オフィスアワー

随時ご質問はお受けする。

①　総合医療・地域医療学教室

内線：5875　外線：075-251-5875

メール：zaitaku@koto.kpu-m.ac.jp　あるいは　mededs@koto.kpu-m.ac.jp

②　医学教育センター

内線：5874　外線：075-251-5874　メール：educates@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・地域医療学のブレイクスルー（中外医学社）
・臨床疫学　Clinical Epidemiology（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
・ジェネラリストのための内科外来マニュアル（医学書院）
・診断力強化トレーニング（医学書院）
・めざせ！外来診療の達人（日本医事新報社）
・臨床研修マニュアル（羊土社）
・基本的臨床技能の学び方・教え方（南山堂）
・診察診断学（医学書院）
・診療参加型臨床マニュアル（三輪書店）
・基礎臨床技能シリーズ 2（メジカルビュー社）
・診療録の記載の仕方とプレゼンテーションのコツ（メジカルビュー社）
・基本がわかる漢方医学講義（羊土社）
・臨床実習開始前の共用試験ガイドブック
　https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/index.html
・京都府立医科大学附属図書館　データベース検索（PubMed・医中誌・UpToDate などを含む）
　https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/jouhoubunken/index.html
・一般財団法人 日本漢方医学教育振興財団　漢方医学教育教材
　https://jkme.or.jp/e-learning.html

Ⅲ　授業日程

総合診療学・地域医療学

第4年前期　　（ 講義 ）

日程	時限	内容	担当者 所属	担当者 講師名
9月9日(月)	2	地域医療学　総論	総合医療・地域医療学	四 方 教 授
9月9日(月)	3	地域医療の実際	〃	石野病院教授
9月9日(月)	4	総合内科学　内科診断学　総論	〃	松 原 助 教
9月9日(月)	5	臨床現場に臨む心得／医療者コミュニケーション	〃	丹 羽 講 師
9月10日(火)	2	Evidence Based Medicine　情報検索について	〃	丹羽講師　他
9月10日(火)	3	症例を通しての臨床推論	〃	丹 羽 講 師
9月10日(火)	4	症例を通しての臨床推論	〃	丹 羽 講 師
9月11日(水)	3	家庭医療学	〃	稲葉客員講師
9月11日(水)	4	総合内科学　病棟管理	〃	堀田客員講師

臨床実習前OSCE講座

第4学年前期～後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内容	担当者 所属	担当者 講師名
9月11日(水)	1	診療録について／バイタルサイン	総診	丹 羽 講 師
9月11日(水)	2	救急の診察　蘇生対応	救急	山 畑 講 師
9月11日(水)	5	外科の診察　小手術・手洗い	消外	塩 崎 講 師
9月12日(木)	3	頭頸部の診察	耳鼻	瀧 講 師
9月12日(木)	4	小児科の診察／インフォームドコンセント	小児 移外	秋岡准教授 昇 講 師
9月13日(金)	1	腹部の診察	消内	十 亀 講 師
9月13日(金)	2	胸部の診察	循内	矢 西 助 教
9月13日(金)	3	運動器の診察	整形	生駒准教授
9月13日(金)	5	医療面接	内免	河 野 講 師
9月17日(火)	2	神経の診察	神内	能 登 講 師
9月17日(火)	3	皮膚の診察	皮膚	益田准教授
9月17日(火)	4	産婦人科の診察	産婦	伊 藤 講 師

診療実習前OSCE実習

第4学年前期～後期　　（ 実習 ）

日程	時限	内容	担当者 所属	担当者 講師名
9月18日(水)	1～4	医療面接のロールプレイ、カルテの書き方、各診療（頭頸部、胸部、腹部、神経）の実際、眼底所見の取り方、心肺蘇生の実際、女性と小児における診察法を学ぶ。手術室での清潔操作、手洗い法を学ぶ。点滴、注射などの基本的臨床技能を実習する。	全科	別 途 連 絡
9月19日(木)	1～4			
9月20日(金)	1～4			
9月24日(火)	1～4			
9月25日(水)	1～4			
9月26日(木)	1～4			
9月27日(金)	1～4			

リハビリテーション医学

教　員　名

教　　授	三上　靖夫	臨床教授	藤井　良憲	客員講師	石野　真輔
准教授(兼)	沢田光思郎	〃	堀井　基行	〃	石原　　健
講　　師	河﨑　　敬	〃	三橋　尚志	〃	奥田　良樹
講師(兼)	白石　裕一	臨床准教授	兼松まどか	〃	川上　寿一
〃	大橋　鈴世	〃	前田　博士	〃	児玉　直俊
学内講師	菱川　法和	臨床講師	児玉　万実	〃	相良亜木子
助　　教	垣田　真里	客員教授	安保　雅博	〃	新庄　浩成
〃	櫻井　桃子	〃	伊藤　倫之	〃	鈴木　理恵
助教（兼）	森井芙貴子	〃	才藤　栄一	〃	高橋　守正
臨床教授	池田　　巧	〃	佐浦　隆一	〃	中馬　孝容
〃	石野　真輔	〃	道免　和久	〃	辻　　吉郎
〃	勝見　泰和	〃	二川　　健	〃	廣田　隆一
〃	隅谷　　政	〃	笠岡（坪山）宣代	〃	宮﨑　博子
〃	野村　嘉彦	客員講師	池田　　巧		

Ⅰ　教育の目的と方針

リハビリテーション医学は、一人の人間に対して全人的な医学的アプローチを行い、ADL や QOL を維持・向上させるリハビリテーション医療を体系づける学問である。リハビリテーション医学・医療では、疾病・外傷で低下した身体的・精神的機能を回復させ、障害を克服する中で、ヒトの営みの基本である「活動」の賦活化を図っていく。疾患の種類や対象者の年齢は多様であり、医療を提供する期間は急性期・回復期・生活期と長期にわたる。そのため、幅広い知識が要求され、また他科と連携した集学的なアプローチや多職種からなるチーム医療を実践する必要がある。このようなリハビリテーション医学・医療に関する基本的な知識を幅広く学習することを目的とする。

Ⅱ　到達目標

1. リハビリテーション医学・医療の概念を理解する。
2. 運動器障害、脳血管障害、循環器障害、呼吸器障害、摂食嚥下障害、脊髄損傷のリハビリテーション医療や義肢装具についての基礎知識を理解する。
3. リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。
4. 最新のリハビリテーション医学・医療について理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

1　試験

系統講義内の小テストと系統講義終了後に定期試験を実施する．小テストは記述方式とし，定期試験はマークシート方式による筆記試験とする．追再試験は記述またはマークシート方式とする．

2　合否基準

小テストと定期試験の点数を合計し60％以上を合格とする．

点数配分は小テスト　１：定期試験　９とする．

Ⅴ　オフィスアワー

原則としてメールでアポイントメントを取ること

リハビリテーション医学秘書　　TEL：075-251-5234　　e-mail：reha@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

1　リハビリテーション医学・医療コアテキスト第２版

（日本リハビリテーション医学会監修、医学書院、3,500 円）

2　脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト

（日本リハビリテーション医学会監修、医学書院、5,500 円）

3　運動器疾患・外傷のリハビリテーション医学・医療テキスト

（日本リハビリテーション医学会監修、医学書院、5,500 円）

4　総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト

（日本リハビリテーション医学教育推進機構監修、5,600 円）

5　ベッドサイドの神経の診かた　第 18 版

（田崎義昭／斉藤佳雄 著、南山堂、7,200 円）

Ⅲ　授業日程

リハビリテーション医学

第３学年後期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　　当　　者	
			所　属	講師名
11月25日(月)	3	総論，診断・評価	リハビリテーション医学	三上教授
11月25日(月)	4	運動器障害	〃	大橋講師
11月26日(火)	3	脊髄損傷	〃	三上教授
11月26日(火)	4	移動の障害（義肢・装具，福祉機器)	〃	沢田准教授
11月27日(水)	3	摂食嚥下障害，小児のリハビリテーション医学・医療	〃	河﨑講師，鈴木客員講師
11月27日(水)	4	脳血管障害	〃	前田臨床准教授
11月28日(木)	3	循環器障害，高齢者のリハビリテーション医学・医療	〃	白石講師，菱川学内講師
11月28日(木)	4	チーム医療，社会制度	〃	垣田助教，菱川学内講師

生物統計学

教員名	教授	手良向　聡
	助教	中田美津子
	助教	堀口　剛
	非常勤講師	松山　裕

Ⅰ　教育の目的と方針

生物統計学は、臨床・疫学研究の方法論の基礎となる学問である。臨床・疫学研究の計画・デザインの段階から統計解析・報告の段階まで、生物統計学の知識とその活用が必須となる。本講義では、数学的な厳密性を保ちつつ、実践における有用性を重視して、生物統計学に基づく科学（ヘルスデータサイエンス）の考え方を講義する。

この講義は以下の内容を含む。

１　総論

医学・医療と技術評価、臨床・疫学研究における生物統計学の役割、臨床研究に関する法規・倫理指針、およびデータの質管理・質保証について概説する。

２　データ解析と結果の解釈

（１）データの記述

データを要約して記述する方法について解説する。

（２）統計的推測

データ（標本）から集団に対して合理的な推測をする方法について解説する。

（３）頻度流統計学

仮説検定の原理、割合の差の検定（カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定）、推定（信頼区間）の原理について解説する。

（４）ベイズ流統計学

ベイズ流統計学の基本的考え方、頻度流統計学との相違点について解説する。

（５）2 群比較、分散分析、一般線形モデル

2 群の比較（t 検定、ウィルコクソン検定）、分散分析、一般線形モデルについて解説する。

（６）生存時間解析

生存時間の特徴、生存曲線の推定（カプラン・マイヤー法）、生存曲線の比較（ログランク検定）について解説する。

（７）交絡バイアスとその調整

交絡の定義、交絡バイアスの調整（研究デザインによる調整、統計解析による調整）、交絡と交互作用の違いについて解説する。

（８）多変量解析手法

代表的な多変量解析手法であるロジスティック回帰分析とコックス回帰分析について、結果の解釈を中心に解説する。

Ⅱ　到達目標

１　記述統計学および推測統計学の基礎的概念（バラツキとバイアス、確率分布、中心極限定理、仮説検定、推定など）を理解し、説明できる。

2　2 群間の平均値の差の検定、割合の差の検定、分散分析、および一般線形モデルを利用できる。
3　生存時間解析の基本的手法（カプラン・マイヤー法など）を利用できる。
4　交絡の定義とその調整、ロジスティック回帰分析、コックス回帰分析について概説できる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

試験の成績に基づいて合否を判定する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー		メールアドレス
・手良向聡教授	月曜日	14:00～17:30	steramu@koto.kpu-m.ac.jp
・中田美津子助教	水曜日	14:00～17:30	mnakata@koto.kpu-m.ac.jp
・堀口剛助教	月曜日	14:00～17:30	go-h@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	生物統計学秘書　内線 5966		

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

毎回、講義資料を配布する。

・大橋靖雄編著．医師のための臨床統計学　基礎編．医歯薬出版株式会社（4,000 円）．
・宮原英夫、折笠秀樹監訳．実践医学統計学．朝倉書店（4,600 円）．
・手良向聡．なぜベイズを使わないのか!? 臨床試験デザインのために．金芳堂（3,200 円）．

Ⅲ　授業日程

生物統計学

第３学年後期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月8日(火)	3	臨床研究と生物統計学	生物統計学	手 良 向 教 授
10月8日(火)	4	データの記述と推測	〃	中　田　助　教
10月15日(火)	3	頻度流統計学とベイズ流統計学	〃	堀　口　助　教
10月15日(火)	4	2群の比較	〃	中　田　助　教
10月22日(火)	3	分散分析と一般線形モデル	〃	中　田　助　教
10月22日(火)	4	交絡バイアスとその調整	〃	松　山　教　授 （非常勤講師）
11月5日(火)	3	生存時間解析	〃	堀　口　助　教
11月5日(火)	4	ロジスティック回帰分析とコックス回帰分析	〃	手 良 向 教 授

医療、研究におけるレギュラトリーサイエンス

－医薬品等を用いて医療、研究を行う医師が知っておくべきこと－

教 員 名　教　　授　林 憲一

Ⅰ　教育の目的と方針

わが国の医薬品等の承認審査、市販後安全対策は、医薬品医療機器等法に基づき、リスク・ベネフィット評価を核としたレギュラトリーサイエンス（RS）の考え方に立脚して行われている。また、承認の根拠となる、治験を含む臨床試験は、医薬品等の臨床試験の実施の基準に関する省令（GCP 省令）や臨床研究法、倫理指針を遵守して、倫理的、科学的に適正に遂行することが求められる。

本授業では、医薬品医療機器等法（旧薬事法）をはじめとする薬事規制の概要と歴史、医薬品等の市販後安全対策、臨床試験の立案と遂行に必要な事項、臨床研究法及び倫理指針の概要、臨床試験における患者・市民参画の取組みなどの学修を通じ、医薬品等の品質、有効性、安全性の予測、評価、判断を支える科学としての RS とその核となるリスク・ベネフィット評価、並びに根拠に基づく医療（EBM）に対する理解を深め、医薬品等を用いて医療や研究を行う際に医師として知っておくべき事項を修得することを目的とする。

Ⅱ　到達目標

本科目の終了後、受講生は以下のことができるようになることが期待される。

- 医薬品医療機器等法による規制の概要とその歴史について説明する。
- 新医薬品等の開発過程と承認申請に必要なデータについて説明する。
- GCP 省令、治験届（30 日調査）、医師主導治験と企業治験の違い等について説明する。
- 新医薬品等のリスク・ベネフィット評価に基づく承認審査の実際を理解する。
- 再生医療等製品の規制と承認審査の概要について説明する。
- 医薬品等の副作用報告制度、リアルワールドデータの活用等について説明する。
- 医薬品添付文書の情報の見方を修得し、その遵守がなぜ重要かを理解する。
- 臨床研究法と倫理指針の内容とその違いについて説明する。
- 患者・市民参画（PPI）の取組みの背景と重要性を理解する。
- 革新的医薬品等の実用化促進のための支援制度について説明する。
- 医薬品等の国際規制調和の取組みについて説明する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

本科目の授業内活動（60%）、小テスト等の結果（40%）により、合否を総合的に判定する。毎回、出席票を用いて出席確認を行い、授業開始から 20 分経過後に入室した場合は欠席とみなす。単位認定には全授業回数の 1/2 以上の出席を原則とする。

Ⅴ　オフィスアワー

質問のある人は、電子メール（授業中に周知）で連絡してもらえれば調整します。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

- 内山充他．医薬品評価概説（東京化学同人 2009）
- 豊島聰，黒川達夫．医薬品のレギュラトリーサイエンス（南山堂 2014）
- 中垣俊郎．医療レギュラトリーサイエンスのこれまでとこれから．京府医大誌 126（5），297-303，2017.
- Kondo T, Hayashi Y, Sato J, Sekine S, Hoshino T, Sato D. Evolving Vision of Regulatory Science in the Global Medical Community. Clin Pharmacol Ther. Vol.107(1): 136-139, 2020.
- 林憲一．日米欧の取組みに見る医療レギュラトリーサイエンスの将来像．京府医大誌 130（1）,17-23,2021
- 林憲一．医学フォーラム：部門紹介（医療レギュラトリーサイエンス学）．京府医大誌 132（8）,557-559,2023

Ⅲ　授業日程

医療レギュラトリーサイエンス学

第４学年前期　　（講義）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
9月10日（火）	5	医療レギュラトリーサイエンス学	医療レギュラトリーサイエンス学	林　教　授
9月12日（木）	5	医療レギュラトリーサイエンス学	〃	林　教　授

国際医学英語

教員名	押味　貴之（非常勤講師）	国際医療福祉大学医学教育統括センター	教　授
	的場　聖明	本学循環器・腎臓内科学	教　授
	天谷　文昌	本学疼痛・緩和医療学	教　授
		本学教育センター	教育センター長
	金子　美子	本学教育センター	講　師
	間嶋　紗織	本学教育センター	講　師（学内）
	チューター教員	本学教員・京都ノートルダム女子大学教員（別途掲示）	

Ⅰ　教育の目的と方針

医療の国際化にふさわしい英語力を身につけるため、英語による医療面接に関する知識と技術を学修する。
授業は少人数グループ学習を基本とする。グループ別にアドバンスコースとスタンダードコースを設置し、それぞれの到達目標をふまえ、学生がコースを選択できる。
ただし、コースに偏りが生じた場合、授業成績などをふまえ選択コースの調整を行う場合がある。

Ⅱ　到達目標

1. アドバンスコース

・英語による医療面接を高い水準（英語医療面接評価において 80%以上）で行うことができる
・授業は「**英語のみ**」で実施する

2. スタンダードコース

・英語による医療面接を最低限の水準（英語医療面接評価において 60%以上）で行うことができる
・授業は「**英語と日本語**」で実施する

Ⅲ　授業日程

Day 1: オリエンテーション
Day 2: 現病歴
Day 3: 既往歴・手術歴・薬・アレルギー・家族歴・社会歴
Day 4: 英語医療面接演習 I
Day 5: 英語医療面接演習 II
Day 6: 英語医療面接演習 III

Ⅳ　成績評価基準

授業内活動：40 点（5 回の授業）

1 回の授業で全ての活動に参加：8 点
1 回の授業で 10 分以内の遅刻：6 点
1 回の授業で 10 分以上の遅刻：4 点

チューターによる評価：30 点（5 回の授業）

授業内活動に積極的に従事：6 点
授業内活動に消極的に従事：4 点
チューターから警告を受けた場合：2 点

最終レポート：30 点

- 自分の今後のキャリア形成において、この授業を受けて最も重要だと思ったポイントを 3 つ選ぶ
- その 3 つのポイントは何か？具体的に書く
- なぜその 3 つのポイントが自分にとって重要なのか？具体的に書く
- その 3 つのポイントを今後の学生生活にどのように反映させていくのか？具体的に書く
- 日本語 2000 字以内

Ⅴ　オフィスアワー

・**教育センター**　educate@koto.kpu-m.ac.jp
・**押味貴之** oshimi@iuhw.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

授業資料

外国人患者さんとの会話の始め方
https://www.icrip.jp/eigocafe/2019/04/01/menu01/
英語での医療面接のコツ
https://www.icrip.jp/eigocafe/2020/07/01/menu_16/
英語で現病歴を上手く尋ねるコツ
https://www.icrip.jp/eigocafe/2019/07/01/menu04/
既往歴・手術歴・家族歴に関する英語表現
https://www.icrip.jp/eigocafe/2021/04/01/menu_25/
薬に関する英語表現
https://www.icrip.jp/eigocafe/2021/05/06/menu_26/
アレルギーと食事に関する英語表現
https://www.icrip.jp/eigocafe/2021/08/02/menu_29/
社会歴に関する英語表現
https://www.icrip.jp/eigocafe/2020/09/01/menu-18/
胸痛に関する英語表現
https://www.icrip.jp/eigocafe/2020/03/02/menu12/

参考資料
The Patient History: Evidence-Based Approach
ISBN10: 0071624945
ISBN13: 9780071624947

Ⅶ　その他

・少人数グループ学習の形式をとる。授業初日に医療面接のフォーマットを学習した後、設定したシナリオを参考に、英語でのコミュニケーションの実際を学ぶ。

臨床実習

▶ 実施概要

	クリニカル・クラークシップ（CC）Ⅰ	クリニカル・クラークシップ（CC）Ⅱ
期間	第4学年12月から第5学年10月まで（36週）	第5学年11月から第6学年7月まで(32週）
場所	本学附属病院	本学附属病院及び学外関係病院
内容	○CCⅠでは、附属病院全診療科を1～2週間単位で順番に回り、診療参加型臨床実習を実施（見学型の実習でも可） ○CCⅡでは、原則1つの診療科を4週間、8クールに渡って診療参加型臨床実習を実施し、内科系、外科系、必修選択、地域医療、自由選択により診療科を選択して実習を実施	

CC I, CC II の目標、方法

CC I

- すべての診療科を体験し、臨床現場を広く俯瞰する
- 原則として診療参加型ではあるが、見学型となってもよい
- カルテ記載は必修とする
- 現時点で36週＋1週（地域実習）
- すべての診療科をローテートし、1 クール 2 週間まで
- 原則として学内での実習とする

CC II

- 診療チームの一員となり、臨床現場に参加する
- 期間は 32 週を予定、4 週間を 1 クールとした診療参加型実習を行う
- 診療科はA内科系・B外科系・C必修選択・D地域（地域医療）・E自由選択に分ける
- 海外クラークシップは原則として CC II の期間に行う
- D地域医療実習は北部医療センターをはじめとする学外で行う
- A～C、Eで学外関係病院での実習も可能とする

▶ 臨床実習の詳細は、別冊「臨床実習実施要領」に記載

地域医療実習

教　員　名

教育センター

教育センター長	天谷　文昌	総合医療・地域医療学	教　　授	四方　哲
特 任 教 授	曽和　義広		講　　師	丹羽　文俊
講　　師	金子　美子		助　　教	松原　慎
講師(学内)	間嶋　紗織			
教育センター教員				

看護学科

看護学科教員

Ⅰ　教育の目的と方針

1　京都府北部地域における地域医療の現状を理解し、問題と課題を発見する。
2　上記の問題と課題について、地域住民の視点と医療者の視点から解決策を議論し、医療者としての意識・使命感を養う。
3　地域医療におけるチーム医療の実際を理解し、チームワークの重要性と方法を学ぶ。

Ⅱ　到達目標

1　地域中核病院の外来・救急実習を通して、病院における地域医療の実際と地域の特徴を学ぶ。
　(1) 地域医療の特徴・問題点を述べることができる。
　(2) 医療を必要とする地域住民の生活状況と健康問題との関連を述べることができる。
　(3) 地域における病院の役割を述べることができる。
2　地域住民（患者）の視点からみた地域医療のニーズと医療者の姿勢・役割を学ぶ。
　(1) 地域住民における地域医療のニーズを述べることができる。
　(2) 地域住民の望む医療者の姿勢・役割を述べることができる。
　(3) 地域の実情に応じた地域医療のあり方を考えることができる。
3　地域連携実習を通して、地域の保健・医療体制を学ぶ。
　(1) 地域における健康問題の特徴を述べることができる。
　(2) プライマリ・ヘルスケアの実践を述べることができる。
　(3) 地域における保健・医療体制の組織と連携について述べることができる。
4　チーム医療の実際を知り、チームワークの重要性と方法を学ぶ。
　(1) チーム医療における医師及び看護師の役割と機能を述べることができる。
　(2) 他の医療従事者の役割と業務内容の概要を述べることができる。
　(3) 医療におけるチームワークの重要性・あり方を述べることができる。
　(4) チーム医療に必要なコミュニケーションをとることができる。

5　プロフェッショナルとしての基本的態度を習得し、患者中心の医療が実践できる。
(1) プライマリケアにおける医療従事者の基本的態度を述べることができる。
(2) プロフェッショナルとしてふさわしい態度（時間厳守、身だしなみ、言葉遣いなど）がとれる。
(3) 患者や家族に不安感や不快感を与えず、プライバシーに配慮した良好なコミュニケーションがとれる。
(4) 良好な医師患者関係を構築し、患者や家族の意思決定を尊重できる。

Ⅲ　授業日程

1. 対象学年
医学科第5学年、看護学科第3学年
2. オリエンテーション及び事前学習
実習にあたっては、事前にオリエンテーションを実施するので、必ず出席すること。
オリエンテーションの日程は別途掲示により連絡する。
また、各病院別に事前学習が必要となる。
課題は別途連絡予定。
3. 実習
参加型実習及び見学型実習で施行する。本学教員、各教育指定病院における臨床教授及び他の医療スタッフ、地域の保健・医療施設等におけるスタッフ等の指導のもと行う。各病院で独自のプログラムを作成している。実習では身だしなみを整え、挨拶をわすれず、積極的に実習に参加すること。実習期間中は京都府立医科大学学生としてふさわしい行動をとること。
4. 日程
実習日程は夏休み明けを予定。日程は別途通知する。この他、オリエンテーション（7月下旬頃）、事前学習（7月下旬頃あるいは実習期間の前週）、実習振り返り・演習（9月初旬）、実習発表会（11月中旬頃）がある（日時は別途通知）ので、必ず出席すること。
5. 実習場所
本学教育指定病院のうち府北部域（南丹市、綾部市、福知山市、舞鶴市、与謝野町、京丹後市）に所在する病院を中心に、当該病院の診療体制等の特色や、保健・医療等に関する地域の特性を活かしたプログラムを、地域滞在型の実習として実施する。

Ⅳ　成績評価基準

1. オリエンテーション、事前学習、移動日も含めた実習、実習発表会、のすべてに出席することが必要。
2. 学生提出レポート、アンケート等提出物をすべて提出することが必要。また提出物の内容を個別に評価する。
3. 実習期間中にアンプロフェッショナルな言動が報告された場合は、実習は中止で不合格となることがある。

Ⅴ　オフィスアワー

教育支援課、教育センターにて適宜質問や相談に応じる。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

・図解　在宅チーム医療推進マニュアル（アークメディア）
・京都府保健医療計画
　　https://www.pref.kyoto.jp/hofukuki/
・厚生労働省　医療計画
　　https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/iryou_keikaku/
　※　実習課題に合わせ、別途提示することがある。

総　合　講　義

Ⅰ　概　　説

令和６年度の総合講義は、専門教育課程で８０回（２学年８回、３学年２２回、４学年１５回、５学年３５回）実施する。

総合講義は、既存の系統講義の実習ではカバーできない、現在の医学・医療を見渡した時に必要な内容について、複数の教室が連携をとりながら各専門分野の講師が横断的講義を行うものである。

Ⅱ　講義の運営

学生の理解を深めるため、各項目の最初の講義で項目全体のイントロダクションを行うこととしている。

また、一方通行的な講義にならないよう、討論などの時間を設けるようにする場合もある。

Ⅲ　単位の認定

１　学年ごとに単位認定を行う。

２　単位認定については、各講義で実施される小テストに合格することを必須とし、当該年次に実施する各項目を下表の基準により単位認定を行う。

総合講義Ⅰ	第２学年	先端生命科学の項目が合格であること。
総合講義Ⅱ	第３学年	医用工学、再生医学、ゲノム医学、腫瘍学のうち３項目以上合格であること。
総合講義Ⅲ	第４学年	臨床倫理学、感染症、放射線基礎医学のうち２項目以上合格であること。
総合講義Ⅳ	第５学年	医事法及び医療と安全管理、腫瘍の化学療法、移植・再生医学、臨床薬理学、東洋医学、地域医療学のうち４項目以上合格であること。

３　上記２による単位認定の基準を満たさない場合には、進級又は卒業をできない。

Ⅳ　注意事項

総合講義Ⅲについては、令和７年度から項目を追加する予定である。

令和5年度　総合講義授業日程

2学年後期

項　　目 責任講師	日程	時限	内　　容	担当講師	参加講師
先端生命科学 八木田教授 （統合生理学）	1月31日（金）	1	環境適応不全による疾患発症プロセスの再現モデル	八木田教授 （統合生理学）	
	1月31日（金）	2	老化と疾患の基礎研究	渡邊講師 （基礎老化学）	
	1月31日（金）	3	パーキンソン病とレビー小体研究	田中雅樹教授 （生体構造科学）	
	1月31日（金）	4	エピジェネティックスと発がん・老化	山田泰広教授 （東京大学医学系研究科）	
	2月7日（金）	1	発生学研究の新展開	八代教授 （生体機能形態科学）	
	2月7日（金）	2	化学感覚	樽野教授 （細胞生理学）	
	2月7日（金）	3	MRIによる神経解剖学	山田教授 （放射線診断治療学）	
	2月7日（金）	4	生殖細胞を用いた発生工学と臨床応用での課題	篠原隆司教授 （京都大学医学系研究科）	

令和5年度　総合講義授業日程

3学年後期

項　　目 責任講師	日程	時限	内　　容	担当講師	参加講師
医用工学 高橋教授 (整形外科学)	1月23日(木)	3	光イメージングと医療	原田准教授 (病理学)	
	1月23日(木)	4	先端放射線治療機器	鈴木准教授 (放射線医学)	
	1月24日(金)	2	ロボット手術を中心とした講義(1)	井上講師(学内) (整形外科学)	
	1月24日(金)	3	医療情報システム	猪飼 宏　部長/准教授 (医療情報部)	
	1月24日(金)	4	ロボット手術を中心とした講義(2)	本郷准教授 (泌尿器科学)	
再生医学 田代教授 (ゲノム医科学)	1月23日(木)	5	ダイレクトリプログラミングによる再生医療の可能性	北澤助教 (眼科学)	
	1月27日(月)	4	生体組織工学をベースとした再生医療	田畑教授 (京都大学)	
	2月6日(木)	3	難治性眼疾患と再生医療	外園教授(眼科学) 木村先生(臨床研究推進センターURA部門長)	
	2月6日(木)	4	重症心不全や重症下肢虚血に対する心血管再生医療	的場教授 (循環器内科学)	
	2月6日(木)	5	角膜内皮の再生医療	上野准教授(眼科学) 今井講師(フロンティア展開学)	
腫瘍学 髙山教授 (内科学)	2月3日(月)	3	がん化学療法による皮膚障害とマネージメント	浅井講師 (皮膚科学)	
	2月3日(月)	4	がん緩和ケア各論	天谷教授 (疼痛・緩和医療学)	
	2月3日(月)	5	抗がん薬物による肺障害とマネージメント	徳田助教 (呼吸器内科学)	
	2月4日(火)	2	免疫関連有害事象のマネージメント	西岡助教 (呼吸器内科)	
	2月4日(火)	3	骨転移のマネージメント	高山教授 (呼吸器内科学)	
	2月4日(火)	4	腫瘍循環器病学	山野講師 (循環器内科)	
ゲノム医学 武藤教授 (予防医学)	2月5日(水)	2	クロマチン・リモデリングとヒト疾患	栗原准教授 (分子医科学)	
	2月5日(水)	3	エピジェネティック作用薬	曽和特任教授 (教育センター)	
	2月5日(水)	4	臨床医学におけるゲノム解析	阪倉客員教授 (消化器外科学)	
	2月7日(金)	2	ゲノム操作による神経変性疾患の解析	辻村講師(学内) (基礎老化学)	
	2月7日(金)	3	固形癌におけるゲノム医学を用いた診断・治療	山田准教授 (呼吸器内科学)	
	2月7日(金)	4	ゲノミクス・プロテオミクス	田代教授 (分子医科学)	

令和5年度　総合講義授業日程

4学年後期

項　　目 責任講師	日程	時限	内　　容	担当講師	参加講師
放射線基礎医学 田代教授 （ゲノム医科学）	11月5日（火）	3	放射線の物理化学	田代教授	
	11月5日（火）	4	確定的影響と確率的影響	田代教授	
	11月5日（火）	5	有事第1日目と第2日目の医療	田代教授	
	11月6日（水）	3	実習	田代教授	ゲノム医科学全員と 中央研究室勝山研究教授
	11月6日（水）	4	実習	田代教授	ゲノム医科学全員と 中央研究室勝山研究教授
感染症 貫井教授 （感染制御・検査医学）	11月7日（木）	4	臨床的に問題となる耐性菌	原田客員講師 （感染制御・検査医学）	
	11月7日（木）	5	日和見感染症	原田客員講師 （感染制御・検査医学）	
	11月8日（金）	3	新興・再興感染症	貫井教授 （感染制御・検査医学）	
	11月8日（金）	4	感染症と神経疾患	吉田客員講師 （感染制御・検査医学）	
	11月8日（金）	5	病院内感染症	古川助教 （感染制御・検査医学）	
臨床倫理学 池谷教授 （法医学）	11月6日（水）	5	人生の終末と心の救い	池谷教授 （法医学）	鍋島直樹教授 （龍谷大学）
	11月12日（火）	2	自己決定権（化学療法・骨髄移植）	黒田教授 （血液内科学）	谷脇名誉教授 （血液内科学）
	11月12日（火）	3	SNS時代の医療情報発信	小山　真 先生 （相馬病院）	
	11月12日（火）	4	社会における医の倫理	勝又客員教授 （法医学）	
	11月19日（火）	4	医師のキャリアとワークライフバランス	WLB支援センター みやこ センター員	

令和5年度　総合講義授業日程

5学年後期

項　目 責任講師	日程	時限	内　　容	担当講師	参加講師
移植・再生医学 松田教授 （免疫学）	11月5日（火）	1	移植再生医学 （臨床1） 日本の移植医療の問題点と臓器提供	井上教授 （呼吸器外科学）	
	11月5日（火）	2	移植再生医学の基礎 移植再生医学 （臨床2） 心	岸田准教授 （免疫学）	五條教授 （循環器内科学 〈人工臓器・再生医学講座〉）
	11月5日（火）	3	移植再生医学 （臨床3） 難病のトランスレーションリサーチ	外園教授 （眼科学）	患者会からの参加予定
	11月5日（火）	5	移植再生医学 （臨床4） 肝・膵腎、膵島	濱口講師 （内分泌・代謝内科学）	
	11月14日（木）	2	移植再生医学 （臨床5） 肝	森口講師 （消化器内科学）	
腫瘍の 化学療法 黒田教授 （内科学）	11月11日（月）	1	癌化学療法の進歩(1)分子標的療法	志村准教授 （血液内科学）	
	11月11日（月）	2	癌化学療法の進歩(2)消化器癌	吉田講師 （消化器内科学）（大腸）	窪田准教授 （消化器外科学）（胃）
	11月11日（月）	3	癌化学療法の進歩(3)小児血液・腫瘍	家原教授 （小児科学）	大曽根講師 （小児科学）
	11月11日（月）	4	癌化学療法の進歩(4)骨軟部腫瘍	白井准教授 （整形外科学）	宮地講師（学内） （小児科学）
	11月11日（月）	5	癌化学療法の進歩(5)肺癌	高山教授 （呼吸器内科学）	
	11月12日（火）	3	癌化学療法の進歩(6)血液腫瘍	黒田教授 （血液内科学）	
	11月12日（火）	4	癌化学療法の進歩(7)泌尿器癌・生殖器癌/皮膚性悪性腫瘍	白石講師（学内） （泌尿器科学）	浅井講師 （皮膚科学）
	11月12日（火）	5	癌化学療法の進歩(8)脳腫瘍/頸部腫瘍	橋本教授 （脳神経外科学）	平野教授 （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）
	11月13日（水）	2	癌化学療法の進歩(9)婦人科癌/乳癌	黒星准教授 （産婦人科学）	阪口准教授 （内分泌・乳腺外科学）
地域医療学 四方教授 （総合医療・地域医療学）	11月22日（金）	3	総合内科（General Internal Medicine）	四方教授　他 （総合医療・地域医療学）	
	11月22日（金）	4	総合診療（General Practice & Family Medicine）	〃	
	11月22日（金）	5	地域医療（Community Health）	〃	
医事法及び 医療と安全管理 池谷教授 （法医学）	11月18日（月）	3	医薬品の安全管理と安全使用	四方薬剤部長	
	11月18日（月）	4	医療機関における医療安全管理体制とリスク管理	中村准教授 （循環器内科学）	
	11月19日（火）	1	医療過誤の捜査と刑事裁判	池谷教授 （法医学）	
	11月19日（火）	2	医事紛争における弁護士の役割	廣石客員講師 （法医学）	
	11月19日（火）	3	医師の法律上の義務	池谷教授 （法医学）	
	11月19日（火）	4	医療機器による医療事故	小島客員教授 （法医学）	
	11月19日（火）	5	医師に必要な裁判の知識	池谷教授 （法医学）	
臨床薬理学 楳村教授 （薬理学）	11月15日（金）	3	がん免疫療法の実際	石川講師（消化器内科学）	
	11月15日（金）	4	臨床薬理学（総論）	楳村教授（薬理学）	
	11月20日（水）	1	新生児・小児における薬物投与	森本教授（看護学科小児科学）	
	11月20日（水）	2	高齢者・認知症患者への薬物投与	大島客員講師（神経内科学）	
	11月21日（木）	3	臨床試験のデザイン	手良向教授（生物統計学）	
	11月21日（木）	4	循環器・腎臓と薬物投与	小原客員講師 （循環器・腎臓内科学）	
	11月21日（木）	5	妊産婦における薬物投与	藁谷准教授（産婦人科学）	
東洋医学 丹羽講師 （総合医療・ 地域医療学）	11月14日（木）	3	総論	丹羽講師　他 （総合医療・地域医療学）	
	11月14日（木）	4	漢方医学各論1	〃	
	11月14日（木）	5	漢方医学各論2	〃	
	11月21日（木）	1	漢方医学各論3	〃	
	11月21日（木）	2	漢方医学各論4	〃	

研　究　配　属

Ⅰ　目　的

一般の講義、実習など受動的かつ記憶主体的な医学教育の欠点を補うために、学生が基礎・社会医学分野を中心とした研究領域に積極的に参加する研究配属を行う。

この中で、早期から研究室に出入りすることにより、研究室の雰囲気に触れ、現在どのようなことが研究されているのか、基礎研究を中心とした分野での少人数指導のもと、将来の医学研究者の芽を育て、また、能動的に新しい分野にチャレンジする態度を養うことを目的とする。

Ⅱ　対象となる学年、期間、実施期間

第４学年１学期　令和６年６月１０日から７月１９日まで６週間

毎週月曜～金曜　第１時限から第４時限まで終日

Ⅲ　受入れ教室

次ページ以降参照

Ⅳ　学生の割振り等

学生の希望をもとに各教室への配属を決定する。

臨床分野あるいは学外（国内・国外を問わず）での研究を希望する者があれば、配属教室にこれらの臨床教室や施設等を紹介してもらうことができる。

Ⅴ　内　容

1　実験的研究

2　病理学や法医学の症例報告

3　調査的研究

4　教室で行う輪読会や研究会への参加

5　その他、研究成果の発表

Ⅵ　評価基準

出席、レポート、口頭発表などにより、配属教室において評価する。

Ⅶ　オリエンテーション講座

令和７年度研究配属に向けたオリエンテーション講座を、令和６年度第３学年を対象に令和６年７月１９日に実施する。

Ⅷ　その他

研究配属第１週に、学術情報の活用講座の授業を教室単位で１回受講することが必須である。

解剖学教室

生体構造科学部門

1　教室の研究

生体構造科学部門は神経系について形態学的手法を軸に用いながら研究を行っている。すなわち、神経細胞同士の連絡やネットワークまた周囲組織との相関を出来るだけ可視化して分析しようと試みている。形態学とは、細胞、組織という基本的な構造を崩さないで、さまざまな物質の局在や動き、さらにはその働きを明らかにし、その知見を生体システムの理解へとつなげる研究分野である。私たちは、形というものを単なる器としてとらえるのではなく、動的な機能発現の場として位置づけている。そのため他の研究手法、例えば分子生物学的、生化学的、または生理・薬理学的な手法と、形態学的手法を融合した研究を展開することになる。現在教室では以下に述べるようなプロジェクトが進行し、標的分子の可視化と共にその他の解析を加えて、細胞レベルから組織、生体にいたるまで広く研究を行っている。これまでの研究成果については教室ホームページ(http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/anatomy1/)を参照して頂きたい。

1) 情動・ストレスの脳内機構解明についての研究

うつなど、気分・情動障害やアルコール依存・摂食等の大脳辺縁系の機能に関与する分子機構について研究を行っている。側坐核と呼ばれる前脳領域や視床下部において、5-HT_{2C}受容体、NPY などの神経伝達物質/受容体がどのように個体レベルでの行動調節に関わるのかをウイルスベクターや遺伝子改変マウスを用いて解析を行っている。

2) 生殖に関わるホルモンおよび受容体についての研究

生命体にとって「生殖機能」は最も重要な生存維持機構の一つで、教室では生殖活動に関わるホルモンの脳における作用機序を解明すべく研究を行っている。具体的には、妊娠・出産に伴う脳・神経細胞の形態変化やエストロゲンなどの性ホルモンとその受容体の分子・細胞動態を捉えるべく、形態学的手法を軸に種々の解析方法を加えて研究を進めている。

3) 神経疾患についての基礎的研究

加齢に伴って発症が増加する代表的な神経変性疾患にパーキンソン病がある。教室ではパーキンソン病の細胞病理についての研究を行っており、疾患特有の細胞内の封入体であるレビー小体の主要構成タンパク質であるαシヌクレインについて、凝集・伝播機構を調べている。さらに脳血管障害のモデル動物を用いて、高血圧時に微小脳動脈が破綻していくメカニズムを解明しようと、グリア細胞の関与に着目して研究を進めている。

2　研究配属の方針と内容

研究配属期間に研究室とはどのよう所であるのかを体験し、基礎医学研究の一端に触れてもらう。具体的には各教員の指導のもと、配属された学生が上に記した教室の研究にもとづく、研究テーマをそれぞれ与えられて実験を行う。短期間に必ずしも面白い結果が出るとは限らないが、講義や実習とは異なる、教室で行われている研究の一部に参加して、その苦労と醍醐味を少しでも感じて貰えれば生体構造科学へ配属された価値があると考える。

生体機能形態科学部門

１　教室の研究

先天性心疾患は、新生児に見られる奇形としては最も頻度が高く、特に新生児から乳児期の死因の主要因である。先天性心疾患患者の長期的予後を改善するためには、診断学と治療学の進歩だけではなく、胎児期に心臓を構成するパーツである各細胞がどのように発生し、かつそれらがどのように相互作用しながら正しい心臓の形を作り上げて行くのかを更に深く知らねばならない。このような知見は、ES/iPS 細胞などの幹細胞を利用した心臓の再生医療にも非常に重要である。本研究室では、モデル動物、ES 細胞・iPS 細胞、そして最新の技術を駆使しながら、心臓の形態形成過程を主要な研究対象とし、胚発生でどのような動作原理が機能して私たちの体が出来上がっていくのか、その理解を目指す研究を展開している。

２　研究配属の方針と内容

実際に研究がどのように進められているかを知るために、研究室内で推進されている研究テーマ（下記一覧）の一部を分担する形で配属期間を過ごしてもらうことを基本とする。発生生物学や幹細胞生物学を中心とした研究を体験することができる。

（１）心臓前駆細胞の分化と心臓の形態形成に関わる分子機構
（２）臓器錯位症候群における複雑心奇形発症の分子機構
（３）先天性腸管閉鎖症に関わる分子機構
（４）一次線毛内の機能ドメイン形成と嚢胞腎発症の分子機構
（５）中心体の恒常性に関わる分子機構

病理学および臨床医学を学び終え、臨床実習が始まる前にもう一度系統解剖を復習したいと希望する学生も、研究配属として受け入れることが可能である。また、Problem Based Learning を通じて、研究論文を精読するためのスキルを身につけるセミナーを実施する用意もあり、このセミナー受講希望者も受け入れることが可能である。

この研究室配属には各自のプロジェクトに対して能動的に取り組み、各々が臨床医学的視点から基礎医学を捉え直し、科学的・論理的に物事を捉え考えるスキルを養って欲しい。

生理学教室

細胞生理学部門

１　教室の研究

味覚などの化学感覚を対象とした感覚の神経機構、およびイオンチャネルが担う生命現象を研究している。分子・細胞から個体までを対象に、電気生理学・光学・分子生物学・分子遺伝学・光遺伝学・行動学などの科学技術を駆使して、以下の研究を行っている。

（１）イオンチャネルとシナプスの生物物理学
（２）味覚と内受容の神経生理科学

（３）感覚と体内状態が織りなす行動原理の神経回路基盤

２　研究配属の方針と内容

相談をもとに独自のテーマを決定し、研究を遂行する。加えて、研究室内セミナーに参加して最先端のサイエンスについて議論を交わすことを通じて、学術的・社会的に重要な基礎医学研究を遂行するとは如何なることか、その楽しさを経験してもらいたい。

教室 HP：https://www.tarunolab.com

統合生理学部門

１　教室の研究

概日時計（体内時計）は、睡眠覚醒や内分泌機能などの概日リズム（Circadian Rhythm）を制御しているのみならず、様々な疾患との関連も注目されている。不規則な生活リズムを強いられるシフトワーカーの健康障害は、様々な疾患の発症リスクとなっているのみならず、不測の事故にもつながることから社会的要請の強い医学的課題となっている。

統合生理学では、ES 細胞や iPS 細胞を用いて細胞に時間秩序が生まれるプロセスの研究、シフトワークを模した環境での疾患発症メカニズム研究、ヒトの概日リズム生理学研究、などを行っている。研究配属では、これらの実験を通して生命の本質的な現象に触れるとともに、その社会的インパクトも含め広く対話形式で学びながら、「生命の原理」について考えていく。

この中で、未解明の医学的課題に対するアプローチを体験するとともに、優秀かつモチベーションの高い学生については、学生研究として学会発表や論文発表を目指す。

（１）概日時計による細胞の恒常性維持、特に代謝制御における役割を解明
（２）環境適応の生理学と社会的課題を考える
（３）ES・iPS 細胞を用いた胚オルガノイドによる発生過程の再現を通し「生命と時間」を考える
（４）自分の概日リズム測定を通し「健康な状態」の定義を考える（ヒトの生理学）

２　研究配属の方針と内容

上記の研究テーマに関連した実験に参加するとともに、一人ひとりが考え意見を述べることができることを目標とする。

分子医科学教室

分子生化学部門

１　教室の研究

（１）発生工学的手法を用いた癌遺伝子・癌抑制遺伝子の機能解析
（２）転写因子群による造血発生制御と白血病発症に関する研究
（３）疾患モデル動物作製の試み
（４）新規分子標的治療法の探索と応用

（5）クロマチンダイナミクスと疾患

2　研究配属の方針と内容

細胞の増殖、分化、再生、そしてプログラム死は、いずれも遺伝情報にもとづく精緻な制御を受ける。他方、こうした遺伝情報の破綻は機能タンパク分子の量的・質的異常をもたらし、細胞の正常な振る舞いを阻害することによって疾病をもたらす。正常および腫瘍細胞のゲノム情報の”landscape”が明らかにされつつある現在、鍵となる分子/遺伝子（群）の振る舞いを個体および細胞レベルで明らかにするウエットラボでの研究の重要性が再びクローズアップされている状況にある。当教室ではこうした遺伝情報が細胞の発生分化や腫瘍化に、どのように関わっているのかそのメカニズムの解明に貢献したいと考えている。

第 4 学年生の研究配属プログラムでは、上記の研究テーマに関連した小テーマを決め、指導教官と討議しながら実験を立案し、遂行してゆく。このなかで研究の進め方、実験手技、結果のまとめ、そして発表の仕方についても修得することをめざす。また、研究トピックの流れを俯瞰するうえで重要となる一連の文献の渉猟・精読や先行研究・周辺領域についてのセミナー参加を通じて、リサーチマインドの涵養を行う。期間内に大学院特別講義を予定しているので、こちらにも出席して学術交流の雰囲気も味わってほしい。くわえて、医学系基礎研究者の「思い」や日常を知り、また、議論や実験の楽しさを体験してもらうことを、もうひとつの重要な目的とする。

ゲノム医科学部門

1　教室の研究

（1）ヒトゲノムと疾患関連遺伝子の研究
（2）プロテオーム研究
（3）アデノウイルスを用いた遺伝子導入法の開発・応用
（4）神経系幹細胞の生物学
（5）形態形成とシグナル伝達分子について

2　研究配属の方針と内容

（1）方針

分子生物学の実験の基礎とその応用について、具体的なテーマを与え、実践する。

（2）内容

現在、急速に発展しているこの分野に興味を持ち、かつ熱意のある学生を歓迎する。

テーマは、主に、cＤＮＡクローニングやタンパク質科学の「いろは」で、特に熱意のある学生には、特化したテーマを与え、アデノウイルスによる遺伝子導入法の実際や、高感度分泌型タンパク質のイムノアッセイなど、遺伝子工学、分析化学、再生医学的研究の一端を体験してもらう予定である。また、ヒトゲノム研究やプロテオーム解析の最新の研究事情を学ぶのに適した環境が構築されつつあるため、いまだ建築途上ながら、たいへん刺激に満ちた研究現場を体験してもらう予定である。

感染病態学（微生物・医動物）教室

1　教室の研究

本教室は、ウイルス学を中心に研究を行っている。具体的には以下の研究項目が挙げられる。

（1）インフルエンザウイルスやコロナウイルスをはじめとする各種ウイルスの病原性の分子メカニズムを明らかにするための研究

（2）ヒト体内（臨床検体)、媒介昆虫(蚊、ダニなど)および病原体（原虫）中に存在するウイルス等を標的とした網羅的な微生物ゲノム探索による微生物感染と各種疾患との関連解明のための研究

2　研究配属の方針と内容

担当教員の指導の下、上記の研究テーマについて実際に研究を行うことにより、実験技術・方法を習得し、サイエンスの面白さに触れることを目指す。配属期間終了後の継続的な研究参加も積極的に受け入れる。また、希望者がいれば、微生物学、医動物学や感染症に関連する論文抄読コースも準備する。

免疫学教室

1　教室の研究

本教室では、免疫学、再生医学等に関する様々な研究を行っている。具体的には、

（1）体細胞リプログラミングの機構解明、移植用細胞の創出と再生医療への応用

（2）ウイルス感染防御の分子機構とその制御

（3）アレルギー疾患の病態における免疫応答解析と免疫療法

（3）悪性腫瘍の微小環境における免疫応答解析と免疫療法

（4）サイトカインの機能、シグナル伝達とその免疫応答制御における役割

などである。

2　研究配属の方針と内容

少人数のチームに分かれて、上記テーマの研究活動に実際に参加し、実験を体験することにより研究のおもしろさを知ってもらう。

また、希望者がいれば上記研究に関連した論文抄読も行う。

薬理学教室

1　教室の研究

本教室では、細胞や実験動物モデルを用いて、各種癌やストレス反応（酸化的ストレス・活性酸素種など)、細胞内シグナル伝達が関わる多様な生体機構の解明を行い、薬物の効果との関連を検討している。以下が現在の主たる研究テーマである。

（1）癌細胞の悪性度ならびに投薬の効果についての評価

（2）循環器疾患における活性酸素の役割の解析

（3）メタボリック症候群ならびに生活習慣病と合併疾患の解析

（４）DOHaD、胎生期・発達期における栄養不足や環境因子が病気の発症に与える影響の検討

２　研究配属の方針と内容

（１）学生と指導教員との協議により上記の研究テーマ或いは臨床薬理学に関する小テーマを決定し、実験研究または調査研究に分かれて取り組む。実験研究はデータの解析と評価を、調査研究については結果をまとめたレポートを作成する。

（２）具体的な研究の進め方や研究技法の習得と成果の発表ができるように支援する。希望があれば教室内の抄読会、関連学会や研究会などに出席できるよう配慮する。

病理学教室

細胞分子機能病理学部門

１　教室の研究

病理学（Pathology）は、疾患の発生メカニズム（pathogenesis）を研究する学問である。ヒューマンゲノムプロジェクトの完成を初めとする分子生物学の発達により、疾患遺伝子が次々クローニングされ、多くの単一遺伝子疾患において発生原因は不明であるという記述が過去の遺物となりつつある。すなわち、ある遺伝子の異常がどのように疾患を発生させるか、そのメカニズムを解明する段階に入り、病理学的思考がますます重要となってきた。

本研究室は、細胞内外および細胞間の情報伝達をつかさどる機能分子の異常について、最新の分子細胞生物学的技術やイメージング技術を用いてアプローチし、疾患の発症メカニズムを解明することを目的とする。

主な研究テーマを以下に示す。

（１）心筋の機能分子の動態を可視化することにより心筋の形態異常や機能異常の発生メカニズムを解明する。

（２）細胞の増殖・分化をコントロールする因子を探る。

（３）様々なレーザ光を用いて生体の機能を捉える。

２　研究配属の方針と内容

研究配属では、研究グループの一員として、決められた時間に制限されず、実験計画にしたがって、一つのテーマを遣り遂げる必要がある。熱意と実行力がある人（２－３人程度）には、例えば、以下の様な実験テーマを考えている。

細胞培養の基礎と遺伝子トランスフェクション

先端光技術による生体組織の機能的・形態的解析　など

研究配属の期間に実験のおもしろさを知り、その後も研究を継続することを願っている。

分子病態病理学部門

1　教室の研究

本部門では、ヒト脳の加齢過程や各種病態を発生学的視座に基づいて総合的に解明することを目標として、以下に掲げる研究テーマに、形態学的、生化学的、細胞生物学的、分子生物学的方法論を駆使して取り組んでいる。

（1）神経系の細胞発生とその病態、とりわけヒト疾患由来神経幹細胞をもちいた脳形成障害の発生機序に関する分子神経発生学的・神経病理学的研究

（2）ヒト脳腫瘍の分子生物学的・病理学的研究

（3）発生期ならびに成熟中枢神経系に及ぼす化学物質（内分泌かく乱化学物質）の影響に関する分子病態病理学的解析

（4）ヒト脳神経系疾患のモデルとなる変異マウス・遺伝子改変マウスの分子病態解析

（5）ヒト遺伝性脳神経・筋疾患における分子病態解明のための基礎的研究

（6）ヒト脳の加齢、神経変性疾患における神経細胞・グリア細胞の動態に関する病理学的研究

2　研究配属の方針と内容

研究配属のめざすところは、基礎研究グループの一員として加わることによって、研究の潮流を知るとともに、研究の考え方、進め方を体得することにある。研究手技や知識の単なる習得を目標とはしない。したがって受け入れ人数は数名とする（病理解剖症例の解析を希望する場合も同様に受け入れ人数は数名とする）。

配属を希望する学生には、上記研究テーマに関連した小テーマの中から、各自の希望を勘案してテーマを決定し、教室スタッフが指導する。研究期間は配属期間内にとどまることなく、延長が可能である。また、研究成果は論文にまとめるとともに学会で発表できるように指導する。なお希望により、本教室と親交の深い国内外の研究室での研修も視野に入れる。

また、研究配属期間中は教室内のセミナー、学内外の研究会などへの参加により、基礎研究の醍醐味を知ってもらいたい。

保健・予防医学教室

予防医学部門

1　教室の研究

がんを始めとする様々な疾患に対する予防法を開発するにあたって、「科学的根拠」に基づくことは必須であり、その「科学的根拠」として、その疾患の発生・進展の分子機序の解明、それら分子の遺伝子レベルでの個人差と疾患発生へのリスク寄与の評価、そしてその分子に作用する化合物（予防薬）の探索、そしてその臨床評価など様々な研究アプローチがある。当教室では、その「科学的根拠」の確立となる研究を幅広いアプローチから実施している。

しかしながら、科学的根拠に基づく予防法が確立され、そのアウトリーチ活動も行政を中心に精力的に実施されてはいるが、健康な人が予防のための行動を起こすことは「世界医学 100 年の課題」と呼ばれるほどに困難であり、その成果も不十分といえる。

疾患予防のアプローチとしてハイリスク・ストラテジーとポピュレーション・ストラテジーが謳われているが、それらの集団に対して効率的に「行動変容」を起こさしめることも、社会医学としての「予防医学」の課題でもある。

2　研究配属の方針と内容

生活習慣の改善を目的とした「行動変容」を効率的に実施するために、スマートフォンアプリをツールとして用いることで、効率的なアウトリーチ活動が可能と考え、予防医学部門の研究配属では、そのアプリのコンテンツの要となる「科学的根拠」を提示するための、最新の臨床研究論文や疫学研究論文の精査および抄録作業を行う。また、アプリ開発チームとのミーティング等も実施する。加えて、社会医学においても細胞等を用いた基礎実験は、上述の「科学的根拠」を確立・検証するだけでなく、予防理論を強化する上でも重要な位置を占める。そこで、希望者にはマンツーマンによる基礎実験を体験するコースも別途用意する。

公衆保健科学部門

1　教室の研究

本教室では健康寿命、循環器疾患やがんなどの非感染性疾患に与える要因の解明を通して、公衆衛生の向上に貢献することを目標に、疫学的な手法を用いて以下のテーマで研究を行っています。

（1）　健康寿命に影響を与える要因の解明
（2）　生活習慣病（がん・循環器疾患等）や老年期疾患の発生要因の疫学研究
（3）　生活習慣病の改善を促す行動科学的指導方法の開発と有効性の評価に関する研究

2　研究配属の方針と内容

疫学的な考え方は、将来の医師という職務の中で基礎医学、臨床医学、社会医学といった専攻に関わらず重要である。研究配属では、疫学研究論文を読むことによって、研究デザインやバイアス、交絡、解析方法などの実際を学ぶとともに、京都市内の中学校での防煙教室などに参加することで健康情報をどのように伝えるかについても実践的に学ぶ。また希望する学生は、厚生労働省や京都府内の保健所等での実習や、学会や論文での発表を目指して、上記テーマに関連した内容で研究を行うことも可能である。

3　評価と単位認定

下記の二つを合わせて総合的に評価し、単位認定を行います。

（1）教室内の発表会における個人発表
（2）参加態度

法医学教室

1　教室の研究

（1）法医病理学

（2）個人識別に関する研究(年齢推定、地理的識別など)

（3）医療法と医療倫理

（4）異状死の疫学研究

（5）薬毒物の同定

（6）人工知能（AI）を用いた法医学に関する研究

2　研究配属の方針と内容

学生は、興味に応じて上記の研究領域からトピックを選択して研究に参加してもらいます。

配属期間中の法医解剖と解剖症例検討会にも参加してもらいます。

京都府警察本部や科学捜査研究所、児童相談所等を訪問する機会があるかもしれません。

臨床医になるために必要な法医学の基本的なスキルと知識を学びます。

脳・血管系老化研究センター

基礎老化学部門

1　部門の研究テーマ

オートファジーは主要な細胞内分解機構の 1 つで、細胞内に蓄積した異常なタンパク質やオルガネラ（ミトコンドリアや小胞体など）の分解を担っている。老化に伴ったオートファジー機能の低下は様々な神経変性疾患（アルツハイマー病、パーキンソン病、ALS など）の発症と関連づけられている。本教室ではタンパク質分解機構の観点から神経変性疾患の発症機序の解明および治療法開発を目的として下記の研究を行っています。

1）オートファジー関連因子 SQSTM1/p62 の変異による ALS 発症機序

2）オートファジー関連因子 WDR45 とタウオパチーの解析

3）ストレス顆粒と神経変性疾患

4）上記観点からの神経変性疾患の治療法開発

2　研究配属の方針と内容

研究配属では、担当教員の指導で上記研究テーマに関連した実験を体験してもらいます。具体的には、分子生物学的実験（遺伝子クローニングや遺伝子配列決定など）、生化学実験（タンパク質精製や電気泳動など）や細胞生物学的実験（細胞培養や細胞染色など）を行ってもらう予定です。そして、実験結果をまとめ発表会で報告してもらいます。

詳しい研究の内容や業績については教室のホームページ（http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/cellbio/）を参照してください。受け入れ人数は 2-4 名程度。

選　択　科　目

歯科口腔科学

教　員　名

病院教授	金村　成智	助	教	足立　圭司
講　　師	山本　俊郎	助	教	滝沢　茂太
講師（学内）	大迫　文重	助	教	小野　龍太郎
講師（併任）	足立　哲也			

Ⅰ　教育の目的と方針

口腔の機能は、人が生命を維持する上で欠くことのできない重要な要素を持っている。

食べる、話す、呼吸するなど、いずれが障害されても、その結果は直接生体を脅かすため全身疾患といえども、決して口腔とは無縁でない部分があることを容易に認識させられる。医科と歯科とを区別して教育されている現況で、将来、医師として歯科医学の概略を知っておくことは、医学、医療を総合的に捉えて発展させていく上において等閑視すべきでない。かかる観点から歯科口腔科学に関して概論的に講義を行う。

Ⅱ　到達目標

1　歯科口腔科学の概要を理解する。
2　全身疾患と口腔との関係を理解する。
3　様々な口腔疾患の病態を理解する。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

小テストにて評価する。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー	メールアドレス
金村成智病院教授	金曜日15:00-16:00	kanamura@koto.kpu-m.ac.jp
山本俊郎講師	金曜日15:00-16:00	yamamoto@koto.kpu-m.ac.jp
大迫文重（学内）講師	金曜日15:00-16:00	foseko@koto.kpu-m.ac.jp

Ⅵ　教科書、参考書、参考文献

口の中がわかる　ビジュアル　歯科口腔科学読本（全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議　監修、クインテッセンス出版、5,500円）

Ⅲ　授業日程

歯科口腔科学

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月11日(金)	1	全身疾患と歯科口腔科学	歯科	金村病院教授
10月11日(金)	4	歯周病学	〃	大迫講師(学内)
10月18日(金)	1	口腔解剖と口腔生理	〃	山　本　講　師
10月25日(金)	1	歯科保存学	〃	山　本　講　師
11月8日(金)	1	口腔外科学	〃	山　本　講　師
11月15日(金)	1	歯科補綴学	〃	大迫講師(学内)

臨床病理セミナー

教　員　名

細胞分子機能病理学

教　　授	
准　教　授	原田　義規
講師(学内)	小形　岳寛
助　　教	中尾　龍太
〃	望月健太郎

人体病理学

病院教授	小西　英一
准　教　授	井村　徹也
講　　師	宮川　　文
助　　教	森永友紀子
〃	田中　顕之

分子病態病理学

教　　授	
准　教　授	宍戸由紀子
講　　師	藤本　崇宏
助　　教	矢追　　毅
〃	丹藤　　創

Ⅰ　教育の目的と方針

本科目では、病理解剖例を通じて疾病の「生の」姿を学ぶ。系統講義で学んだ知識を元に、臨床情報、病理解剖症例の肉眼および組織診断の自主的な診断と統合的な解釈、検討結果の討論と発表を通じて幅広い病理学的素養を養成する。また、症例ごとに提起された問題点を徹底的に追及するが、なお残された問題点の存在は現行の医学の限界を痛感させ、諸君の将来への課題となろう。本講座が病理学と臨床医学で学んだ知識の統合として興味深いものになることを期待する。このセミナーでの経験は、卒後研修ではＣＰＣレポート作成にも非常に有益となるであろう。

Ⅱ　到達目標

病理解剖例の臨床経過、臨床上の問題点を把握し、病理解剖の肉眼的、顕微鏡的診断によりその問題点を解決し、病態生理を理論的に考察できるようになることを目指す。さらに、疾患に関する最新の知見に関して、論文検索などを利用して探求する力を養うことを目的とする。

志望する学生は、病理学教室の 3 部門に振り分けられ各々の部門の指導下において学習する。基本的に、１グループ２～４人体制で、グループごとに教員の直接指導を受ける。学生は、セミナー期間開始約１ヶ月前から、病理解剖があれば解剖に立会うべく待機することが望ましい。病理解剖時、解剖を依頼した臨床医と共に、解剖に先立って患者の病態、臨床的問題点を討論し、病理学的検索手法(電顕、分子生物学的、生化学的手法などを含む)を考える。病理解剖に実際に立会い、肉眼的病変を *in situ*、諸臓器の観察により把握する。臨床的問題点に関して、肉眼所見からどのように説明で

きるかを教員と討論する。肉眼的診断後、教員の指導の下、臓器から病変部位を切り出し後組織切片を作製し、顕微鏡観察を行う。必要に応じて特殊染色などを加え組織学的診断後、最終病理解剖診断書を作成する。その際、臨床上の問題点の解決を重視すると共に、病理解剖で新たに発見された所見について考察を加える。最終的に、CPC レポートを作成し、発表討論会を行う。

学生は、臨床経過の詳細、その疑問点に関して主治医と直接討論する。病理面では、固定後臓器の切り出し、組織切片の作製と顕微鏡的観察に関して指導教員が随時指導を行うが、基本的に学生の自主性を重視する。学生が自ら観察、病理学専門書、文献などを駆使し学習した結果、得られた問題点に関して教員と討論し解決する方法をとる。

Ⅲ　授業日程

表のとおり（略）

Ⅳ　成績評価基準

学生の積極的学習態度、CPC レポート、発表会などを評価の対象とする。

Ⅴ　オフィスアワー

	オフィスアワー		メールアドレス
・原田義規准教授	水曜日	14:00-16:00	yoharada@koto.kpu-m.ac.jp
・宍戸由紀子准教授	金曜日	16:00-18:00	shiyuki@koto.kpu-m.ac.jp
・小形岳寛学内講師	火曜日	14:00-16:00	ogatat@koto.kpu-m.ac.jp
・小西英一病院教授	月から金曜日	9:00-17:00	内線 5668（病院病理部）

週ごとにスケジュールが異なるため、直接病院病理部・病理診断科（病院 4 階）に来訪するか秘書に電話で問い合わせを。

Ⅵ　教科書、参考図書、参考文献

各種臨床医学専門書、各種病理学専門書（病理学教室、図書館に保有）

文献(PubMed などで検索)

Ⅲ　授業日程

臨床病理セミナー

第３学年後期　　（ 講義 ）

日程	時限	内　　容	担　当　者	
			所　属	講師名
10月7日(月)	4	オリエンテーション	病理学	全 教 室 員
10月21日(月)	4	剖検症例の検討	〃	〃
10月25日(金)	3	剖検症例の検討	〃	〃
10月25日(金)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月8日(金)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月11日(月)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月15日(金)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月18日(月)	3	剖検症例の検討	〃	〃
11月18日(月)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月22日(金)	4	剖検症例の発表	〃	〃

Ⅵ　学術情報の活用講座

Ⅰ　目　　的

第１学年：図書館の存在を知る
　　：図書の探し方を知る、提携館について知る
第４学年：実習や研究に必要な雑誌論文の調べ方を学ぶ
　　：研究・臨床で必要な文献検索について学ぶ
　　：臨床で必要な文献検索について学ぶ

Ⅱ　指 導 者

原則として本学附属図書館職員

Ⅲ　日程・履修内容

１　第１学年

区　分	日　　程	時限	内　　容
前期	5月17日（金）	４限	大学図書館活用入門：大学図書館を使い倒そう

２　第４学年　授業協力（保健・予防医学）

区　分	日　　程	時限	内　　容
前期	4月16日（火）	３限	文献検索入門　PubMed・医中誌Webの使い方

３　第４学年

区　分	日　　程	時限	内　　容
前期	研究配属　第１週（予定） 6月10日（月）～14日（金）の期間中に実施	－	学術情報の検索と活用

４　第４学年　授業協力（総合診療学）

区　分	日　　程	時限	内　　容
後期	9月10日（火）	２限	臨床での文献検索

ＫＰＵＭ学プログラム

医学教育については、日本中の医学部・医科大学がカリキュラムの編成上参考にするものとして、医学モデル・コア・カリキュラムが定められている。この内容がカリキュラム全体の約７０％を占めているが、大学毎に工夫することも許されている。

本学では、(1)大学の設立、(2)京都府における大学の果たす役割、(3)基礎医学研究、(4)医師のプロフェッショナリズム育成、(5)国際交流事業、(6)学際的教育分野等を、本学（ＫＰＵＭ）の特徴を反映したものとして定め、カリキュラム上でＫＰＵＭ学としてまとめている。

なお、単位認定や試験は各科目のシラバスで定めている。

学　年	講　義　科　目
１年	生命倫理学、現代正義論、医史学、情報リテラシー、 総合講義、統合授業
２年	Advanced Presentation & Academic Writing 総合講義（先端生命科学、血管生物学、栄養学総論）
３年	Basic Medical English、 総合講義（ゲノム医学）
４年	国際医学英語、行動科学、総合診療学 総合講義（臨床倫理学）、研究配属
５年	医療倫理学、医療統計学、地域医療実習、総合講義（移植・再生医学）

※　　は選択科目、他は必修科目

なお、当該科目は各科目のシラバス冒頭にロゴマーク「 KPUM 」を表示している。

京都府立医科大学医学部医学科授業科目履修規程

平 成 ２ ０ 年 ４ 月 １ 日
京都府立医科大学規程第6号

目次

第１章　総則
第２章　授業
第３章　授業科目の履修
第４章　試験
第５章　単位未修得者に対する措置
第６章　休学期間の算定
附則

第１章　総則

（趣旨）
第１条　この規程は、京都府立医科大学学則（平成20年京都府立医科大学規則第１号。以下「学則」という。）第21条第１項及び第２項、第22条、第28条、第30条並びに第32条の規定に基づき、授業科目の履修等について必要な事項を定めるものとする。

第２章　授業

（授業時間）
第２条　授業時間は、別表１のとおりとする。

第３章　授業科目の履修

（授業科目の名称及び単位数）
第３条　学則第21条に規定する授業科目の名称及び単位数並びに第22条に規定する必要単位数は、別表２、３及び４のとおりとする。

（選択科目履修の届出）
第４条　選択科目の履修をしようとするときは、あらかじめ学長に履修届を提出しなければならない。

（授業科目履修状況の調査）
第５条　学生の授業科目の履修については、その都度出席を記録する。

第４章　試験

（試験期日）
第６条　定期試験は、原則として授業修了時に行う。
２　学則第29条第２項に規定する試験は、随時行うことができる。

（定期試験のための試験期間）
第７条　定期試験を行うために、試験期間を設け、この期間中は、原則として通常の授業を行わない。

（受験資格）
第８条　学生は、講義（臨床演習を含む。）時間数の60パーセント以上出席しなければ、当該授業科目について試験を受けることができず、実習（臨床演習を除く演習を含む。）については、全て出席しなければ、当該実習の単位を修得し、当該授業科目について試験を受けることができない。ただし、実習に関しては、病気や忌引き等のやむを得ない理由があると認められる場合には欠席届を以って出席と認める場合がある。

（臨床医学の授業科目の試験）
第９条　臨床医学の授業科目（医療、研究におけるレギュラトリーサイエンス学、臨床実習、地域医療実習及び臨床演習を除く）の定期試験は、第１次試験と第２次試験（卒業試験）とに分けて行う。
２　第１次試験は、原則として講義終了時に行い、第２次試験は第６学年の後期に行う。
３　臨床医学に係る授業科目の単位認定は、第１次試験によって行う。なお、第２次試験は筆答試験として実施し、卒業判定の一部として取り扱う。
４　第５学年には総合試験形式の進級試験を行う。

（選択科目の試験）
第10条　選択科目の定期試験は、第６条第１項の規定にかかわらず休業期間中に行うことができる。
２　選択科目の試験を受けようとする者は、試験の公示の日から１週間以内に受験届を提出しなければならない。
３　選択科目は、試験を実施しないことがある。

（試験の公示）
第11条　定期試験、追試験及び再試験の授業科目及び期日は、原則として年度初めに提示するとともに、各試験の1ヶ月前までに公示する。

（試験成績の評価）
第12条　成績の評価は、評点又は評語をもって表し、合否の判定は次の基準により行なう。ただし、再試験の評価は60点以下とする。

評　　点	評　　語	認　　定
100点～80点	優	合　　格
79点～70点	良	
69点～60点	可	
59点～０点	不可	不　合　格

２　評点をもって表せない特定科目については、合格、不合格をもって表す。
３　複数の教室等が担当する授業科目については、教室等ごとに又は合同で試験及び成績の評価を行う。

（試験中の不正行為）
第13条　試験中に不正行為を行った者に対しては、当該学年におけるすべての試験は無効とし、受験資格を停止するとともに、当該不正行為を行った学年にとどめるものとする。

（試験欠席の手続）
第14条　試験に欠席する学生は、試験欠席願に、病気によるときは医師の診断書を、やむを得ないと認められる事故による場合は理由書を添えて学長に願い出てその許可を受けなければならない。
２　試験欠席願は、原則として、当該授業科目の試験日の前日までに提出するものとし、やむを得ない理由により、前日までに提出することができない場合は、試験日以後１週間以内に提出しなければならない。

３　試験に許可なく欠席した者は、その授業科目の次の試験を受けることができない。

第５章　進級及び卒業要件

（進級及び卒業要件）

第15条　各学年の進級及び卒業の認定を受ける者は、次の各号に定める者とする。なお、進級及び卒業の認定を受けない者は当該学年にとどまり、次年度、原則として単位修得を認定されなかった授業科目を再履修しなければならない。

(1)　第１学年末において別表２に定める必要単位数を修得した者

(2)　第２学年末において、第２学年に行われる基礎医学授業科目（解剖学、生理学、分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学及び病理学総論）、教養英語及び総合講義Ｉの全ての科目の単位を修得した者

(3)　第３学年末において、第３学年に行われる臨床医学授業科目（循環器ユニット、呼吸器ユニット、神経ユニット、消化器ユニット、病理学各論、内科学（ユニット科目除く）、外科学（小児外科学、小児心臓血管外科学を含む。ユニット科目除く）、整形外科学、産婦人科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、精神医学、放射線医学、麻酔科学、疼痛・緩和医療学、感染症学・臨床検査医学（人体病理学を含む）、救急医療学、リハビリテーション医学）、生物統計学、総合講義Ⅱ及び医学英語の全ての科目の単位を修得した者

(4)　第４学年末において、社会医学授業科目（保健・予防医学、法医学）、国際医学英語、行動科学応用、臨床演習、総合診療学・地域医療学（臨床実習前OSCE講座を含む）、研究配属、総合講義Ⅲ及び医療、研究におけるレギュラトリーサイエンスについて、全ての科目の単位を修得し、共用試験（CBT及び臨床実習前OSCE）に合格した者

(5)　第５学年末において、臨床実習（クリニカル・クラークシップＩ）、地域医療実習、医療倫理学、医療統計学及び総合講義Ⅳの全ての科目の単位を修得し、進級試験に合格した者

(6)　第６学年末において、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅡ）の単位を修得し、共用試験（臨床実習後OSCE）及び卒業試験に合格するとともに、本学医学科ディプロマ・ポリシーを満たした者

２　学則第24条に規定する、他の大学又は短期大学の授業科目の履修に関する単位に関して必要な事項は、別に定める。

第６章　休学期間の算定

（休学期間の算定）

第16条　休学期間の算定については、休学の期間が通算して１年未満の場合は、学則第34条第３項に定める休学期間に算入しない。

附　則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２１年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

２　この規程の施行の際、現に第５学年及び第６学年に在籍している者については、別表中救急医療学の改正に係る部分については、なお従前の例による。

附　則

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２５年５月１日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成３０年４月１日から施行する。

2　この規程の施行の際、現に第５学年に在籍している者についての第15条に規定する進級の認定を受ける者は、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅠ）、地域医療実習、医療倫理学及び医療統計学の単位を修得し、臨床医学科目の未修得科目の試験に合格した者とし、次年度以降も同様の進級要件とする。

3　この規程の施行の際、現に第６学年に在籍している者についての第15条に規定する進級要件のうち、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅡ）は臨床実習（クリニカル・クラークシップ）とする。

附　則

1　この規程は、平成３１年４月１日から施行する。

2　この規程の施行の際、現に第５学年及び第６学年に在籍している者についての第15条に規定する進級要件は、当該年度に限り従前の例による。

附　則

1　この規程は、令和４年４月１日から施行する。

2　この規程の施行前に第４学年、第５学年及び第６学年に在籍し、施行の際においても同じ学年に在籍している者についての第15条に規定する進級要件は、なお従前の例による。

附　則

この規定は、令和５年４月１日から施行する。

附　則

1　この規程は、令和６年４月１日から施行する。

2　第15条第１項後段の再履修に係る規定は、令和６年３月３１日に遡及して適用する。

3　令和６年３月３１日において第１学年に在籍し、この規程の施行の際においても同じ学年に在籍している者については、改正前の別表２中「行動科学」とあるのは「行動科学基礎」と読み替えるものとする。

別表１

ユニット授業が行われない日	
１限目	８時50分から10時20分まで
２限目	10時30分から12時まで
３限目	12時50分から14時20分まで
４限目	14時30分から16時まで
５限目	16時10分から17時40分まで

終日ユニット授業	
１限目	８時50分から９時50分まで
２限目	10時から11時まで
３限目	12時50分から13時50分まで
４限目	14時から15時まで
５限目	15時10分から16時10分まで

午前ユニット外授業・午後ユニット授業	
１限目	８時50分から10時20分まで
２限目	10時30分から12時まで
３限目	12時50分から13時50分まで
４限目	14時から15時まで
５限目	15時10分から16時10分まで

別表2　　教養・医学基盤教育授業科目一覧表（第1学年）

区分	授業科目	授業期間	必修・選択の別	授業回数 週	授業回数 計	単位数	必要単位数 区分別	必要単位数 全体
人文科学	生命倫理学	前期	必修	1	11	1.4	1.4単位	35.4単位以上（注8）
	行動科学基礎	後期	必修	1	10	1.3	1.3単位	
	医学哲学	前期	選択必修☆	1	10	1.3	3.9単位以上（注４）☆いずれか1.3単位以上	
	認知心理学（三大学共同化科目）	前期	選択	1	15	2		
	医療人類学（三大学共同化科目）	前期	選択	1	15	2		
	現代正義論（三大学共同化科目）	後期	選択	1	15	2		
	共同化科目一覧の別表Ⅲ（人間と文化）から選択 ＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞							
社会科学	医史学	前期	選択	1	10	1.3		
	医療経済学	前期	選択	1	10	1.3		
	経営学	前期	選択	1	10	1.3		
	医療と法	前期	選択	1	10	1.3		
	医療と社会（三大学共同化科目）	前期	選択	1	15	2		
	現代医療の人間観（三大学共同化科目）	後期	選択必修☆	1	15	2		
	共同化科目一覧の別表Ⅳ（人間と社会）から選択 ＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞							
自然科学	数学	通年	必修	1	17	2.2	14.7単位以上	
	物理学	通年	必修	1	16	2.1		
	生体分子化学	通年	必修	1	17	2.2		
	生物科学	通年	必修	1	17	2.2		
	実習 物理学実習	前期	必修	2	5	1.8（注2）		
	実習 化学実習	前期	必修		5			
	実習 生物学実習	前期	必修		5			
	情報リテラシー	前期	必修	1	4	0.5		
	生命物理化学	前期	必修	1	9	1.2		
	現代生命科学	後期	必修	1	9	1.2		
	応用解析学	後期	選択必修	2	10	1.3	いずれか1.3単位	
	近代物理学	後期		2	10	1.3		
	医学概論Ⅰ（三大学共同化科目）（注6）	後期（３Q）	選択	1	8	1		
	医学概論Ⅱ（三大学共同化科目）（注6）	後期（４Q）	選択	1	8	1		
	共同化科目一覧の別表Ⅴ（人間と自然）から選択 ＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞							
外国語 第1外国語	英語１	通年	必修	1	20	2.6	5.2単位	
	英語２	通年	必修	1	20	2.6		
外国語 第2外国語	ドイツ語Ⅰ	前期	選択必修（注1）	1	10	1.3	2.6単位以上（注5）	
	ドイツ語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	フランス語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	フランス語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	スペイン語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	スペイン語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	中国語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	中国語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	朝鮮韓国語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
	朝鮮韓国語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
	ラテン語（三大学共同化科目）	後期		1	15	2		
その他	体育	通年	必修	1	20	1.3	1.3単位	
	総合講義（早期体験実習Ⅰ）	通年	必修	1	4	2.7（注3）	2.7単位	
	総合講義（早期体験実習Ⅱ）	通年	必修	1	5			
	総合講義（統合授業）	通年	必修	1	4			
	総合講義（リレー講座）	通年	必修	1	17			
	総合講義（人権教育）	通年	必修	1	3	0.3（注3）	0.3単位	
小　計							33.4単位以上（注7）	

（注1）　Ⅰと Ⅱ は同一言語を履修する。

（注2）　３科目とも単位認定されて１．８単位修得とする。ただし、単位認定は各実習毎に行う。したがって、出席数も各実習毎にカウントする。
再履修は、単位認定されなかった実習科目のみ行う。

（注3）　評価及び単位認定は４科目合計で行う。再履修は実習を除く。人権教育は別途評価及び単位認定するので留意すること。

（注4）　共同化科目一覧の別表Ⅲ（人間と文化）群及び別表Ⅳ（人間と社会）群の科目との合算で合計３．９単位以上でもよい。

（注5）　ラテン語はⅠに相当し、他の言語Ⅰを修得できなかった場合のみ、その言語Ⅰと読み替える。

（注6）　三大学共同化科目のクォータ制科目として、後期３クォーター(3Q)、４クォーター(4Q)に開講する。

（注7、8）　第1学年修了には、区分別に定める必要単位数合計３３．４単位に加え、別途共同化科目を２単位以上修得して全体で３５．４単位以上修得しなければならない。

別表３

医学基盤教育授業科目一覧表（第２学年～第５学年）

科目名	学年	授業期間	必修・選択の別	単位数
教養英語※1	２年生	通年	必修	2.5
医学英語※2	３年生	通年	必修	2.5
行動科学応用	４年生	前期	必修	1
医療倫理学	５年生	後期	必修	1.5
医療統計学	５年生	通年	必修	2.5

※1　Advanced Presentation ＆ Academic Writing
※2　Basic Medical English

別表４

専門教育授業科目一覧表

区分	授　業　科　目	必修・選択の別	回数	単位	備　　考
基礎医学	解剖学 ◎	必修	141	9.5	４４単位（実習を含む）
	生理学 ◎	必修	88	7.8	
	分子医科学 ◎	必修	90	8.1	
	感染病態学(微生物・医動物学) ◎	必修	48	4	
	免疫学 ◎	必修	40	3.7	
	薬理学 ◎	必修	49	3.8	
	病理学総論 ◎	必修	60	4.6	
	病理学各論◎	必須	32	2.5	
社会医学	保健・予防医学 ◎	必修	67	5.1	計7.1単位（実習を含む）
	法医学 ◎	必修	20	2	
臨床医学	循環器ユニット ◎	必修	29	1.9	計37.4単位
	呼吸器ユニット ◎	必修	39	2.6	
	神経ユニット ◎	必修	63	4.2	
	消化器ユニット ◎	必修	42	2.8	
	内科学（ユニット科目除く）◎	必修	29	2.9	
	外科学（小児外科学、小児心臓血管外科学を含む。ユニット科目除く） ◎	必修	26	2.6	
	整形外科学 ◎	必修	16	1.6	
	産婦人科学 ◎	必修	22	2.2	
	小児科学 ◎	必修	18	1.8	
	眼科学 ◎	必修	10	1	
	皮膚科学 ◎	必修	10	1	
	泌尿器科学 ◎	必修	10	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 ◎	必修	10	1	
	精神医学 ◎	必修	10	1	
	放射線医学 ◎	必修	11	1.1	
	麻酔科学 ◎	必修	11	1	
	疼痛・緩和医療学 ◎	必修	3	0.3	
	感染症学・臨床検査医学（人体病理学含む） ◎	必修	11	1.1	
	救急医療学 ◎	必修	10	1	
	総合診療学･地域医療学(臨床実習前OSCE講座を含む) ◎	必修	49	3.5	
	リハビリテーション医学 ◎	必修	8	0.8	
	生物統計学 ◎	必修	8	0.8	
	医療、研究におけるレギュラトリーサイエンス学	必修	2	0.2	
	臨床実習 ◎	必修	1440	72	計７３単位
	地域医療実習 ◎	必修	20	1	

	臨床演習 ◎	必修	36	3.6	計3.6単位
その他	総合講義Ⅰ ◎	必修	30	3	計17.3単位
	総合講義Ⅱ ◎	必修	22	2.2	
	総合講義Ⅲ ◎	必修	16	1.6	
	総合講義Ⅳ ◎	必修	35	3.5	
	研究配属 ◎	必修	120	6	
	国際医学英語(International Medical English) ◎	必修	12	1	
	歯科口腔科学◎	選択	6	0.6	
	臨床病理セミナー ◎	選択	10	1	

（注１）このほか、特別講義及びセミナー等を随時開催することができる。
（注２）◎印の科目は医師等が自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う実務家教員担当科目である。